



# 泰子さんのいちばん長い日



2月28日午前11時33分、坂東国男が撃ったといわれる兇弾のため、警視庁特車隊・高見繁光警部(写真)が倒れた。続いて内田第2機動隊長も撃たれ、警察側の怒りはいっそう深まった。



写真はサニー1200 4ドアGL(B110)  
●1200cc・0.H.V.68馬力・最高速150km/h

## 新型サニー(心がはずむ)新発売

豊かになった! 豪華になった!

2まわり大きく生まれ変わってから2年。あのサニーが、さらに豊かに、さらに豪華に変身しました。精悍さをましたスタイル。落つきのあるインテリア…ほんとうに価値あるものだけが持つ深い味わいと気品にあふれています。

- 格調あふれる無反射設計のインストルメント
- 迫力をましたブラックフェイスのフロントグリル(1200セダン・バン)
- 風を切るニューデザインダイナミックノーズ(1200クーペ・セダン)
- さらに大型になったリヤコンビネーションランプ(1200セダン)

**Sunny 1200** & **Excellent 1400**



もちろん、エンギでもない予想ではあった。しかし、二月十九日午後三時すぎ、牟田泰子さん(31)が連合赤軍の人質となつてから二百十八時間、日本国中は、「美貌の人妻」の生と死をめぐつて大きくゆれ続けたのである。機動隊の説得に歯をむき出すのは、赤軍の立場からすれば当然としても、泰子さんの夫の郁男さんの悲痛な呼びかけや、「兵士」自身の家族たちの哀願に対してすら、返ってくるのは銃弾と沈黙のみ。浅間おろしが吹きすさび、冷たい雪片の舞い踊る冬の軽井沢、捕われの身となった泰子さんはいつたか、空腹

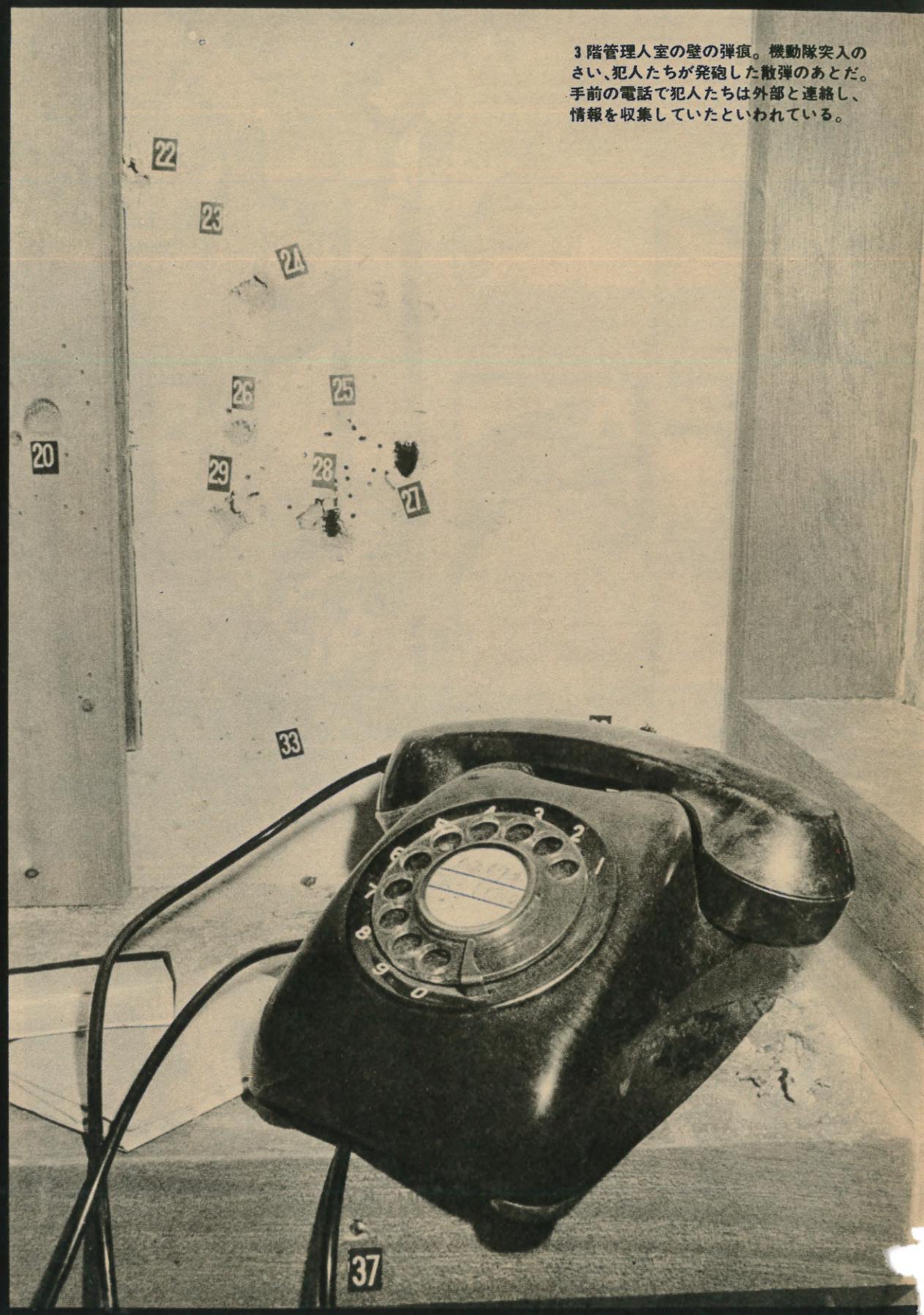
ではないだろうか、辛い目にあつていゝのではないか、いや、ひよつとしたら、最悪の事態に……。警察陣のアセリをよそに、不安の日々はむなしく過ぎていったのだ。そして、二月二十八日、泰子さんの「いちばん長い日」がやつて来たのである。午前十時、「全国民」がカクスを飲んで見つめるなか、地上最大の作戦は強行された。赤軍兵士たちは、善光寺のおフダを持つ泰子さんに、「ケガをしないように気をつけていなさい」といつたという。それは加害者と被害者の関係にありながらも、ガス弾や放水の雨を浴びることでは同じといつた運命共同体

的なキズナがいわせたのだろうか。「元気でがんばるんだよ」——夫の激励を心の支えとして、泰子さんは耐えに耐えた。日もとつぷりと暮れた六時十五分、あさま山荘に突入した機動隊員の旗がふられ、泰子さんの無事は確認された。「心配かけてごめんね」病院にかけつけた夫に、泰子さんはポツリといつた。思いもかけぬ長い苦悩を味わつた若妻の胸中をよぎるものは、今、なんてあるのか。それを知る者はだれもない。



# ■バリケードの中

3階管理人室の壁の弾痕。機動隊突入のさい、犯人たちが発砲した散弾のあとだ。手前の電話で犯人たちは外部と連絡し、情報を収集していたといわれている。



鉄球はウナリを生じ、ガス弾と水がアメ、アラレとそそぎこまれた。

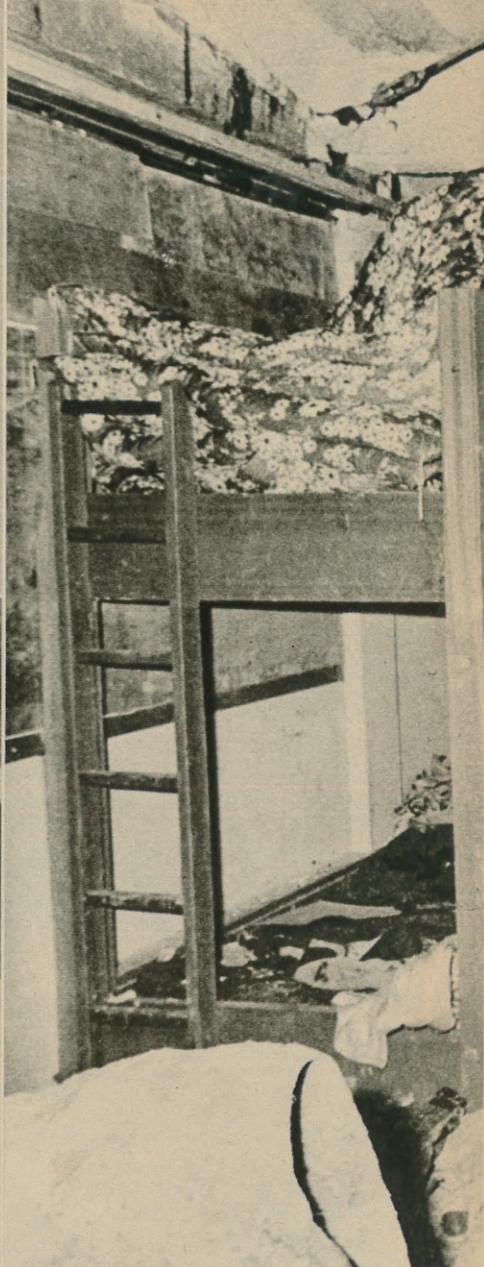
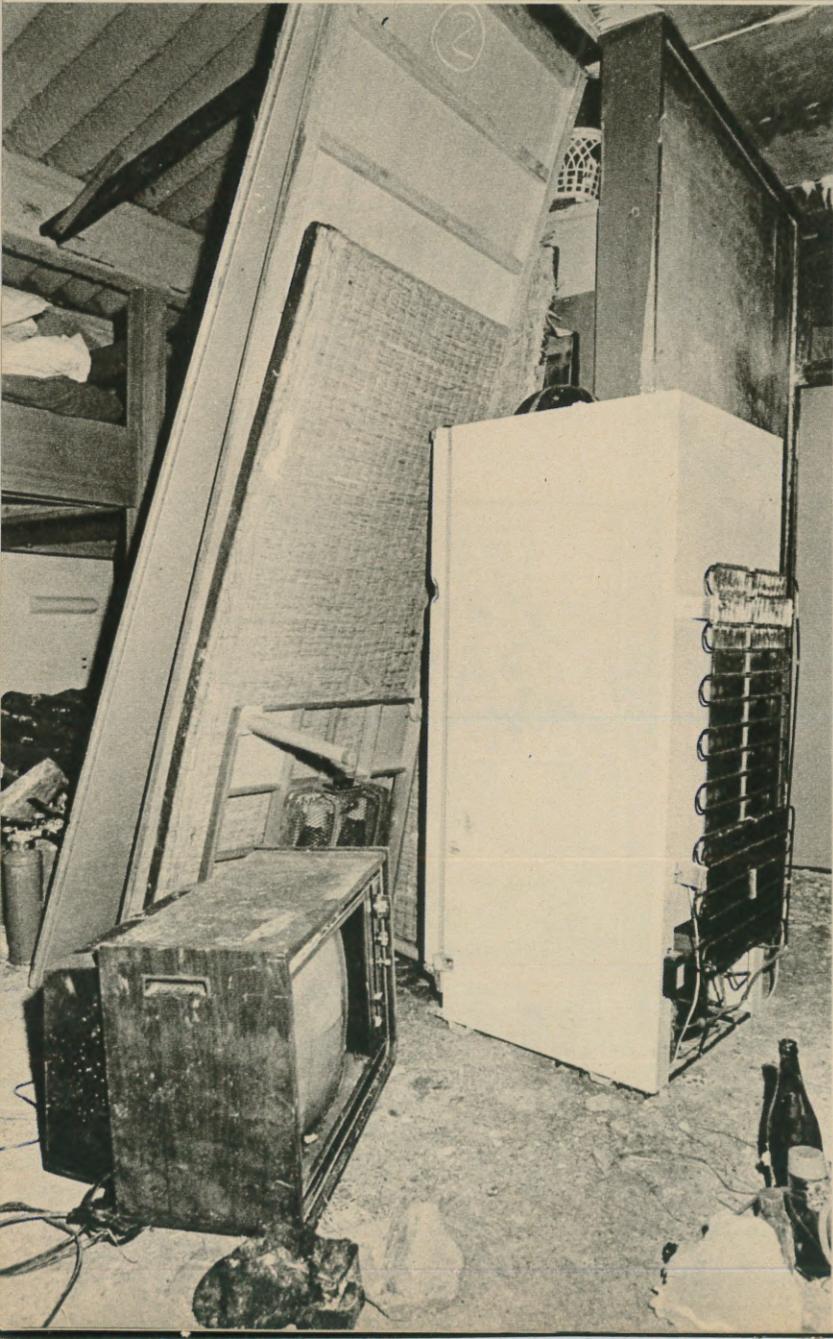


機動隊のテント村。

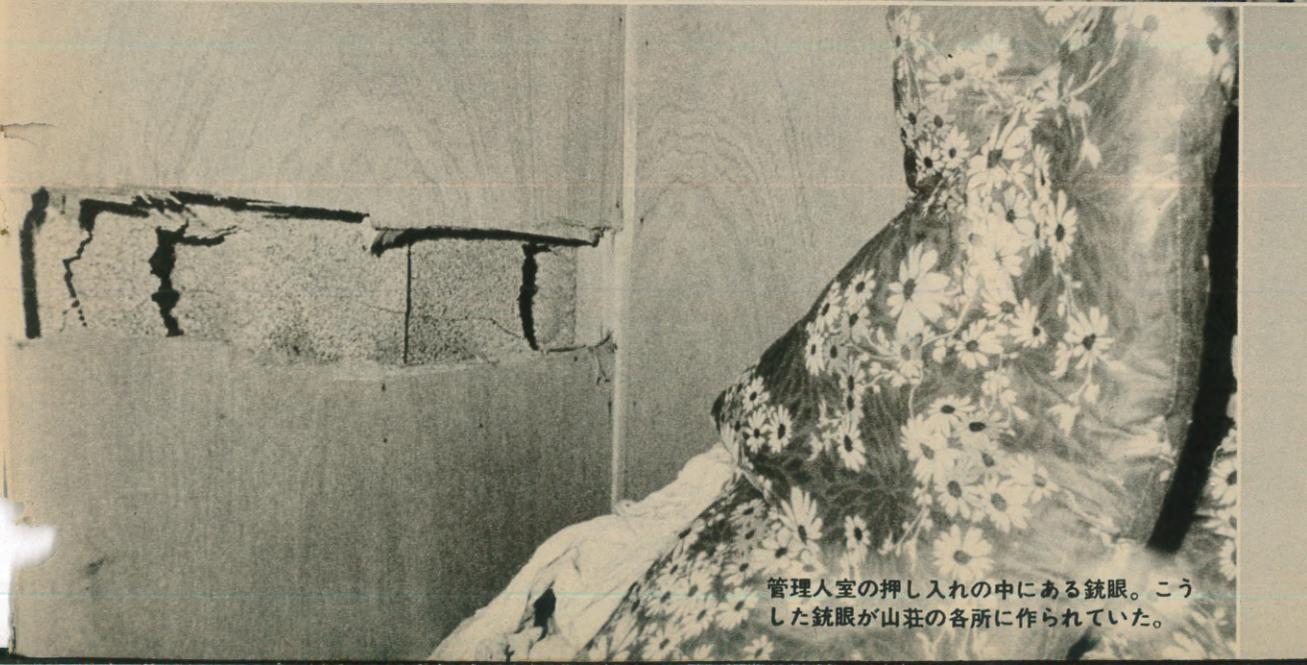


無気味に静まりかえる山荘。

「いちょうの間」に犯人たちが持ちこみ、使用したテレビと冷蔵庫。テレビは外部の情報収集に使い、冷蔵庫はバリケードと化した。



さんざん気をもませた末、この「いちょうの間」のベッドの上で毛布をかぶり、銃に弾を込める気力も失って彼等はアツケなく逮捕された。最後の砦と呼ぶには、あまりに無防備ではないか。



管理人室の押し入れの中にある銃眼。こうした銃眼が山荘の各所に作られていた。

お申し込みは

# 東京相互銀行

担保・保証人なしで、ご預金の3倍までご利用できます

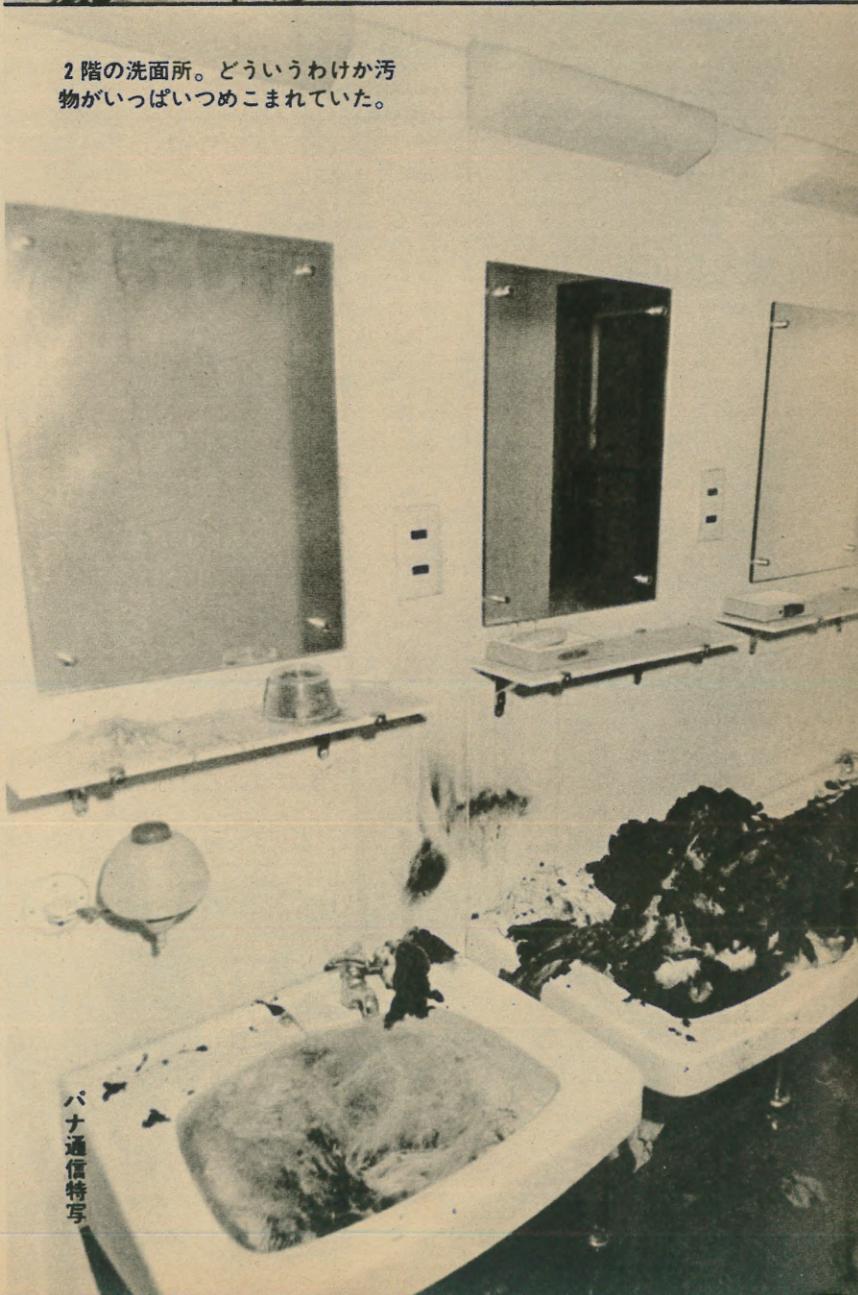
# 30万円までのべんりローン

奥さま定期預金カード

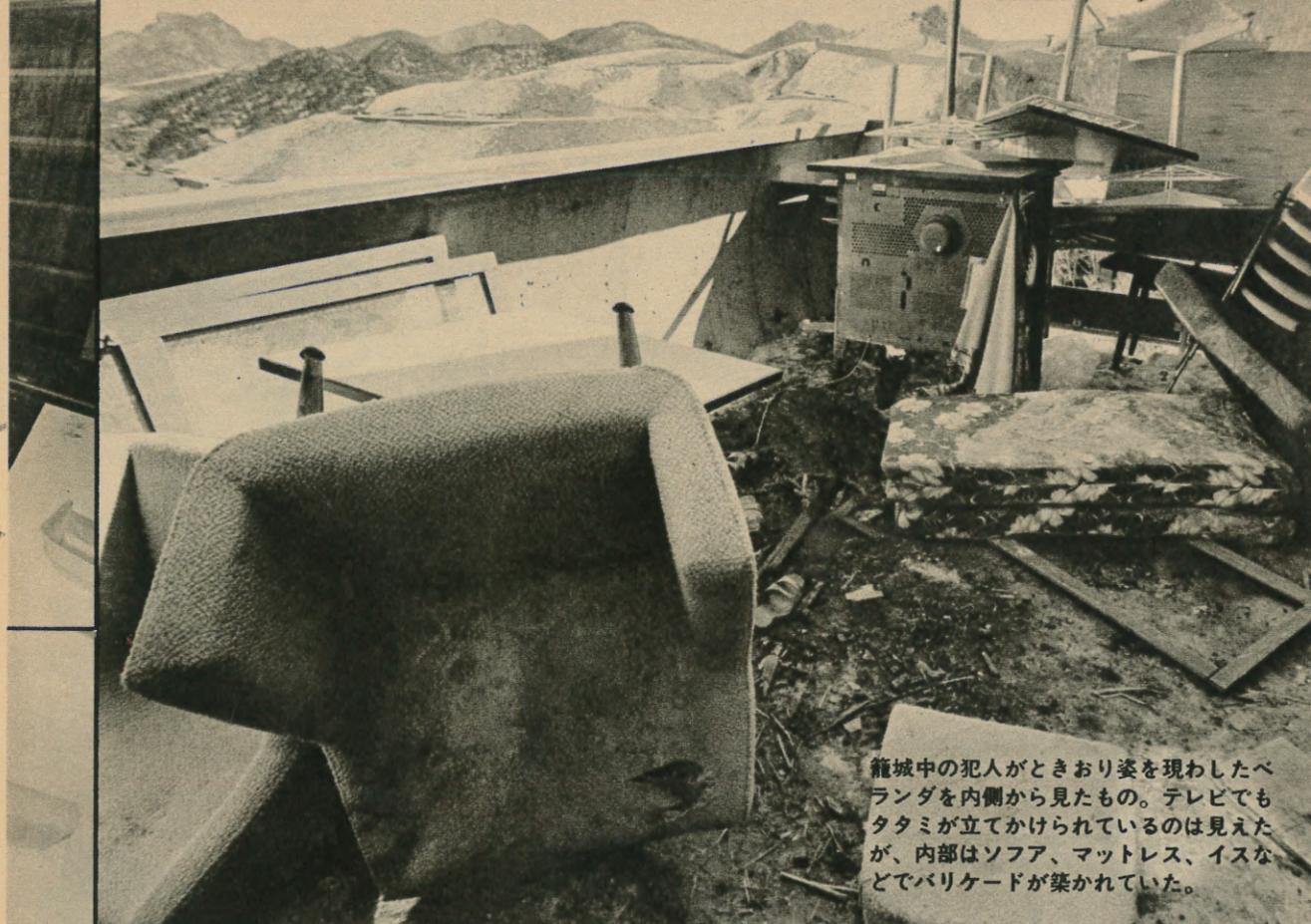
機動隊が最初に入り込んだ1階には、イスが積みかさねられて整理してあったが、これは行動の自由を確保するスペースを作るためだったかもしれない。



2階の洗面所。どういわけか汚物がいっぱいめこまれていた。



パナ通信特写



籠城中の犯人がときおり姿を現わしたベランダを内側から見たもの。テレビでもタタミが立てかけられているのは見えたが、内部はソファ、マットレス、イスなどでバリケードが築かれていた。



管理人室。タタミをはがし、フトンやマットレスを積み上げてバリケードを築いていた。山荘内のすべてがこのようになっていた。



坂東国男(25)  
山荘攻防戦では、正確な射手ぶり、警察側と力づくで渡り合った。京大農学部卒。過激派中の過激派、坂東隊の隊長として知られる。資金調達部隊のリーダーで、先年来、あいつで起きた銀行などの現金強奪事件は彼の「功業」といわれている。



マリゲラの「都市ゲリラ教程」にいわく、都市ゲリラはいかに人民の間で生活するかを知らねばならず、一般の市民生活と比べて奇異に見られないようにまず外見に注意すべきである。他の人々と同じ服装をしてはならない……。  
たしかに、「挫折した長征」を通じて、彼らは目立つような「高級な服装」をしてはいなかった。だが、ボサボサ髪、汚れた顔、ヨレヨレの服とズボン、ただよう悪臭——ひと目で「奇異」に感じられるイデタチであった。いったい彼らは、「聖典」のどこをどう読み違えたのだろうか。

吉野雅邦(23)  
横浜国立大四年生。中核派にあきたらず、京浜安保共闘に参加した。大手不動産の重役を父にもつ、恵まれた環境に育ったため、秀才、参謀タイプの反面、性格はやさしく、行動力の弱さを批判する向きもある。



加藤倫教(19)  
中京安保共闘の一員。若年だが、爆発物取締罰則違反の逮捕歴あり。父親は、二宮尊徳をあげたてまつるコチコチの教員。実弟とともに山荘にたてこもった。



坂口 弘(25)  
あさま山荘籠城戦の大將格。東京水産大中退。京浜安保共闘の旗上げに参加、44年の愛知外相訪米阻止闘争の際、羽田空港に乱入して逮捕され、大いに名を上げた。女傑・永田洋子と内妻の間柄であることは有名。指導力、行動力にすぐれ、まさに首領の器だが、アキレスけんは持病の心臓病。



永田洋子(27)  
京浜安保共闘最高幹部のひとり。坂口弘の内妻。2月17日、妙義山洞穴アジト付近で逮捕された。茶色のとっくりセーターに黒のスラックス姿。髪はボサボサ、顔は土とホコリで汚れきっていた。



杉崎ミサ子(24)  
横浜国大グループの一員。2月16日、妙義湖畔で逮捕の際、ライトバンの中で衆人監視のもと放尿する度胸を見せた。



伊藤和子(22)  
京浜安保共闘。2月19日、軽井沢駅で逮捕。丸顔で浅黒く、カーキ色セーターの上に、空色のビニールジャンパー、紺色の登山グッズをはいていたが異様にクサかった。



寺林真喜江(23)  
中京安保共闘幹部。二月十九日、信越線軽井沢駅で逮捕。ネズミ色Vネックセーターの上に空色のアノラックを着て、キヤラパンシューズをはいていた。猟銃弾二発のほか、手製のビース爆弾を所持。

きびしい戦場生活のなかで、女性のかの女らに固有の資質をもちこんでくれるよき友であり、男と同じ働きをし、戦闘することもできる。女性は力が劣るけれども、耐久力では男性に負けない。かの女たちは男のやるあらゆる種類の戦闘任務をいつでも遂行できる。  
チエ・ゲバラ



2月28日午後6時15分、「人質」はついに救出された。



2月29日、軽井沢病院の一室に泰子さんを見舞った夫の郁男さん。

犯人たちが、泰子さんの姿をなかなか見せないところから、さまざまな臆測が乱れとんだ。なかでも、一般に信じられたのは、「ゲリラは、人質の姿を決して見せてはならない」というテーゼの存在であった。ところが、実は、ゲリラの先生たち「ゲバラ、マリゲラ、パヨの著作、発言のどこをめぐって見ても、そんなことはいつこうに見つからない。第一、中南米など外国のゲリラは、同じよそこの民間人などを人質の対象としていない。人質は常に要人であり、取引材料としても、宣伝材料としても、それに見合った効果的な人間が選ばれるのだ。それに、人民の森にひそみ、人民の海にもぐるのが、ゲリラの生きのび、勢力を拡大する最大の条件である。その意味からすれば、かの赤軍兵士たちは、カヨワイ女を選ぶことで人民の同情を失い、しかし同時に、人質を比較的丁寧に扱い恐怖を与えなかったことで、それなりの効果を上げたというべきであろうか。



押収された散弾銃、38口径ピストル、同実弾36発、猟銃実弾520発、ライフル実弾8発、トランジスタ・ラジオ3台。左上の細ヒモは泰子さんがしぼられていたと思われるもの。



軽井沢駅で逮捕された寺林真喜江の所持品。1万円札12枚、クシ、ナイフ、メモ、ボールペン、E.T.C.



上から、22口径自動五連発ライフル、上下二連十二番散弾銃（中央二丁、下のが銃身を切ったもの）、自動五連発十二散弾銃。

教科書には、ライフル銃、散弾銃などの使用法が詳細に解説されている。彼等はそれに忠実に、銃

身を短かく切って携行するときに人目につかぬようにするなど、並々ならぬ苦心を払ったらしい。



妙義山中の洞穴アジトからの押収品。寝袋、男女の下着、軍手、ローソク、ナベ、カマ、コンロ、テレビ、生理用品、その他もろもろ。

ゲリラの所持品はものすごく多量だ。パーヨによれば、長靴、長靴下、長スボン、長い丈夫なベルト、良い腕時計、髪や爪を切るハサ

ミ、石鹸、薬品、電池などあらゆるものを持たねばならぬ。連合赤軍は教科書どおり品物だけはいろいろ取り揃えていたようだ。

# 大特集 日本は百人はテレビ機敷でこう見た

三島由紀夫の父、ボストン佐藤侯補者・文化人、空能人、庶民まで  
の「国家と革命」観

## 妙義山で処刑されたスハイ山田孝の役割

赤軍の血の粛清で虐殺された  
行方不明幹部数人と残忍な殺し  
の手法

## 独占九機隊員 突入後の銃撃戦ありのままを話す

震えるどころか最後まで銃弾で  
抵抗した犯人の間から泰子さん  
を救出した苦心談

## 吉野雅邦に見る良い親と優れた子鳥藤



彼らの若さと歴史拒否について大野明男  
学生運動の敗北感が強まった時期に誕生したアンダー・サーティイ集団を斬る

## 革命三兄弟を育てた右翼的父親教育



ラジオへの報道規制とTVへの疑問 依孝太郎  
七時半半しゃべり続けたキャスターが見た情報化時代のマスコミのあり方

## イラスト連合赤軍と泰子さん

武装集団の組織・訓練・内ゲバ・  
行動からあさままで十日間の  
知られざる生活

## 戦闘体制を固めた民族翼の危機意識猪野健治

134

## 新左翼過激集団はこれからどう動く

129

## 私刑殺人で明かされたサイ革命家九つのナゾ

▲グラビア▼泰子さんのいちばん長い日……………3  
▲コラム▼新左翼十四年の歴史……………135

## 噂の凄惨な本ゲリラ戦教程はこれだ

●表紙構成／水野石文  
小説 首相官邸襲撃計画 岩川隆……………108

子連れの謎、集結の謎、悪鬼の謎、銃撃戦の謎、逮捕の謎、アジトの謎 ETC  
犯人たちに爆弾の作り方からバリエーションの築き方まで教えたバリの教科書主要部紹介



二月十六日、群馬県沼田市に近い迦葉山で、京浜安保共闘のアジト小屋が発見された。杉丸太と板で組み立てられ、トタン屋根、ビニール窓、内部にはイロリまであり、ちよつとした別荘風。遺留品として、手製爆弾に使う乾電池三十個、洋ガサ、スコップをはじめ、ナベ、カマ、インスタント・ラーメンが見られた。

提供・パナ通信社  
共同通信社

連合赤軍の残忍なリンチ殺人——それは、氷点下十五度以下の極寒の山中で行なわれた。処刑されたのは赤軍政治局員・山田孝。すでに逮捕された奥沢修一らの自供で判明したのだが、いったい内部で何が起こったのか。



山田孝の死体は、屋なお暗い森の中に埋められていた。

### 全員一致で リンチ決議

その残酷な血の粛清はどのように行なわれたのか——。「山田が急速に我々に接近し始めたあとで、アジトが次々に摘発されたり、真岡事件一周年記念蜂起にもた一人慎重な行動を主張するなど、山田には数々の裏切り行為の疑いがもたれた。そこで全員が数時間にわたる相談のすえ、全員でリンチを加えることを決議した」。

判を拒んだため、あとは連中が力づくで山田を縛り縛りつけ、殴ったり蹴ったりの凄惨なリンチを加えたりした。そのリンチは夜になっても続き、夜は夜で山田を零下十五度の雪の中にさらしていた。それで山田は二晩目に死んだ。すると連中は今度は、身元を隠すために、山田の硬直した死体から着ているものをナイフで切り刻んではがしたんだ。想像を絶する鬼気迫るリンチ事件だよ」(公安担当M記者)

幹部なだけに、いかに連中が陰惨で冷酷な極限を突っ走っていたかがよくわかる。味方すらも信じられないのだからね」(前出のM記者)

内部で明らかになった。大菩薩の時から内部の事情が、かなり公安関係にもれているので、内部ではスパイの摘発に神経質になっていたのだが、今回の一件もあって山田が浮きあがってきたのだ。山田は、公安関係のレボとも考えられ、内部特殊レボを担当していた疑いももたれた。その証拠に、山田は結婚して子供が生まれ、それから、武闘活動から遠ざかっていたのに、急に妙義山アジトに姿を見せ、そのあとアジトの見取図がかなり短時間のうちに公安関係にもれてしまったからだ」。

## 赤軍「血の粛清」で虐殺された行方不明幹部数人と残忍な殺しの手口

# 妙義山で処刑された スパイ・山田孝の役割

死体の埋まっていた千駄木山周辺

集団だ。だが、赤軍派というのはいま大菩薩時で大量に幹部がバクられ、その後ハイジャックで残った幹部が国外に逃亡し、今の赤軍派を動かしているのは中堅クラスの中から頭角を現わした連中だ。森恒夫はそのうちでも急に浮上した人間で、彼は軍事委員会を握り、次いで政治委員会にも権力をのびし、M作戦を実行する。ところが、赤軍派の内部には、彼が急激にのしあがってきたことに対する反感も手伝って、そのうち森一派は完全に赤軍派から孤立してしまっ

梅内一派の  
森・坂東への反抗  
その武闘主義一辺倒の森恒夫、坂東国男らに對立するのが梅内恒夫(潜行中)といわれ、殺された山田孝は梅内路線にあつて「世界同時革命論」を唱え、同派の政治的な方向づけを理論指導していたとみられる。「そこで、この血の粛清の背景として浮かびあがってくるのは、暴走する森一派が、戦術面で穏健な主流派の山田を、人民裁判」と称してリンチを加え内部報復したのではないかとはいふかた。森一派は山田に対して「裏切り者」という烙印をおしているが、そこには、銃口から革命が生まれる」と呼称する過激路線から脱落したとみる山田への近親相殺の憎悪がこめられている(前出のT記者)

赤軍派の大久保清  
事件の可能性も  
「最高幹部の山田さえ粛清にあつては、この種の対立が随所にあつたことは想像にたかくなからう。スパイ・裏切りに対しては弁解のチャンスを与えた上で処刑せよ——これは「ゲリラ戦教程」にも出てくるゲリラたちの「死の規律」だ。

「今のところ、山田に次いで殺されている可能性があると思われるのは寺岡慎一、前沢虎義、山本順一、保子夫婦らだ。寺岡は、妙義山中に指紋が残され、あさま山荘にいたとみられるのに、ブツツリ足どりが消えていること、さらに山本の場合には、妙義山中のアジトに免許証が残っていたことから謀議に参加していたことは確かだが、その後の足どりが寺岡と同様に切れている。大久保清事件のように、つきからつきに死体が出てくるんじゃないだろうか」。

時間余TVタキ...

大特集

日本の

テレビ機敷

三島由紀夫の父・ポスト佐藤  
候補者・文化人・芸能人・  
庶民までの「国家と革命」観

どうしても、たとえ豆粒ほどの点でもいいから何か感心したところはないか、と強要されれば全然ないことはありません。それは唯一つあの根性には驚いたということです。その動機、その信念、或いはギリギリのところまで追いつめられたのか、否か、その辺のことは何んにもつまびらかにしておりませんが、若者の根性といえますか、日本人特有の根性といえますか、人質をとってありながら、何の要求もせず、逃げ道と方法等に関する要求もせず、そして、最後の最後までシェパード犬の様に闘いつづけた、というこんな例は外国には一体あるのでしょうか。全くこの根性には現代の若者にはなかなか見られないもので、この点にはホトホト敬服しました。彼の父兄には誠にお気の毒の話で、父親が自殺をした、と新聞記事で読んだときは、同じく人の子の親として何んとも言えぬ言葉を知りません。せめて父親としては、そう悲しんでばかりいないで、自分の子の主義主張行動が間違っているかどうか、そんなむずかしいことをしばらく考えず、唯々、何か或る主義のために根性をつくしたので、現代に一番かけている、根性の強い子であった、と思っ



ばいいんだ。  
なんだか赤軍派を支持するみたいなのをいってたけど、本当はきらいなんだ。  
自殺したあの親はバカだよ。ほんとに大バカだよ。あの赤軍派は別の世界、理想の社会をつくらうと戦ってるんだらう。このシャバがいやだから、戦おうというわけなんだらう。なのに

おやりなさいという外はありません。  
あの事件はきらいだね、聞くのも話すのも。  
……赤軍派は自分たちの世界社会を創造しようと戦争しているのだと思う。ベトナム戦争と同じだな。ところがあの事件では、泰子さん救出という「ドラマ」にすりかえられてしまった。だからまあ「泰子さん元気でね」、こんな調子の大義名分を立てた「泰子さん事件」なんだ、あれは。  
昨年、クリスマスツリー事件があった。警察はあの犯人だといふのなら、爆弾事件の犯人を追いつめるんだと、堂々とやれ

滅亡的見方  
深沢七郎 (作家)

100人は  
でこう見た

その1

視聴率98%、何千万人が見たテレビ中継のあさま山荘人質救出作戦。たてこもる連合赤軍派の激しい抵抗で犠牲まで生んだ。この激しい攻防戦をテレビを通して、目のあたりにみた各界百人は何を感じ、何を考えたか。

伴・三島由紀夫の場合と

平岡 梓

伴の場合は、左から見れば狂気、右から言えば神様だそうですが、世の評論家、又は、名士の談話なるものは、先ず簡単に自分の愚かな頭で結論を出し、風向きをうかがいながら、その結論に向かつて、もって廻ったようなクネリクネリとした論理で原稿の枚数をふやして行くのです。  
僕のような単細胞的な考えによれば、赤軍派は現体制軍から見れば、共に天をいたただかぬ鬼畜の徒でありましょう。しかし、こう極端なものになると、反体制軍の中でも、主流派の共産党さえも流石に手を焼くことでしょう。無政府主義者だけからは或は評価されるかも知れませんが。  
ジャーナリストは、どうしてもそう比較がお好きなの知りませんが、伴を赤軍派と比較するとは、親馬鹿でいうのではありませんが、とんでもない見当違いで迷惑千万の上なしです。彼等のやったこと即ち銀行強盗、殺人、一般人の人質、窃盗、盗火器の使用等々は、皮相的に見ただけでも最悪のハブニングを提供し、世論の糾弾を受けているのは当然です。

親が出しゃばりすぎる。あんなことをして、このシヤバから出ていった子供を、このシヤバに呼び戻そうとしている。いやだから出ていったものを、死んで呼び戻そうなんて、無意味、滑稽だよ。

赤軍派も、滅亡の人生論からいうと、人質をとったのなら、その人質を犠牲にして、自分も死んだらいいんだ。  
つかまえられるということは煮ても焼いてもご自由に、ということなんだろう。近ごろは、責め道具もどんどん開発されているというからね……。

### もう寄付はしない

北 杜夫 (作家)

こういった狂気じみた暴力は絶対に許せない。

以前から、特に成田空港の頃から学生たちから寄付なんかを求められていました。病人とか怪我人のために、いくら寄付してほしいというところで、よくも、もと医者でもあるから、その都度、寄付に

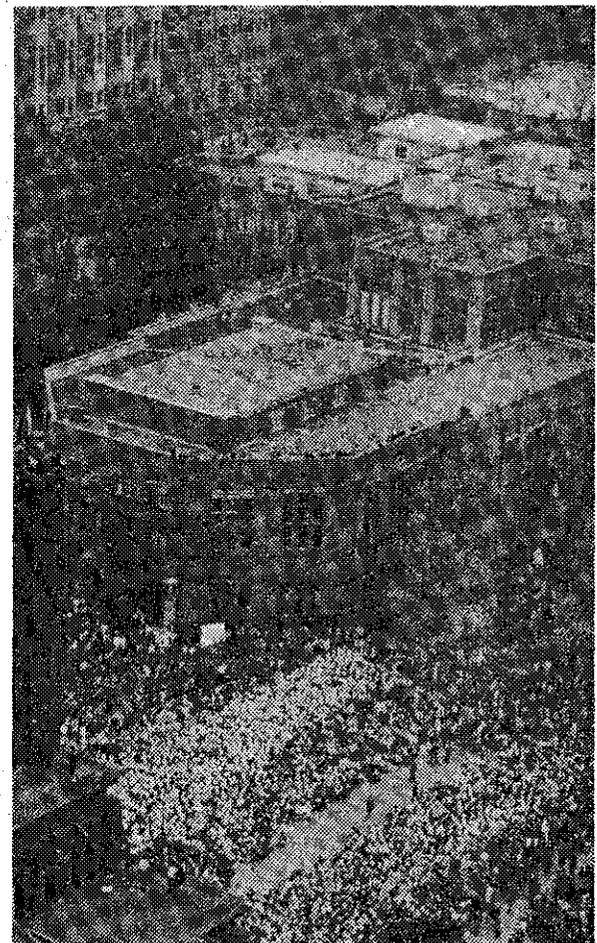
は感じてきた。しかし、土田さんの事件(爆弾小包事件)で、ぼくは土田さんとも知り合いである関係上、非常に怒った。いかなる理由にせよ、寄付はもうしたくない。それが爆弾になって、いつ知人が殺されるかもしれない。

### 赤軍は採用しない

江戸 英雄 (三井不動産社長)

あれは完全なハネ上りで、革命などというものではない。彼らの行動はもちろん、いまの日本の客観状況をみても、革命をできる状況ではない。まったく腹が立つ。あのへん(南野井沢)で鉄砲を撃ったところで、なんら社会的に変わるはずがないではないか。

昭和六年ころから戦時中にかけて起こった一連の運動を私は知っているがあれは大衆の窮状が基盤になっていた。これにくらべて赤軍のは愚劣きわまる。山荘に近づいたスナックの経営者を、後ろから殺す目的で撃つなど、本当にケシカラン。革命をやるのなら、もっと社会を



東大で爆発したのも現代の若者の欲求不満?

勉強して、じっくり地についたやり方をやれといいたい。

所詮、彼らの行動は社会の豊かさから生まれた反抗にすぎない。これでは大衆はついていか



私の会社では、学生運動に参加した者でも採用しているが、学生時代に彼らと同じ感覚をもっていたも、もっと現実的だ。組合運動はやるし、給料をあげろといってくるが、現実をふまえて行動している。この若者達に考えを

### イヤな決死隊

大岡 昇平 (作家)

悪わされないようにしなければいけない。

あれを見ていて感じたことは、警察官が、決死隊を組織した、ということですね。嫌な気がしたかどうかわからない。決死隊を組織して、突撃!! なんていうのは、昔の兵隊みたいで、私のようなものには、昔を思い



出させて一番いやなことでした。

内部の事情が分からないうちに、突撃するというのは、敵を少し甘く見すぎているし(実際、警官が二人、顔をやられて死んでいる)なにがなんでも人質を救うために、突撃せねば、というのには、一つの推定でしかない。

赤軍そのものに対する疑問よりも、警察側に疑問を感じた。赤軍そのものがあという態度をとったというのには、しようがないと思うが、乱暴な者を制するには、もっと(決死隊を組織するという以外の)よい作戦があつていい。

### 彼等の思うツボ

城山 三郎 (作家)

後味の悪い事件という一語に尽きる。

あの朝、重装備の警官隊が必死の思いで、玄関に迫る。クレインの鉄球が打ちかかろうとする。そのはりつめた最後の瞬間に、犯人五人が白旗かかげて、「やめた!」と出てくる。警官隊はずっこける。日本中がずっこけて、「なんだ、あのばかやろう」と苦笑しながら、テレビの前から散って行く。

わたしは、そんなユーモアのある光景を想像し、痛いくらいの気持ちで祈っていた。それなのに、現実の推移は、陰惨であった。



ひとつの理論がある。この十数年、機動隊は、無防備だった学生たちのやわらかな頭に棍棒を振り続け、殺されたりけがされた学生は無数といっている。その積年のうらみを銃撃によって果たしたという復讐の理論である。

だが、彼等を動かしたのは、その論理でもなかった。救いとなったのは、射撃戦中の警察本部の冷静な判断である。

隊長を失った二機をそのまま向かわせれば復讐戦になるからと、あえて九機にふりかえた。復讐戦ほど凄惨なものはない。復讐は復讐を呼ぶ。情をおさえてそれを避けて通ったころは、みごとな采配という他はない。過去の警察の指揮者にこの種の慎重さがあつたら、日本の学生運動も、ここまで過激化しなかつたのではないかと気がする。

### 殺したのは誰か

生島 治郎 (作家)

警察では、東大事件以来の学生のやり口から見て、どんなに抵抗しても、最後は手をあげるを見ていたという。三名の被害という途方もない事態をひき起こしておいて、しかも、その見とおしどおり、最後に手をあげて出てくるどころは、とても、戦中派であるわたしなどの理解できる結末ではなかった。



こう考えてゆくと、二人の警察官を殺したのは、直接的には連合赤軍だが、間接的には警察上層部だともいえる。死んだ警察官に慰労金を贈ったり、警察庁長官が涙を流すなら、当然、長官は辞職すべきである。

連合赤軍の視野の狭さと彼ら自身が純粋だと思ひこんでいるのは滑稽であるが、無辜の市民を人質にしてケシカラン、彼らを殺せというならば、同様に国民の血税という人質に等しい四次防予算をとりこにして、シビリアン・コントロールを無視し、積極的に軍備を進めている政治家も同罪である。それは、

連合赤軍のライフルによる脅迫と異ならないからだ。考えてみると、自分の威信表明のためには、部下が何人死んでもかまわないというのが官僚

機構である。その上に乗っかって、警官を死なせた警察上層部と、四次防を進めている政權は、まさに共犯者であると、私は考えている。

十時から行動開始というの、なにかニコソンの。攻撃は暁が勝負で、寝込みを襲うのが常識だ。最近、警察権力が強くなったといわれるが、それは全く幻想である。国家に対する無法な挑戦が、どんな結末を招くか、どの国でも歴史の上でも明らかではないか。

この事件では指揮官先頭で殉職者を出したが、これは先頭に立って仕事をしていた管理社会の営業マンに痛烈な教訓を与えたと思う。管理社会の中でこの指揮官先頭の死の教訓をいかに生かすか、考えなければいけない。この殉職者に対して、国民的なスケールで犠牲をとむらうべきである。

勤労者を人質にするというのは、勤労者を自分等の安全のために犠牲にする反人民的裏切り行動である。また、自殺もマリゲラの如き、ラテン系の人々にとっては、カソリックの二千年に近い深い影響のために、ゆるぎのないことであるが、われわれ日本人はラテン系の人々と生活・心情を異にし、自決は自己の責任をはたしたという美德ともなり得る。ここにも、赤軍派の思想の浅薄さが窺われる。

### 警察の戦術を工夫すべきだ

秦野 章 (前警視總監)

あさま山荘事件をみて、私は赤軍のやり方なことをだと思つた。彼らはマルクスとかレーニンとかといつても、所詮ニヒリズムとか、挫折感が異常なヒロイズムとなつて表われたにすぎない。

二月二十八日午後六時すぎ、テレビニュースが半田泰子さんは、無事救出されたと放送した。その瞬間、あよふかしたと思わずひとり言でつぶやいた。統一して赤軍派は五名全員無傷で逮捕され、しかも、坂東君の父親が自殺したと云うニュースが目に入ったとき、何とも言いあらわし難いものが、強く私の腹の底からつきあがってきた。

それと同時に、追いつめられ、まったく逃げ場のない赤軍五名は、なぜ、泰子さんと最年少の十六歳の加藤君を決戦前に送り返し、その後、心ゆくまで交戦し、最後には、四人が、相互に自決しあわなかつたのかと、私は非常ないきどおりに感じた。

山荘のような、ケースを全国的に数カ所同時決行した際、警視庁の機動隊以外、彼等に迎撃できぬという各県警察の弱点をついて、第三の革命勢力が、出はらった機動隊の背後を衝いて東京および、大阪で、数千の規模で起ちあがった際、は非常に政治的危機を招来すると思う。ここにわれわれが当面している重要な課題がある。



ライフルをもつて警察に立ち向かう犯罪は最大の凶悪犯。それに対するに火炎ビン時代と同じ戦術で警察が対応したように思える。殉職した内田、高木両氏の犠牲的な先頭精神は立派である。しかしあの場合、最高の破壊技術を駆使して、犠牲なくしてやる高度な

私も昭和五年二月五日、当時の日本共産党書記長として地下運動に狂奔し、実家との音信も二年間、まったく杜絶させていた。その私を転向させようと、母が自殺した経験をもっているだけに、赤軍派五名の親御さん達は、どんな気持ちでいるだろうと胸をえぐられる想いがした。

それが同時に、追いつめられ、まったく逃げ場のない赤軍五名は、なぜ、泰子さんと最年少の十六歳の加藤君を決戦前に送り返し、その後、心ゆくまで交戦し、最後には、四人が、相互に自決しあわなかつたのかと、私は非常ないきどおりに感じた。

山荘のような、ケースを全国的に数カ所同時決行した際、警視庁の機動隊以外、彼等に迎撃できぬという各県警察の弱点をついて、第三の革命勢力が、出はらった機動隊の背後を衝いて東京および、大阪で、数千の規模で起ちあがった際、は非常に政治的危機を招来すると思う。ここにわれわれが当面している重要な課題がある。



ニクソン訪中という歴史的ニュースも忘れられるほど

二、何が若者をしてかくまで抵抗させておるのか、完全黙秘の中ではないが、言葉だけではいっくせぬ欲求不満を彼らはもつておるに違いない。その説明がなされなければならない。ま

た、一人の救出とそのために払った警察側の尊い犠牲に頭が下がらるが、そういうアンバランスについても、割り切れないものがある。

三、人間というものは、神でも悪魔でもないが、一体どういふものなのか。また、豊かさや平和というものは、本来秩序的なものではないが、その中で我我はどういう秩序を編み出すべきか。そういう問題は政治の場ではもとよりのこと、家庭や学



三分の理もない

福田 越夫 (外務大臣)

学生が社会や政治の問題に関心をもつのは当然のことであり、むしろ大いに関心はもつべきだと思ふ。

平凡な市民生活に戻ること願っている。私が何よりも残念だったのは、警視庁の内田尚孝第二機動隊長と高見繁光警部の殉職だ。人質の救出と犯人逮捕の陣頭指揮で非命に倒れたお二人のご冥福を心から祈る。残された遺族の方々には、申しあげざる言葉もない。今回の場合だけではなく、市民の生命と財産を守るために倒れた警察官、遺族にたいし、政治は万全の配慮をなすべきである。また、標高千二百尺の寒気と犯人の銃撃に耐えて、職務を遂行した全警察官には心からご苦労さまでいいたい。



三分の理もない

しかし、彼らの経験は、まだ人生のほんの一部であり、しかも学園というサークルの中に限られたものでしかない。したがって、学生は学生という自覚に立ちかえって、社会の問題などについては先輩の意見に耳を傾けるべきではないか。

平和なわが国で、こんな事件が起こるとは、まったく悲しいことだ。しかし、人質の婦人が無事に助け出されて、本当によかった。一日も早く心の傷を癒し

外国人でない事を三木 武夫 (自民党代議士)



三分の理もない

一、若者の頑強な抵抗、機動隊の決死的活動、二名の尊い犠牲と多くの重軽傷者の続出、父兄の自殺、半田さんの救出と、全

この事件では指揮官先頭で殉職者を出したが、これは先頭に立って仕事をしていた管理社会の営業マンに痛烈な教訓を与えたと思う。管理社会の中でこの指揮官先頭の死の教訓をいかに生かすか、考えなければいけない。この殉職者に対して、国民的なスケールで犠牲をとむらうべきである。

山荘のような、ケースを全国的に数カ所同時決行した際、警視庁の機動隊以外、彼等に迎撃できぬという各県警察の弱点をついて、第三の革命勢力が、出はらった機動隊の背後を衝いて東京および、大阪で、数千の規模で起ちあがった際、は非常に政治的危機を招来すると思う。ここにわれわれが当面している重要な課題がある。



員逮捕の成功。これら一連の出来事を思い、暗然たる気持ちで考えさせられている。

二、何が若者をしてかくまで抵抗させておるのか、完全黙秘の中ではないが、言葉だけではいっくせぬ欲求不満を彼らはもつておるに違いない。その説明がなされなければならない。ま

た、一人の救出とそのために払った警察側の尊い犠牲に頭が下がらるが、そういうアンバランスについても、割り切れないものがある。

三、人間というものは、神でも悪魔でもないが、一体どういふものなのか。また、豊かさや平和というものは、本来秩序的なものではないが、その中で我我はどういう秩序を編み出すべきか。そういう問題は政治の場ではもとよりのこと、家庭や学

員逮捕の成功。これら一連の出来事を思い、暗然たる気持ちで考えさせられている。

二、何が若者をしてかくまで抵抗させておるのか、完全黙秘の中ではないが、言葉だけではいっくせぬ欲求不満を彼らはもつておるに違いない。その説明がなされなければならない。ま

た、一人の救出とそのために払った警察側の尊い犠牲に頭が下がらるが、そういうアンバランスについても、割り切れないものがある。

三、人間というものは、神でも悪魔でもないが、一体どういふものなのか。また、豊かさや平和というものは、本来秩序的なものではないが、その中で我我はどういう秩序を編み出すべきか。そういう問題は政治の場ではもとよりのこと、家庭や学

外国人でない事を三木 武夫 (自民党代議士)



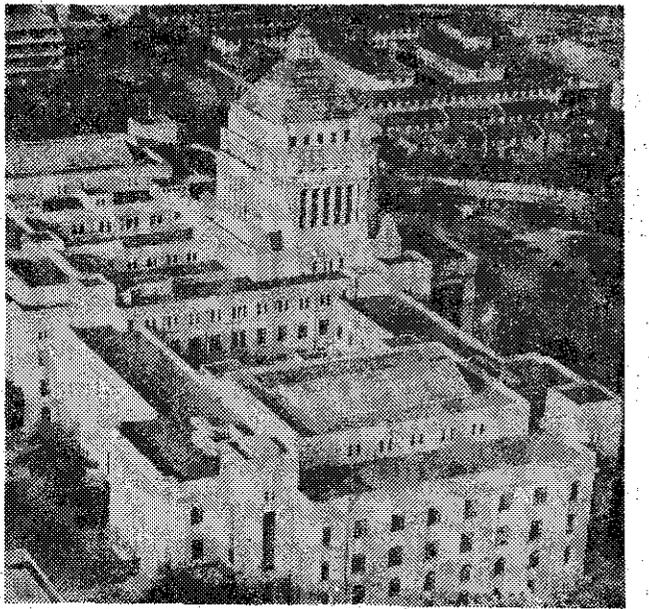
社会の中から、我々と同じ社会の中から生まれ、育ち、生きてきた若者の一人である。

キューバではない

中曾根 康弘 (自民党総務会長)



迷信的な信仰が生み出した事件だと思っているが、教育思想の問題が、いま非常に重大だといふことを痛感している。



「佐藤首相が悪い」ではすまされない

牟田泰子さんも犠牲者には違いないが、無邪気で楽天的、それでいて現実主義、こういうどこにでもみられるような日本人であったことが、私にはわずかに救いである。

極悪犯罪人である

石原 慎 太郎 (参議院議員)

連合赤軍の連中も含めてラジカルな学生たちには重大な誤解がある。公害問題や物価問題に見られるように、大衆の中に、

合法性を現実に尊重せよ

羽仁 五 郎 (評論家)

事件の最中に読売新聞が「憲法や議会民主制の空洞化が若者たちの政治不信を強め、容赦のない弾圧が学生運動を進行かつ暴力化させた面がある」という意味の寸評をおこなっていたが、だいたい私の意見もこれと同じだ。

日本はどうなるか

会 田 雄 次 (京大教授)

彼らのこんどの行動を論議で理解しようとするのではなく、感情的に見た方がいい。衝動で、行動を起こせば気分がよくなるといううものにはすぎない。

感想

保田与重郎 (評論家)

一件が落着き犯人はみな縛りついたが、なくなれば二人の警察官の犠牲に対して、言いようのない思いがする。しかも今一人、義侠の青年が犯人によって射殺されている。今さらいうまでもないことだが、憎らしく

4月生受付中 (日曜・祭日も受付) 無試験入学 来校見学歓迎

千代田テレビ技術学校 初歩から資格取得まで 実習本位の親切な指導



悲痛の念に耐えない。  
二人の警察官は、中年を過ぎた指揮者で国家の損害である。事件中は口々にどのようにするがよいと批評をするが、犯罪を挺身処理するのは、警察官以外にない。警察の今度の慎重な態度は、たまたま人質とされた人妻の生存を前提とし、安全を考えたからであつた。

で、ここに重点をおくと、誰でも深く考えるほど、どうしてよいかわからないのである。しかし警察は何とせねばならぬ。今後もありそうなことだから、方法のないものを処理するために、根本の決意をしておくことが大事と思う。警察首脳の必死の決意を示して欲しい。わが国固有の武士道の思想を、改めて一度、回顧反省すべきであらうと思う。

犯人たちの性格や、集団の結びつき、犯人各自の犯罪や狂気の度合いというものも、新聞の記事など信用できない。検察の調べの方には客観性があると思うのが、今までの例による判断である。この点について今は何とも口に出さない。  
卑怯が人道上最も恥すべき悪徳にして、犯罪であるというところを、近頃は感じなくなった傾向が

向がつよい。戦前も卑怯と卑怯な人間は多くいたが、これを抑える理想の道義と人道の精神が、つよく存在していた。戦争の敗北に乗じて、この卑怯と卑怯人が、一時にはびこり出したのである。今日はまだそういう時代の継続といえる。卑怯を最も憎むべき人道上の犯罪として教えるのが、教育の第一義である。教養とは卑怯を恥と知る精神の構造である。我國の庶民層では、これを勇らしくないと、単純なことばで、その子弟に教えた。子女に対して、女らしくと教えたのは、それを情操化したものである。

犯人を説得した母親たちのことばは、私には聞き苦しかった。第一義の思いがない時、人の心をうつ説明とはならない。人質にされた人妻が、便所に立つとき、綱でくくられたというのは、恐怖だった。この恐怖は相互のものである。犯人が青年であり、がりそめにも「革命」ということを考えたことがあったというから、この心の悲愴さは口舌を絶している。  
救い出された人妻が語ったことばは、報道関係者の誘導に即しただけで、一番さきに言いたただけ、一つのことを言わせてもえなかったのだらうと私は理解した。彼女がことばの途中か

らしばしば泣いたのは、腹の底からしぼり出したことばを、いうすべを知らなかったからだろう。彼女本人も、たまたま、無関係な犯罪逃亡者の人質とされ、異常の恐怖の経験をし、同情とも何とも言い難い。しかし三人の立派な犠牲者のことは、長くこの平凡な人妻の心の重荷となるのではないかと考えると、卑怯の罪の甚大さが怖ろしい。

### 若者を甘やかすな

山口 隆 (作家)

連合赤軍という集団は、思想集団というよりアウトローの自殺集団だと思えます。  
当日、私は、決着がつくまでテレビにかじりついていたので、現在の若者の気持ちのなかに、連合赤軍の諸君と一致する心情があることはまちがいないでしょう。  
しかし、彼らがああいう行動に出るのも、それなりの理由があるという説には、私はくみしません。そう言うことは、結果的に、彼ら——連合赤軍だけではないに、連合赤軍を含めた若者一般——を甘やかすことになる



カ所で同時に起こそうとするにちがいない。今後これにどう対処するか、私は問題であると考えている。  
今度の事件は、体制側にいろいろな法律を作らせる口実になる。  
こんな事件は「ああいやだ」という嫌厭感を政治家が利用して、ミノもクソもいっしょにしてしまふ恐れが多分にある。むしろ今度の事件は、体制側には有利である。だから反体制の学生諸君は、このことを真剣に考えてほしいと、私は強く希望したい。



民間人の犠牲者、田中保彦さんは犬死にだった



おそらく残った後釜のリーダーたちは、一カ所であれだけのパニックを、一時的にしろ起こしたのだから、これからは教

### どうする狼少年

安岡 章 太郎 (作家)

連合赤軍の行動も思想も私には不可解である。しかし、彼等

のやったことは学生運動から遙かに遠く逸脱したものだといえ、やはり安田講堂の事件その他から発展してきたものに違いない。東大紛争一つをとってみても、事態は「人のウワサは七十五日」式にうやむやにされているだけであり、何一つ片付いていないのだから、このような事件が起こったのも驚くに当たらない。今後とも、ますます幅広クエスカレートして行く可能性があるだろう。しかも、これについての抜本的な対策とか、解決策などというものは、どこにもない。

こんどの事件で、人質を無事救出し、犯人を全員無傷で逮捕出来たのだから、その限りでは警察側の大成功だったといえよう。えんえん十時間にわたる



まず警察の処し方。いろいろな意見があるが、ぼくはよくやったと思う。ときには生ぬるいと思うほどだったが、彼らを殺さずに逮捕したことは、百点満点ではないが優はつけられる。内容の違う人種に、こっちの

### 二人の犠牲者

樺 光子 (樺美智子の母)

た牟田泰子さん。「人質とは思わなかった」といっている牟田泰子さんは、ほんとうに純粋で、立派な方だと思いました。  
もう一人は、自殺された坂東国男さんのお父さん。自殺の理由はよくわかりませんが、実に日本的だなあと感じました。  
私は朝日新聞にのった「犯人の人権は重い」という投書に、いたく共感しています。まったく私の気持ちを代弁して下さるので、そちらを読んで下さい。  
ちなみに投書主は三十四歳の主婦で、犯人の家族の社会的孤立化を心配し、坂東さんを自殺まで追いつめたものと考えねばならないとして、「警察も家族による犯人説得などは慎重にしてほしいと思う。精神的な暴力は、ときとして肉体に加えられる暴力より大きいということを改めて認識したい」と結んでいる。

### 「ああいやだ」

遠藤 周作 (作家)

**4月生受付中**  
日曜・祭日も受付  
世界を舞台とするプロの育成!  
読売新聞社主催「高校生のオリンピック」  
論文コンテスト協賛校

**千代田デザイン学院**  
商業写真 報道写真 映画放送  
室内装飾デザイン 服飾デザイン  
工業芸デザイン

初歩より実技中心に  
一流プロの指導  
大学クラスの最高の設備  
上野の絶好の環境

無試験男女年齢不問  
奨学制度・海外研修  
旅行制度・求人抜群  
学生専用提携ホーリ  
ンク場あり  
学生寮8階建他完備  
入学案内各二五〇円

上野駅(公園口)5分  
東京都台東区下谷1-5-31  
☎03-843-2661代 ☎110



親子の絆をたよりに母親は説得をくり返した

人間の欠陥をもっていることは否めない。

### 親の過保護に責任

會野 綾子 (作家)

ピストル、猟銃、無線機などの小道具があつて当世風に見えますが、本質は現代的ではありません。たまたま、大学生が強盗と殺人を犯したということだけであり、これを社会的にひどく新しい事件として取り扱うのは少しきすぎではありませんか。



事件の背後にあるのは、どうにもやり切れない。大学生の甘い。

あるのは、どうにもやり切れない。大学生の甘い。事件の背後にあるのは、どうにもやり切れない。大学生の甘い。事件の背後にあるのは、どうにもやり切れない。大学生の甘い。

たなど思わざるをえない。バリエードを作るために何も関係のないおでん屋をまき込んだり、市民を人質にしたりすることは、世間の怒りをかりただけです。

ぼくらには、それ以外の立場で考える権利がある。

彼らが人質の彼女に、温かみのある言葉をかけているから、凶悪犯でないという評価がある。だがこれは違ふと思う。今までの革命運動の中でも、人質の意味があつた。ひとつは自分の仲間との交換条件に使う、二つは武器や資金との交換、最後は、人質を釈放することによって自分たちも脱出をはかる。しかし、今度の事件は、このいずれにも該当しない。女を楯にして自分を守る、ただこれだけだ。彼らがいかに釈明しようとするにせよ、



この意味が三つの仲間との交換条件に使う、二つは武器や資金との交換、最後は、人質を釈放することによって自分たちも脱出をはかる。

はたいしたこともないのに、その日から、脅迫に近い電話が鳴りっぱなし。連合赤軍に近い人や右翼がかった人など、朝五時からたたきおこされるありさまである。そのくわい、今回の事件は国民に関心が深い。しかし、多少異常です。みんな興奮しすぎているんじゃないかしら。

### 社会病理学の問題

村松 剛 (評論家)

社会的には無意味な、実にナンセンスな事件である。亡くなった警察官や民間の方には狂犬に食いつかれたようなものでお気の毒だが、余りにナンセンスなので、社会的な価値判断はしたくない。多くの人も女性を人質にしたことを怒っているが、これは実にヒドイ。目的のために手段を選ばずという論理は昔からある。

昭和三十三年、四年ごろから、青年の間に流行性ヒステリー現象が生じているが、いまや青年たちは真性ヒステリー患者にな

少年」を力ずくで排撃する傾向を生ずれば、それがそのまま本当の狼になるかも知れず、かといって「あんたらエエ子や、タヌキやイタチと一緒に山の中で散々苦労したんやから、はよ出ておいで」とも言い兼ねる。平凡なようだが、これらの学生を輩出した世代とわれわれとは機会あるごとに話し合ってみるべきだろう。

### すべてやり切れぬ

草柳 大蔵 (評論家)

彼らになにをいっても意味がない。彼らにとって、他人は敵になるか味方になるかであるが、

ただでは、氣違いに刃物」になるだけです。坂東(国男)のお父さんは、大変つらかったと思います。こんな仲じゃなかったのに、こんな件にだれがしたと責任を押しつける人の多い世の中で、それをせずに、責任を負っていることは立派だと思ふ。死んだら仏さんになるんで、その前にせよあさま山荘へ行って説得してくれなうだ、母親をやらずに自分で行って、死を覚悟で、説得してくれなかったかと、それが残念です。

### なにかむなし

戸川 昌子 (作家)

あの人質事件の時、ある新聞社に、感じたまを答えたらそのまま、掲載されて、……内容



件は国民に関心が深い。しかし、多少異常です。みんな興奮しすぎているんじゃないかしら。

だれだつて権力の好きな人はいないと思うの、これまでの学生の運動には、権力に抵抗して、という世間の共感があつたと思うの、それが今回の事件では、もう学生運動とはいえないところまで進んでしまった。何にも必然性がない、戦争ごっこをやつて善良な市民をまきこむ、その上に国民をこんな興奮させた、これも彼らの誤算の一つ



性の人質にしたことを怒っているが、これは実にヒドイ。目的のために手段を選ばずという論理は昔からある。

### 感謝心に欠ける

高田 好胤 (業師寺僧長)

世のなか全体におがみ合い、感謝する心が欠けている。現在の日本はそんな日本になつていふと思ふ。大学へいく、高校へいく、いくら知識をつけても、それだけでは人間はできません。今度の事件でも、そんな知識魔がひき起こしたのだと思ふ。知識

**4月生受付中**  
(日曜・祭日も受付)

試験(書類選考) 来校見学歓迎  
無試験で結ぶ海外8大学への留学  
読売新聞社主催「高校生」のオリンピック  
論文コンテスト」協賛校

学校法人 **千代田電算機学院**

技術者で重役クラスの高給、システムエンジニア・MIS技術者養成の権威校

オキタツク五〇九〇C第4  
電算システムトスハック二  
OOD第5電算システム  
メルカム八三第6電算システム  
システムハイタク一〇第7  
電算システムDEC五五五八

ハードウェア本科 ソフトビジネス科  
ソフトウェア本科 電子工学科  
ソフト専攻科 昼間部・夜間部

上野駅5分  
東京台東区下谷1-5-32 110  
電話 342-1904(代) 入学案内200円切手可



赤軍が人質を使った事件によつて争いがある

つてしまっている。これは世界的傾向である。

しかし、こんどの事件では、しかもゲリラ教本どおりやった。うだが、毛沢東が穴ごもりしたから、自分たちも穴ごもりに入るといふ発想、このずつこけたコッケイは、これはいったいどこからきたのか、問題である。

こういう事件が起きると、必ず世の中がおかしいから反省しろという人がいるが、そういう考え方をすれば、あらゆる犯罪は犯罪にならない。あれほどまでに精神的白痴で、道徳的に荒廃している青年がいることは、むしろ社会病理学の面から反省しなければならぬと思う。世界でも珍奇な例である。

### 政治的に論ぜよ

太田 薫  
(合化労連委員長)

あの事件が、政治的な問題として論争されていないことの方がむしろ問題であるといいたい。もうひとつは、ああいうやり方をした長野県警を含めた、警察当局自体にいくつもの疑問がどうしてもあるということ。泰子さんの問題にしても、人権を尊重するといひながら、本当に政策上に落ち度はなかったかといひたい。また、新聞やテ



レビなどのマスコミが、故意に犯罪的な悪びれめつけることだけに終始している。特に新聞の報道に関して、少しオーバーじゃないかというふうな気持ちがありましたね。

これら、多少問題点があるとしても、もっと重要な社会的、政治的的背景を考えなくては行かない。そういう無責任態勢を強行する警察や国家、また、政治的に、それなりの原因を追求し、実現できる政党もないということだ。

泰子さんが救出されてから、親が人気タレントのごとく記者会見に答えているのもまったくおかしい。第一、そのために警官が殉職したという事実があるのだから。

彼らの過激な行動は、今後ますますエスカレートしていくことは充分予測できるが、それじゃあ、彼らのラジカルな行動を、今の政党なり政治が受けとめられるのかといへば、そうではない。そういうものをなくする努力がまったく今のどの政治団体でも革新政党にも見られない。労働者運動の指導者であるわれわれも、もっと努力をしていかなければならないと痛感している。

### 彼らの思想と行動

不破 哲三  
(日本共産党書記局長)

一、日本共産党は、「連合赤軍」のたぐいの反共トロツキスト暴力集団が妄動しはじめてから十年このかた、一貫してそれを批判糾弾してきた。この間に、われらの一味は再三わが党本部を襲撃したりしてきた。「連合赤軍」が農協強盗、小学校教員の給料強奪、ハンドバッグのひったくり、猟銃強盗などをくりかえし、さらにこんど牟田泰子さんを人質にした事件は、われらにたいするわが党の糾弾の正しさをあらためてしめしている。

トロツキスト集団は、その反社会的犯罪性において、右翼暴力団や無頼の徒などの反社会的集団と変わらない集団であって、かれらの行為をなにか意味ありげなものとして美化するのはまったくあやまりである。二、「連合赤軍」事件が世論の非難をあびているこの機会に、われわれはかさねて、政府、自



民党、治安当局がかれら反共暴力集団にたいして「泳がせ政策」をとってきたことを指摘したい。政府、治安当局は、反共を本旨としつつ「左翼」的よそおいをとっているトロツキスト集団を、「泳がせて」政治的に利用するという政策をとってきた。

つまり、かれらがあばれるのを利用して、警察力の強化をはかる口実にする。

かれらの妄動によって、共産党をはじめとする革新勢力の民主運動への偏見を国民のあいだにかもしだす……等々。しかも、共産党対策のうえからかれらを「泳がせておいたほうがよい」(現在の保利幹事長の一九六七年当時のことば)といった政府、自民党筋の発言は数多いし、一九七〇年四月に「赤軍派」のハイジャック事件がおきたさいに、警察当局は、かれらのなかに「協力者」がおり、資金を提供していることを国会で証言した。

この三月二日にも後藤田警察庁長官は、「赤軍派」のなかに多くの「協力者」をもち「謝礼金」を払ってきた」と答弁している。ところが、これらの「協力費」が、爆弾製造の資金に利用されたりしていることは、一

九六九年の背叛社事件公判で犯人自身から証言されたところである。こうした「泳がせ政策」こそが、「連合赤軍」などの暴力集団を横行させてきた最大の要因の一つとなっている。

三、とくに、「連合赤軍」については、それが「鉄砲から政権が生まれる」という毛沢東、林彪らの「人民戦争万能」論を共通の指針として「京浜安保共闘」と「赤軍派」とが合体してできたものだというのを見ることがしてはなるまい。この数年來、中国の干渉者たちが、日本の革命運動に「人民戦争」論をおしつけようとしたり、その立場からトロツキスト暴力集団を賞讃したりしてきたことを、わが党はきびしく批判し、日本の運動のすすむべき道は日本国民自身が決らなければならないことを主張してきた。

「連合赤軍」の今回の事件は「人民戦争万能」論のおしつけが、どんな犯罪的な結果にみちびくかの、実物見本としても注目すべきである。四、「連合赤軍」などの反社会的集団にたいしては、世論の非難を集中し、その策動を封殺しなければならぬ。以前から、ジャーナリズムの一部にかれらに「心情的同情」をしめす論調があらわれたり、社会党内にもか

### 民青や評論家に腹が立つ

寺内 大吉(作家)

若者はいつの時代でも過激である。私があつた事件で感じたのは、三十六年まえの二・二六事件である。



二・二六事件でも、やはり二十

五、六歳の青年たちが中心で、二十一名もが銃殺刑に処せられている。あさま山荘事件と二・二六事件は、右と左の両極端だ

党は国民とともに、各種の暴力集団の策動を根絶するためにひきつづきたたかかっていくものである。

若者がひき起こしたという点では同じである。ただ私が今度の事件で強く怒りをおぼえるのは、自分は何の行動もおこさず、いつの時代でも過激を売りのものにして、若者の熱を煽っている評論家や大学教授の存在である。自らは何の実践もおこなわずして、原稿料稼ぎをしているという手合いには、言葉ではいえない怒りを

感じる。政府も当然怒りの対象になるが、これは野党のほうが糾弾するべきだ。野党に力がないゆえに若者たちは力に訴えようとする。

とくに共産党などは、自分たちはそういう過激派とは違ふんだといって、反対にケバを張っている。過激派をつくっているのは、だから民青だともいいたくなる。こういう敵だか味方だかわからないものこそ、いちばん私は腹が立つのである。

### 一番面白かった

福田 恆存  
(劇作家)

あれだけ、テレビの前にひきつけられる番組はいままでなかった。というところは、新聞、テレビをはじめ、週刊誌などマスコミ界は大変、喜んでいっていることでしょう。ガードマンな

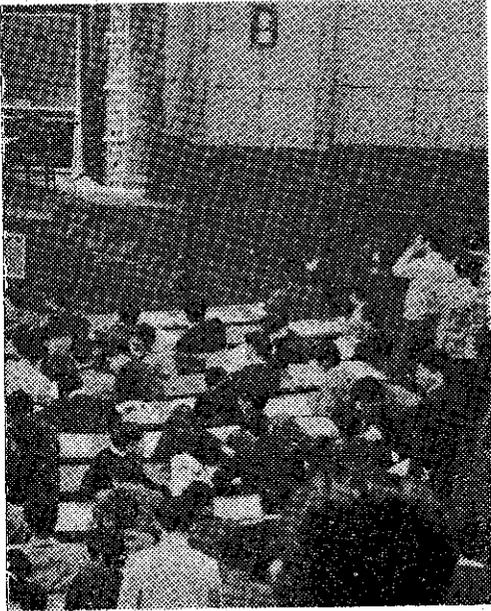
どのアクション番組も足もとにも及ばない迫力ですからね。警察隊から二人もの犠牲者がでました。これが仮に、赤軍派だったらどうでしょう。きつと大騒ぎになったと思えますね。

しかし、警察官を殺すというのは立派な犯罪。それに警官隊の行った方法にも問題がありました。十日間もろろ城期間を与え、バリケードも完全に築いた後に行動にかかるとは、余りに遅すぎた。ろろ城の報ともたにだちに行動すべきであったのです。警察はあまりにジャーナリズムを気にすきた。ただちに行動をおこして、牟田さんが仮に死んだら批難をうける。そこでジャーナ

### 人らしい情に従え

岡 潔

私は、破廉恥罪も政治犯も同じ種類のものと考えており、破廉恥罪なら一人か二人が犠牲になつて終わりますが、政治犯は、迷惑の及ぶ範囲がずっと広い。その意味ではもっと悪質なはずではないでしょうか。



再び教育のあり方が論議されようとしている

### 新撰組を見る思い

茅 誠司

(元東大総長)

現在の反体制といわれる人たちのなかで、急先鋒なんでは、うねあの人たちは。彼らがどんな世界をつくり出そうと考えているのか、私にはわかりません。

前の爆弾事件でもそうですが、警官はいくら殺してもかまわないし、こんどの事件後、犯人の父親が自殺した話にしても、顔色一つかえないというのに、



も、私は十五年間も、このことをいいつづけてきた。

### 道徳とは

「人らしい情」に従うことです。人らしい情に従って、はぐくみ、育てるのが教育の基幹であるのに、それを忘れてしまっている。こういうことは特に西洋人にはわからないらしい。日本人にはこの道徳がわかつているはずなのに、いつのまにか文化とは、外国から学ぶもんだと思つてしまつていて。

「人らしい情」というのが道徳であり、大和魂であり、幸福の道なのです。いまではアメリカのように、音楽や絵をやらせて情操教育といっているけれども、本来、人の人たるゆえんは、情にあって、自分は「情」であるということなのです。

### 毛沢東とは違う

市川 誠

(総評議長)

「ハイジャック」の人質になったときもそうだったが、彼らが人質を殺すことは絶対だと思つてた。だから、最初から、泰子さんは無事だと確信していました。

### 幕末の水戸天狗党

井上友一郎(作家)

あれは、学生運動にも社会的にもプラスにならなかったですね、学生運動の悪い方向性のゆきづまりがああいうかたちになつて表われたという感じ。学生運動そのものを、あの事件は反社会的方向にもつていったんじゃないですかね。人の別荘にたてこもつて、武器で応戦した、彼らの大きな計画の一端ではなかったらうが、あそこでは巧妙な逃亡の方が、学生運動としてははるかによかったです。

### 困る問答無用式

横浜の一高校生

(行蔵)

私は決して連合赤軍の行動を肯定するものではない。むしろ彼らの非人間的手段には激しい憤りさえ感ずる。圧倒的多数の人々が彼らの行動を「気違い」「追いつめられた最後のあがき」と評しているし、中年以上の人たちは「いまの若い奴らの調子で決まりきつたように言っている。そのどれもが当たっている」と思っています。しかし、彼らをして一連の過激な行動に走らせたのはいったい誰なのか、ということだ。

テレビの中で「応答なし。この問答無用は暗い時代に入る危

現代実用辞典 職場ですぐ役立つ現代用語の万能辞典! 四八〇頁 講談社

よど号の人質から 松元 利行 (三井物産勤務) 「ハイジャック」の人質になったときもそうだったが、彼らが人質を殺すことは絶対だと思つてた。だから、最初から、泰子さんは無事だと確信していました。

自分たちを救出するための攻撃であっても、攻撃されるのは犯人も人質も同じ立場に立たされることであり、どんな巻き添えにされるかもわからない。心理状態としては同じわけです。アメリカなんか、人質の生命におかまひなく発砲してくるが、日本の場合、そんなことをすればマスコミや世間が許さないから、警察も無茶はできない。それがまた彼らにつけこまれることにもなる……この種の事件が起きたとき、日本の警察はさぞやりにくいことでしょうね。

### ユーモアが足りぬ

サトウ・サンペイ

(漫画家)

あの事件とは対照的に、中国では赤と青ほどに对立するニクソンと周恩来が、昔からの知己のように親密に話し合っていた。ぼくはマンガ家だから、そこにはおそろく政治でも論理でもない、本当の意味のユーモアがあったのではないかと考えている。



ユーモアとは、辞書を見ると「体液」とある。これはすべてを結びつけるエッセンスだと思ふ。論理の対立では、とてもやっていけないところを生み出さるのではないだろうか……

ところでわが日本は、世界でいちばんユーモア度の低い国民で、論理の対決がおこなわれると、ニッチもサッチもいなくなつてしまふ。ユーモアを持つ国民、たとえば、イギリス人は



自分たちの国民性のしつこさに、われながらたまらなくなってきた。そこでユーモアが生まれたんだそうです。あさま山荘のあの事件を見てみると、われわれ日本人は自分で、これまでの価値観をひょいと変えてみる、そういう回路に欠けているのではないかと思えてしまうのではないのです。

### 戦中派なら自決

寺沢 一  
(東大教授)

ちょうどあの事件の最中、私はある雑誌の座談会に出席していたのですが、出席者みなテレビを消そうとせず、音だけ消して、画面をちらちらと見ていましたね。それほど関心をひきつけたのは、人質と犯人がどうなるかだったわけです。



ところが犯人は、あれだけ銃撃戦を展開しながら、それでいて最後には逮捕されてしまった。これはわれわれ戦中派には理解できないことです。われわれ戦中派なら、最後は人質を放し、自分たちは自決する。銃弾もまだ残っているのに毛布をかぶって逮捕されるなど

考えられないことです。東大闘争にくらべて、逮捕のされ方の無残さは同じだが、闘争の質がちがいます。学生側からすれば、東大闘争はある意味で必然的なものではないか。今度のはそうではない。いかなるいぶんが学生側にあるう

### TVで見られる驚き

黒川 紀章 (建築家)

大変な事件だな、これがまず第一。それ以上に今までは結果の報道であったテレビが、ニクソン訪中の中継と同じように、ナマであること。これに驚きを感じました。事件のプロセスを、犯人たちも見ている。いや見られていることを知っている。事件をオンタイムでみることでできる大変な時代になったということ。それに関連して、警備隊長の突撃命令も、テレビを見ている人の世論を意識してきめられている、これも新しいことでした。新しい意志決定のシステムを考える上に、参考になりました。日照権や公害なども、そのプロセスをテレビで流す、市民参加の新しい可能性を発見することができた。

### 異常な春画的扱い

山田 宗睦  
(桃山大学教授)

私は連合赤軍そのものは少しも支持しないし、同情の余地はないと考えている。しかし、あさま山荘事件について考えると、赤軍そのものを

考えるのと、少しちがう意味がある。連合赤軍なるものが、いまだの程度の規模かといえば、きわめて小さい。それをテレビ、新聞等々は、きわめて大きく扱った。針小棒大、春画的扱いであったといってもいいのではないかとと思う。二月二十八日という日についても、日本じゅうにこれしか事件がないというかのような扱いだ。

### 現代実用辞典

職場ですぐ役立つ現代用語の万能辞典！ 四八〇円 講談社

赤軍というヘンなやつらがいる情報は、それまでにみんな知っていたと思う。それは物価の値上がりとか、その他の日常的な問題とともに、生活の中にフランスよく入っていたと思う。ところが突然、ある日拡大されたのだ。だから「人質、人質」というけど、本当は人質とちがうんじゃないか」というような見方もでてくる。これは根本的にいうと、赤軍自体と報道の不当な落差のせいだ。だからNHKの記者が、「異常な事件を、報道としては異常な扱いをし、異常な関心で見られている」という意味の発言をしていたが、このコメントがいちばんよかったです。

### これからも出る

小田 切秀雄  
(評論家)

彼らの行動自体は乱暴なものだと思えます。彼らの革命のイメージについてはよくわからぬが、状況に対する短絡的な判断の上になっただけだと思える。

現代のような高度に発達した資本主義社会の中で、ゲリラがどういう形で起こりうるか一つの実験のつもりであっただろうが、その実験に人命が失われるのは残念である。もっとも、こうしたことに類する事件が、こんごもいろいろ出てくるのではないかと思う。それは、赤軍派ほどでないに

### アウトローにもならぬ

笹沢 左保 (作家)

でも、なんらかのかたちでそれに通ずるさまざまな動きがあり、また、それを支持する空気が青年の間にもさまざまな形で存在しているから。というのは、現在の佐藤政権のやり方に象徴されるように、



筋道をたてるよりも権力で大衆をおさえつけ、押し切ろうとする権力政治と、警察国家的やり方がひどくなるかぎり、これに対する反撥も、青年達を中心に深まるばかりと見られるからだ。

### 社会の腐敗を示す

五味川 純平  
(作家)

あさま山荘事件にかぎらず、私は新左翼と称される「運動」は全面的に否定します。革命の起爆力たんとしているつもり

のようだが、あんなことで革命はおこるわけがありません。社会的な矛盾が發酵して、どうにもならない状態になると、一部のプチブル分子が過激な行動に出る、ファシズムと紙一重といつてよいプチブルの焦燥にかられた「運動」がおこってくる。いまの日本を見て「こんなさ。政治的にも文化的にもくさりはしてきている。こんな社会だからライフルをふりまわす過激プチブルがでてくる。いわば、彼らの行動は社会の腐敗を示すパロメーターなんだ。

私は革命家ではないが、本当の革命は労働者による「事業」であることを知っています。時間をかけて合理的に、効果的なやり方が追求されなければいけない。人質になった牟田さんは、大変お気の毒だった。ただ、客観的にいって、もし人質がいなかったら、警察はかなり手荒にやっただけではないでしょうか。新左翼運動以来の警察の過激派取り締まりをみてみると、たとえ事件をテッチ上げてでも過激派を弾圧しようというにおいが感じられる。警察幹部は、ヘルと角材があるところ、しゃにむに弾圧し、一掃しつくそうと考えているのではないのでしょうか。



軍国主義、化日本への不安もある



右から西海副隊長、大久保隊長、上神、目黒、仲田の各隊長

### 独占・九機隊員座談会

- 九機隊長 警視 大久保伊勢男 48
- 九機副隊長 警視 西海 弘 47
- 第4中隊第1小隊長 警部補 仲田康喜 35
- 第4中隊分隊長 巡査部長 目黒成行 29
- 第4中隊分隊長 巡査部長 上神正治 29
- 第4中隊分隊長 巡査長 赤松昭男 28
- 第4中隊分隊長 巡査 鴻池静郎 25

# 突入後の銃撃戦ありのままで

ましたか。

仲田 それは被疑者は母親に對してさえ撃つような連中ですから。それに爆弾を持っていて、入った段階で一発食うんじゃないか、爆弾食うんじゃないかということば当然予想していました。

——二十八日まで十日間待たわけてですが、早くやれとか、早くやらしてくれという雰囲気はなかったですか。

仲田 そういう気持ちがないです。やはり人質の安全が大事ですから、最初から飛び込んでしまえばどうなるかわからないということで、時間的にはあの程度の説得・警備は必要じゃなかったかと思うんです。人質がいなければ、それは警察としても作戦の立て方はいろいろあると思うんですが、人質が確実に中にいるんだということですね。

——二十七日の夜というのはよく眠れましたか。

上神 当日、作戦会議が十二時ころまでありまして、それから朝ゴタゴタしないために事前に全部出動準備して寝ましたから、実際には五時間くらいしか寝ていないですね。

仲田 私なんか四時間半くらいしか寝ていないです。

——作戦の細部が第一線に示されたのは、その夜の段階です。

大久保 前々日と前日に大体五時間くらいずつかけて、とにかくこの作業に参加する者全部集めて、具体的にみんなの意見を全部汲み上げながら、ほんとに詳細に一人一人に十分に理解してもらおうように戦術会議を持ったわけです。だから前日は、それが終わって、忘れものがないかどうか、資材その他について全部整備をしてから休みましたし、朝は五時半起床で、六時半出発ということだったんです。ほとんど三時間くらいしか寝ていないというのが実情だったと思います。

事前の準備は大変よかったです。隊員が自主的に三、四十回も同じような地形を選んで突入訓練をしました。いわゆる隊におけるところの銃器訓練、対爆訓練などの個別訓練が仕上がったところで、ちょうど当日にタイミングが合った。

最後はもちろん各隊の援護、特車の援護、それから外におつた二機の部隊の援護も大変よかったです。それだけでも、そういうものから犯人たちも全然無傷で逮捕することができたという成果を生んだと私は思うんです。

## 震えるどころか最後まで銃弾で抵抗した犯人の間から泰子さんを救出した苦心談



第一戦にいた機動隊員のなまの体験を聴いてみると、報道された内容には大幅な修正が必要であることがよくわかる。「百聞は一見にしかず」は、まさに真理だったのである。あさま山荘落城の瞬間いちようの間に突入した隊員に集まってもらい、泰子さん救出作戦を語ってもらった。

# 話をす

よく眠れなかった攻撃前夜

——二十八日決行という指令が現場に出たのはいつですか。

大久保 間もなくやるぞというのの前々日ですが、二十八日というのは前日の午後です。記者会見で午後十時に発表されるということでしたが、私らはそれ以前に午後の段階で承知しておりました。

——それを聞いたときの現場の感想はどういうことだったでしょうか。

仲田 二日前に組織編成を終わっていましたが、救出はいつになるかわからないということだったんですが、大体心構えはできていました。

各任務分担は二日前から全員が参加して作戦会議をとり、私が一番先に突入しろといわれたんです。それを拝命したときから、危険は避けられないということは承知しています。自分も命はなくなるんだ、けれどもやるだけはやらなきゃならない、いよいよあしただ、という気持ちがありました。けれども別にあしたになったということでは動揺したとかそういうことはありません。

——生命の危険がありうるということば、そのとき感じ

# 九機と二機が交代した理由

——さて、当日ですが、最初は九機は三階に入るといふ予定はなかった……

大久保 当日はなかったです。どこにいたかわからないというところがありましたから。最終的には三階ということに集結したわけですが、あるいは一階、二階にもいるかもしれない、あるいは三階で追われて一階、二階へ降りてくるかもしれない、いろいろな場合が考えられる、だからそれぞれ階を各隊でもって協力して制圧し、いたるところでもって勝負をする、こういう作戦でありましたから、任務に軽重はありません。

——一階、二階の制圧というのは非常に早かったですね。

大久保 もちろんいるかもしれないというアレはありました。結果的には早かったんですけどね。

——一、二階が制圧されたころ、二機の内田隊長と特車の高見さんが殉職したという情報は、中にいた人には届いていましたか。

大久保 なくなられたということはわかりませんでした。頭を撃たれたということは聞いていました。で、私、外に出てか



クレーン車が突破口を作ってくれた

内田隊長が一たん息をふきかえされたと聞いて、私と彼とは親友ですから、これはよかったですという気持ちで、そのまま三階へ再突入したわけです。で、内田隊長がなくなったというのには、全部終わって帰ってきて、部付警視正に、内田隊長は？と聞いたら、いや、なくなるとのこと。そこで初めてなくなれたのを……

撃たれたのは大体知っておたでしょうか？（一同に）  
一同 知っています。  
西海 爆弾が二機部隊に投げられたということも全部承知していました。

上神 二階にいる時わかったのは、内田さんがなくなること、二機を三階にとどめておく、二機を三階にとどめておく、二機を三階にとどめておく……

……

……

……

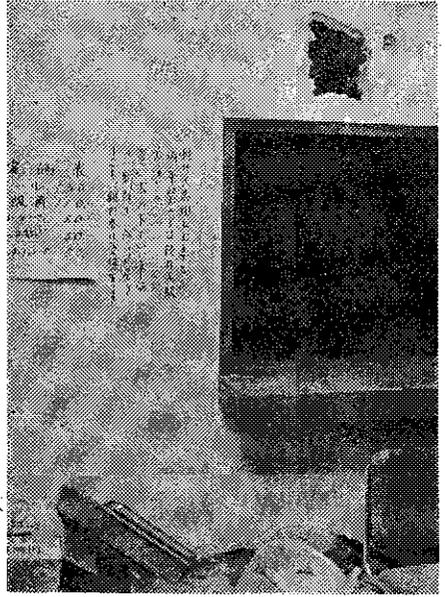
# 動きを封じるバリケードと射撃

——約一時間は五人だけでもちこたえた？

大久保 その時点だな、スナイパー（警察側射撃手）が援護射撃をしたのは。

西海 談話室にも一名入っているという情報があったんです。

上神 バルコニーに一名。それから、屋根裏にも二名くらいいる。屋根裏にということ



ねらい撃ちされていたら危険だった配膳窓

人とともに屋根裏を人質がかけめぐるといふことは考えられなかったんです。だから、まず上から狙撃してこられた場合にはやむを得ないですから、それでガス銃と、最悪の場合には拳銃を

で、ちょうど仲田班、小山班が入らないうちにスナイパーの加勢があった、あそこで静かにしていたわけです。  
三時十七分から四時二十分くらいまでは五人で管理室にいました。

西海 私が会議のどこから行って、現場に着いたのが三時四十分ごろです。また下の、二階が二機との交代ができない

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

って、あそこ前に大きなバリケードが二つあって、ソファとタタミです。それを前に倒そうとしたとき、五、六発撃ってききました。それがあそこに入って最初だと思ふんです。大ダテに三発受けて、あぶないので一回冷蔵庫の後ろに戻って、それから、トビ口を持ってきてもらってバリケードを押し倒しました。そのとき、五、六発受けたんです。仲田小隊長が大ダテを持っていて。



一、二階制圧は早かったが……

持って、その間に下から作業をしていきました。冷蔵庫があったために助かったということもありました。目黒 バリが倒れて見えるようになってから、冷蔵庫を、結局下のほうの防壁にしています。それをタテにして、その後ろに大ダテを構えて約四十分ぐらいいました。その間、大ダテに十五、六発受けたんじゃないんです。

### 最後の瞬間まで発砲された

——明かりは持っていた？  
西海 そのときはまだ明かりがあったんです。  
仲田 上から投光機つきましたけど、むこうは見えないわけ  
かと思えます。そのときにちょっとけがしたんです。  
西海 冷蔵庫と談話室の壁の間は三十センチしかないんです。それをやっているときに談話室から、銃眼のあった壁を掛矢とハンマーで割って、割るときに二、三発の発射があったんです。それをかわしながら、そこから中にさらにガスを撃ち込んだんです。

る五分前ぐらいに部屋に電気ついたという声でした。見たら、山で使うようなブリキでガードしてある、あれがついてるんです。連中のいるベッドルームの真上あたりで、だれがつけたかまもってわからないけど、ちょうど突入五分ぐらい前です。あそこは投光機照らしでもあまり明かりが入らないんです。だれがつけたのか、電気一つついたことは間違いない。それが放水のいい目標になったわけです。それで壁を放水でほとんどこわせたんです。——彼らが抵抗能力を失ったのは、窓側から顔を出した、あのへんですか。  
上神 いや、最後の逮捕しようとした瞬間まで撃ってきたんですから。  
仲田 先ほど四十分という話ありましたが、バリケードを撤去しながら排除して、あの四十分間黙っていたわけじゃなくて、二、三回突っ込んでいるんです。また激しく退いた。銃が何丁あるかわからないくらいに次々に撃ってくるんです。撃ったから弾がないと思っただけで、バリケードを撃ってくるんです。それを何回もくり返していました。  
上神 隊長命令が出ています。すけど、突っ込めないんです。  
仲田 行くと撃たれるのが激

しくて戻ってくる、という形のくり返しです。  
大久保 ねらい撃ちです。  
——逮捕の瞬間まで発砲を続けていたという点は……  
大久保 現に遠藤君なんか、(犯人に)手をかけてから撃たれています。  
西海 吉野あたりに手を伸ばしかけようとしたとき、たぶん坂口と思いますが、拳銃で……  
——そうしますと、毛布かぶって一カ所に身を寄せて、といわれているのは違いますね。  
上神 放水がまともにかかったときに、放水の圧力から身を守るために、防衛本能でフトンかぶっただけじゃないですか。決して抵抗能力を失ったのではありません。  
上神 彼らが撃つ態勢をとる前に突っ込んだんですから。  
仲田 放水中突っ込んでなければ、たぶんやられてます。  
西海 各銃には実弾が全部入っていたということですね。  
上神 彼らがつかっていたバリケードが、最終的にはわれわれのバリケードになった。ペラペラで撃ってきたときでも、むこうのつくったバリケードの後ろに大ダテを構えてカバーできたんです。

## 危機一髪！ 赤軍爆弾点火せず

——中に人間が牟田さん含めて六人いたわけですね。その中で一番最初に機動隊と何らかの接触を持ったのは？  
大久保 ほとんど同時でなだれ込むように、折り重なってやりましたから、だれが先ということはないと思います。  
西海 ベッドルームのほうから入った者と、談話室から入った者と、ほとんど一緒に折り重なって彼らを押えつけたんです。

撃たれたんです。遠藤君が。目黒 最初押えたとき、一人白っぽいものを着てまして、あとは黒っぽいもので、ちょっとおかしいなと思って、「牟田さんですか」といったら、「そうですか」といったら、「ケガないか」といったら、「ない」。そこで無事だということは口で報告しました。そのあと、「犯人は何人だ」といったら、「五人」というんです。右側に二人ど、バリの下に一人しか見えなかった。後ろに二人いて撃たれるんじゃないかと、冷やっとなりました。あとからベニヤの下につぶれていたということ

で、安心しましたけど。  
仲田 私も牟田さんの前にうつ伏せのような形で乗っていたわけですね。私はわからないで被害者の手をぐっと握ったんです。「私は違います」といったので、このぐらいいいところで顔を見たら、テレビで見ている写真とそっくりだったわけです。それですぐ後ろにいたこれ(鴻池)に渡したんです。  
上神 そのときでも、逮捕一号の加藤がちょうど弾を撃ち終ったんです。これが散弾銃構えていたんです。それがあとかから見たんですが、二発撃ち終わって弾の入れかえする余裕な



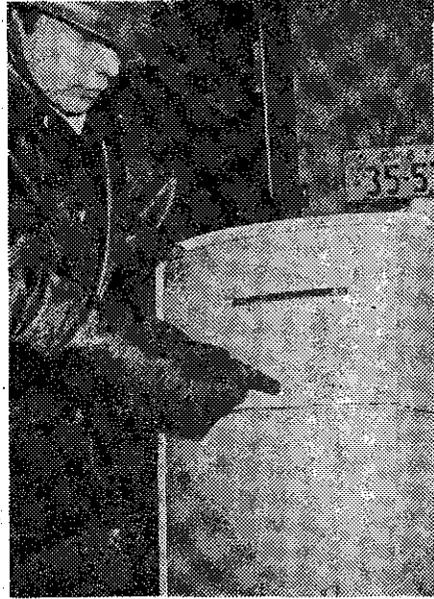
10日間雪の壁で寒さをしのいだ

ったんですね。あとで話聞いてみますと、そこで爆弾投げようとしてやったけど火がつかなかった。あのとき、ライターでも持っていて投げられたら、われわれがアウトです。  
仲田 マッチすっていたらしいけどつかないということ、助かったです。  
大久保 そういう意味で放水はたいへん有効だったんです。——それまでよく学生運動などで、逮捕の瞬間に機動隊からリンチ受けることがある、というふうなことを彼らがしゃべりますね。  
大久保 それは前々日、前日の会議でも、最高幹部の方針として、逮捕のための実力行使はやむを得ない。しかし、制圧してしまつたら、私的な制裁を加えることは絶対あつてはならないというのがあつて、私もくり返し隊員にいった。ただしああい現場だったですから、これは、というように懸念がないでもなかった。しかし、隊員は絶対手を加えなかつた。それはほんとうに立派だった。  
——逮捕の瞬間に制圧はなかったとしても、被疑者に対する憎しみというか、そういう感情というのはなかったですか。  
仲田 普通の被疑者を逮捕するときと同じ、というウソに

なるかもしれないが、瞬間は……人間として許されないことすけど。  
上神 手銃かけて引き倒したとき、ホッとした感じですね。  
西海 ほんとうに任務遂行の安堵感、そういうものだったですね。  
仲田 むしろ外へ出てびっくりしたんです。人々の罵声に。上神 あとから、ふてくされて薄ら笑いしているような顔を見て、何というやつだという感じはしましたけど、それまではわからなかつたです。  
——場合によっては被疑者の射殺もやむを得ず、という指令はあつたんですか。  
大久保 そういう気持ちなかつたとはいえないんですけど、それが万が一、被害者に当たってはとりかえしつかない。拳銃の使用は慎重の上にも慎重にしなければいけません。隊員にも徹底しますから、おそらく連中を撃つ機会はあつたけど、撃たなかつたんだと思います。なかで撃つたのは一発だけです。私がそれは命じて撃たせたんです。それは放水と放水の間をもたせなければいかなというアレで、そのとき反撃を受けたのはいかなということ、警告しながら一発だけ撃たせました。これは完全な威嚇です。

西海 隊員一人一人は全然撃つておりません。上神 終始一貫、拳銃を使用してという感情が先行したこと一度もなかったです。仲田 隊長からいまいわれたように、結局人質を警察の弾で殺したとなると、何とお詫びしていいかわからない。人質を救出するためにこういう作戦をやるので、人質の方が亡くなったら何とお詫びしていいかわから

もしあのまま夜を越したら  
——もしあの日に救出が不可能で、夜を越すというような事態に（あくまで仮定ですが）なっていたらどうなっていたんですか。  
大久保 これはまた新しい犠牲を生んだと思うんです。おそらく同じような犠牲者を出したんじゃないだろうか。あの日、とにかく日が暮れても強行したという事は、私は最善の策だったと思うんです。あれが七時になろうと、八時になろうと、とにかく徹底的にやるだけのことをやって、最後まで作戦を強行するというような方向以外になかったと思うんです。あれ打ち切った、おそろく彼らも態勢たて直すでしょう。同じ犠牲者を



弾痕もなまなましい大ダテ

また出すということになる。救出作業全体を通じて、振り返ってみて、反省すべき点はどういう点ですか。  
大久保 百パーセントの警備ではなかったと思いますけど、

しかし、反省すべき点といえば、水が切れずに続いていたら、時間的に早く解決できたんじゃないだろうか。これはあくまでも結果論ですけど。水の補給の問題は、と切れと切れであったというのには、あえて攻撃の時間を長引かせ、その間にむこうも態勢を整えたわけですから、あれが水がぶつ続けに続いているれば、もっと早く解決していたという感じがしないでもないです。  
——自衛隊などから、作戦というのには夜のうちに陣地を構築して、払暁攻撃、というのが戦法の定理である。十時作戦開始というのには時間がいじょうな気が、というようなことが出ていましたけど。  
大久保 あれ十時に開始したというのには、あそこが気温が零

### 作業をふり返っての反省

——途中で、新潟のスナックの経営者というのが、一べん山荘にとりついて、それから保護されて、また行ってますね。彼が接近することによって多少でも中の状態がわかれば、という期待があったのではないですか。  
一同 そんなことはないです。  
仲田 そんなことをされたんでは、困るわけです。私も田中とよく話したんですけど、国民の気持ちはみんなそうだろうけど、そんなことをされると困る。何でも撃ってくるような状態で、迷惑以外の何ものでもないということ、私も隔離するよな形で保護したんですけど、そのあとで入られたということですね。  
大久保 これは民間人に頼むくらいなら私が行ってます。西海 隊長みずから、あの果物カゴを玄関に届けてます。田中さんが突破して保護される日の昼間に行ってます。

動しやすいような状態が必要だということ、やや気温がゆるんだ十時を選んだ。そういうことからすれば、十時攻撃開始というのは決して遅くない。そういう諸条件からいえば。  
——彼らにはいろいろゲリラの教習がありまして、それと違っているところもあるけど、全体として見ると、ゲリラの教条にかなり忠実に動いているわけです。  
それを、たとえばこちら側に、教習というのはいくつかあるんで、おそろく彼らはこういう方向に出てるだろう、という認識があれば、それにある程度対応できる形で、警察は行動できたんじゃないかという意見もありました。  
大久保 彼らの行動の予測という事は、通常の場合でも、われわれは相当検討してました。それから、突っ込む前々日、前日の場合は、おれが犯人だったらどういう行動とるか、突入部隊に対してこういう行動をとるといことは、犯人の側に立って検討し、それに対応する手段を克明に考えたわけです。そういうことはやりました。あなたが、あなたのおっしゃる、そ

功名心争いというか、そういう雰囲気はないですか。  
大久保 そういうものは全然ありません。一番苦労したのは二機だったと思うんです。二機が一番苦労した。たまたま隊長が殉職されたので、私らが肩がわりしたわけですけど、そういう気持ちはサラサラないです。とにかくみんなが協力して、そして立派に人質を救出して、犯人逮捕する。そういう任務の遂行ということだけで、おれがおれという気持ちはさ

### 今になってゾーっとする

——いまの率直なご感想というのを一人ずつ伺わせていただけませんか。  
上神 人質はもちろん、われわれもよく無事だったという感じですね。あれだけのことをやっていて自分自身は無鉄砲な行動……大胆だったかはしらないけど、よくあれで無事だったな、というふうな感じと、われわれの与えられた任務が完全に終わ



鴻池静郎隊員

ったという一つの安心感はいままでの仕事以上のものがありますね。  
目黒 私もそうです。最初



赤松昭男隊員

のときは十時くらい離れていって、思ったんですけど、あとから実況見分けて、五時くらいから二十発くらい受けているわけです。だから何かほのかのほうから撃ってこられたりしたら……といまになってゾーっとするよ

うなことがありますし、少しむちゃなくらいに飛び込んでいったな、というふうな感じをいまはしています。でも結果的には成功だったと思います。  
仲田 私も同じような考えです。これは私たちができた問題じゃなくて、最後に飛び込んだのは私たちになりますけど、結局警察の総力、それから民間の協力で、そういうのはほんとに先ほどから出ているように、たとえば放水がなかったらできないだろう。ガスの応援がなかったら飛び込めなかった。警察の総力をあげてできたという感じですね。  
鴻池 中へ入って来て、赤松さんが生きていて聞いたときの感動は、ほんとにいままでの経験になかった感動だったです。生きていたぞと、ほんとに涙がグッとくるような気持ちだったです。いままで各種の警備をやっている、ああいう気持ちというのはなかったです。それだけです。  
赤松 牟田さんが発見されて、これで思い切った行動できるというふうな感覚でした。あとは帰ってきてから同期なんかも、何だおま、世帯持ちでそんなことをやっただけだぞ、といわれて……(笑)。了

大久保 これは大いに研究しておかねければいけない。ぜひこれは必要だと思えます。それには孫子の兵法じゃないけど、「敵を知り、われを知らば百戦危うからず」ということで、可能な限り敵の手のうちは、われわれも研究しなければならぬと思います。  
——この隊員の中に、東大の安田講堂のとき出動された方はいますか。  
西海 かなりおります。——そのときとくらべてどうですか。

西海 私、早稲田なんかやっただけ、考え方が全然違いますね。相手が銃でやるといことです。それから、ああいう山荘で非常に天然の要害である

いこと、それから、安田講堂あたりの経験者の話を聞きますと、場所的に外周の者が余裕を持ってた気持ちでおられた。しかし、あの山荘の場合、一刻も許すわけにいかない。弾がどこにどんでくるかわからない。その点では火炎ビンや、投石とは全然異なるものである。  
——彼らの射撃の腕前はかなり正確ですか。  
仲田 正確です。  
目黒 のぞき窓を集中的にやられていました。弾がそこからこわれて入ってきちゃったんです。

大久保 相当訓練を積んでいるとい感じを受けたけど。  
上神 負傷が全部顔面です。西海 顔面以外にないです。大久保 特型車に乗って接近しましたが、みんなきちんと頭に向けて、防弾ガラスがあるからあれですが、顔面とか、そういうところをねらってビシビシ撃つと当たってました。だから、射撃の訓練はやったというように思います。  
——これもまた第三者的な無責任な方かもしれないですが、結果的には、本来ならば二機がやったかもしれないことを、九機がやったということ、つまり先陣争いというか、

# 私刑殺人で クサン革命家

## 子連れの謎、集結の謎、悪 逮捕の謎、

すむ。闇から闇へ、密告者は不明のまま。しかし、彼女は姿をさらし、踊ってみせた。手引きとすれば手がこんでいる。

Nは、京浜安保共闘の幹部川島陽子（昨年十一月逮捕）が逮捕されたとき、そのアジトに同居していたことがある。京浜安保が、川島家・陽子派と、坂口弘・永田洋子派に割れているとすると、Nは、川島派としてむずかしい芝居をやったのかもしれない。川島派は、人民を解放戦線に組織するという正統な路線、坂口・永田派は、銃で短兵急に蜂起するという路線。彼らは、唯銃主義をめぐって論争していたという。川島派としては、唯銃主義を挫折させるため、子連れのNを泳がせるという、高級な手引きをやったのかも知れないのである。

しかし、子どもの父親が赤軍派の森恒夫ということになると、事情はもう一つ複雑になる。入り乱れた、相関図、芸界なみになっているようだ。

### △集結の謎▽

一網打尽をまぬかれるため、幹部は分散しているというものが、地下組織の鉄則。ところが、一連の事件の逮捕者は十三名、山岳アジトの指紋検出者は二十四名、その中に連合赤軍の幹部

人々を狼狽させた國定忠治の人氣がでない。大時代な秘密結社だから、謎があるのは当然だが、

### △悪臭の謎▽

## 裸の兵士と銃器グループ

彼らが、ものすごい悪臭を放っていたというのも、妙な話である。真冬の山岳生活で身体を洗えない彼らが悪臭を放つのは当然だが、自分たちが異様に臭いということは、レボ（連絡者）

### △分散の謎▽

山岳アジトの露見を知った彼らは、分散して検問を突破し、どこかで再集結するつもりだったと思われる。

# 明らかになった 九つの謎

## 臭の謎、銃撃戦の謎 アジトの謎、ETC

こんどの事件は、庶民心情のあいだでも評判がよくない。兇器をもって人質をとった大事件でも、金婚老の寸又銃事件や、よと号のハイジャック事件は、庶民の同情を惹く爽快な感じがあった。庶民受けがしたのである。同情論が湧いて、世論が二分した。

事件発覚の発端は、榛名湖畔をうろつく、親子心中タイプの母子だった。Nとよばれている彼女は、警察に二度保護されたのに、こりずに翌日も姿をあらわし、警察の注意を集めて手引きの役をはたすと、忽然と消え

## 密告者説や「相関関係」説

去った。Nの身元は割れているが、この大事件の導火線となっただけで、いまだに行方不明。本誌にも警視庁公安課のスパイと自称する活動家くずれの男が「Nも自分と同じスパイだった」という情報を洩らしているがこれは少し変だ。それなら、榛名山アジトを密告すれば



ループは、ほとんど何ももって  
いなかった。彼らは支援部隊だ  
ったのか、裸の兵士だった  
のか。

森恒夫・永田洋子のグループ  
は、森が三百四十三万円、永田  
が四十六万円を所持していた。  
坂口も三十四万円もっていた。  
が、彼らの軍資金の大半は森  
と永田がもった。そして、彼ら  
はビートル一丁もたずに、ナ  
イフで警官と格闘した。護身用  
ビートルもないというところは、  
どういふことだったのだろうか。



遊楽山中の別荘、アジト

ところが、坂口・坂東のグル  
ープは、持ちきれないほどの銃  
器弾薬を抱えて、この虎の子の  
武器を途中で捨てたほどだ。  
つまり、彼らは、裸の兵士・  
大金・銃器グループに分散した  
のだ。それぞれのグループが、  
武器と金を細胞分裂のように分  
け、少数グループがそれなりに  
単位で戦力となる分散ゲリラと  
はならなかったわけだ。非常線  
を突破したと思われる梅内恒夫  
ら十一名前後(山岳アジトで指  
紋が検出されている未逮捕者)  
は、銃も金もなく、ただ爆弾の  
主力をもって逃げたことにな  
る。

これは、どこかで各グループ  
がドッキングする計画だったか  
らだろう。ドッキングしなければ  
ば、彼らの戦力は完成しないの  
だ。  
しかし、武器も金も分散し、  
少数単位でも戦力を維持した方  
が、検問突破のためには有利だ  
ろう。武器も軍資金も、一グル  
ープが逮捕されればそのまま消  
えてしまうというのでは、ゲリ  
ラ闘争の原則から逸れてしまっ  
ている。ただ、そうせざるをえ  
なかった事情があったはずだ。

### 連合後も相互不信は消えず

#### △連合ベアの謎▽

森・坂東らのM作戦によって  
赤軍派の軍資金が生まれ、坂口  
・永田らの猟銃強奪によって京  
浜安保の武器が得られ、両者が  
合体したのが連合赤軍派だ。

子、Tの寺林真喜江という組み  
合わせ。

あさま山荘グループは、Kの  
坂口弘、吉野雅邦、Sの坂東園  
男、Tの加藤兄弟という組み合  
わせだ。

これは、彼らの連合の緊密さ  
を語るのだろうか。武器と金の  
結核から生まれた彼らの連合  
が、その各自の前身を問わない  
ところまでさまさまの同質化に  
達しているとするれば、むしろこ  
うした「緊密さ」は必要がなか  
ったのではないか。

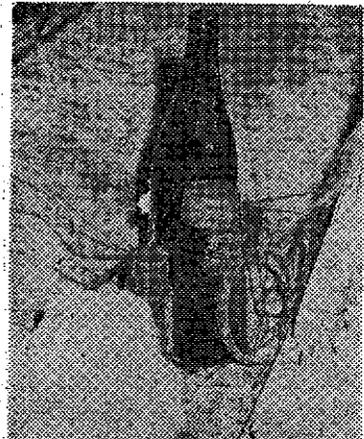
ごく常識的にいって、金は病  
弱者や女が運んだ方がよい。そ  
の場合坂口と永田が組んで、  
強盗事件で腕をあげている森が  
銃器部隊にまわる。

銃器部隊に十六歳の少年が編  
入されていることも妙な話で、  
彼らが植垣らと九人で山越えし  
て南軽井沢で別れたのだとすれ  
ば、少年の代わりに植垣が加わ  
った方がよいだろう。

#### △軽井沢分散の謎▽

坂口グループと植垣グルー  
プが合同して和美峠を越えてきた  
のだとすると、彼らはどうして  
駅と山荘とに分散したのだろう  
か。それも、同じ装備で二手に  
別れ、互いに支援しながら、一

これは、連合  
赤軍の組織実情  
と深く関係のあ  
る謎だろう。



山荘で使用したビールびんと調味料

隊だけでも落ちのびるといふよ  
うに別れたのではない。一隊は  
手ぶらに近く不用意に軽井沢駅  
にあらわれ、一隊はなげなしの  
武器を持ってあましてつき山荘  
附近に捨ててからあさま山荘に  
籠城した。  
武器と軍資金の分散については  
はさきにも触れたが、ここでの  
分散も一方的なのである。むし  
ろ、銃を三分し、兵を三分し、  
つき山荘、あさま山荘、その  
他手頃な空別荘に三隊がそれぞ  
れに別れた方が、潜伏としても、  
時ならぬ銃撃戦にとっても、有  
効だったことはいまでもない  
だろう。

#### △軽井沢駅逮捕の謎▽

植垣グループが、軽井沢駅に  
のこのことあらわれたのも、不  
思議な出来事である。もう歩行  
に耐えられないほど疲労してい  
たとしても、一人が偵察にあら  
われ、新聞や切符を買い、発車  
間際に三人が飛び乗れば、売店  
のおばさんに怪しまれることも  
なかったろう。このときも強い  
悪臭が発覚のカギになったが、  
それでも一人だけなら、おばさ  
んも首をかしげる程度にすぎな  
かったろう。  
一方、軽井沢署が駅に検問を  
はっていなかったのも、同じぐ  
らいに不思議な話だ。ある地元  
紙記者によると、長野県警は、  
大久保清事件のとき、長野県内  
にも死体が出るかと思つて群馬  
県警に協力したが空振りになっ  
た、こんども群馬で終わって

### なぜ死ぬマネをしなかった

#### △出撃の謎▽

最大の謎は、彼らが何をやる  
気だったのかだ。十丁程度の銃  
で、かりにも革命を名乗るとん  
なことができるか。第一は要人  
誘拐。これは軍事訓練などは  
関係のない、ビートルでできる  
頭腦的なテクニクだろう。し  
たがって、今回の出撃の目的と  
は考えられない。

第二は、要人狙撃。右翼・軍  
部のやった暗殺のたぐいだから  
十丁の銃、三十人ぐらゐの決死  
隊でもできなくはない。

第三は、大菩薩峠いらいの赤  
軍派の主張である首相官邸占拠  
・臨時革命政権樹立というやつ  
である。五・一五事件のように  
官邸に飛びこんでしまえば、要  
人を人質にして、かなりの大騒  
ぎを巻き起こすことができる。  
しかし、それからが問題だ。

臨時革命政権を名乗っても、こ  
んな実体的ない革命政権を支持  
する国はあるまい。労働者も、  
そういうものとして組織してい  
ない以上、動かない。彼らの当  
てにしている人民はもとより  
だ。そうすると、お祭り騒ぎの

どっちにしても、赤軍兵士ら  
しくもないドジな話だ。

好きな反代々木新左翼が支援に  
馳せつけ、全共闘なんぞを捨て  
あげることになるだろう。精々  
学園闘争・永田町版ができるだ  
けだが、「革命政権」内部はセ  
クトの指導権争いで最大規模の  
内ゲバとなり、内訌の果てに潰  
滅してしまうのがオチだ。

つまり、何のために血なまぐ  
さい騒ぎを起こしたのかさっぱ  
りわからんというのが、最大の  
謎になってしまふのである。

#### △軽井沢銃撃戦の謎▽

いや、東京での、何か、以前  
に、すでに軽井沢あさま山荘銃  
撃戦そのものが、何が何だかわ  
からないのである。

称讃の声もないわけではな  
い。連合赤軍が完全に沈黙して  
いたことをさして、「それは、  
まさしく真の攻撃的革命的行動で  
ある」(映画監督・足立正生)  
といったたり、「わたしは彼らを  
あこがれ、羨望する。彼らはあ  
まりによく戦いすぎた」(東大  
助手・最首悟)という評価がそ  
れである。(引用はともに「日  
本読書新聞」三月十三日号)。

しかし、彼らはどんな闘いを

そうするとうなるだろう。  
軍資金は坂口・永田夫妻といふ  
Kに純化されたグループがもつ  
ことになる。

他方、銃器IIあさま山荘部隊  
は、森・坂東・植垣のSトリオ  
に、Kの吉野、Tの加藤(兄)  
に編制がかわる。一見して、基  
幹は赤軍ということになってし  
まう。ここで、金は京浜安保、  
銃は赤軍というように、連合以  
前の姿とは逆になってしまふ。  
彼らの同質化がすすんでいれ  
ば、こんなことはどうでもい  
いし、その方が実戦的な編制だ  
つた。

そうならず、すべてのグル  
ープがそれぞれの派の組み合  
せというように配置されていた  
のは、相互牽制、相互監視の意  
味があったからだ。

それは、相互不信がまだ消え  
ず、どちらにも独走はさせない  
という警戒心があったからだ。  
それがさまさまに彼らの手足を  
しばり、動きを不自由にしてし  
まった。

行なったのだろうか。  
人質を最後までみせない。人  
数も察知させない。一言も弁明  
せず、応答しない。二重の堅固  
なバリケードをつくり、屋根裏  
を走りまわり、三人を銃殺し、  
最後まで降伏しなかった。  
だが、戦術はどうだったのだ  
ろうか。彼らの戦術はもともと  
曖昧なものでしかなかったとし  
ても、あの状況の中で、一つだ  
け「にせの戦術」を立てること  
ができた。一人でも二人でも、  
ライフルで射たれてカッコよく  
死んでみせることである。どう  
せ、死刑か無期の身体なのだ。

それには、山荘北側の窓から  
ロープで降りて、二階を占拠し  
た機動隊に爆弾を投げこみ、銃  
を乱射することだ。機動隊はど  
うしてもライフルを使用するし  
かない。テレビ映りのいちばん  
いいところで、ライフルで射殺  
されるなんて、最高にカッコイ  
イことではないか。それが最高  
の死に花、ニヒリズムの壮絶さ  
ではなかったか。そうしていれ  
ば、機動隊だけが同情を集める  
ような「反革命的」な結末にも  
ならずすんだことだろう。

ところが彼らは弾薬を残し、  
匕首も用いず、死にもせず速  
捕された。これが連合赤軍の最  
後の謎である。

東大卒大会社重役の父と理解ある母を持つ  
おとなしい秀才がなぜ過激派に走ったか

# 見る良い親と優れた子の葛藤

## 吉野雅邦



いいうちの件がね、とみな  
が一樣に首をかき上げてみせ  
た。が、それほど不可解な  
道筋ではないことが、たと  
えばこの吉野雅邦の人格形  
成史をふりかえってみるだ  
けでも、納得できそ  
うなのである。

### 異色！ 吉野の母の呼びかけ

「私は親だから、どうしても生  
きてもらいたい。いまのまま  
じゃあ、あなたが浮かばれ  
ないと思うの。あなたがたにも  
プライドがあるとは思わないよ。  
カッコ悪いかもしれないけど、  
できにくいと思うけど、頼むか  
らやっつて（山荘から出て来て）  
ほしいのよ。マーちゃん。」

「あんなたちのいぢずな気持ち  
が誤解されるのは辛いよ。こ  
れじゃ救世主どころじゃなくな  
っちゃうでしょ。社会のために  
身を犠牲にしてやるつもりだっ  
たんでしょ。」

頼むから最後だけは立派にや  
ってちょうだいよ。  
雅邦、私がこんなところで大



母の祈りにそむき犯罪者となった吉野

### 優等生を襲った亀裂とは

察に逮捕された。  
はたして、母親の呼びかけが  
どれだけ子どもに通じていた  
か、それは第三者の知る由もな  
いことだが、傷心の淑子さん  
は、今、東京・北千束の自宅の  
扉を閉ざし、外部の問いかけに  
は、まったく応じない。  
「何も言えないんです。どうか  
他の人におたずね下さいませ。  
あの子があんなことをするのは

……亡くなった方や怪我をし  
て苦しんでいる方がいらっしや  
るのに、親として何も言うこと  
はできません。どうかお許しく  
ださい」  
わずかに、玄関のインターフ  
ォンを通して、すすり泣きなが  
らこう語る声が聞こえるばか  
り。父親も、「ノイローゼ気味  
で寝こんでしまっている」とい  
う。

熱心だが話の通じる両親の翼の  
下で、彼は、かなり素直な、デ  
キのいい子として育っていった  
のだろう。  
「高校時代については、自  
己顯示とか冒険とかいうものと  
は、まったく無縁の人でした  
ね。クラブ活動は合唱部、テネ  
ーのリーダーでした。コーラス  
の時だけは積極的でしたね」  
（日比谷高校時代の級友・東大  
大学院生）

吉野雅邦。京浜安保共闘幹部  
で、昨年二月の真岡市の猟銃店  
強奪事件の指揮者。そして、あ  
さま山荘ろう城五人組の一人。  
父は東大法学部卒の、M地所  
取締役住宅部長というエリ  
ー。本人もまた、東京・麹町小  
→麹町中→日比谷高校と、戦前  
の表現でいえば、一中→一高→  
東大という日本最高のエリート  
・コースを順調に歩んできた。

「得意不得意もなく、全学科に  
平均した実力をもった、いわば  
典型的な優等生。言葉もハキハ  
キしていたし、教師にとっては  
非常に楽な生徒でした」(F教  
諭・麹町中学時代の担任)  
「成績は、五十人中常時十五番  
以内。性格も穏和で、礼儀正し  
く、服装もキチンとしていて、  
一言でいうなら、良家のボンボ

おそらくは、この時代、教育  
面親と兄弟二人。経済的にも  
とりたてて裕福というほどでは  
ないが、決して貧乏とはいえな  
い、中流の上程度といった、典  
型的な「山の手」家庭。兄が小  
児麻痺で普通の社会生活を営め  
ないのが、この家庭の唯一の暗  
雲といえはいるが、雅邦本人  
にとっては、当面、さしたる負  
担というほどの影響もない。

だが、いつまでも続くかのよ  
うに見えた母と子の「平穏さ」  
に、雅邦が東大受験を失敗した  
時、かすかな亀裂が生じたのだ  
った。

「F教諭は語っている。  
が、いつまでも続くかのよ  
うに見えた母と子の「平穏さ」  
に、雅邦が東大受験を失敗した  
時、かすかな亀裂が生じたのだ  
った。」

面親としては、この「模範  
生」に心ひそかに期待をかけ、  
東大に入学することを希望して  
いたし、雅邦自身、それまでの  
自分の順調さが断ち切られるこ  
とはあるまいと、心のどこかで  
思っていただろう。

バランスのとれた人生の、第一の挫折。

雅邦は、一浪の後、今度は一橋大学を受験したが失敗、横浜国立大学に入学した。「横国大ならいいじゃないか」などというまい。教育熱心な母と模範的優等生の息子にとつて、たどりついた先が、国立二期校、だったことは、ある種の劣等感を芽生えさせたであろうことは、想像に難くない。

亀裂は更に広がり、深まる。第二の挫折。

あるいは、母親が、世のいわゆる「教育ママ」であったならば、子としても、反撥したり自らを疑ったりして、いくつかの壁にぶつかっていただろう。だが、母は、子を壁にぶつからせるには、あまりにも寛大であり、慈悲心に富みすぎていたのではあるまいか。

冒頭の、あの「呼びかけ」をもう一度、思い出していただきたい。「まさか」と思ったわが子が、現実、目の前の山荘に立てこもっていることを知って、しかも「最後だけはりっぱにしてちょうだい」といえる母親、これは、もはや「浪花節」的などといった評言とは無縁のものであらう。



表門をかたく閉じた吉野の家(大田区北千束)

### 淑子夫人へのキヨホウへ

「あの奥さんは、私たちにはとつきにくい人だったね、無口だったしね。社宅では、何事によらず最初にクチを出すので有名でしたよ。ビル工事現場の騒音がうるさいと苦情を言いにいったし、ある新興宗教に入っている人に、すぐ脱退しないと、社宅から出ていってもらう、と再三言ったり……」

だから、重役夫人をハナにかけていると悪口を言う人と、よくデキタ奥さんだと言う人と、きわだつてましたね。その中間はなかったみたい。

吉野一家が、現住所(大田区北千束)に移る前任でいた、港区六本木のある隣人・Aさんは、当時の淑子さんの印象をこう語っている。

「奥さんはしっかり者だったね。陰気だったけど……。もともと病気が子がいいたのでは。しかし、あそこ悪口は聞いたことがないね。今度のこと、お気の毒というほかありません。同じ六本木の隣人・Bさんも、こう語る。

生活は地味だったがキチンとしていたし、近所とのつきあいも必要以上にはしないが、かといつて夫の地位をハナにかけた権柄ずきな態度でもない。発言すべき時はキチンと発言し、子どものデキがいいからといって自慢することもない——かつて隣人であった人々の語る断片を総合してみれば、吉野淑子さんもまた、息子の雅邦がそうであったように、模範的な、良妻賢母であった。

にもかかわらず、この母と子は、なぜ、かくも速くへだたってしまったのか。

「彼が中学、高校、大学とずっときた時期は、ちょうどペビィ・ブームの頂点ですね。一生、大勢の競争相手がついてまわっているから、のんびりムードなんてものは、ありませんよ。誰が悪いというのではないが、幼い時からさいなまれ、圧迫されてきたものが、大学に入ったというだけで一気に解放され、爆発したんじゃないか。あまりにも純粋でありすぎたために、極端に突っ走ったんじゃないか、と思えますね」

F教諭は、「白紙にインクをこぼしたようなもの」と形容しながら、吉野雅邦の今日を、こう分析する。

「ま、なまじ良家の子弟で、しかも何回かバクられると将来が見えてしまう。それまで歩んできた絵にかいたようなエリート・コースは、もはや自分とは無縁になった。とはいえ、ショボクレルことは、自分の誇りが許さない。それに、家の期待も、運動をやればやるほど、親からあらわに語られたろうし……いっそやるなら徹底的にやろう、と。そういうところじゃないですか(吉野の中核派時代を知っている新聞記者)」

### 非人間的教育制度の罪と罰

なるほど、これらの意見も的はずれではあるまい。親の期待があまりに大きすぎて、かえって打ちひしがれ、人生をドロップしていった例は、いくらかもある。

「〇×優等生の頭脳は、単純で現象的な社会観しか生まないから、ちよびり変化を認めないことで、本質的な部分を変えないで、この知恵の恵を身につけている。この知恵の前には、単純な青年の正義感などは、もの数ではない。いくつ語っても、自分の言葉は、まるでむなしく吸いこまれ何の反応もない。最初は、心情的共感から大学紛争にとびこんだにして、自分の眼前に開けた新しい世界は、これまで何の疑問も持たずにひたりにきっていた「模範生」の世界とは、まったく違っていた。

ト、像に期待をかけた親たちの悲劇は、「学校教育は、本来ならば、異なった出身階層のクラスメイトと接することによって、社会認識を広めるという意義を持つている。しかし現実には交流を阻害するシステムになっている」(村松氏)。ここに気がつかなかったところにある。

「あの母親というのは、要するに、キャリアメル・ママ(東大紛争の時、学生にキャリアメルをくばって闘争をやめよう説得した女たちをさしていう)ですよ。あの呼びかけは、まさにその典型ですね。よきにつけあしきにつけ、やはりあの母親が、彼をつくっていったんですね……。あつたりの話だけどもね(前出新聞記者)」

見方によっては、自分の寛大さに過大な自信をもちすぎた「教育ママ」と、非人間的なエリート選別教育の体質がつくりだした極端なかたでの「被害者」の一人が吉野雅邦であったといえるかもしれない。

「可愛い子には旅をさせろ」という諺を、この母は賢明でありすぎたために、思い出そうとはしなかった。その意味で、吉野淑子さんは、たしかに慈愛にみちたいい母親ではあったが、「教育ママ」としては、みごとに失格してしまつたのである。



呼びかけも空しく帰る淑子さん

構造こそが問題だと思つて(毎日新聞論説委員・村松氏)。

という意見もある。敏感な青年の正義感が、現代社会の矛盾や不合理と直面したとき、とかく「単純素朴な革命理論」にからめとられて、歯止めをなくしてしまふ(村松氏)。

吉野雅邦が、すでに活動家になつた後で、彼と語つたことのある日比谷高校時代の級友M氏は、

「ぼくは、組織なんてこんなものだという、大人のな見方を身につけていたが、その時の彼は、子どもの純粋さがモロに出で、壁にぶつかっているという感じでした。それから間もなくのようですね、京浜安保共闘へ加入したのは」

せめて、「Gパンはいて、手拭いで覆面して、デメラ、バカヤロー」なんて教授と団交かなんかやっていたら、何というこはなかつたのだから(前出・新聞記者)、生まれ育ちのいい、都会っ子の吉野雅邦には、とてもそんな「芸当」はできなかつたのだろう。ここまでは、くれば、ほんの「一步」踏み出すだけでいい。

吉野の愛人であり、また彼に思想的影響をあたえたといわれる金子みちよ(横国大生、京浜安保共闘、全指指名手配中)の場合、母親(小学校教諭)との討論は、常に「主義・主張を暴力で実現することの可否」をめぐってかわされ、最終的には「家をとるか闘争をとるか」の

### 母親の過剰な信頼の崩壊

母のフトコロの中で、純粋培養されてきた吉野雅邦にも、「バイキン」がとりついたので。免疫性がまわつたくないだけに、ひとたび傾斜しはじめると、とめどなくころがる。しかし、母の側には、自分は単なる「教育ママ」ではない、という自尊心があつたろう。「ウチの子だけは」という、わが子への信頼感もあつたに違いない。

「エリートに対する過剰な社会的期待(家族や周囲の)が、子どもの人間性を歪めてしまったのだ」と村松氏は指摘するが、この村松氏の言葉を裏づけるように、F教諭はこう述懐してい

「中学生の時期に非行少年だつたり問題児だつたりした子は、後でどうなる(吉野のように)ことはありませんね。赤軍の他の人も、みな本当にいい子ばかりじゃないか、という気がしてなりませんね」

吉野雅邦たちは、「人民のために銃を」とつたが、しかし、彼らの信じた「人民」は、「現実に生活し、苦しみ、楽しんで、命理論の中でしか姿をあらわさない架空の「虚像」にしがすがなかつた」(村松氏)。

〇×教育のなかでの「エリート

# 彼らの若者も歴史拒否にいつて

学生運動の敗北感が強まった時期に誕生したアンダー・サーティイ集団を斬る

大野 明 男

(学生問題評論家)

アンダー・サーティイ (三十歳以下) の世代の恐るべき断絶、学生評論家の大野明男氏は連合赤軍の出現をこう評し、彼らの行動がこれまでの大衆闘争の歴史性を否定し、孤立化するだけだという。

すべて二十代あるいは

十代過激派集団

妙義山から「あさま山荘」へと追われ、追いつめられた「連合赤軍」の一つの特色は、メンバーがすべて若いということである。事件を起こして逮捕された者だけでなく、まだ逮捕されていないメンバーをふくめても、すべてが二十代あるいは十代だ。

いなものとして「ドント・トラスト・オパー・サーティイ (三十歳を過ぎたヤツを信用するな)」というセリフが伝えられた。その表現を借りていえば、連合赤軍はみごとにアンダー・サーティイ (三十歳以下) なのである。

には、六〇年の安保闘争のときに大学生だったという「運動のベテラン」が、まだたくさん指導部に残っている。杉並区から都議選に立候補した中核派の北小路敏などは、その典型的な例といえよう。プロ学同やフロントの上部団体とされる構造改革の諸派には、内部抗争のため組織から離れたりしているが、私などより少し年長の (つまり四十代の) いいだもや安東仁兵衛が参加していた。その他もろもろ。意外なことに、アンダー・サーティイだけの集団というのは、過激派のなかでも珍しいのである。これは、

偶然ではない、と私は思う。

先行者の体験は技術的に

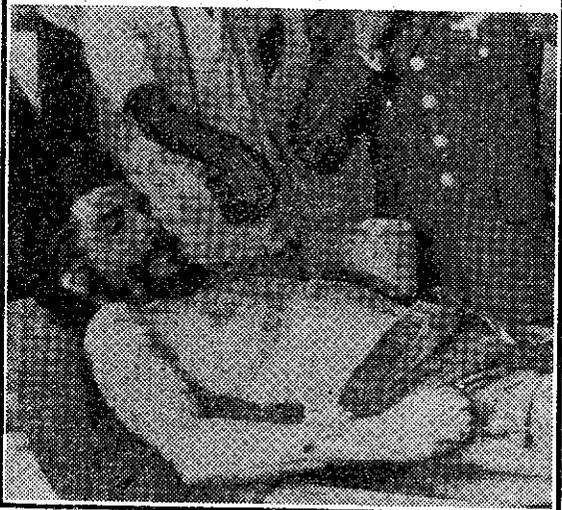
参考にするだけか

たとえば、彼らの行動と心情に示されている大きな特性の一つは、かなり極端な「歴史の無視」だ。後で述べるように彼らの発生と登場は、まことに「歴史的」あるいは「状況的」なのだ。武闘集団「ゲリラ」として自己を定立した瞬間から、過去の歴史「先行者の体験も、単に技術的なお手本としてしか見られなくなったように思われる。

彼らが、中南米の都市ゲリラあるいは農村ゲリラの体験から書かれた「教本」などをよく研究し、実践の指針としていたらしいことは、多くのマスコミで伝えられた。しかし、その場合の「研究」も、きわめて技術的なものではなかったのか。そう思わなければ、全体的な彼らの行動の跡を意味づけることもむずかしい。私としては以前にも書いたことがあるのだが、たとえばチェ・ゲバラは「ゲリラ戦争」の冒頭で、ゲリラ戦の本質を次のように説いている。

まずゲバラは、キューバ革命が示した三つの基本的教訓として、「①人民軍は、正規軍とたたかって勝てるということ。②革命を起こすためのすべての条件ができるのを待つ必要はないということ。③反乱によって、そうした条件をつくりだすことが可能であること。④米州の低開発諸国においては、農村地帯が武装闘争の基本的地域であるということ」を挙げ、とくに①と②は「正規軍とは太刀打ちできない、という口実で活動しないという革命家、あるいはニセ革命家たちの敗北主義的態度」とは違うのだと強調する。

人民軍は正規軍とたたかって勝てる (チェ・ゲバラ)



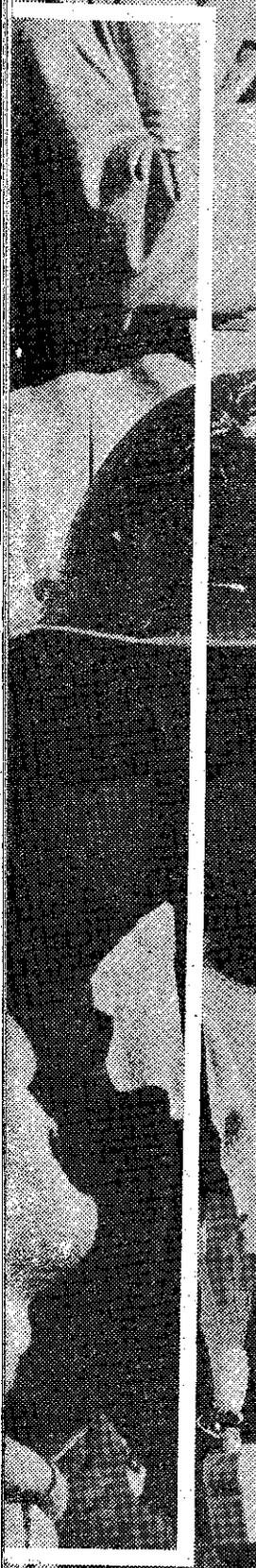
しかし同時にゲバラは、ゲリラ戦の開

始には慎重でなければならぬと指摘している。少なくとも「市民的討議の枠内での社会的目標のためたたかいていくことが無益であること、人民がハッキリ理解していなくてはならない……政府がなんらかの形の人民投票によって権力につき……その投票が欺瞞的なものであろうとなかろうと……少なくとも表面上は、合憲性を保持している場合には、ゲリラ活動を開始することはできない。なぜなら平和的闘争の可能性がまだ完全にはなくなっていないからである」

私に、ゲバラの理論によっても連合赤軍の誤りは明白である」という気はない。そうではなくて、ゲバラの慎重な留保のかけにある体験などを、彼らがどの程度、読みとっていたのだろうか、という点を考えたいだけだ。

「オレたちだけが」の  
思いこみで出発

学生運動が生み出した存在として連合赤軍を見る場合、基本的なポイントが、彼らの発生と登場が、六九年の春から夏



# 知らぬと大損 印相学の神秘

●あなたの大きな飛躍のために印相学  
20有余年の渡辺薫山先生が直接鑑定



渡辺薫山先生

ここに、あなたの姓名判断上の凶相を転じて吉相にする、もっとも実用的な方法があります。それは、印相学を応用した「開運印」を持つこと

人間の運勢を最初に左右する重大な要素は、その人の生年月日と姓名です。姓名判断とは姓名によって人間の運勢を見わけ、凶相であれば改名によって吉相に変えるなどの鑑定を行う、運命学の一つです。鑑定法は姓名画数(専門的には姓名の文字の画数による天格・人格・地格・外格・

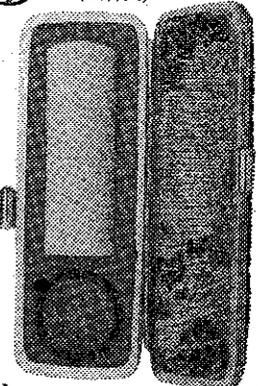
総格などと呼ばれています)を調べ、それぞれの運勢の吉凶を占うわけです。あなたの姓名は、はたして吉相でしょうか? 凶相であるかも知れません。もし、あなたが姓名判断の専門家に鑑定を依頼すれば、なん万円もお金がかかります。そのうえ、改名したとしても戸籍の名前まで改めることはとても面倒なことです。でも、ご安心ください。

もし、あなたの名前(姓名画数)が吉相であっても、悪い印相の印鑑を使っていたらあなたの運勢は凶になってしまふのです。反対に、不幸にして凶であっても、印鑑の彫り方一つで吉に転ずることが出来ます!.....というのが印相学では、文字が印章の輪郭部と一点で接続したら、一画数ふえたことになる、この原理を生かしたのが印相学の偉大な効用なのです。もしも、あなたがご自分の印鑑に無神経であるとしたらそれは、ご自分の運勢を進んで凶にしつけていることになるのではないのでしょうか。

## 宿命・運命・運勢を開く三輝会



←認印見本 (実物大) ↑実印見本



特別価格 (鑑定無料)  
実印 (イ) 3,500円(上級本象牙・牛皮ケース付)  
(ロ) 5,000円(特選本象牙・トカゲ皮ケース付)  
銀行印 (エ) 4,500円(本象牙上級品牛皮ケース付)  
(ト) 6,000円(本象牙高級品トカゲ皮ケース付)

特別提供!!  
生年月日と姓名画数とを基礎にした「開運印」を作りあげるために、20有余年にわたって「印相学」を研究された渡辺薫山先生が本誌読者のために直接鑑定する「開運印」を、開運記念として、あなたもお申し込みになりますか、あなただけの開運印鑑

渡辺薫山先生の直接無料鑑定  
古来より最高の印材とされている象牙・黒水牛の開運印を今回は特別価格でお届けします(価格は別項参照)  
渡辺薫山先生が直接鑑定して下さる会心の作ですから、このチャンスをお見逃しなく、お代金は印鑑をお受取りになつてお気に召されたらお送り下さい(返品は自由です)  
ハガキに左のように書いて今すぐお申し込みください

代金後払い  
あなただけの開運印鑑

直接無料鑑定  
31 山梨県久那土局区内  
409- 三輝会 下部町  
7 週刊現代3係

(うら) 千番号  
住所  
名前(ふりがなつき)  
生年月日  
職業 (申込番号(イロ号))

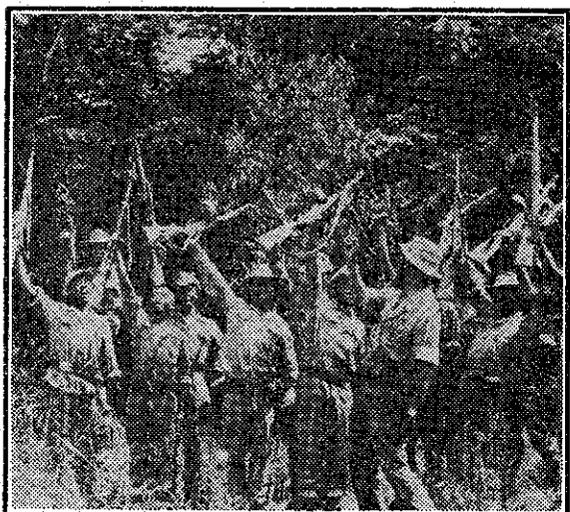
にかけてだったという点にあると思う。すなわち、六七年秋の「羽田闘争」を発火点とし、佐世保のエンブラ闘争から全国的な学園闘争のひろがり、東大における大河内総長の退陣など、「勝利の年」としての六八年をへて、安田講堂攻防戦から日大のバレー部解散、さらには4・28闘争における千余名の逮捕など、疲労感・敗北感が強くなった六九年の春から夏にかけて、共産同赤軍派も京浜安保共闘も生まれている。

当然そこにあつたのは、難解な理論問題をタナ上げていえば、「これまでのような闘争では限界が見えた。ほんとの武闘をやらなければ、この壁は突破できない」という思いつめ、そして「オレたちだけが、真に闘う存在なのだ」という思いこみであろう。

「世界革命」主義の赤軍派と、「反米愛国」を唱える京浜安保共闘という、理論的には異質の集団が、次第に接近して、ついに連合赤軍を形成したのも、この「オレたちだけ」という思いこみと、命がけの実行という共通性からだとか考えられない。

両者の発生・登場と結合を、右のように見れば、それはまさに「歴史的」あるいは「状況的」なものだ。

しかし、命がけで自己を定立した者と



革命を起すためのすべての条件ができるのを待つ必要はない(チェ・ゲバラ)

六九年の夏から現在まで、二年半余の期間は、彼らにとつていわば「武闘集団としての純化」の過程であったといえよう。赤軍派は、大菩薩峠での大量逮捕などによって、組織の秘密性を高めたはずだし、京浜安保共闘は、上赤塚交番襲撃の失敗などによって、行動の計画性を強めたに違いない。だが、その「純化」の過程が、支持層の拡大と並行していなかった事実も否定で

して無理もないのだが、彼らは、自らを歴史状況的な産物とは考えようとしなかった。そうではなくて、文字通りの武闘を「やるのか、やらないのか」「オレたちだけが...」と、唯一、真の原則をつかんだ者として、自己確認を深めていったのだろう。

そのとき、過去の歴史に先行者の体験の意味は切り捨てられ、ゲリラ戦の技術としてののみ教本化される。現に生き永らえている「運動の先輩」などは、生き永

化ではなかつたか  
あまりにも孤立的な純

六九年の夏から現在まで、二年半余の期間は、彼らにとつていわば「武闘集団としての純化」の過程であったといえよう。赤軍派は、大菩薩峠での大量逮捕などによって、組織の秘密性を高めたはずだし、京浜安保共闘は、上赤塚交番襲撃の失敗などによって、行動の計画性を強めたに違いない。だが、その「純化」の過程が、支持層の拡大と並行していなかった事実も否定でき

きまい。今回の事件が、「都市を追われた都市ゲリラ」の山中攻防戦として起きたことは、その証明でもある。

追いつめられて、「ポケットには数発のライフル弾があつたが、もうそれを装填する気力もなかつた」と伝えられるような状況まで闘つたことは、彼らの純化が、容易ならざる水準にまで達していたことを示している。だが、それにしても、あまりにも孤立的な純化ではなかつたか。

テレビを見ているよりほか能のなかつた者の一人として、総合的な評価など、いまはできないが、「事件」が終つた後で、たとえば「トウバマロス」の命名が「かつてスペインの支配に叛逆し、八裂きの刑にあつたインカの首長トウバク・アマルの名を取つて」なされた、などという文章を読むと、感想は複雑である。

歴史や伝統によりかかつていたので、何にもできないのかもしれないが、それを無視し、拒否するところからだけ出発したのでは、無残な結末しか、ありえないのではないか。それとも、日本というこの国には、学ぶべき歴史や伝統は見つからないということなのか。私にはそうは思えないのだが...

(三月四日記)

資産数億の教員が建国神話を教え、電気代を

# 革命三兄弟を育て



別に貧乏なわけではない。「貧乏どころか、加益さん(加藤益男さんの通称)のうちはなア、この近所でも評判の身上持ち(財産持ち)だ。自分の住んでいる宅地三百坪のほかに約三千坪の田畑がある。この辺の地価は坪約十万円、計算してみやア。それだけじゃにやあぜ。借家を十一軒ももっていて、それも六畳と四畳のプレハブ造りだが、部屋代を一万円以上もとる。都心部ならともかく、田舎の部屋代としては相場より五千円は高い。あれやこれやで、加益さんの財産は数億円はくだるまい。大金持ちじゃよ(近所の老婆)。

それほどの大金持ちだということに……。

「なんでも、昔から中風で寝たまんまのバアさまが、ハンコもって離さんので、加益さんも売ることも儲けることも、ようせんらしいちゅう話だが、まあ、加益さんも大変なつましや(ドケチの意)で、口の悪い人なんかはよくッババ益(クソ益という意味)と笑つとるぐりやあだぜ。この辺の人は、みんな応接間作ったり、庭石を買ったり、座敷を直したりするのがはやとどるがよう。あの加益さんのうちだけは昔のまんまの古くさい家だ。勤め人なら、休みの日には、

みんな名古屋に買い物にいったり、うまいもん食ったりしなさが、あそここのうちの人が揃って、そういうことをしにいったことなど、誰もみたことがないし、ついぞ聞いたこともにやあぜエ(近所のもう一人の主人)とにかく、いまでは失われた美德といえる守銭奴の徹底ぶりを示すこんなひとコマ。

「とにかく、たぐさん土地があるくせに、やることが合理的です。田畑の畔道は、両方の土地の真ん中に作るのが当たり前だが、あの人の土地の回りは、みんな隣の土地に畔道が作ってある。初めは、真ん中に作っても、ジリジリと隣へセリ出してきて、結局いつの間にか、そうなるってしまうんです。とにかく何というか、あそこでは、それだけの田畑があるんで何人かの小作人ももっているんだが、この小作人が『今年の小作料は二度に分けて納めさせていたくださいたいです』というとき、その時は『いいよ』といいながら、本当に二分の一をもっていくと、その分の利子がわりの割りまし分をとるという噂もあるくらいだ。そればかりか、はては小作人を雇うのが惜しさに、子供たちを人夫がわりに百姓に使い、自分も肥をまいてござるよ(近所の農家の主人)。

節約し、大根の葉を干して食べさせた結果

# た右翼的父親教育



機動隊にとり囲まれた「軽井沢砦」に向かつて「寒いでしょ。恐いでしょ。アンタたちは悪くないのヨ」と呼びかける親がいたかと思えば、こっちは日本古来の精神教育派。甘く弱くなり下がった世の親どもを腹にすえかね、我一人、子供に勤労と儉約の心を叩き込もうと頑張ったが――。

**クソ益とまでいわれる父親**

「まあ、珍しい人というか、戦争中の耐乏生活を今でもしているんですからね。絶対というほど物を買わない。子供はボロの学生服をスリ切れるまで着て、それでもまだ着る。食うものにしても、あそここの台所をみてごらんさいよ。いまとき馬が食うようなものを食っている。ダイコンの葉っぱなんかちぎって捨てるのが普通なのに、あそこでは煮て食うほか、余った分は干して貯蔵しているんです。納屋には、ダイコンの葉っぱがたんと干してありますよ(近所の主婦)。

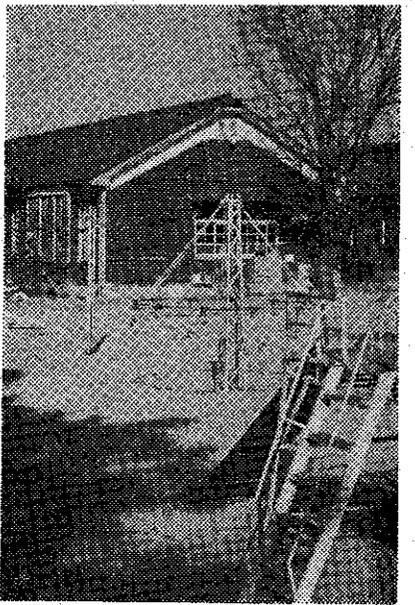
「あそこは、電気代がかかるのがもったいないといって、夜でも電気をつけずに手さぐりで歩いて……。

「まあ、珍らしい人ですよ。玄関に立って、暗い所にヌーッと顔出すだけで、電気をつけようとしなない。あの人は酒も飲まんらしいし、もちろん女なんか買わハズがない。ひたすら貯めて子供に気合いを入れるのが楽しみで……(近所の主人)。

加藤益男さん(51)――「あさま山荘」でみせた加藤倫教(19)の弟のA(16)兄弟のはなばなし。『革命的銃撃戦』といい、昨年末に逮捕されている長男の能敬(22)は『京浜安保共闘』といい、この『爆弾三兄弟』を育ててきた父親である。

さすがに、よほどの「信念と教育熱」に燃えた「孤高の人」のお人らしく、周辺の人たちの見る目も違う。





加益、先生の勤めていた刈谷・富士松北小

兄の能敬もこの学校を四十三年に卒業しているが、そっちは知らない。私は三年組の倫教を担任したんだけど、あれは口数も少く、ホームルームなどでも目立つことのない存在でしたね。勉強は中以下で、頭の切れがいいとはお世辞にもいえない。最後までようやく追試を二回も受けて、七月に卒業したほどです。父親の方は『大学へやるのでよろしく』と書いていたのだけど、いつか彼は『オレは大学にはいかない、工員になるんだ。工員になってその実践と理論を一致させるんだ。労働の中にこそ何かがあるんだ』というようになりましてね。まあ、お父さんも教員で、相当に厳格な家庭だし、刈谷の家も相当な地主でしょう、あるいは彼とすれば、そんな父親に反感を感じ、

そんな『家』に抵抗を感じて工員になるといったのかもしれない。彼が本当に過激になったのはここ一年間でしょう。ですから指名手配をされた時も、まさか鉄砲をもって、あんなことをやるとは思わなかったです。もっとも警察の動きをみると、相当な過激な中にあるというところは解っていましたけれど……」

### 父親になれなかった教育者

同級生のS君がいう倫教のこと。弟のAのほうはどうだったのか、まず『刈谷東中』で同級だったクラスメートの証言――。「普通の子だったよ。親しい友人はいなかったみたい。のろまだから、スポーツはからきしダメだったけど、他の勉強はまあまあだったと思うよ。ああ、そう、M君が彼の家に遊びに行った時に、彼のお父さんに『仕事をさせられちゃった』とボヤキを聞いていたことがあった。遊びに

いったのに担任させられちゃってさ』と怒っていたよ。二年の時、木曾駒にキャンプにいった時、あの子が一人でバスの中でマイクロナンで歌をうたっていた、はしゃいでいたの覚えてる。(男生徒O君)

「女の子がケシゴムを机から落としたり、もつちゃん(Aのこ)が拾ってやったの。みんなワイとはやしたてたら、彼まっ赤になっちゃって。でも、女の子には人気なかつたわ。(K子嬢)

だが、そんなAが『県立東山工高』に入學した年(昨年)すでに彼は、危険人物。になっていた。『ともかく四月に入學して、七月にはもういなくなつたので、それほど彼を指導したわけではないのだが、『社会主義研究同好会』などを組織して、よく街頭デモにも参加していたようだ。成績は四十人中十番で、それほどではないが、シンはしっかりしていた。私も四、五回ほど両親に会っていますが、家庭で倫教の兄弟と話しあいの場があつたかどうか……。もつと話しあつていれば、こうはならなかつたかもしれないような気がする。すべてはアトのマツリで、そんなことは今や何の意味をもたない。

是とするか、非とするかはいうまでもないことだ。市民社会の倫理からすれば、是とするなんの理由もない。犯罪者であることは自明だ。だが、この事件はそういう問題だけでは片づけられない事柄をふくんでいるのではないか。たとえば、「ヒーンときたら110番」という指名手配書の持つ一億総スパイ化の意味等々……。学生問題評論家・中島誠氏はそうした観点から事件をこう分析するのだ。

# 乱された平穏な市民生活

なぜか次第に息苦しくなっている現代日本の行く方への不安

中島誠

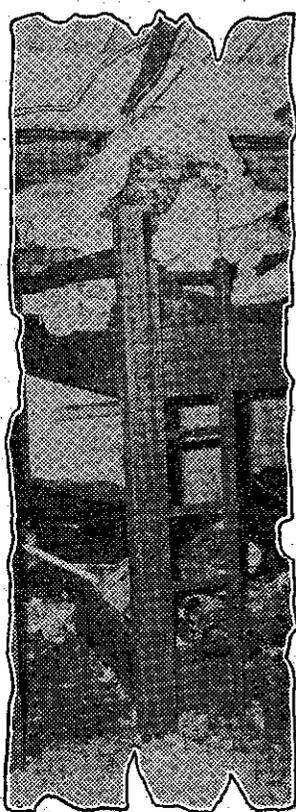
(学生問題評論家)

テレビ出演後に続々と脅迫の電話が鳴った。浅間山荘事件が落着きから、もうだいぶたった。まだ余燼はくすぶっている。私自身の味わった余燼は少々不気味なものだった。連合赤軍の五人が逮捕さ

れ、牟田泰子さんが救出され、二人の警官が撃ち殺され、坂東国男のお父さんが自殺し、十数人の機動隊員が負傷したあの日、二月二十八日の翌日の夜、私は、12チャンネルの火曜番組「72論争」に「ん」に出た。何となく悪い予感がしたのだが、相手が犯罪心理学の大家である宮城音弥さんであり、ナマ放送でもあるというので、おっちょこちょいの私は夜の十一時からスタジオに出た。正味二十一分、一人の話せる時間は全部で七、八分、何ほどのこともしゃべれまいと覚悟していたが、私は、なぜ連合赤軍のような青年が、あたかも自然発生したかのようにいまの日本の社会に生まれてきたか、その社会的、政治的根拠をできるだけわかっただけのように言葉足らずながらしゃべったつもりだった。

ところが、放送終了直後から局の電話はしばらく鳴りっぱなしであつたらしい。その多くは私への苦情であつたようだ。私は、スタッフの人達にうながされるようにしてタクシーで自宅に帰った。そして、私がタクシーに乗っているほんの二、三分間に、家にも脅迫の電話が数通かかっていた。一つは「いったいおまえらは、誰のおかげで笑って毎日暮らしているか、誰のおかげで笑っているのか、いまに足腰立たないように痛めつけてやる」というふうなもの。次は「おれは近所ものだがきつと殺してやる」というふうなもの。

最後には、「いまに、おまえら一家皆殺しにしてやる」という工合にエスカレートしていた。  
私は、脅迫の電話や手紙を受けた経験がこれまでに何度かある。また、新聞



### 浅草寺の境内に赤軍派の高札が立てられた

当夜の私の発言で何が一番、脅迫電話の主連のかんにさわったのか考えてみた。あたりまえのことばかり言ったよな気がしたのだが、強いて思い当たるとすれば、「二警官の死以上に私は坂東君のお父さんの自殺の痛ましさにショックを受けた」という言葉であったかもしれない。極悪兇悪狂人犯人に対して坂東君とは何事か!! ということかもしれない。また二人の警官の死以上にとは何か、ということもあろう。私も、もちろん、二人の警官がたとえ職業として犯人逮捕

などのコメントについて、学生や出版関係の友人から、右翼チックだと文句を言われたこともある。「左翼」からは批判され、「右翼」からは脅迫される。あんまり気分の良いものではない。

という言葉を聞いたとしても、その人間としての死は実に痛ましいと思う。それは尊いぜいだ。しかし、坂東のお父さんが、事件直後から殺到する脅迫電話にいたたまれず首を吊ったということは、それとは別の意味で大きな衝撃だった。これは正直な私の気持ちである。加藤兄弟の父親も、教職を辞さねばならぬ羽目に追いこまれた。それらは、なるほど息子らのせいかもしれない。しかし、最近の世相は、あまりにも異常である。新宿近辺の中央線沿線の不動産屋のガラス戸には、長髪若者のマンガが貼られ、こういう人のアパートあつせんお断わりと書いてあるという。浅草寺の境内には、赤軍派幹部の写真を貼った高札が五六本立てられ、浅草署は、グッドアイデアだと胸を張っている。私は会う人毎に、いまや寝言の経文のごとく言うことにしている。

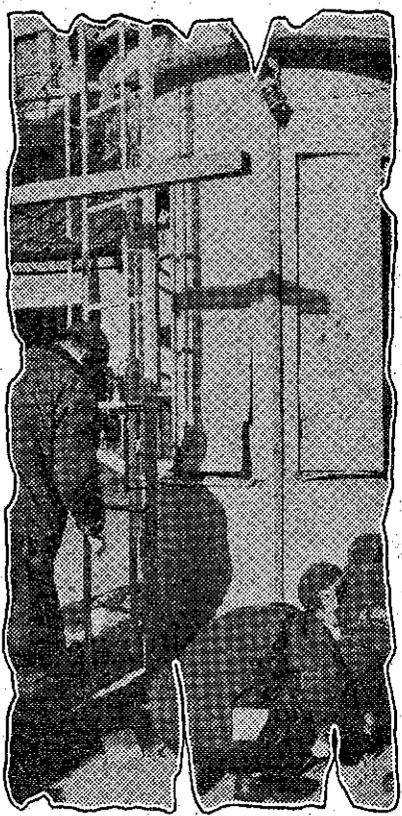
すなわち、日本の警察は、ここ数ヶ月間に、延べ五百万カ所の聞き込みをやリ、アパート二百五十万世帯の捜査ローラー作戦を行ない、民間人から四千件の協力を入別件を含む百七十人を逮捕し、「あなたのそばにも爆弾犯人はいます、ピンときたら一〇番へ!!」というデラックスなポスター約六十万枚を、駅、町内、喫茶店、そば屋、パチンコ屋に至るまで配布して貼らせ、今度はまた、ドロボウと暴力を開放しましょう、という、爆弾犯人をマンガ化したポスター数十万枚をつくって貼りめぐらせた。私の近所の友人宅に最近来た警官は、お宅には二階があるが学生を何人下宿させていますかと聞き、二階にはおれの一人息子が寝起きしているのだ、よく調べてから出直してこい、と一喝されて帰ったと聞いた。ともかくどこがおかしくなっている。一億総スパイ化、国民総岡っ引き、下っ引き化が奨励され、市民は、自分の生活防衛のため警察への協力が最上策だと思ひこまされている。

ところで、日本の政府と警察は、今回の連合赤軍などを政治犯、思想犯として扱うことを極度に警戒しているようだ。彼らを、兇悪狂人、全く一握りの例外的人間として葬り去ることに力を集中し、与論操作もその一点にしようとしている。なぜか。正規の武器(銃)を手にした者を、たとえ極小集団でも、政治思想犯として扱えば、警官と自衛隊に専有されている武器を対等に所有した集団を相

手にしてしまうからである。  
**人民の武装闘争は自分達が第一歩を示した**

ブンドから分岐した赤軍派と、日共(左派)の一部、京浜、中京安保共闘とが合体したいわゆる連合(統一)赤軍が、他の新左翼諸派と決定的に異なる質は、正規の武器(銃)と資金を、国家権力とたえ僅かでも、質的に共有したということにあると思われる。

ここに人民の金がある。国家権力の一機関である大銀行金融機関がこれを半ば強制的に預貯金させる。利子がついたにせよ、その金は資本の資金に大部分まわされる。これを強奪して人民に返す、返すまえに自分らが一時活用して革命、人民解放のために使う、時期がくれば人民に返す、当然なことではないか、これが彼らの論理である。むちゃくちゃかもしれないがともかくそれなりに一貫している。  
また、ここに多数の武器がある。大企業は三次防、四次防などと称して武器兵器生産を商売にもしている。そして、大量生産される武器は、警察と軍隊(自衛隊)に独占され、暴力団などが少量使うこともあるが、人民は全体として無武装である。これは日本では、秀吉の刀狩り



以来のことでもある。明治政府のつくった徴兵制は国民皆武装までいったが、この場合の兵器は、兵士・人民が国家から借りたもので、兵でなくなれば直ちに返さねばならない。いすれにしても、日本では人民が自ら武装して闘ったことがない。それを自分達は第一歩を踏み切った、というのが彼らの主張である。

もつぷる社の「赤色救援会の復権に向けて」にはこのように書いてある。

### 平和な、どんよりした社会の重苦しさ

志しながら、徐々にその中央軍組織と大衆部隊をきずいていった。そこへ警察の大捜査作戦は開始され、彼らは、いわば都市から山へいぶり出されて行った。あさま山荘で彼らは極めて冷静に銃を撃つたのである。このこと自体、大げさに言えば日本の近代史上まれな振舞いである。逆に言うなら、このような彼らを、まともな政治犯、思想犯として扱えば、日本の警察と軍隊は、武装した権力として反権力と対等に引きずり出されねばならない。

警察は、こんなベースには絶対にまきこまれたくないだろう。従って、装備の拡充、人員増強、民間の協力要請という線で、基本的には従来どおりの方針を貫かざるをえない。しかし、その過程で出てくる、言論表現の自己規制の不自由の波紋は現実にも大きくなってきている。

「さて白軍兵士諸君。ここで一片の安らぎの言葉を与えよう。諸君らが、我らの兵士たちの手により殺された時、諸君らの主人たちは諸君の遺族に安っぽい勲章と少しばかりの恩給や見舞金を出してくるだけだろう。だが我らが赤色救援会は、諸君らの死に對し、人民葬にて心からその哀悼をさげすげよう。驚くことはない。それが人民の戦争というものだ」

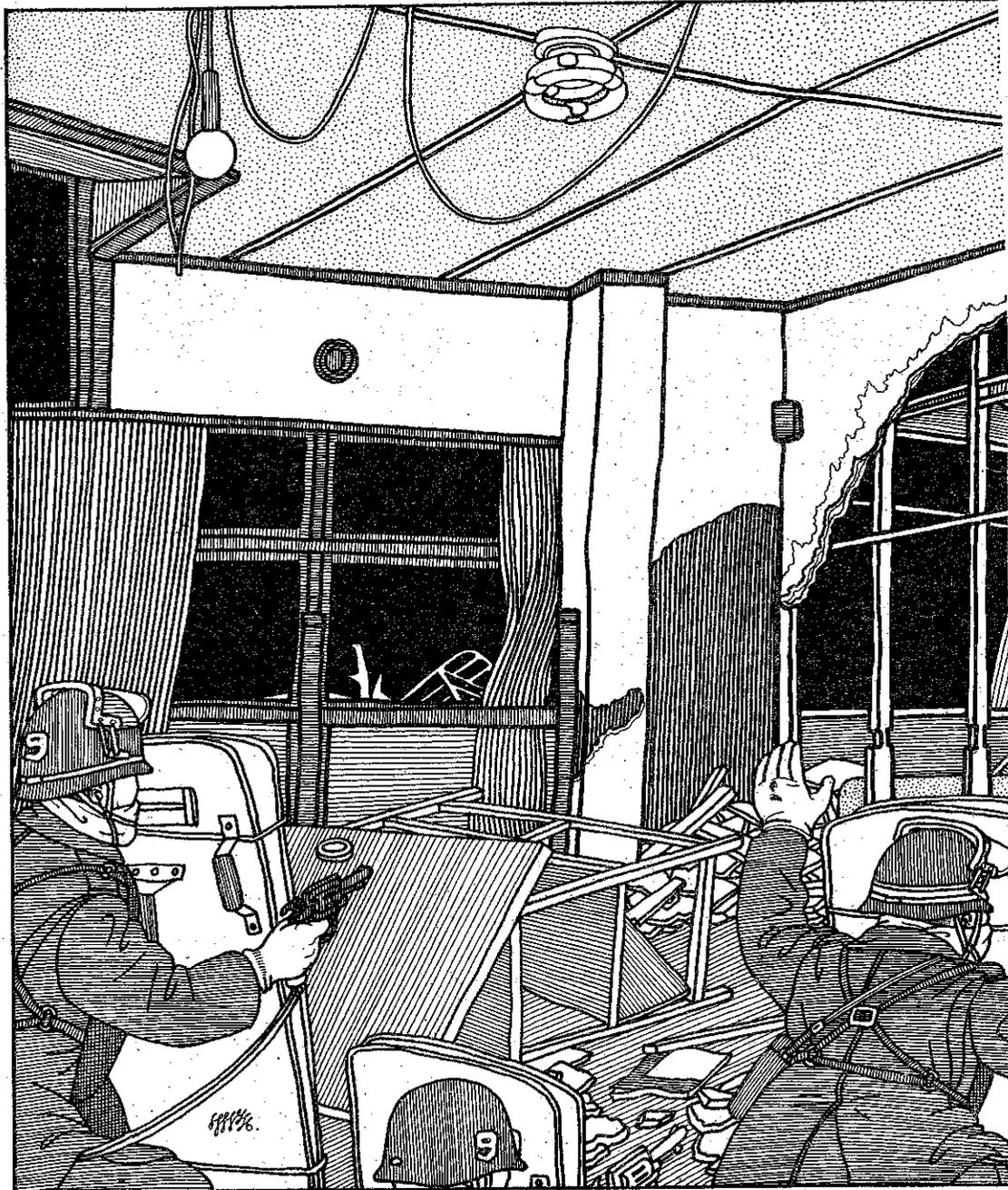
だが、連合赤軍は、必ず再び都市へ潜入してくると警察は警戒態勢を敷いている。たかが山麓の一別荘の銃撃戦も、人質一人がいたばかりに、十日間連続

千人以上の警官隊を動員させ、十日ぶつ続けテレビのナマ放送がやられ、四次防国会もニクソン訪中もふっとんでしまったのだから、これが首都の中心などで起きたらえらいことになるう、という心配がある。しかしながら、彼らは一方でなんとなく甘えた現代青年の優しきをもっている。泰子さんの調べがはかばかしく進まぬというところにも、よど号のときと同様な、人間同士の共同体を瞬間につくってしまう彼らの不思議さがある。拘留中の森恒夫は、弁護士を通じて泰子さん救出の説得を申し出て、警察に拒否されたという。東大安田講堂前の集会でも、民間人を人質にとったことへの自己批判が出たという。五人も、あっさり逮捕された。相当長期の獄中生活を覚悟しながらあえて生きのびようとする彼らは、革命の未来を信じているふてぶてしきとにも、何となく、大学闘争の延長線上を歩いているふうな気分もある。このような諸々の矛盾は、現代の青年に相当広く共通しているともいえる。

イラスト  
ドキュメント

# 連合赤軍

武装集団の組織・訓練・内ゲバ・行動から

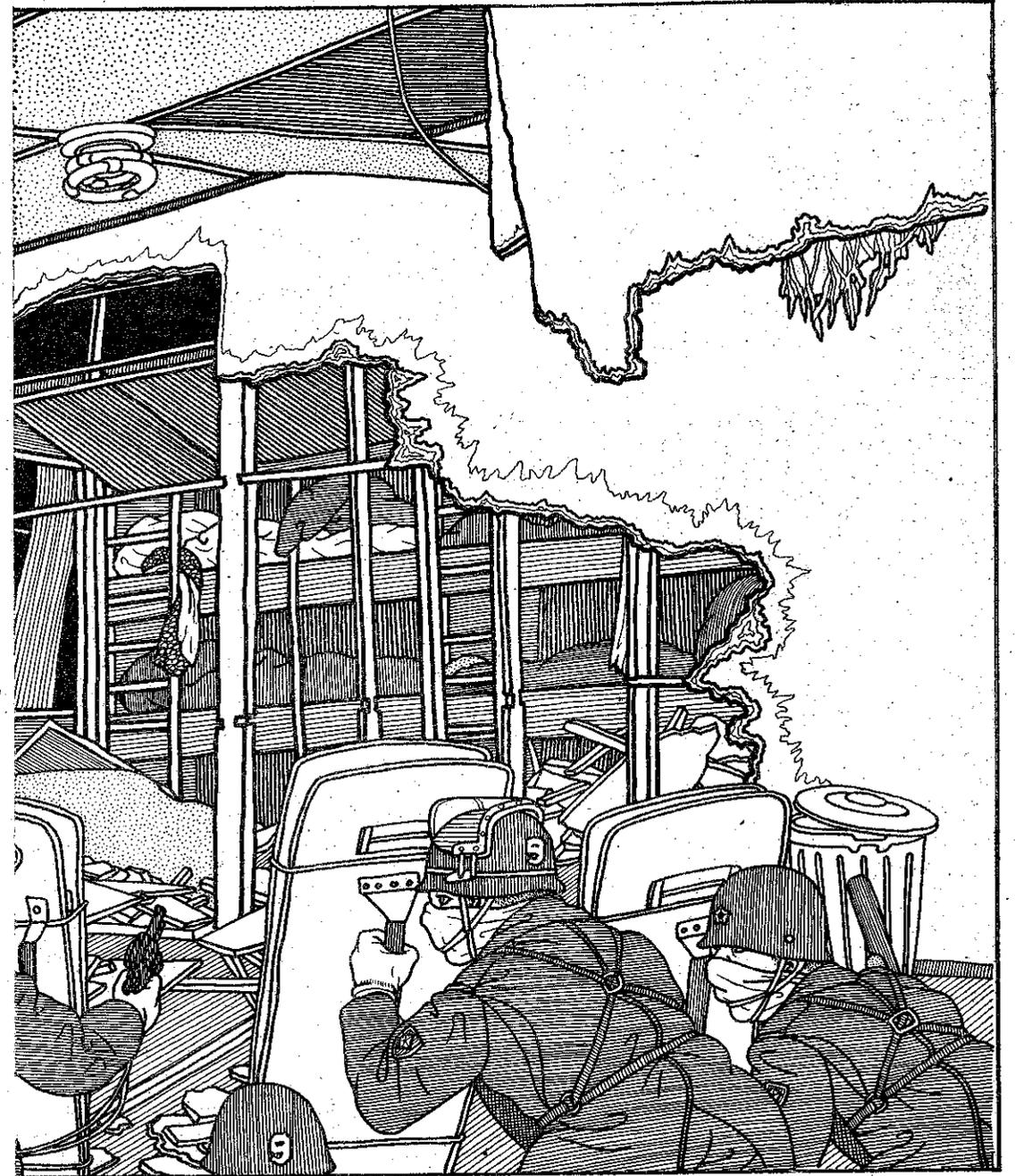


# と泰子さん

稲垣真美

絵かもよしひさ

あさま砦までの10日間の知られざる生活



ともかくにも「あさま皆」は落ち、興奮した世論がやっと平静をとりもどそうとした矢先、またもや激しいショックが打ちかかってきた。妙義山中で、連合赤軍の一人がリンチによる処刑で惨殺されていたことが明らかになったのである。これは、こんど逮捕された一味から割れたものらしく、連合赤軍内部でも、これをめぐって動揺が激しくなっているという。ついに事態をここまで追い詰めた経緯を改めてたどりなおしてみよう。

## 異臭が十三人を窮地に追い詰めた

死をへ決意しなければならぬ奴は戦場から失せろ

現実の戦争は熱い引き金を引くことをただ要求する思想と情念の無意識な交錯の中で

多分日本階級闘争は死なないうという範囲でしか武器を行使しなかった  
多分人々は武器が人を殺すものだということを忘れていた  
観念で多くの人を殺しているから現実の戦闘で殺戮

を放棄して来た  
モロトフカクテルを投げたけれども殺意はなく  
国家の共同幻想を両足でふみこえる、対決する  
権力への憎悪のリアリティもなく

——重信房子  
(ペイルートにいる赤軍派女兵士の詩)

『都市ゲリラはいかに人民の間で生活するか知らねばならず、一般の市民生活に比べて奇異に見られないようにまづ外見に注意すべきである。他の人々たちがつた服装をしてはならない』(カルロス・

マリゲラ「都市ゲリラ教程」  
都市ゲリラはいかに生きのびるか)

二月十九日の土曜の朝八時前、石油ストロブがチロコロともえる人気の少ない軽井沢の駅の待合室で、鉄道弘済会の売店に寒々と立っていた中年の従業婦、佐藤たけは、ふと鼻を突く臭いをかいだ。

こやしの臭いに臭臭でもまじったような、なにしろすごい悪臭だ。みると、店の前に男二人、女二人の若い四人組が、ひどく汚れたアノラックに長靴姿で立っていた。異臭はその着衣から臭ってくるらしい。

男の一人がスタンドの新聞を三紙買ってタバコも注文し、金を出した手がすすけたように黒く汚れている。もさもさした長髪も泥まじりだ。

へんだな、と佐藤たけは思った。日ごろ見馴れた登山客や、別荘人種ともあまりにちがいがすぎる。まさに異人種の臭いだ。そういえば、二、三日前から妙義山中の穴ぐらにいたという「連合赤軍」とやらが、ひんびんと逮捕されたり、逃げのびたりしている。その連中はいずれも異臭をただよわせているというではないか。

彼女は恐いものを見たようにぞっとした。そして、ホームに立っていた青木という助役に、小さく手で合図して彼らを示した。

青木助役は彼らの風体をたしかめようと待合室のほうへさり

げなく歩いてきた。四人連れは時刻表を見上げていて、助役が近づいたのには気づかなかつた。

助役も彼らの「異臭」をかいだ。軽井沢署に直ちに連絡がとられた。

「妙義の連合赤軍らしい四人組がいる。とにかく身なりが変だ」  
四人は小諸までの切符を買った。七時五十九分発の長野行普通列車が駅に到着した。改札係は発車間際まで改札を遅らせた。警官の姿はまだみえない。発車三分前、通勤通学の乗客が二、三十人改札口に並んだ。改札が始まった。四人連れは列のあとにくっついてホームに入った。改札を通るとき、一番うしろのアノラックの男が「ありがとう」と小さくつぶやいた。改札係は気をぬかれたように四人のアノラックの後ろ姿をみやうた。

四人は下り線のホームへ出た。そして男二人と女二人ずつ二台の車輦に分かれて乗り込んだ。が、そのとき駅から約五百メートル離れた軽井沢署の当直警官十人が、駅前派出所の巡査といっしょにホームへ走りこんできた。発車の一分前だった。派出所の巡査がアノラックの男の一人に職務質問した。「あなた、どちらからきましたか、

彼らは猟銃弾とピース爆弾、現金十二万円をもっていた。発車寸前に逮捕されて、植垣など眉を吊らせていかに不本意に残念そうだった。

「敵もわれわれの足どりを知りたがっており、われわれを撃破し、活動を妨げようと狙っている。この意味において密告の危険性はつねに存在しており、敵は密告を煽り、組織内にスパイを潜入させようとする。このような敵に対処する都市ゲリラの技術は、裏切り者、スパイ、通報者、挑発者を公然と摘発することである」(都市ゲリラ教程「情報」)

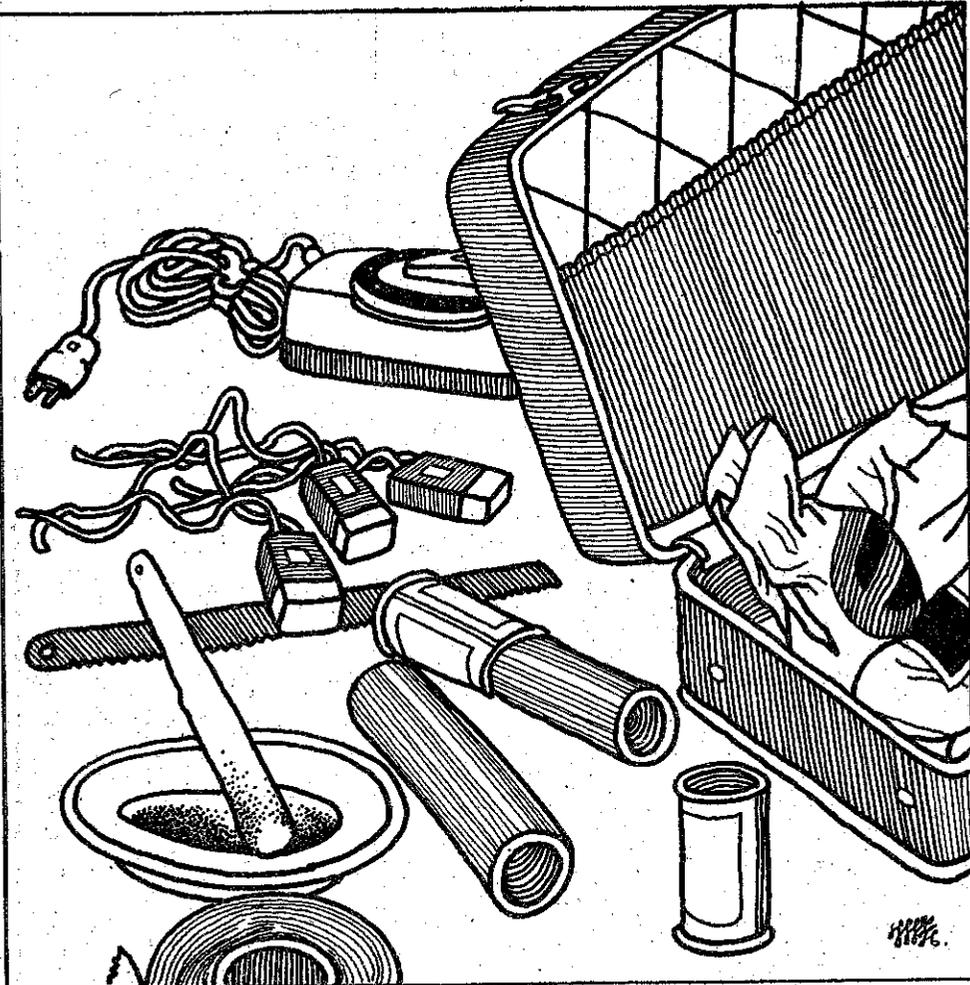
## 予想外の山越えの逃避行

長野県警は、はからずも連合赤軍の四人が警察の検問をくぐり抜けて軽井沢駅に現われたこと、ひどくショックを受けていた。

すでにその二日前の十七日午前九時半ごろには、群馬県警の捜索隊が妙義山のスーパール道沿いの麓の岩場で、赤軍派最高幹部の一人、森恒夫(27・大阪市立大)と京浜安保共闘最高幹部の永田洋子(27・共立薬科大卒)を逮捕し、同日の午後、二人の逮捕現場近くの妙義山の穴

ぐらに連合赤軍のアジトが発見され、寝袋二十二、米一俵、粉ミルクの入ったカン一個、リュックサック二十個、鉄パイプ七本、黒色火薬二きなどが出てきた。幹部が多数出入りして闘争の拠点としていたこともわかった。

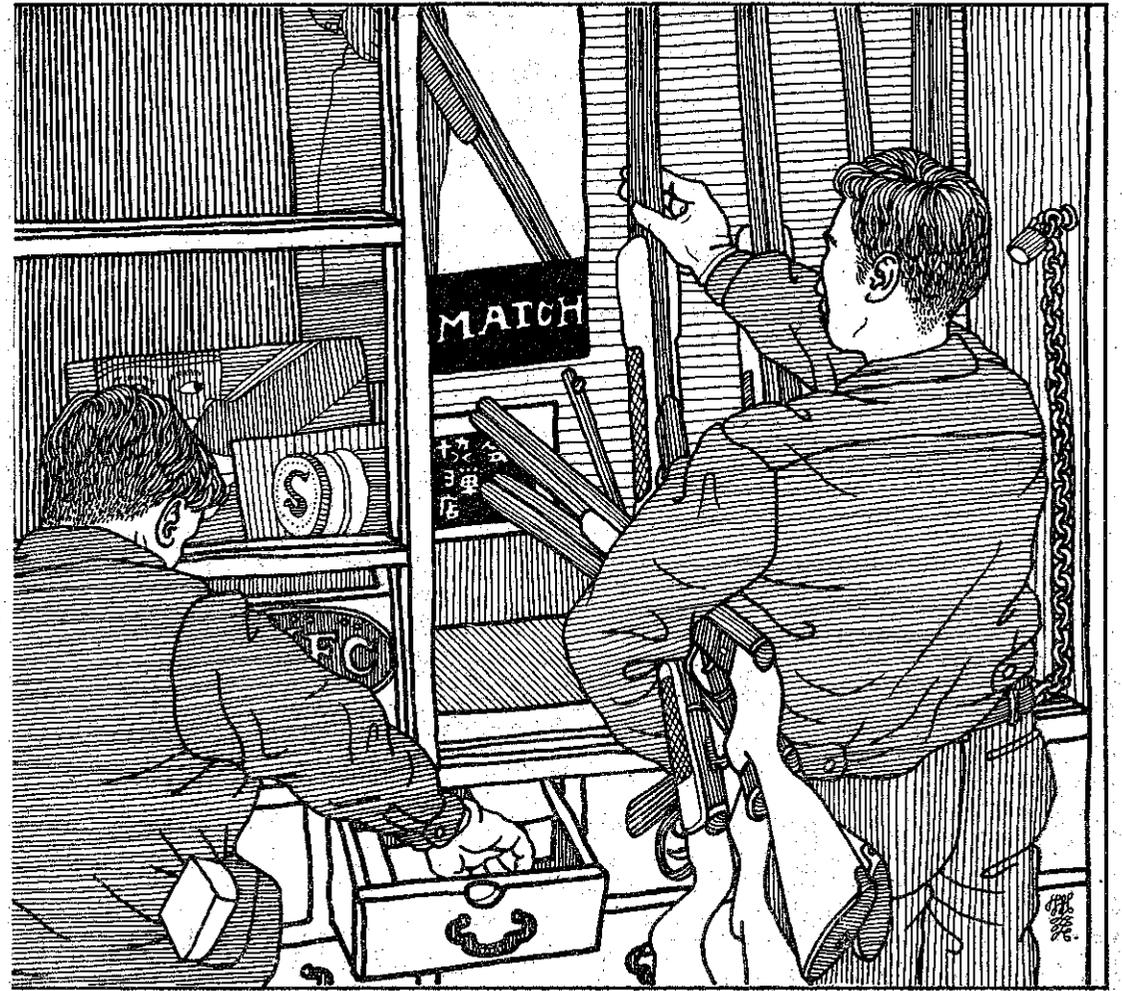
その残党の捜索のため、群馬県警や埼玉県警では、三千人も警官を動員して、それまでに連合赤軍のアジトの発見された、榛名山や妙義山の尾根伝いや、秩父山系なども山狩りする



「軽井沢だよ」  
「ききたいことがあるんでちょっと降りてもらえませんか」

すると、アノラックの男は立ち上がりさまじきなり警官に体当たりを食わせて、そのすきにもう一人のアノラックが車外に

走り出した。  
隣りの車輛の入口近くにいた女二人もこの様子に目にとくとく気づいて、ホームの反対側の線路



とともに、林道その他の道路で  
厳重な検問が行なわれたはずで  
ある。

にもかかわらず、情報によれ  
ば、逮捕された四人は早朝バス  
に乗って南軽井沢方面から軽井  
沢駅にきて、それも警察の検問  
によってではなく、売店の従業員  
婦によって発見されたのであ  
った。

警察では、彼ら四人が妙義山  
のアジトの周辺から軽井沢にき  
たとすれば、どのような経路を  
辿ったかを検討してみた。

群馬県警側の捜索では、森や  
永田の逮捕された籠沢から丁須  
の頭を経て赤岩まで、雪の上に  
二人ぐらゐの足跡があり、横川  
駅に通じる登山道の絶壁で消え  
ていた。もしそのコースを通っ  
てくると、横川駅付近までかな  
りの難コースである。横川まで  
出れば、あとは碓氷峠か国道の  
碓氷バイパスを通って軽井沢に  
出る。丁須の頭からふつう五時  
間のコースだが、彼らは山中の  
洞窟などにひそみながら、捜索  
隊の引き揚げたあとの深夜の雪  
の間道を、二日ばかりで歩いて  
きたのかもしれない。

いま一つは、妙義山からスー  
パー林道を通って、和美峠南方  
の日暮山(海拔千二百七呎)の  
尾根伝いに西北に進み、群馬県  
境を越えて長野県下に入ってく

るコースである。

長野県警の柳沢警備一課長  
は、南軽井沢方向から彼ら四人  
が駅まで来たとすれば、むしろ  
後のコースをとったのではない  
かと考えた。しかし、その山道  
には一層もの積雪がある。警察  
でもそんな雪の和美峠伝いに連  
合赤軍が長野県下へ逃れてこよ  
うとは思わず、前夜もその道の  
検問は行なわなかったのだっ  
た。だが、連合赤軍は現に軽井  
沢に出現したのだ。なお逮捕さ  
れないままの残党が、軽井沢周  
辺にもいる可能性は少なからず  
ある。連合赤軍残党グループの  
一斉広域捜査の指令も出てい  
た。長野県警では、その日の午  
後、念のため機動隊員によっ  
て、別荘地などの捜索も強化す  
ることにした。

いずれにせよ、この段階で、  
県警はまだゲリラとしての連合  
赤軍グループの能力についての  
知識は、あまり持ち合わせてい  
なかつたようである。

「都市ゲリラの重要な資質は  
次のようなものである。足が  
速くて、飢え、渴き、雨、日  
射に耐えられること。身を隠  
す術を知り、注意深いこと、  
人目を欺く術にたけているこ  
と、危険を恐れないこと、昼  
でも夜でも同じように行動で



きること、性急に行動せぬこ  
と、どこまでも忍耐強いこ  
と、最悪の条件の下でも冷静  
であること、決して痕跡を残

### 追い出された妙義連合赤軍

二月十七日、森恒夫と永田洋  
子という連合赤軍の最高幹部が  
逮捕されるに先立って、群馬県  
警の山狩隊は、十四日、榛名山  
中に連合赤軍のアジトに使用し  
たらしい山小屋の焼け跡を発見  
し、さらに十六日の朝には、沼  
田市の迦葉山の山麓に第二アジ  
トとみられる丸太小屋を発見し  
た。

この丸太小屋には、湯わかし、  
飯びつなどの生活用品のほか、  
乾電池、バッテリーなどが多数  
残されており、榛名山中の小屋  
跡にあったのと同じカスガイや  
釘もあった。

その上、押収した謄写版やイ  
ンクのアシトから指紋を採取し  
て照合すると、昨年二月栃木県  
真岡市の銃砲店を襲った京浜安  
保共闘のメンバーで、強盗致傷  
容疑で指名手配中の吉野雅邦  
(23、横浜国立大)の指紋に一  
致した。

同じ十六日の午後、妙義山麓  
のスーパー林道のぬかるみには  
まり込んで立往生している、男  
四人女一人を乗せたライトバン

さないこと、決して意気消沈  
しないことなどである」(「都  
市ゲリラ教程」都市ゲリラの  
資質)

を松井田署員が発見。三人の男  
は車から降りて妙義山中に姿を  
消したが、車内に残った男女二  
人はカギをかけて車内に閉じこ  
もって職務質問に応じず、九時  
間余りの籠城の後逮捕された。  
男は奥沢修一(22、慶応大二  
年)、女は杉崎ミサ子(24、横浜  
国立大四年)ともに京浜安保共  
闘のメンバーだったが、姿を消  
した三人の中の一人は、京浜安  
保共闘の最高幹部で全国手配中  
の坂口弘(25)に似ていたこと  
もわかった。

そして、翌日は永田洋子と森  
恒夫の逮捕。妙義、榛名、  
迦葉山一帯に、連合赤軍が幾つ  
ものアジトをもち、銃などの武  
器を運びこみ、爆弾を製造して  
「戦争」のための会議と訓練に  
明け暮れていたのは、間違いの  
ない事実だった。

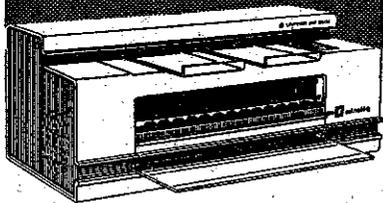
だが、それにしても彼らはな  
ぜ妙義周辺の山々に潜入してい  
たのか。いや、それより先  
に、そもそも連合赤軍の成立に  
ついて触れておかねばならない  
だろう。

Minolta

いやなくさみ追放

完全無臭コピー

微量の新現像活性剤アクリフヘータ使用による第4の複写機



MINOLTA

コピーペット pd2200 ¥128,000

ミノルタ事務機販売株式会社

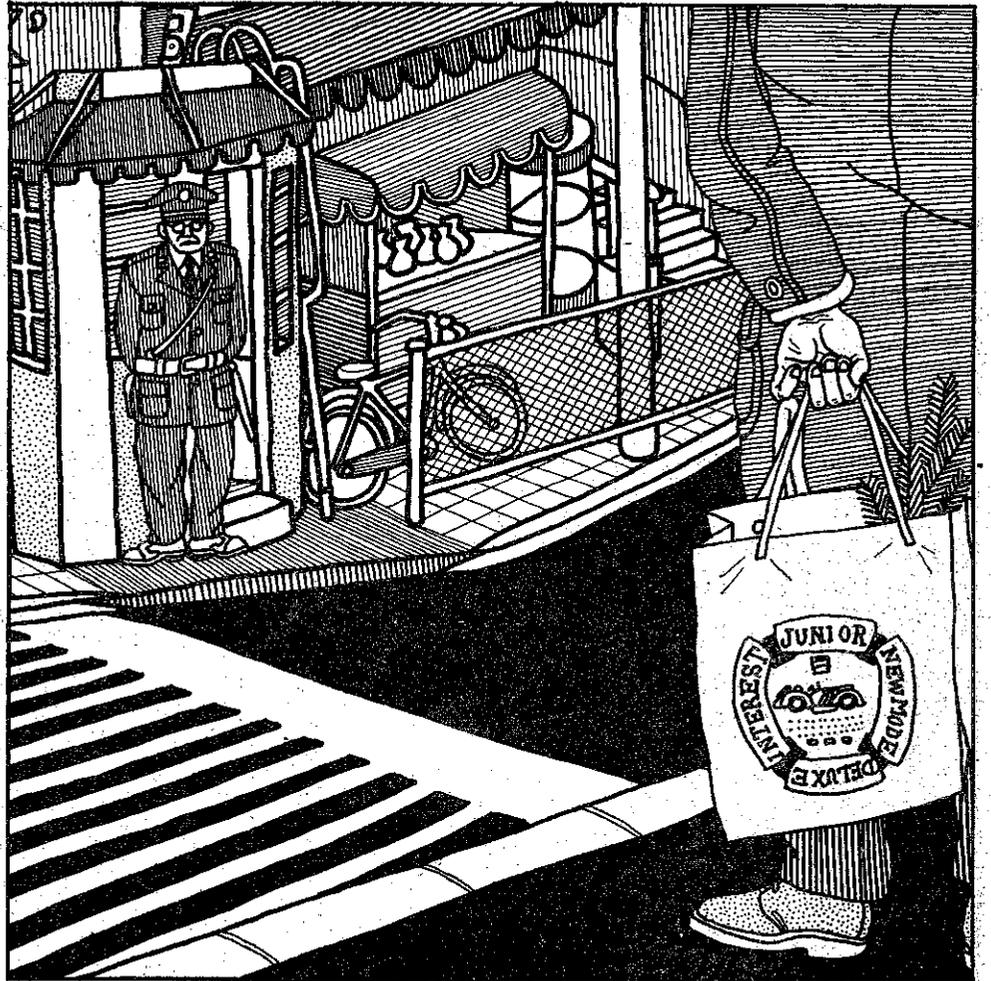
『都市ゲリラとは、意表をつくやり方で武器をとって軍部独裁政権と闘う者』

都市ゲリラは無法者と根本的に異なっている。無法者の目的は個人的な利益だから、搾取するものもされるものも

区別しない。無法者の被害に一般の人たちが多いのはこのためだ。都市ゲリラは政治的

一方の京浜安保共闘は、もともと六全協当時の共産党員から

『武器を捕獲する方法は、通りがかりの警官や車待ち伏せすることである。派出所を外から急襲するときには往々にして武器を手に入れることができる。武器、弾薬、爆発物の強奪は、会社や工場を襲う場合の都市ゲリラの目的である』



だから、政府と大資本家と外国の帝国主義者だけを攻撃する。

都市ゲリラは、政府に対して非妥協的に敵対し、国家権力とその権力を行使する人間に対して組織的に打撃を与える存在である。『都市ゲリラ教程』都市ゲリラの定義

連合赤軍は、一口にいえば、京浜安保共闘と赤軍派による、軍事活動のための都市ゲリラ組織である。

赤軍といえ、一昨年三月末のよど号ハイジャック事件はあまりにも有名だが、もともと関西フロントの流れをくみ、安田講堂事件以後の全共闘運動の衰退の中で、なお烈しく武闘を叫び、たとえば首相官邸襲撃を企図して昭和四十四年十一月、大菩薩峠、福ちゃん荘に集結したとき、スパイが潜入していて幹部のほとんどが逮捕された。その後によど号ハイジャックを敢行したが、昨年に入るとM(マフィア)作戦と称して神奈川、宮城、米子など各地の銀行、信用金庫などを襲撃して金を強奪し、これに他派の支持をとりつけることができなくなり、内部でも批判された。

の転進分子も含めた日本共産党(革命左派)神奈川県常任委員会の下部組織として、四十四年八月、新左翼諸派の闘争にあき足りない京浜地区の労働者や、東京水産大、和光大、横浜国立大などからの学生の参加者によって組織された。

羽田空港滑走路に火炎ビンを投げたり、アメリカ軍基地の爆破を計るなど、軍事組織としての過激な活動を続けた。四十五年十二月十八日には、柴野春彦(24、横浜国立大生)ら三人が上赤塚派出所をビストルを奪うために襲撃して、二警官に鉛棒でなぐりかかり、警官はビストル五発を発射し、柴野は胸に二発を受け鮮血にまみれて射殺される事件が起こった。このことを知って赤軍派の中には京浜安保共闘の行動にひどく共鳴するものが多かったという。

実際には単に軍事組織であり、烈しい行動を追い続ける単純明快さがお互いを結びつけたのではあるまいか。公安当局などは、強盗強奪による京浜安保共闘の武力とM作戦による赤軍派の資金力の結婚とみているようであるが、実はこの武器と金の強奪は、都市ゲリラにしてみれば二にして一なのである。

『襲撃とは資金を強奪し、囚人を解放し、爆薬、機関銃、その他の武器弾薬を捕獲するための武装攻撃である。襲撃は真つ昼間でも夜中でも実行可能である。もともと攻撃しやすい目標は次の通り』

- a、金融機関
b、武器、弾薬の製造を含む商業、工業関係の企業
c、軍事施設
d、派出所や警察署

- e、刑務所
f、政府財産
g、マスコミ機関
h、北米人の会社、財産
i、軍隊や警察の車輛、トラック、装甲車、現金輸送車、列車、船舶、飛行機などを含む政府の輸送機関(『都市ゲリラ教程』襲撃)

家は二つの間につきまともわれている。
a、無法者との闘い
b、右翼反革命との闘い
この闘いは、人民が見分けられなくなるという混乱を生じさせる。都市ゲリラはこの混乱をとりぞかねばならない。そのためには二つの方法を用いなければならない。
a、無法者が常套する手口は避けねばならない。つまり不

必要な暴力の行使、人民の物資や所有物を強奪してはいけない。
b、目的をプロパガンダとしてすぐさま襲撃を決定しなればならない。終われば資料やピラを活字にし、独裁政府、支配階級、帝国主義から強奪する者としての都市ゲリラの目的と原則をつねに可能な限り説明しなければならぬ。『都市ゲリラ教程』銀行襲撃

ローラー作戦によるアジットの壊滅

さて、その『連合赤軍』はなぜ妙義の山などに寒い季節にもなるようになったのだろうか。具体的には、警察側のいわゆるローラー作戦で、京浜地区のアジットを次々とあばかれたことに

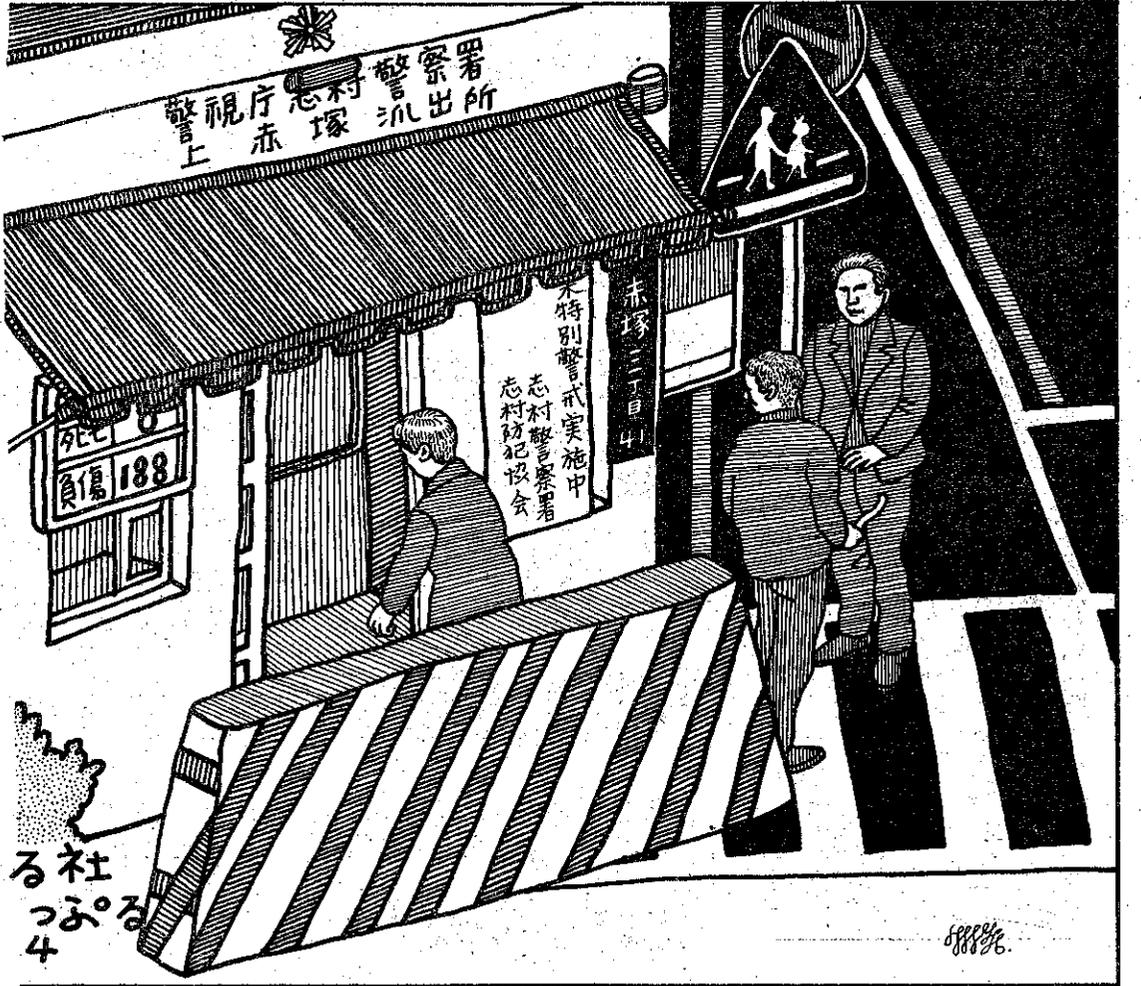
ある。真岡の銃砲強奪事件の直後には、埼玉原小山の借家のアジットを発見されてピラなどを押収されたこともあったし、四月には大阪門真市の最高幹部石井功子

(28)のアパートを捜索されてコースマイトを百二十五本もかくしていたのがみつかった。さらに昨年十一月二十一日に府中市のアジットがみつかった。訓練用の弾丸(SPL 38口径)

二十八発を押収され、部屋に居合わせた加藤能敬(22、和光大生)、長坂俊子(22、看護婦)ら四人が逮捕され、同日アジトに近い武蔵境駅ホームで、横浜拘留所に入所中の京浜安保共闘の最高幹部川島豪の妻川島陽子(28、元小学校教員)も逮捕された。彼女は変装用のかつらをかぶり、指先を全部薬品で焼いて指紋を消していた。

その翌日には、横浜の鶴見区と南区の横浜国立大生のアパート二カ所が家宅捜索され、鉄パイプ爆弾二個、手製爆弾の未成品一個、爆薬の原料である除草剤四袋、アルミ粉、電池、時限用タイムスイッチ、爆弾をこねるスリコギ、皿に到るまで、爆弾製造の七つ道具一切を押収され、男女の学生も逮捕された。

これら逮捕者の中でも、川島陽子は夫とともに京浜安保共闘の代表格の一人で、真岡の猟銃強奪事件の容疑者とされる安保共闘幹部坂口弘の援助者でもあった。彼女の逮捕は秘密アジトの大事な支柱を失わせることにもなったであろう。そのほか神奈川県南武線河原にある連合赤軍幹部吉野雅邦(23、横浜国立大生)のアパートも捜索された。まさに警察側の捜索に追い立てられる感じである。



彼ら連合赤軍の棲息する場所は、こうして東京周辺から次第に奥へ奥へと辺境を求めることになったのもあろう。しかし、いっそう積極的な意味があったことも考えられる。すなわち厳寒の季節における山岳アジトでの訓練である。『都市ゲリラの技術的な準備は肉体の訓練から始まって、あらゆる種類の技術、とくに手工業的な技術についての知識と習得につづく。都市ゲリラは組織的に訓練してこそはじめて物理的な戦闘能力が得られる。戦闘の技術を熟知していなければよい戦士にはならない。だから都市ゲリラは、攻撃、個人防衛など多様な戦闘について学び訓練しなければならぬ。肉体の訓練に役立つことは、森林の中で生存するためハイキング、キャンプ、その他の訓練、登山、ボート、水泳、スキング、釣り、潜水夫としての訓練、釣り、モリ打ち、狩猟などである。』都市ゲリラ教程「都市ゲリラの技術上の準備」

ごろには、神奈川県、丹沢山中のキャンプ場にテントを張ったこともある。しかし、冬になるとキャンプ場にとり残されたテントは人目につくし、長期間の合宿には適さないため、十月二十九日にテントをたたんで下山し、十一月に入ると榛名山中の山小屋アジトに移った。後に一月八日テント設置のあとに「爆弾工場」の痕跡が発見された。アジトはあくまで彼らにとって革命のための作戦会議の場所であり、ゲリラのための爆弾の製造所である。すっかり落葉した荒涼とした山腹の雑木林のかけの小さな小屋に、彼らは三人、四人とグループをつくった。幹部の全員が集まることは決してなかった。

『武器、弾薬、ダイナマイト、爆薬、自動車合理的に準備する時には、一つの弾薬倉庫に集めてはならない。保管場所を分散し、不測の事態によって同時に全部が失われてしまうという危険を避けるべきである。』(「都市ゲリラ教程」弾薬類は分散して保管せよ)連合赤軍がこうしてキャンプや山に籠り出してから、不思議なことに、東京のあちこちの交

12-18 柴野虐殺弾劾支援委員会



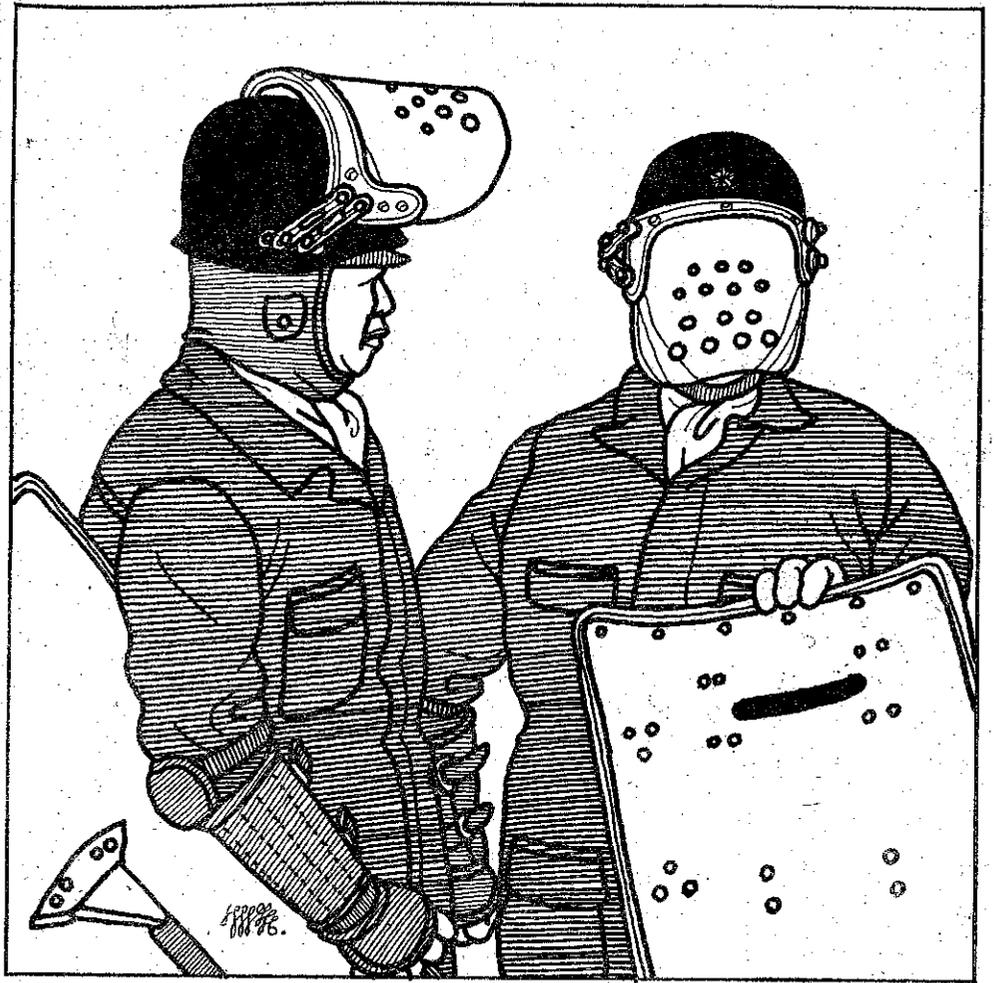
12-18

編集 12-18 発行元 もつぷ 関西モ 4-7-1

- 番で爆弾騒ぎが続いた。
  - 9月18日 東京杉並区高円寺 駅前派出所。
  - 9月22日 東京新宿区第四機 動隊寮。
  - 10月16日 東京世田谷区警視 庁職員寮。
  - 10月18日 東京葛飾区警視庁 家族寮。
  - 10月23日 東京代々木署清水 橋派出所、荻窪署 四面道派出所(未 遂)。
  - 10月24日 東京板橋署養育院 前交番、板橋署仲 宿交番(未遂)。
  - 10月25日 中野署、本富士署 弥生町派出所。
  - 11月17日 東京目白署長崎神 社前派出所。
  - 11月18日 東京上野署竹町派 出所。
  - 11月21日 東京大塚署江戸川 橋派出所。
  - 11月27日 東京杉並署 出所。
  - 12月14日 東京中央署管内派 出所。
- そして、一年前京浜安保共闘の横浜国立大生柴野春彦の死からちょうど一周忌に当たる十二月十八日午前、警視庁土田国保警務部長の東京雑司が谷の自







屋の外へ出て行った。老人がちよつと顔を置いて女の姿を求めると、はるか湖畔を走りさって行く。

老人があわてて彼女のあとを車で追ってつかまえると、「逃げようと思つたけどダメだったわ」と観念したようにいった。

老人は赤ん坊を押つけられてはたまらないので、身元引受人はないかと彼女に尋ね、湖畔の派出所の警官に引き渡した。

彼女は警官に「長坂俊子」と名乗り、千葉県柏市で保母をしているという高校時代の友人の名をいづた。友人にはすぐ連絡がつき、わざわざ榛名湖まで迎えにくると言うので、長坂俊子は警察の車で高崎署に送られ、そこで保護された。

二十一日、川島陽子が逮捕されたとき、府中のアジトで逮捕され、まもなく釈放された京浜安保共闘のレボだったのである。警察側では、すぐに榛名湖畔のアジトがあるにちがいないと推理した。長坂の連れてきた赤子は、彼女自身の生んだ赤子かどうかはわからないが、アジトにひそむ幹部のだから父親で、ひょっとすると近く大きな行動に出るので、その前にシャバの子どもの顔を見ておきたいといったのではないかと、それで長坂は子連れ役を引き受けたのかもしれないと、公安筋は判断した。

住民からの情報も入った。子連れ女の長坂の現われた日の夜、大きなリュックサックを背負った若い男女四、五人が、榛名湖畔からバスに乗って立ち去った、そうだった。

警察は榛名周辺の搜索を始めた。すると、十四日になって、榛名山の蛇ヶ岳と沼尾川の間の深閑とした雪の中の沢の斜面の五層四方ぐらゐの空間に、焼けぼっくりがのぞいているのがみえた。

屋根用のトタン板などの残骸がみつかった。小屋は七日に焼かれていた。長坂もそのとき小屋を出たのかもしれない。

しかし、数十個の空カン以外はグループの行く先を示すようなものは何一つ残されていなかった。

『武装行動に没頭している革命家は、つねに危険に直面しており、革命は徐々に一つ一つ成就していくといった代物』

### 残され過ぎた行動の痕跡

第一のアジトが発見された二日後に、沼田市上野町の、むかし天狗が住んでいたという伝説のある迦葉山の山の斜面に丸太を支柱にし周囲をトタンでかこつた第二のアジトの小屋が発見された。表口と裏口があり、いろりをつくってそこで炊事をしたあともあった。土の中から三十個の乾電池と、シヤヘル二本が押取された。それに騰写版から吉野の指紋が出たのも前述した通りである。

『足跡を消すことはゲリラの義務である。敵に情報を与えるいかなる手がかりも残さぬように、細心の注意を必要とする。指紋一つ残さぬように』

ではないことをよく知っていた。

だからわれわれは、住所、氏名、電話番号の控え、連絡場所などをノートに残しておくなどのことは絶対にしてはならない。また手元に地図、図式、計画、手はず書などを所持しておくことも避けるべきである。革命家は記憶によつて任務を遂行しなければならぬ。『都市ゲリラ教程』証拠隠滅)

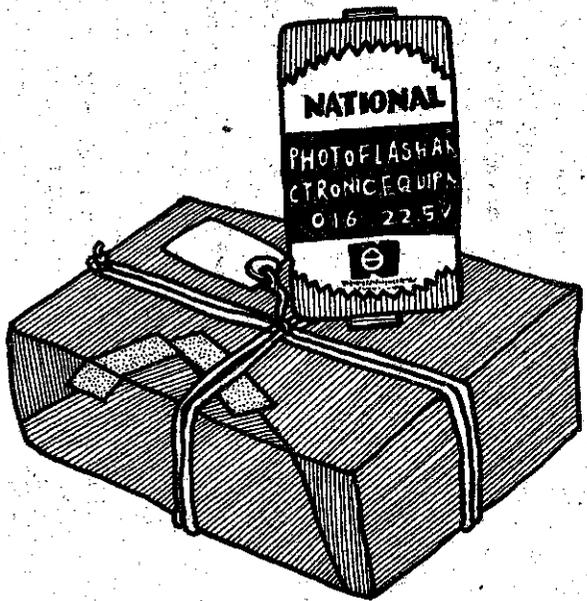
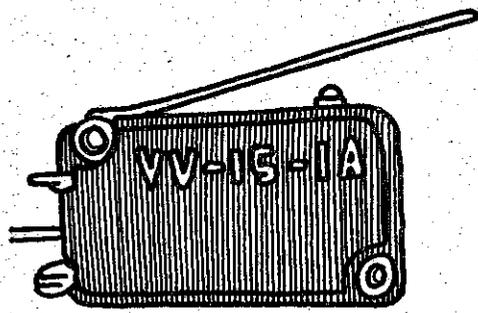
消さねばならない。これらのことに関するゲリラの注意欠如は、われわれ自らにあつたとまで不安な状態を増大させる原因となり、不運にも敵の手におちることもなりかねない。『都市ゲリラ教程』証拠隠滅)

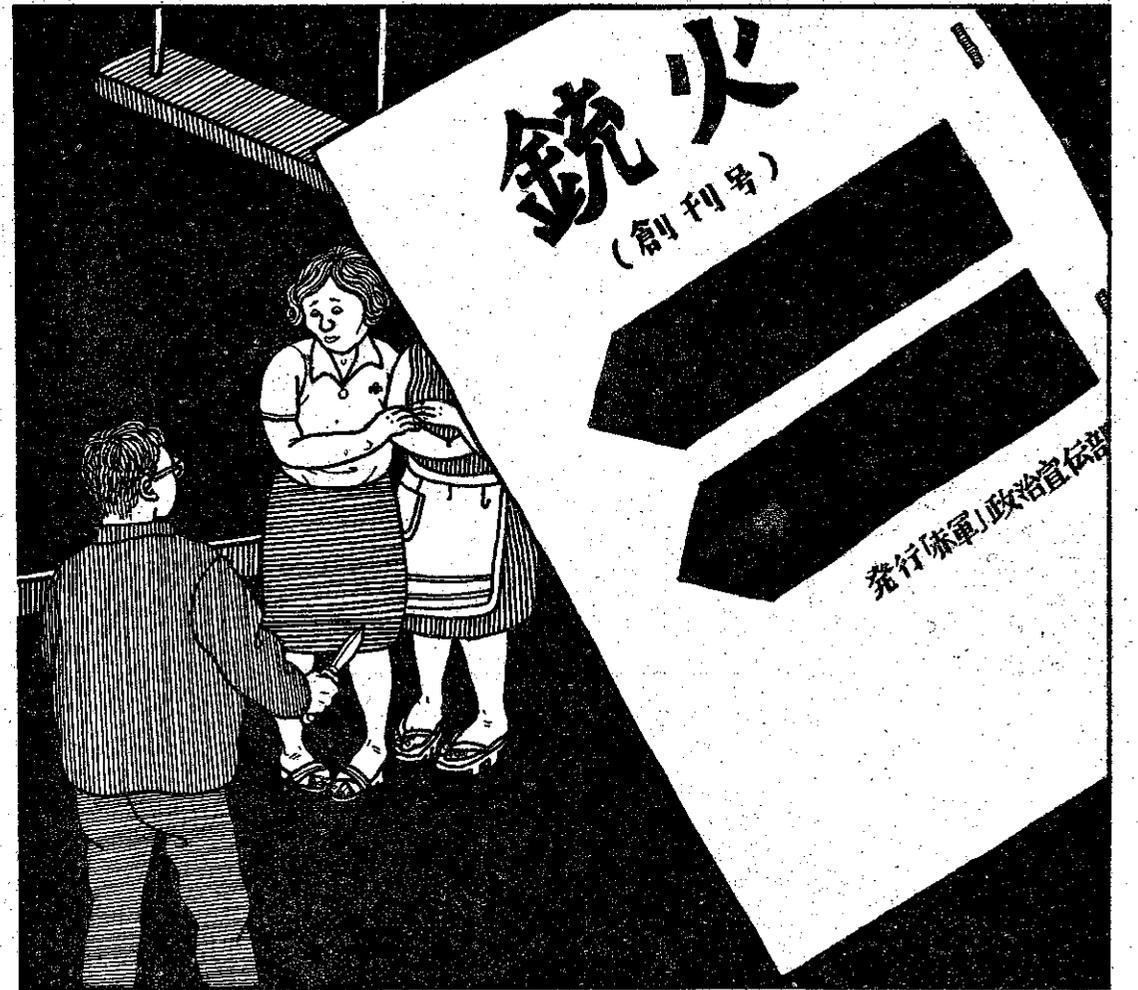
翌日の午後には妙義山麓の松井町五科の第三のアジトが発見された。幅四尺、奥行十尺のほら穴で、高さは約一尺から十五尺、床を五十センチほど掘り下げて、床と天井の空間を広くしてあった。入口には土を盛って木わくを組んで格子のようになっているが、高さも幅も一尺ぐらゐに狭めてあった。

ここで発見された鉄パイプ、寝袋、リュックサックなど生々しい大量の遺留品からは、赤軍派幹部植垣康博、京浜安保共闘

幹部寺岡恒一と坂口弘の指紋が発見された。警察は、長坂俊子が榛名湖畔に現われたとき、彼女がそばに

佇んでいたというライトバンの行く方も気にしていた。すると、十六日午後、妙義山の近くでライトバンともども奥





沢修一、杉崎ミサ子がつまみだ。奥沢と杉崎はこのとき延々九時間も車内からカギをかけて籠城しインターを歌い、杉崎は窓越しの機動隊員の視線をもとめせずに、車のフロアへ二度までも堂々と尿を放出して、山できたえた剛勇ぶりを示した。警察側は最後は車のガラスを破って逮捕したが、ライトバンは奥沢が十三日東京文京区白山のレンタカーサービスから、すし屋店員と偽って七日の契約で借りてきたものとわかった。

次の日スーパー林道わきで二十人の機動隊員と遭遇した森恒夫と永田洋子は、さらに勇猛ぶりを示した。二人は沢を渡ろうとした吉崎巡査部長目掛けて登山ナイフを構えてとびかかってきて、「この野郎！」と唸り声をあげた。

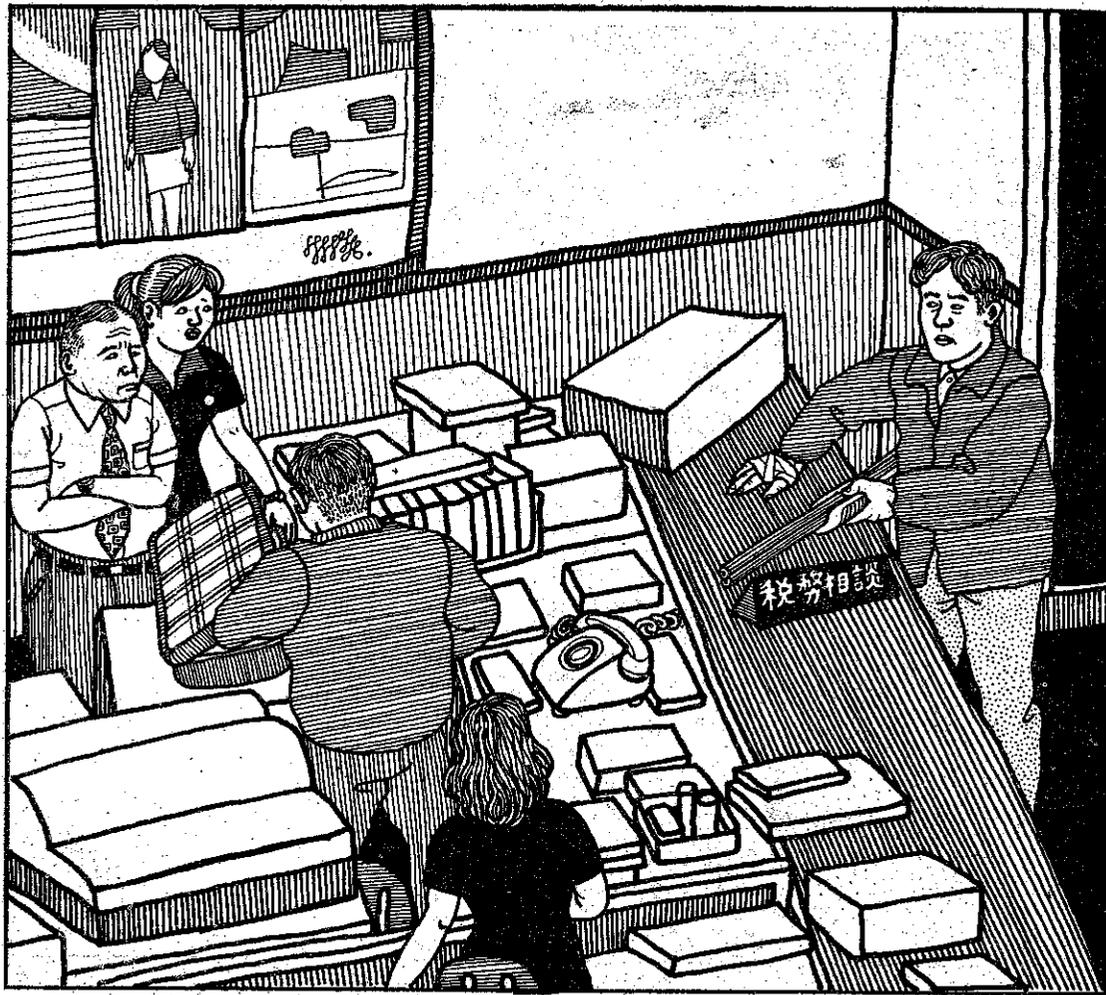
「抵抗すると撃つぞ！」と吉崎巡査部長が短銃を構えたが、「撃てるものなら撃ってみろ」森は叫んで組みつき空へ向けてビストルを発射した吉崎巡査部長が木の株につまずいて倒れると馬乗りになってナイフで左ひじを刺した。ビストルはさらに二発威かく射撃された。そこへ機動隊十人が駆けつけてき

て、永田と共に逮捕した。だが二人ともすごい臭臭を放っていた。特に永田は捕えにきた機動隊員も我慢できず、屍体検視専門の刑事に代わってもらったが、その刑事もこれほどひどい匂いは初めてだといっていた。

森恒夫は、カーキー色のジャンパーの内ポケットに現金三万四千三百九十九円、永田洋子は四十六万一千円、二人合わせて約四百万円近い現金をもっていた。

そして、二月十九日朝、軽井沢駅で植垣、青砥、寺林、伊藤の四人が逮捕された。妙義に追い立てられた連合赤軍は、いまや追いつめられた状況だ、と警察は判断した。

奥沢と杉崎のライトバンを降りた三人の男たちは、その後通りかかった土木会社のトラックをとめて、「野鳥の研究で妙義にきてるんですが……」といってヒッチハイクしたこともわかった。指紋照合の結果では、吉野雅邦、坂口弘、寺岡恒一、それだけの手配中の連合赤軍幹部の名前が未逮捕者のリストに浮かんでいた。長野県警では逃げた三人にその三人の名前を一応符合させたりして、余裕をもって別荘地の捜索にのぞんだのである。



### 戦闘グループ軽井沢に出現

「都市ゲリラが機能するためには、少人数のグループに組織されねばならない。ここでは、四、五人を越えないグループを、戦闘グループ」と呼ぶ（『都市ゲリラ教程』戦闘グループ）

南軽井沢の軽井沢湖の周辺や、裏手の小高いいくつかの山や丘をつないで開発した軽井沢レイクニュータウンは、森と湖の園レイクタウン、と森とチャップレーズのままに、いかにもコマージュリズムによってつくられた新興別荘地の感じだった。

池ぐらいの大きさの湖のそばに、スーパーやボウリング場や、レイクサイドのボートの遊び場などがあり、軽井沢の駅からそこまで五、六分間の間に、ゴルフ場も左手に開けている。カラマツの林や丘のふもとや山の中腹をうねうねと登る、青葉通り、だの、唐松通り、だの、月見草の小路、だのと名付けられた道に沿って、まだらに立つている別荘や保養所は約五百軒あまり。NHKや河合楽器、聖心女子大などの保養所や寮もあるが、

地元の人々の話では、各界実力者といった人たちの、愛人など住まわすための息抜き場所ともなっているというのだ。

二月十九日午後二時四十分ごろ、レイクニュータウンの凍てついた深い雪を踏んで、長野県警機動隊の町田勝利巡査部長（28）ら五人の隊員が、通称、唐松通り、にさしかかったとき、住んでいる人がいないはずの空き別荘、さつき山荘の方角に、約四十坪の積雪の上に一筋の足跡が続いている。「これはおかしい」と隊員は一樣に思った。

そこで、大野耕司巡査長（28）ともう一人の隊員が足跡を辿って山荘の玄関へ達して、入り口のドアをどんと叩いた。中から何の応答もなかった。だれもいないのかな、大野巡査長がそう思ったとき、突然さっさとドアが開いて、黒っぽいむじむじ風のようなものが襲ってきた。黒ジャンパーの大柄な男が目の前に立って短銃を構えているのだ。大野巡査長は思わずひるむと、「グーン」とさきまじい銃丸の炸裂音が出て、光が顔をかすめてとんだ。本能的に二人の機動隊員は雪の中に伏せをした。



そして夢中で後ずさりした。そして腰のピストルをとって発射しながら後退を続けた。

三人、四人、五人まで増えた。そして全員が銃器をかまえて射つてくる。

大野巡査長は、ビューンという音を耳のそばで二度三度きいた。ピストルの弾は七、八十発隔たった五人までは届かな

い。くそ、と大野巡査長が思ったとき、バシッと一度に金属の球で顔を打たれたような、ひきつれたような感覚が顔面にはしつた。思わず手をやった。鮮血だ、雪の上にもグラグラと流れた。「やられた」と全身の力が抜ける思いだった。ほかの隊員があわてて応戦にかけつけた。が、銃弾がとんでくるので近づけない。撃ち合いが続く。大野巡査長は散弾で顔面のあちこちを射たれ、四十人あまり銃声をきいてかけつけた武装隊員とすれちがいに、雪の路を踏んで隊のジープに迫りついでた。

しかし、現実にはそうした事態が発生した場合、ある地点を占拠し、可能な限り長期間、反動の力を分散させるように努力すべきである。もし占拠者たちの資力がつきた時は、深く占領地を放棄し、事前に周到に用意していた計画にそって退却すべきである。そして決して事前に爆薬、火炎ビン、銃、弾薬を十分に準備せぬまま、いたずらに占拠などという戦術を議論してはならない。

「都市ゲリラは、農村ゲリラと同様、機敏な機動性を要求されるものであり、固定した一定地点や一つの地域の防衛に没頭してはならない。

長野県警の側は、いきなりの銃撃と巡査長の負傷で明らかにたじろぎ、適確な対応策を直ちに打ち出せぬまま、突然出現した連合赤軍の戦術グループに次の行動に移る時間を与えた。

た。しかも現に、予想し得た三人を上回る五人の男が空き別荘を拠点に積極的に攻勢に出て、包圍しようとした機動隊員を尻目に転進して行ったのである。知らせをきいた長野県警本部は、防弾チョッキや鉄カブトで完全武装した百人の警官隊を繰り出した。が、彼らが現場に着いた三時半ごろには、五人の戦

闘グループはさつき山荘裏から五百メートル山の手へ登った河合楽器の寮付近に達し、少なくともグループの何人かはその第二の山荘「あさま山荘」に入りこんだ雪上の足跡があった。

から山荘を包圍する形で迫ろうとした。が、城のようにそそり立った「あさま山荘」の三階のバルコニーに、早くも銃をもった一人の男が現われ、警官隊を銃撃した。隊員の一人永瀬洋一郎巡査がたちまち腰に散弾を受けて、雪の上に身を沈ませ、うめいた。

ださい。そうすればあなたに危害を加えることはしません」それから、泰子にこたつたのふとんをかおせた。彼女は払いのけようとしたが、五人の男たちは居間から彼女を連れ出し、それがすぐに三階のほかの部屋を偵察したのか、つき当たりのホールの隣の、二段式のベッドが五つ六つ並んでいるベッドルームのある、いちようの間まで歩かせ部屋に入るとソファ形式の長椅子に彼女を押し倒した。

アサマ、フジサン、クテヤマ、キリシマ、アカギ……そんな合言葉をまじえながら、彼らは手短かにひそひそと会議のようなものを開いている声があった。その中から一人がホールのペランダの戸を明けて外に出て行った気が配がした。ダーンという銃声が二発、三発ときこえた。

# 突如、あさま山荘に五人が乱入

「占拠はつねに時間の限度があり、敏速であればあるほどよい。占拠はなんらかの宣伝を行なう目的で、敵に一時的に抵抗するために、特殊な施設や場所にゲリラが自ら踏み止まる場合に用いられる一種の攻撃である」(都市ゲリラ教程「占拠その二」)

山荘には、その日男三人、女三人、合計六人の本田技研の社員の客が着いていた。いずれも軽井沢でスケートを楽しみにきたので、十分ほど前に、夫の郁男は案内がでら愛犬のチロをつれて、六人の客といっしょに外へ出かけた。

ては早過ぎる。客たちが忘れものでもして帰ってきたのかと思つて、泰子は立ち上がり、居間の入り口から廊下に顔をのぞかせると、出かい頭にジャンパー姿の男たちが入ってくるのどぶつかった。

おとなしくしていれば何ももしない、といわれたので、あとはもう彼らのいうままにおとなしくしているほかない、と彼女はとっさに観念した。それに連合赤軍だと名乗られたので、どうせ学生だし悪いことはいないはずだという信頼みたいなものが、最初から彼女の中にあつた。

この人たちは「あさま山荘」にこもるつもりなんだな、と泰子にもそのことだけはわかつた。いつまでなんだろう？ 泰子はしばらくは待っているのに、客を迎えたと同じに滞在日が何日だろうと、ふとそんな心配をしているのだった。

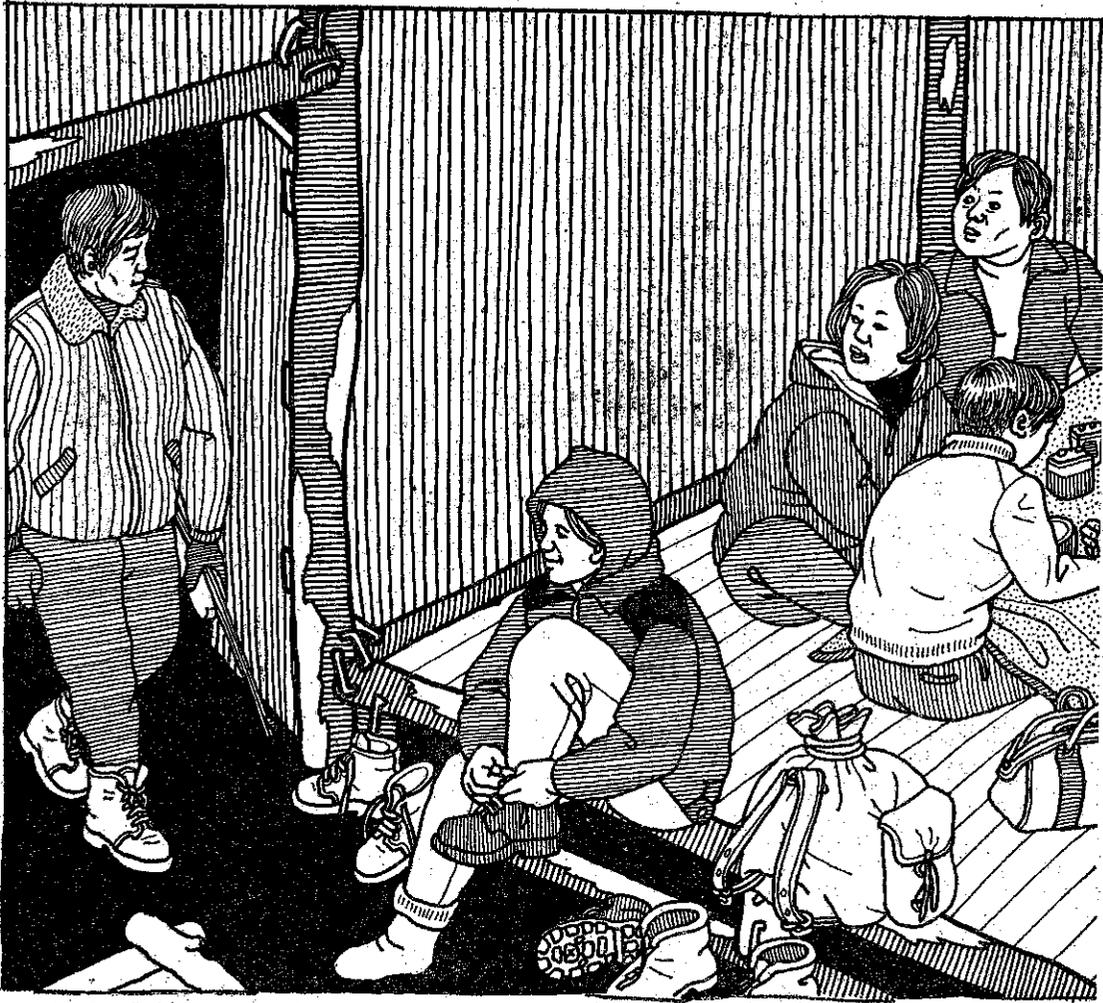
「あさま山荘」の管理人牟田郁男(36)の妻牟田泰子(31)は、そのとき玄関に入って廊下伝いにすぐ左手にある三階の管理人室の居間のこたつに入って、カラーテレビをみていた。三時半からの歌謡番組が始まろうとしているところであつた。

すると、玄関のカギのかかっているはずの開きのドアを、ドンドンと烈しく押しこんで人の入ってくる足音がした。夫にし

「静かにして。動かないで。われわれは連合赤軍のものです。革命のためにこうやって戦っています。おとなしくしていてく

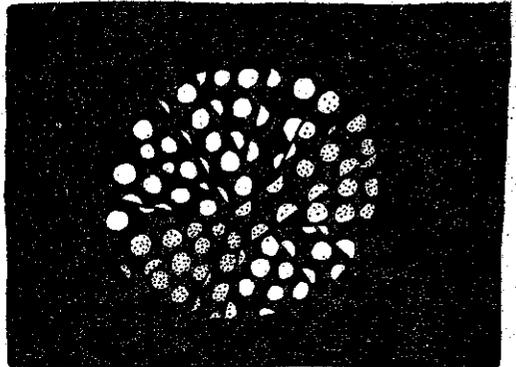
そのまま彼女は長椅子の上に寝転がされて置かれた。夢をみているんじゃないかしら、という気持ちもきざしていた。

「二つの戦闘グループが、戦闘チームを形成する。戦闘チームは、他の武装チームからは隔絶され、一人または二人の人間によって指揮され



# 世界革命運動情報16

編集 世界革命研究会 / 発行 レポルト社



<全ページ特集>  
アルベルト・ナバーヨ  
ゲリラ戦教程  
(全訳)



る。戦闘グループの間では隊員相互間に完結によつて全な信頼関係がなければならぬ。射撃が一番うまく、機関銃の扱い方もっともよく知っているものが作戦の責任を持つ。

グループのそれがどのような行動をしたかを知る必要はない。というのは、イニシアチブは自由であつて、ただ一つ重要なのは都市ゲリラの行動力を増して政府を疲労させ、守勢に立たせることだからである。(都市ゲリラ教程「戦闘グループ」)

『いかなる行動を起すときにも、行動を遂行するための

方法や人間の配置を考慮しなければならぬ。技術的な準備を要する行動や作戦は巧緻な技術に欠けた人間では遂行できない。これらに注意しつつ、都市ゲリラが遂行しうる行動様式は次の通りである。

- a、襲撃。b、奇襲と潜入。
- c、占拠。d、待ち伏せ。e、市街戦。f、ストライキと作業放棄。g、脱走、捕獲、武器、弾薬、爆薬の奪取、流用。
- h、囚人の解放。i、処刑。
- テロ。j、誘拐。k、破壊工作。l、m、武装宣言。n、神経戦。(都市ゲリラ教程「都市ゲリラの行動様式と性格」)

## 人質拘留で警察側が狼狽

山荘の中はひっそりとしていた。管理人の主婦の妻は長椅子に寝転ばされたままだし、入ってきた五人の男たちは年若い一人が妻の足元で寝たが、ベッドルームに残った以外は、ベランダの内側や、玄関脇や、管理人室のテレビの前で、銃器をもってひっそりと外界に対峙していた。

午後四時半過ぎ、ひっそりした山荘をめぐって、外界はめまぐるしく、騒々しく空転と空騒ぎを始めていた。

妻の夫の山田都男は、三時半ごろレイクニュータウンの山道を降りたとき、パトカーが何台も登ってくるの行き止りがった。妙義にいたという連合赤軍とかいう連中の山狩りでもするのかなあと思いつつ、彼はレイクサイドのスーパーで買い物をすませ、四時過ぎごろ再び山道を登ってくると、警官隊や、装甲車や、新聞、放送の車などがわが家に近づくにつれて身動きならぬほどに増えてきた。最後に家の近くの山坂までくる

と、機動隊が非常線を張って先に進ませない。

「あさま山荘に銃をもった連合赤軍がこもってるんだよ」

初めに警官に教えられて山田都男はとび上がった。何てことだ。家を目の前にして、自分の家なのにそこに入れないなんて。おまけにそこには女房一人を残しているのに、乱暴者の学生どもが五人も入りこんでいるなんて、なんてこった。

しかしいくら動転しても憤慨しても、非常線の家には近づけない。警官はいう。

「やつらは銃をもってるんだよ。危ないよ。死んでもいいのよ」なんてこった、外にいるおれさえ銃で殺されることがあるんなら、中にいる妻の恐怖はどんなだろう。なんでまた連合赤軍のやつらは選りに選っておれたちの山荘なんかに入りこんだんだ。それもおれが出っ払って間に――。

「うちの女房は気も錯乱してるでしょう。学生だなんて、やつらなんか学校にもろくろく行っていないでしょう。インテリなんかじゃありませんよ。何をするかわかったもんじゃありません。第一卑怯ですよ、女を人質にとるなんて――。ああ、女房に生命があったら、ああ、ぼくが代わってやりたい気持ちです

よ。ほんとに――」

あさま山荘からは目と鼻の先、二百メートルの距離にあるNHK山荘に避難させられ、困らされた彼は、NHK関係者に多弁に苦衷を語った。そのNHKのテレビとラジオが早くも「あさま山荘事件」の放送を始めた。

「主婦山田都子さんを入質にとつて立てこもった連合赤軍の犯人たちの一味は、その後も外からの呼びかけには応答せず、ときおり銃を発射しています。人質の安否が気づかわれています」

機動隊員は八百人あまりに増え、いずれも防弾チョッキをつけて山荘の回りの山かげや、坂の下に陣取った。五時二十分、もう暗くなり始めた山荘の窓から三発銃が機動隊の中に撃ちこまれてきた。そのあとパルコニーにたたみや椅子でバリケードをつくる人影がみえた。

午後四時半、長野県警は東京の警視庁にライフル狙撃班の派遣を要請し、オリンピックの射撃選手保坂警部以下十名のライフルの名手が軽井沢へ急行してきた。

だが、山荘の入り口は道路から二、三層下つて入る崖下のようなどころにあり、裏側は切りたつた断崖に三階建てが城のよ

うにそりたっている。集まってきた二、三百人の報道陣が早くも、天然の要害と異口同音に名付けた山荘に、真警機動隊は近づきかねていた。暗くなった中で、警察の拡声器が、かみ高い声で山荘に向かつて呼び始めた。

「諸君はすでに完全に包圍されてお逃げることができません。すぐ銃を捨てて出てきなさい。ムダな抵抗は止めなさい。人質をとるのは卑劣な行為である。直ちに人質を返さなさい。」

思い出したように銃銃の発射音がきこえる。しかし、その銃声さえもしばらくは途絶え、全く何の応答もない。警察側は山荘内の情報を全くつかみあぐねて、すでに初日の段階から、あせりの色を濃くしていた。

何よりも、さつき山荘からとび出してきた連合赤軍グループは五人だったが、そのうち何人があさま山荘にこもって、何人が他へ逃げたのか、内部の人数さえもつかめていないのである。連合赤軍グループは一度に二人以上は姿をみせない。銃をもちらりと顔をみせ、銃を放射して、すぐに中に引込む。そして主婦半田泰子の状態などを察しようもない。何の声もきこえない。時折りの銃声以外、山荘

は常に押し黙っている。

「われわれの勢力が少数であることを、敵に決して気づかせないようにしてはならない。敵はわれわれの勢力を知らなければ、あれこれと思いつく巡らし、種々の不安感から

### バリケードで機動隊襲撃に備える

翌朝の新聞は、狂気の集団が婦人を入質にとった恐怖の一夜といった見出しで、いずれも妻を返せ、という、半狂乱の

夫半田郁男の声をかけたが、かみ高い赤軍の人数は二人ないし五人の幅の中で、全くまちまちであった。

恐怖の夜を明かしたはずの泰子は、夜中しばらくはたま長椅子で過ごし、うつらうつらして気がつくとおぼろ汗をかいたりしていたが、夜が明けると手足のビニールの紐もどかれ、

「一応ベッドルームの中にいてほしいが、室内では本を読もうと、編み物しようとする自由にしていてくれ」とアサマという長身の男にいわれた。

ベッドルームに二台のカラテテレビも運びこまれ、それをみるのも泰子は自由だった。食事には彼らがつくってきいてきてく

見通しのたない迷路に陥ってしまふであろう。その間、われわれは敵の行動を観察して、十分損害を与えることのできる機会をうかがい、その時にはただちに攻撃を加える。

敵は、われわれがどこから、

れた。飯の炊き方も、目玉焼きの半熟のつくり方も、味噌汁の煮過ぎない加減も、堂にいったうまいものであった。何日こういう状態が続くのか知れないけれど、その間炊事はしなくってすむ、骨休みさせてもらっているんだと泰子は考えることにして、二、三人ずつ交替で食事する彼らと、ベッドルームで筆を動かした。

「クリシマ」と呼ばれた十九ぐらいの少年が炊事をしたらしく、泰子に、

「あんたのご主人は米が二十二、三キ、みそ、しょうゆ、それに六人の泊まり客用のトリのモモ肉、ニジマス、いろいろあるから一ヶ月は食いつなげるっていったって言うけど、そんなに食糧はないねえ」といった。山荘の中には新型のFMラジオが三台あった。そ

どのように、いつ、攻撃してくるのかまったく知らない。もしわれわれの考えを察知し、敵が警戒を怠っていない時には、われわれはただちに計画を変更しなければならぬ」(「都市ゲリラ教程」人数を敵に知られるな)

れをグループは分けて手もとに置き、外の声をキャッチしている様子だった。

「トリの肉やニジマスは、あなたたちが入ってきたとき、うちの人が買いに行ってきたのよ」

「じゃ、それをもつて旦那さんに入ってきてもらおうか」

「クテヤマ」と呼ばれる肩の濃い二十五、六の男が冗談をいって、トイレに行くときは不自由だった。やはり逃げられては困るのか、十六、七の一番若い、アカギ」と呼ばれる少年が、四層ぐらいの腰紐の先を彼女の腰に結わえて、玄関脇の洗面所と隣合わせたトイレまでついてきた。そして戸を半分ぐらい明けたままで、彼女が洋式便器に腰かけて用を足す間、少し離れたところで腰紐の先をもつて、彼自身固った様子でこちらを見な

いようにじいっと固くなって反対側を向いて立っているのだ。用を足しながらちらとその後ろ姿をみると、撫で肩の肩のあたりはまだほとんど少年ばく、可愛い感じさえあった。

「トイレのお伴は、アカギ」といふ少年の役に決まったようだった。このことばかりはがまんもならず、泰子もその後は、「わるいけど、アカギくん、ちょっと」

と頼んでは生理的要求をすませた。朝食後彼らは階下の二階のしらかばの間、かえでの間、さらには一階のあかしやの間、からたちの間といった客室の畳をはがして、三階まで運んだ。そして、決して同時に三人以上は姿をみせない形で、バルコニーに楯のように畳を並べ、中にふとも敷いて外に対する監視哨にした。

彼らは二種類の泰子の女ものスカーフやネックチーフをかわるがわる頭にまきつけ、男とも女ともつかず、また同じ人間かと思わせる工夫をして、バルコニーにきわめて短い時間だけ身をさらした。外から新聞社のヘリコプターが近づくと、それに向けて銃を発射した。泰子が午後トイレに行ったと



き玄関横をチラとみると積み上げられた椅子やガラクタのバリケードをつくった横で、フジサンと呼ばれる髪のもじりもじ

や長い面長の男が長身の、アサマに銃身の短い散弾銃の操作を習っているところであった。

「都市ゲリラの武器は軽火器である。通常それは敵から奪ったり買ったりしたものである。軽火器は簡単に組み立て

### お涙頂戴式の権力側作戦

籠城二日目の午前十一時、外では、長野県警の機動隊だけでは鎮圧は無理と判断した警視庁応援派遣の第七機動隊の装甲車に、半田郁男と泰子の叔父の山岸袈裟人(62)が乗りこみ、あさま山荘裏の百五十以下の道路の散弾射程距離内まで進み運転台から、

「泰子、きいているか、オレだ、がんばってくれよ」  
「わかるかい、オレだ、いま、下のほうから呼びかけているよ。心配でみんなきていて、どうだわかるか」

と、こもごも呼びかけた。午後一時ごろには、九州の福岡の半田郁男の母光子(57)が、日航の一番機で東京経由軽井沢について、おろおろした涙声で、「泰子さん、早く、無事に出してもらえようお願いします」

い場合、下手な射手にも役に立つ。

手製の武器は、ふつうの工場で製造された最良の品質の武器と同じほどにその効果を発揮する。銃身を切った散弾銃でさえも都市ゲリラにとって上等な武器である。(「都市ゲリラ教程」都市ゲリラの武器)

い。叔父さん、叔母さんたちもみな九州から飛んできて応援していますから力を落とさずがんばるのですよ。泰子さん、あなたばかりが弱いのだから、中の人に頼むのですよ……」

だが、外に向かって中からの声も反応もなかった。ただ、新警視庁機動隊の旗に向かって、ペラペラと銃声がきこえた。

弾は山荘の真下の山陰に据えられた望遠カメラの間近な雪をはね上げ、すぐそばのカラマツの幹にビシッとめりこんだ。「腕がいいな、ちくしょう」と機動隊員たちはあわてて雪に半ば埋もれた楯のかけに身をちぢめた。相変わらず、山荘内の連合赤軍の人数も泰子の動静も皆目つかめなかった。

ただ彼らが前日脱出したとき山荘の捜索で、実弾をこめた猟銃四丁とモデルガン一丁が発見された。その場に脱ぎ捨てられた泥まみれのズボンやキャラパンシューズ、シャツなどもあったところから、連合赤軍の五人は着替え中に警官に踏みこまれそうになり、あわてて各自が銃一丁ずつぐらいをもち、あとは捨ててとび出したものと推定した。

もともと昨年二月栃木県真岡の銃砲店から盗まれたのは猟銃十丁と空気銃一丁の計十一丁。それに銃弾二千三百発である。このうち猟銃一丁と空気銃一丁及び銃弾千七百発は、長岡市のアジトにかくしていたのを事件の十日後に発見されて押収された。残りの九丁の猟銃のうち二丁は赤軍派が昨年七月二十三日米子の松江相互銀行米子支店を襲撃したときに使い、二丁とも押収された。

従って残る銃と弾薬は、銃が七丁、銃弾が六百発ぐらいという計算になる。しかし、連合赤軍は、そのほかにすでに逮捕されている京浜安保共闘の幹部中野文雄(22・横浜国大生)が前に東南アジア旅行で買った米國製38口径リボルバー型のピストル一丁と実弾百発を入手している。さらにライフル銃も、赤

り、せめてチロがいたら妻も元気づくでしょうに、こうやってチロをみていると妻を思い出して……」

と、鼻をすすり上げた。弁当を食べながらヤツケを着た若い記者が別の社の記者と雑談していた。

「要するに、ああいった平和民主のマイホーム性みたいなものの、それにも連合赤軍のやつらは挑戦してることなのかなあ。マイホームの備前の眠りを覚まさせようってことなのかなあ……」

だが、昼間、牟田郁男の声が山荘の中で筒抜けにきこえたとき、妻の泰子は思わず唇のふちに微笑が浮かび、赤軍派の「フジサン」も彼女に、「ご主人も何も警察の車から呼びかけたりしないで、玄関からでもどこからでもくれば、あなたに会わせてあげるのに……」と話していた。

警察は、しかし、そういう形で夫が山荘に近づくことはもとより、危険」として許さなかつたろうと思われる。

現に翌二十一日夜、新潟のスタック経営者である市民、田中保彦が、「身代わりになりたい」と申し入れて警察の非常線を通過しようとしたとき、警察は「危険」を説いて通行を許さ



軍派の逮捕者で猟銃免許をもつ関博明(23・明大生)が正式に購入したものの一丁、ウーマンリアの闘士で赤軍派の女兵士でもあった野津加寿恵(22・逮捕)が昨年十一月兵庫県尼崎の実兄宅から盗み出した米國製22口径五連発銃と実弾五十発もある。

これらとさつき山荘の遺留分を差し引きすると、あさま山荘の連合赤軍は、最大限猟銃、散弾銃五丁とピストル、それに弾薬千二百発をもっている計算になる。そのほかに連合赤軍が製造能力をもっているはずの爆弾が何発あるか、警察側はなお武器の総量を計りかねていた。

が、籠城二日目連合赤軍はヘリコプターに向けて一発、山荘東側の機動隊に四発の散弾しか打たず、手の内をみせなかつた。

警察は山荘を遠巻きにして、夜に入ってから「山荘の諸君、無関係な奥さんをお返しなさい」と、説得の声を送るだけだった。

粉雪の終日吹きつける中に立ちつくし、犬のチロを抱いた牟田郁男は何の反応も得られないまま、夜に入るとなお寒々と新聞記者に囲まれて、「チロはいつも妻と私の間に寝ていたんです。子どものない私ら夫婦にとっては、子どもがわ

ず、強いて通ろうとした彼を、むしろ拳動不審として事情を聴取したぐらいである。

山荘内から何の応答もなかったが、警察側にも報道陣にも、その段階で連合赤軍が管理人の妻牟田泰子に何らかの危害を加えているということを考えるものはなかった。

暴力、狂気の形容はたえず連合赤軍につきまどってきたが、人質に危害は加えない」というのも、どうやらよ号事件以来の彼らに対する通念であるらしかった。

「革命家による微発には、大小さまざまものがあり、時には微発によって破産のうき目を見た人も幾人かいる。この種の武装闘争は、いきおい盗賊集団と似たものになってくる。

しかし、両者の間の根本的な相違点は、革命家による微発が決して労働者や貧しい民家を対象とはせず、彼らの利益を侵害することがないという点であり、また損害を引き起こすようなこともしない。

さらに微発に際して人殺しは決してしないし、支配階級のよこしまな権力に寄与して

いる財産の徴発と守衛の持つて  
いる武器を奪うことだけに  
限っている。革命家は人民を  
攻撃しない。ただ、独裁権力、  
支配階級、帝国主義と闘うの

# 人質が危険」とことさら大宣伝

であり、そのためには、民衆  
の共感をわれわれは必要とし  
ているのである。  
盗賊の襲撃と外見は同じよ  
うな形態で徴発を行なって混

同視され、非難を受けないよ  
う、革命家は時間をかけて追  
跡されないように注意してい  
る」(都市ゲリラ教程「徴  
発」)

三日目の午前中にも十一時か  
ら十五分間、夫の郁男は機動隊  
指揮者の中から、  
「みなさんにお願します、家  
内は、泰子は元気でしようか。  
ひと目でいいから無事な姿をみ  
せてください。それだけです。  
お願します」

こえてるし、果物が置かれた  
こともテレビで知っていて、や  
っぱり心強く思っていた。そし  
て連合赤軍の連中と同じ部屋で  
ベッドに横になって、結婚して  
五年になる郁男との生活がい  
まさらのように振り返られたり  
もした。

実際、山荘内の泰子自身、連  
合赤軍のスイッチをひねるテレ  
ビの画面をみたり、FMラジオ  
の音を耳にしたりするとき、外  
から映される山荘の映像ととも  
に、

「ほんとうに人質泰子さんは無  
事でしょうか、ただもう無事を  
祈るばかりありません。連合赤軍  
の諸君も人間であるならば、  
人質に危害を加えるような  
ことだけは——」

「まだできないだけ……」  
彼女は笑った。  
下のホールにピアノのあるこ  
とを知っていて、「ピアノぐら  
い弾かせてあげてもいいんだけ  
ど」と、ふじさん、はそんなこ  
とをいって、

と哀訴の調子で訴えた。それ  
から、午後二時十分ごろ、妻の  
好きなミカンやリンゴ約二キロの  
入ったビニール袋に、妻宛の  
手紙を入れたのを、楯をもった  
「決死隊」の機動隊員に託し  
て、玄関の扉横に置いてもらっ  
た。手紙には、「泰子、がんば  
ってくれ。きみは身体が強く  
いから、ぼくがかわって身代わ  
りの人質になってもいいのだ。  
中の人にこのことを伝えて、わ  
かってもらってほしいと思いま  
す」——そんなことが書かれて  
あった。

福岡市の今川一丁目アパートの六畳一間に愛の巣を営み、  
一年半ほど経って、軽井沢にい  
る泰子の父から新しくできたレ  
イクニータウンの住み込みの  
管理人の仕事があるからぎたら  
どうだとすすめられ、それなら

外では自分のことを「人質」  
と呼んでいるが、ほんとうにそ  
うなのかと、ふじさん、や、あ  
さま、や、たてやま、にきいで  
みたい気持ちだった。彼らはお  
互いにくん付けで呼び合ってい  
た。それも鬱陶気をなごやかに  
していた。ふじさんも、た

てやま、も几帳面で真摯な人間  
にみえる。「あさま、はりーダ  
ーしかなかった。彼らが自分を殺  
したり傷つけたりするケースが  
あるうとは全く考えられない。  
彼らは彼女を、奥さん、とか  
「牟田さん」とか呼んだ。  
食事も三度三度食べられるも  
のを運んでくるし、応答は禁じ  
られていたが外からの夫の声は  
絶えずきこえる。彼らは入浴し  
た様子はないが、浴室で手足は  
洗っているのか、妙義や軽井沢  
駅で逮捕された仲間のように異  
臭を放っているなどということ  
もなかった。それが彼らとベッ  
ドルームの空間にいても、とく  
に変わった人間たちと非日常の  
世界にいるという感じを抱かせ  
なかった。

「都市ゲリラにつねに必要な  
ことは、大衆の代弁者とな  
り、大衆の支持を得ることだ  
である。われわれを包む大衆の  
支持を獲得するには、社会問  
題を執拗なまでに取り上げ  
て、都市ゲリラの叛乱を起こ  
すことである。重ねてくり返  
すが、これこそ大衆の支持を  
得る最上の方法である。住民  
の相当数がまじめにゲリラの  
行動を取り上げるようになれ  
ば、ゲリラの成功は疑いな  
い」(「都市ゲリラ教程」大衆

の支持)  
しかし連合赤軍の戦術グルー  
プは、この果物包と手紙が置か  
れる行為に対しては発砲しな  
かったが、だれかがこの包みの中  
にとり込むこともしなかった。  
包みは空しくいつまでも外に置  
かれて、吹きつける吹雪の中に  
かき消えて行ってしまいうだ  
った。

朝早く起きて会社勤めをするよ  
り楽だろうと、夫とともに軽井  
沢にやってきて、この山荘の管  
理人に住みついた。  
そして、自分のつくった料理  
を客がうまいといってくれば  
すなおに嬉しく、家の中に波風  
が立たなければそれだけでい  
いと思ひ、夫と中軽井沢でのボウ  
リングを楽しんだり、冬になる  
と子ども用のそりを買ってきて  
雪遊びをする夫の姿に笑いこけ  
たり……。ほんとにそれだけで  
満足してきた。

「奥さんはどうして子どもを  
つぐらないの」  
と、あさまがきいたりする。  
「どうしてってわけじゃない。  
」

「都市ゲリラに必要なのは、大衆の代弁者となり、大衆の支持を得ることである。われわれを包む大衆の支持を獲得するには、社会問題を執拗なまでに取り上げて、都市ゲリラの叛乱を起こすことである。重ねてくり返すが、これこそ大衆の支持を得る最上の方法である。住民の相当数がまじめにゲリラの行動を取り上げるようになれば、ゲリラの成功は疑いない」(「都市ゲリラ教程」大衆

泰子自身は夫の呼びかけもき  
こえてるし、果物が置かれた  
こともテレビで知っていて、や  
っぱり心強く思っていた。そし  
て連合赤軍の連中と同じ部屋で  
ベッドに横になって、結婚して  
五年になる郁男との生活がい  
まさらのように振り返られたり  
もした。

夫が哀泣するように「元気が  
い」と呼びかけてくる声をきく  
と、グループの隙をみて外へ出  
られないかな、とも考えた。夫  
が苦しむのをききすこしている

夫が哀泣するように「元気が  
い」と呼びかけてくる声をきく  
と、グループの隙をみて外へ出  
られないかな、とも考えた。夫  
が苦しむのをききすこしている

のやりきれないからである。  
けれども逃げる隙はないし、連  
合赤軍の連中との間にもある信  
頼関係が成り立っているわけだ  
から、逃げ出すという行為によ  
ってそれを踏みにじるのも彼ら  
に悪い気がする。泰子の気持ち  
はそんなところにあった。

事実、連合赤軍側は、夫の泰  
子に対する訴えには何もいわな  
かったし、泰子がきくことを妨  
害もしなかった。ところが、三

日目の夕方、山荘内にいると警  
察側が判断した連合赤軍幹部の  
母親たちが、警察のヘリコプタ  
ーで現地にきて、山荘前の装甲  
車の中から、わが子に訴える、  
という涙声の呼びかけを始める  
と、泰子がはたでみていると思  
議に思えるほど、全員が異和感  
と嫌悪を示したのである。

警察側は、迦葉山、妙義のア  
ジトあとの指紋や、ライトバン  
から消えた三人の中に坂口弘に  
似た顔があったというきき込み  
などから、山荘内に坂口弘、吉  
野雅邦の両京浜安保共闘幹部、  
それにきつき荘から指紋のでた  
赤軍派M作戦による銀行襲撃で  
知られた坂東軍団のキャップ坂  
東国男(25・京大農卒)や、京  
浜安保共闘の寺岡恒一もいるの  
ではないかとふんだ。

それで、一応は説得で少なく  
とも、人質、解放の線にこぎつ  
けられれば、という野中長野県  
警本部長の希望的な期待で、彼  
らの母親たちは、東京や東京周  
辺やあるいは坂東の母親などは  
遠く滋賀県大津市から、わが子  
の説得にかけつけてきた。



警察側は、連合赤軍のグルー  
プを「革命家集団」であること  
は認めているというのか、事件  
以来しきりに「確信犯」(宗教  
的・政治的信条による思想犯・  
政治犯)という言葉を使ってい

た。しかし、母親など肉親の泣きで落とうというのには単なる刑事犯扱いじゃないか。そんな声も報道関係者の間にきかれた

### 肉親の説得は国民向け宣伝

泰子もこれらの声の中で連合赤軍の「あさま」さん「ふじさん」「たてやま」らと一いっしょに耳にしてたわけであるが、機動隊の中にはもらいなきしたものがいるという、これら肉親の声に對し、「頭にくる」と露骨にいったものもいた。

だからこそ、母親たちの乗っている車に無性に腹立たしくなっている、あるいは母親たちが現存していることの意味を、彼らの立場から自覚を促すために、発砲をしかけたのであろう。説得の仕事ならば、それはこの局面では、あくまで警察のすべきことである。そこへ頼まれば、あるいは頼まれてもいないのにこのこ出てきたのならばおさらのこと、親としての最後の「ご奉公」とばかり警察の車に乗って出てくるその行為を、山荘の戦闘グループは、醜悪きわまりない茶番とでもみたのかもしれない。

山荘籠城四日目の二十二日正午過ぎ、一つのハプニングの事故も起こった。

が、ともかく警察の手で母親たちは現場へきた。そして警察の装甲車の中からさまざまに呼びかけたのである。

前夜、警察の非常線を通して、山荘の人員の身代わりを志した新潟のスナック経営者田中保彦が、あれよあれよといううち正午ごろ警察側の検問の間を抜けて、ただ一人南側の崖の側からあさま山荘のガレージをくぐり抜けて表側に回り、前日から置きっぱなしになっていた果物包みと泰子宛の牟田都男からの手紙を手にして、大胆にも玄関のドアを明けて、果物包みなどをバリケードの中にまで押しこんだ。

バリケードの陰にはピストルを構えた男がいた。暗くて顔はよくみえなかったが、田中保彦は「奥さん、奥さん、果物だよ。屈けてやるよ」といった。いっおいて田中保彦は玄関のドアの外に出て、呆気にとられている機動隊のほうを振り返って、うまく渡したよ、という合図のつもりで手を振った。と、そのとき田中はうしろへ振り返るような恰好になって倒れた。

テレビもこの場面をとらえていた。が、倒れた田中は再びよろよろと起き上がり、雪が凍りついて足をとられそうになるコンクリートの階段を道路まで這い上がり、そこで装甲車や楯に身をかくした機動隊員に救助され、救急車で上田市の病院へ送られた。

田中の後頭部にはピストルの真鍮色の弾丸が突き刺さっていた。

田中は前夜警察関係者に「酔っているんじゃないか」などといわれ、身替わり志望など相手にされなかった。警察では念のため田中の身許を新潟に照会していた。麻薬関係などで逮捕歴前科などがあり、昨年末妻とも別れ、子ども二人とも別居している境遇だったが、学生デモがあるとお前たちの気持ちかわかなどといった煙草を差し入れたりしていたそうである。

## あさま戦争を殺人ドラマにねつ造

「いかなる作戦においても、成功の鍵は、それが単純なものであれ、複雑なものであれ、あるいは容易なものであれ困難なものであれ、決意した人間にかかっている。厳密にいうならば、作戦に容易なものなどありえない。すべてもつとも困難な場合を想定して、訓練した注意力をもって遂行せねばならない。」(都市ゲリラ教程「決断」)

で、警察側の作戦も強行救出へと傾斜する気配を濃くした。五日目の二十三日午前八時で、人質事件としては金婚者の監禁時間を越えた。現場を訪れる心理学者なども、牟田泰子の体力と精神の耐えられる限界だと進言する。もう待てない。

という見出しをつける新聞もあった。しかし、この時期になっても、警察側はいまだに牟田泰子が一

体山荘内のどの部屋に、どういう状態で監禁されているのか、ついに偵察することも情報を得ることもできなかったのだ。

三階のカギのかかるベッドルーム統きのいちようの間か、外へ出る通路のない二階のしらかばの間かと類推はしたが、推測

を裏付ける手がかりは何もない。電話機は果たして切られているのかどうか。中の連合赤軍が三人か四人か五人かもわからない。ついに長野県機動隊は、安田講堂の攻防以来歴戦の監視隊機動隊の応援のもとに五日目六日目七日目と、催涙弾や発煙筒、さらには連合赤軍側が玄関の壁に開けた銃眼に放水などしながら、強行偵察に出た。

しかし、山荘内からはライフルで応射し、しかも警察側は何の情報も得られないのに、連合赤軍側はFMラジオで、ラジオやテレビの音声は無論、警察無線まで傍受しているらしく、四日目の停電に対しても間髪を入れず銃撃で応えるなど、必ず作戦の行なわれるときに銃座を整えて応射してくるのであった。

「地理に関する観察、調査、下検分、踏査は有効な情報源になる。したがって都市ゲリラはどこへ行くにも慢然としていたり、革命的警戒心を怠ってはならず、つねに何か起こらぬかと注意していなければならぬ。目や耳を十分に開き、感覚を敏感にし、たえまない武装闘争のために必要なことは、時を問わずなんでも頭に刻みこまねばならぬ。」

「占拠はなんらかの宣伝を行なう目的で、敵に一時的に抵抗をするために、特殊な施設や場所にゲリラが自ら踏み止まる場合に用いられる一種の攻撃である。ストライキやその他の時に工場や学校を占拠するのは抗議の意思表示ないしは敵の注意を引きつける方法の一つである。」

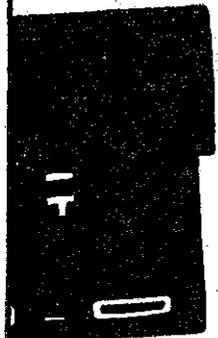
占拠は非常に効果的な行動形態だが、味方の戦列から人的、物的損失を防ぐために、つねに撤退を可能にしておくほうがよい。そして細心すぎるほどの計画を立て、絶好の機会を選んで実行せねばならない。占拠はつねに時間の限度があり、敏速であればあるほどよい。」(都市ゲリラ教程「占拠」)

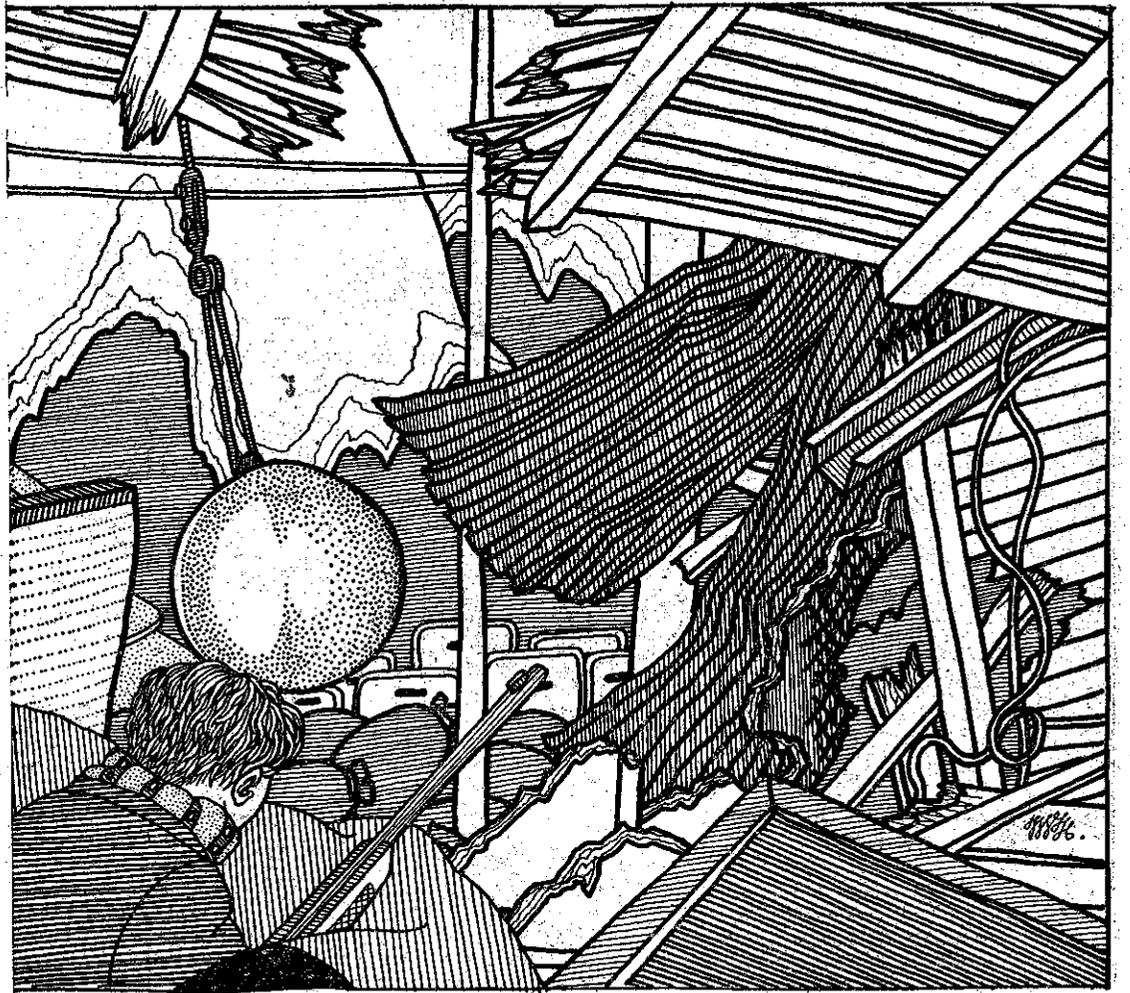
活字を読む時はマスコミの出版物、多くのデータをもとにした研究論文、ニュース、各種の記事などに注意せねばならない。これらは錯綜した莫大な情報の問題を解決するにあたって、都市ゲリラに決定的に利益となる材料になる。」(都市ゲリラ教程「情報」)

七日目の二十五日から玄関前に土の積みが始められた。玄関前から攻撃する機動隊員をせめて銃弾にさらさないためである。二十六日も土の積みが進められた。連合赤軍はその作業に向けて八発のライフルを撃ちこんだ。

九日目の二十七日、警察側は四頭の警察犬を山荘の周辺に置いた。深夜に深い霧がかかった。情報が全く得られないままに、いざ山荘に総攻撃をかけた。中にはだれもいなかったなどという結末を心配する者の声もある。

霧にまぎれて連合赤軍が脱出すれば、銃をもつ手にとびかかるといって訓練された警察犬がとびかかるためであった。ガス弾につけて打ち込んだ盗聴器もガアガアという雑音しかもたらさない。山荘に隣接した芳賀荘には警察関係者が入り込





んでいた。しかしそこから、牟田泰子及び山荘内赤軍の人数についての正確な情報は得られなかった。

そういう中で、すでに電気をとめられた山荘の側では、七日目には高圧放水車が十に及ぶ大量の水で玄関わきの銃眼のまわりの壁に大穴を開け、前日の放水とあわせて、山荘内は三十リの水を浴び、水びたしかもしれないのに、警察側の最後の攻撃に備えるためか、便所横の壁など数ヶ所に、新たな屋根裏からの狙撃孔ができ、銃口がのぞいていた。前日まで彼らは弾丸を節約しながら撃っていた。まだ銃弾は底をついていないはずだった。

「ここで強調しておきたい特別重要なことは、都市ゲリラ

は、弾丸がなくなるまで撃ちつづけてはならないということである。

敵はそのような場合、反撃をひかえ、ゲリラの弾薬が切れるのを待つだろう。

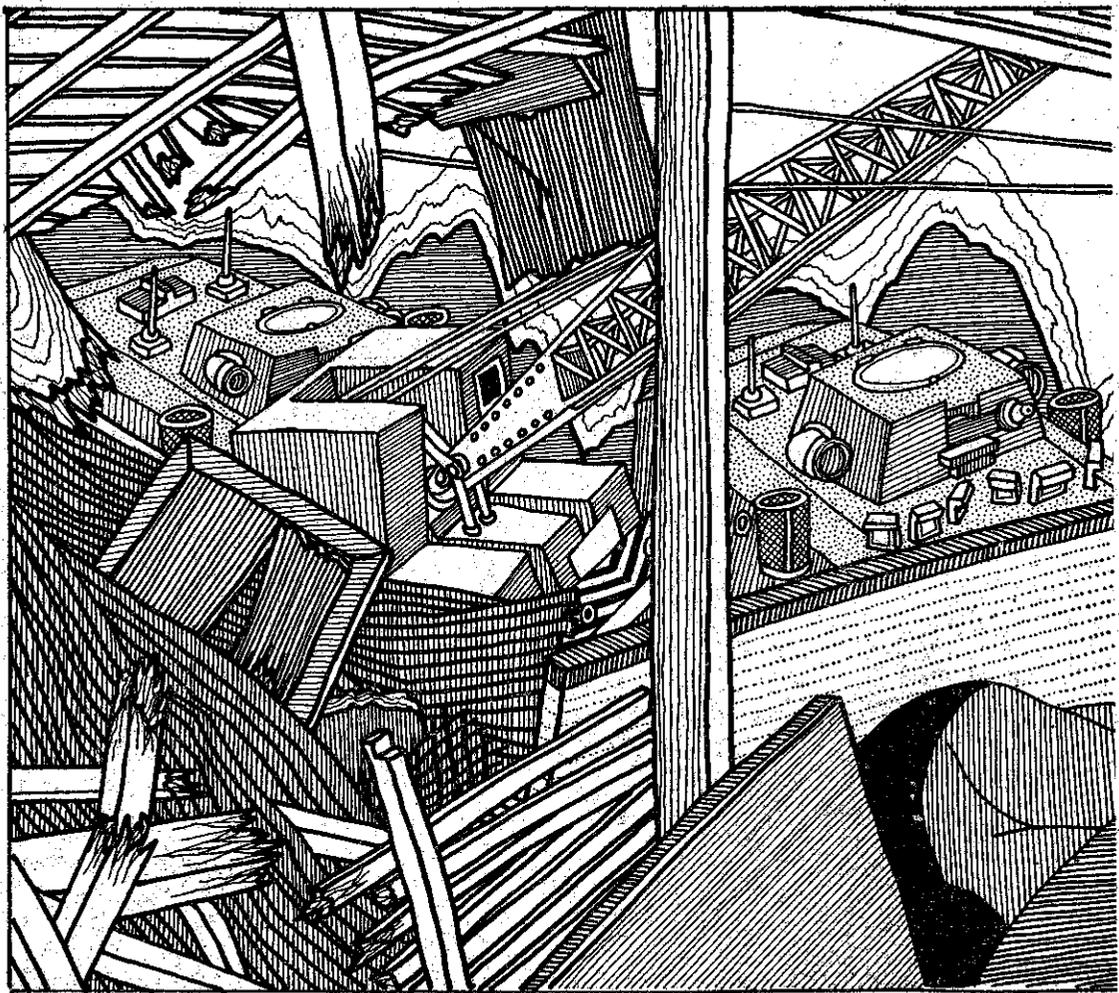
そうすれば、弾薬が切れ、弾薬を補給する暇もなく敵の攻撃をうけ、その弾丸の雨にさらされ捕まるか殺されるのである。

都市ゲリラの生命は射撃、つまり武器を扱う能力と弾丸をかわす能力如何によって決まる。

われわれが射撃という場合、狙撃も当然含まれる。射撃は都市ゲリラの反射的運動になるまで練習しなければならぬ。射撃と狙撃は都市ゲリラの空気であり水である」

(「都市ゲリラ教程」射撃)

### 国会論議そっちのけで中継



の発表では、牟田泰子さん救出作業」と名付けられていた。それはあくまで人質事件として位置づけられていたわけである。

しかし、第一線の機動隊は安田講堂以来の警視庁二機三十四名、レーンジャー三十八名、保坂警部以下六名のライフル狙撃手、高圧放水車二台(乗員六名)合計九十名が、あさま山荘玄関前の装甲車、背後前面の丘などに配置され、NHK山荘方向の管理人室側には警視庁二機三十四名、長野県機動隊二十一名、ライフル狙撃手五名、特型車四台(乗員十名)、高圧放水車二台(乗員六名)合計七十六名、さらに断崖のようにあさま山荘裏手をのぞむ崖下に、警視庁九機二十二名、特型車二台(乗員六名)計二十八名、さらに山荘下手の山荘に長野県機動隊員十六名、ライフル狙撃手二名、特型車二台(乗員六名)合計二十四名が配置された。

総指揮は長野県警野中本部長、統轄指揮は石川警視正、各隊は、警視庁二機内田隊長、九機大久保隊長らが指揮をとり、総指揮以下二百二十名が第一線、これを遠巻きに見守る報道陣も千名を越えた。

早朝から粉雪が散り、道路は凍り、機動隊員も、報道関係者

も銃弾を気にしながら、山かげ山かげへとあわてて移動しながら足をすべらした。

朝五時半、牟田都男が最後の呼びかけを警備車からした。「泰子、寝ているの、ボクだ。いま、玄関まで来ているよ。聞こえるか、寒くはないか。外はとっても寒いよ。家の中も寒がるうね。みんな外でお前の出てくるのを待っている。もう少しのしんぼうだよ」

まず妻に呼びかけてから、連合赤軍にもあいさつした。「中にいるみなさん。もう十日です。泰子も限界です。すぐに妻を放して……。解放して下さい。泰子、おまえも、みなさんに頼んで帰してもらいなさい」

返事はやはりなかった。そして、牟田泰子がどの部屋にいるか、連合赤軍が何人もわからないうちに、午前十時、警察が最後の警告を終わると、作業が開始された。

この日初めて登場したクレールン車が、二つの家屋破壊用の鉄丸を、道路下の狭い空間で、いかにもやりにくそうにあさま山荘の壁にぶつけるシーンを、テレビは十時過ぎアップで報道し始めた。そして、夜に入るまで、テレビは放映を止めなかった。10・07山荘内から発砲、続

10・15 ガス弾発射。銃眼に向けて二台の放水車から放水。  
 10・35 洗面所横の壁に大きな穴を開ける。その穴から放水。  
 11・00 崖の側の九機機動隊員が山荘にとりつく。  
 11・06 クレーン車の鉄丸が屋根の上に落下して穴を開ける。大きく破れたところへ放水、ガス弾。  
 11・15 一階の階下に九機の十二人がもぐりこむ。玄関側にレーンジャー部隊が赤い綱をもって待機。  
 11・20 鉄丸が玄関の屋根をこわし始める。  
 11・26 山荘一階北側に機動隊員が入りこみ九機の旗を出す。  
 11・29 一階の機動隊員が戸を開け放つ。そこにはだれもいない。  
 11・30 正面玄関前の二機機動隊員が土のうを越えて攻める構えをする。  
 11・31 土のうから顔を出した警視庁特科車両隊高見繁光警部(42)が、正面屋根裏からの赤軍銃弾で顔を撃たれ、血だらけで倒れ、担架で後



11・42 方に運ばれる。  
 11・56 高見警部重体。二機の旗をもった内田尚孝隊長(42)が左目か  
 12・30 後頭へ貫通銃創を受ける。  
 13・30 高見警部死亡。内田隊長呼吸停止と伝  
 13・37 えられる。内田隊長の犠牲で一時作戦会議のため、作業、中断の形となる。  
 14・50 作戦会議を終わり日没までに救出作戦を強行と決定。  
 14・55 警察側の恐れていた爆弾が投げられ、警視庁二機中村欣正巡査部長(30)が四週間の負傷。  
 15・30 水タンクへの水汲み上げが終わり再び放水作戦が始められる。  
 15・40 屋根裏の赤軍狙撃手に向けてガス弾三十発余りが撃ち込まれる。  
 15・52 「抵抗を止めろ、武器を捨てて出てこい」と強硬な命令調で勧告。  
 16・01 内田隊長死亡。  
 16・27 ビストル発射命令が出る。  
 16・38 三階ベッドルーム北側の窓に人影がみえ、二戸二枚が外される。  
 16・42 いちようの間に男二人、女一人が確認されたという情報。  
 16・45 三階窓をあけて銃をも



16・48 二機と九機の十数人ベッドルームに迫る。  
 16・57 いちようの間に二人の赤軍の男を確認。機動隊めがけて銃撃。  
 17・02 ベランダに機動隊。ベッドルームの窓から、銃をもった赤軍グループの顔のぞき、ベランダを撃とうとして止める。  
 17・03 突撃命令出る。  
 17・25 真つ暗な中で赤軍の乱射。機動隊側もビストルを天井に威嚇射撃。  
 17・30 水タンクに再び給水終わり、猛烈な放水でいちようの間の雨戸が吹っ飛ばす。  
 17・50 玄関の屋根裏に機動隊が入り、放水とガス弾で連合赤軍側をベッドルームへ追いこむ。  
 17・53 赤軍側乱射続く。  
 18・05 赤軍グループ全員ベッ  
 18・15 人質確保、牟田泰子さんは元気の知らせをテレビやラジオが叫ぶ。  
 18・10 ドルームにこもる。山荘のすべての窓から水が溢れる。  
 18・13 機動隊員のタテが窓の中に光る。  
 18・13 九機にベッドルーム突入命令。  
 18・15 その直後、最後まで水びたしのベッドルームの中でも布をかぶり銃撃を止めなかった連合赤軍の四人も逮捕された。  
 18・15 アサマ・坂口弘。フジサン・吉野雅邦。タテヤマ・坂東国男。キリシマ・加藤倫教(19)・加藤能啓の弟、中京安保共闘)アカギ・加藤の弟の少年(16)山荘の中の連合赤軍派が五人だということも、逮捕が終わって始めてわかった。  
 18・15 『ゲリラ全員が互いに知り合うこと、あるいはあらゆるこ  
 18・15 『警察が学校、工場、その他人がたくさん集まる地区を包囲する場合は、都市ゲリラは決して降伏してはならない。もし降伏すれば、全滅の憂き目にあうだろう。』(都市ゲリラ教程「降伏」)  
 18・15 国際ビジネスに必備の最新英和「ニエワルト英和辞典」九五〇円(デス版)五〇〇円(講談社)

### 都市ゲリラの七つの大罪



て知ってれば十分である。この鉄則は、都市ゲリラの安全の上でも、初歩的な基本事項である。

われわれの闘いは、勝利か死かの闘いである。敵はわれわれの壊滅を目論んでいる以上、われわれを発見し、破壊するために容赦なく攻撃をかけてくる。だからわれわれの偉大な武器は、敵から身を隠し奇襲を行なうことにある。(「都市ゲリラ教程」ゲリラの安全)

二人の警官が死に、十二人の警官が負傷したが、この山荘に打ちこまれたガス弾約千発、放水した水約十ト。

軽井沢病院に入院した牟田泰子は、三日前から食欲がなくてコーラやジュースばかり飲んでしたが、恐怖とか人質の実感はなかったと語った。ただ最後のガス弾のどんでんきた日はこわかった、連合赤軍の二人が善光寺のお守りをもたせてくれ、毛布をかぶってベッドの中にいろといってくれたこと、放水のときは彼らが自分の前に桶になって防いでくれたこと、などを語った。

ラの武装闘争の目的は大きく二つにしばられる。

a 軍隊および警察幹部の肉体的抹殺。

b 政府、大資本家、大土地所有者、帝国主義者の財産の強奪、小規模のものは都市ゲリラ戦士の兵站用、大規模のものは革命の台所をまかなうためのものである。(「都市ゲリラ教程」都市ゲリラはいかに生きのびるか)

あさま山荘を十日間にわたって包囲した警察側の費用は、長野県警の分だけで七千五百万円にのぼり、雑費も含めれば優に一億円に達したという。

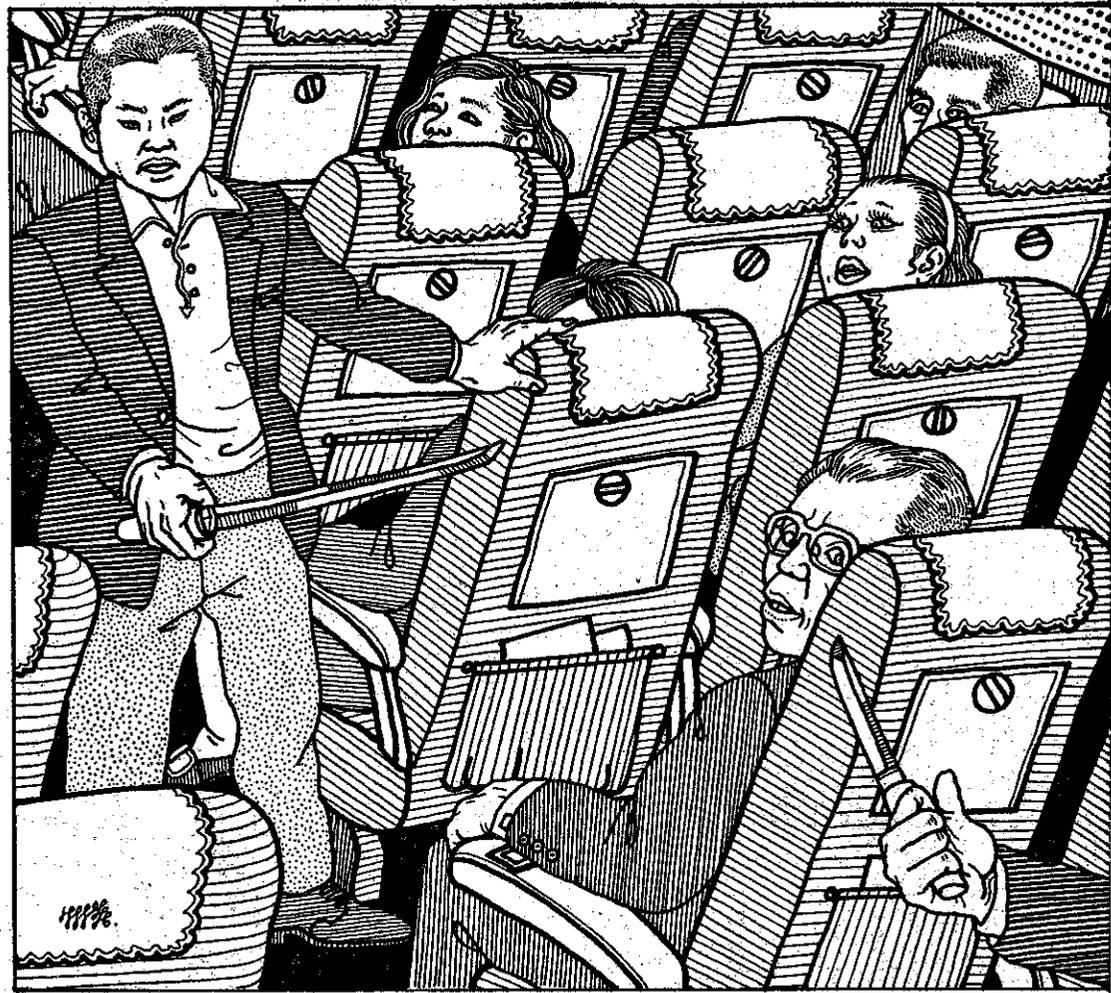
国際ビジネスに必備の最新英和「ニールワードル英和辞典」九五〇円/デスク版三五〇円 講談社

その最終日、テレビはコマーシャルの挿入をも惜しむように朝から晩まで山荘の攻防を放映した。

それは果たして革命のための戦争であったのか、それとも殺人のドラマであったのか。

押収された銃は22口径自動五連発ライフル、上下二連12番散弾銃、自動五連発12番散弾銃、それにピストル二丁。

銃撃その他の点については、長い完結が今後続くのである。



う。

なお、妙義山中の籠沢の連合赤軍第三のアジトに近い岩かげに、刃物で切りさいた汚物にまみれた男物のセーター、シャツなどの下着が隠してあったことから、アジトで内ゲバがあったのではないかとみられ、捜査の結果、群馬県下仁田西野牧の杉林から赤軍派政治局員山田孝(27・元京大大学院生)の死体が発見された。

『第一の罪は、経験不足からくる罪である。この罪に陥ったゲリラは、敵を過小評価し、すべては容易に達成されると信じている者である。しかし、敵をみくびった者は証拠を残し、結局敵の手に捕まる結果を招くだろう。さらに敵を過大評価した場合は、敵の力量を見誤る。そしてこの無分別のために誤算すると、敵に威嚇され、危険にさらされた場合、優柔不断となり、しりこみしたり、大胆不敵さを失ってしまう。』

『第二の罪は、自分が遂行した行動を自慢し、誰彼のみさかにもなく放言することである。』

『第三の罪は虚栄心である。これは農村ゲリラの開始とその後展望について考慮する』

こともなく、都市だけの行動によって革命の問題を解決しようとするのである。成功に酔いしれようと、決定的行動を起こそうと思って知識の勢力と物資のすべてを結集しようとする。しかし、農村ゲリラはまだ発展してはいないし、決定的勝利の地点には達していない。したがって都市が決定的行動に出れば、敵の反撃をうけ、致命的な打撃を被る結果になる。

『第四の罪は、自分の力を過信し、計画を企てるには力量不足であり、計画に必要な下部組織を持っていないのに実行しようとする』

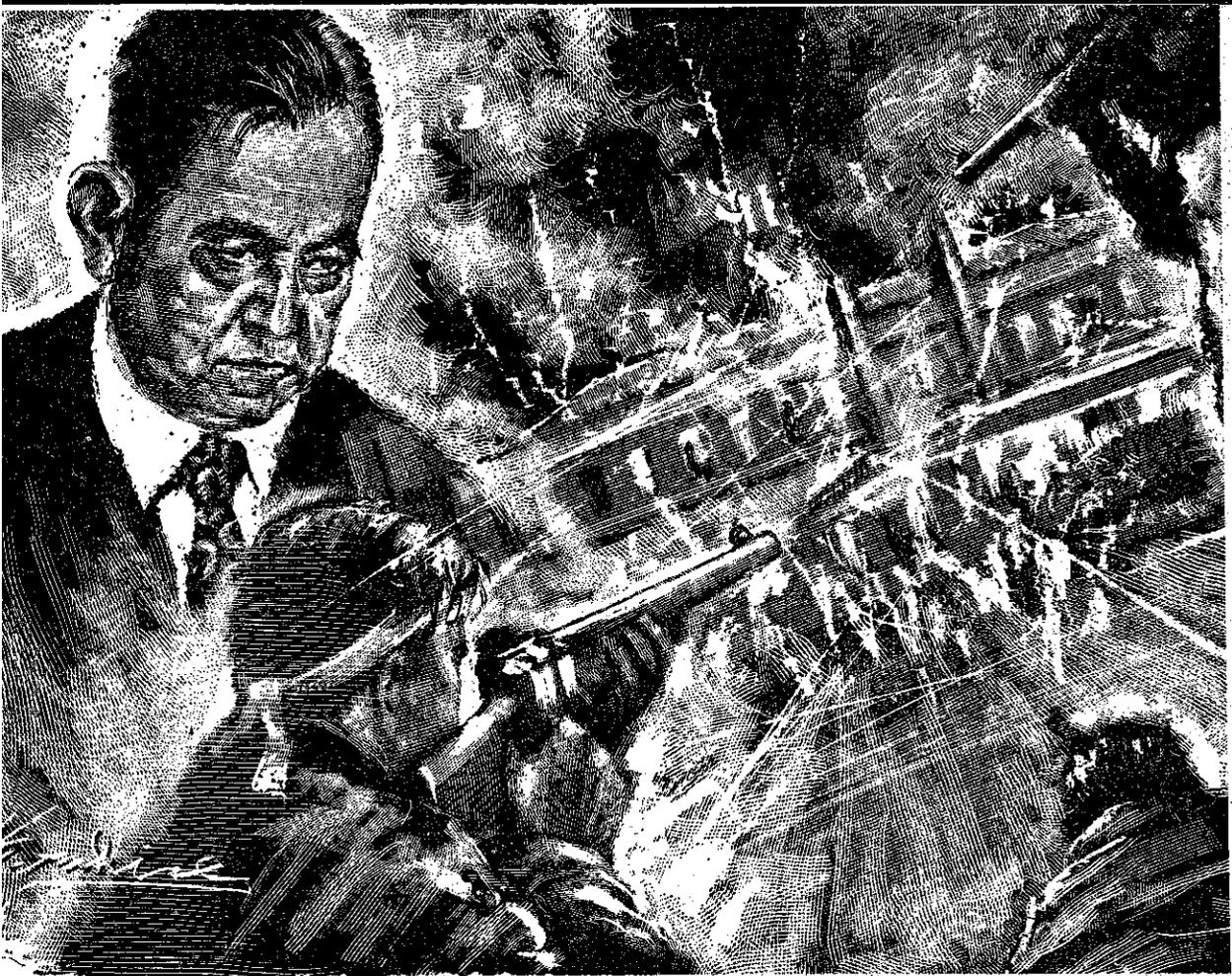
『第五の罪は性急な行動である。』

『第六の罪は、敵の怒りをもっとも高まっている時に攻撃を仕掛けることである。』

『第七の罪は、計画を立てずに成り行きのまま行動することである。(「都市ゲリラ教程」都市ゲリラの七つの大罪)』

職場ですぐ役立つ現代用語の万能辞典!  
四八〇円 講談社

**現代実用辞典**



も右に折れると、それに負けないスピードをあげて、首相官邸の方角に走り始めた。午前六時十分すぎである。それは、まさに突進という形容がふさわしい。「きちがいだ！ 速度をさげろッ！」

官邸を警備していた警官が、その異常な疾走ぶりを見て叫ぶと同時に片手をあげた恰好でふらふらと路上に踏み出した。だが、つぎの瞬間、その警官のからだはライトバンの前部にひっかけられ、人形のようにふっとんだ。「狂ってる！」と、警備の警官たちがざわめき、警笛が鳴らされ、銃をかまえる者さえある。このとき、首相官邸の周辺には、いつもの通り、警官二個小隊六十人が正門わきと裏門そばの詰め所を中心に散らばっているだけであった。同僚を倒されて、「逃すな！」という喚き声とび交うなかで四台の車は、不思議なことに、逃走するどころか、傷を負った獣のように警官たちのあいだを攪乱すると、首相官邸をとり巻くように周辺の四ヶ所に散った。一台は通用門を向け、一台は正門の前、一台は閉ざされた裏門……そして、残る一台は、通用門と正門のあいだにつづく塀に近づいた。とつぜん炸裂音が正門わきの詰め所と、裏門のすぐ内側……記者クラブの部屋の隣……でびびき、火柱があがった。つづいて正門前に置くのが慣例になっている警察陣の装甲車一台が、火を吹き、炎に包まれている。

「油断するな。奴らだ！」

だれか隊長らしき声したが、そのと



……一九七×年×月×日の早朝、午前五時すぎである。五台のライトバンが、つらなるでもなく、それでいて互いに呼応しているような形で、千葉方面から高速

道路に入り、都心に向っていた。また夜は明けそめたばかりである。久しぶりに晴れあがった空の下で、まだ人気のない東京のビルの林立がしだいに視界に入ってきた。外見からは、どこかの会社が商品を積んで同じ場所へ運んでいる様子にも思える。だが、車の内部をのぞいた人がいたら、その異様な緊張感を眼をみはったにちがいない。……運転席でハンドルの握っている一人をのぞいて、後部のシートには身体を寄せ合うようにして、さまざまな服装の青年たちが姿勢も低く腰をおろしている。女の顔も見える。ズボンの裾に泥をつけたままの青年がいるかと思えば、サラリーマン然とした背広すがたの若者もいる。共通しているのは、それぞれがヘルメットを深くかぶっていることであった。

ライトバンは高速道路を霞ヶ関の出口に向った。一台に十人以上は乗っているから、五台に収容された人間たちを総合すれば八十人くらいにはなりそうである。出口に向うに従って、スピードがはやくなった。先頭の車は、議事堂前の出口を出ると最後の五台目がそろそろのを待つように、ブレーキを踏んだ。

「じゃ……」

声には出していないが、先頭の車の運転席に坐っていた男は、五台目の運転席の青年に指でサインを送ると、前を向いた。五台目の車は、まるで奈落へつっ込むような速度で他の車とわかれて坂をくだっていった。つぎの瞬間、あとの四台

小説

首相官邸襲撃計画

彼ら連合赤軍は大菩薩峠以来、首相官邸占拠を最大の目標にしていた。綿密な攻撃計画もでき上がっていた。これが実行に移されていたら、そのときこそ……。

岩川 隆  
滝瀬 弘画

(一)

だ格闘がつづいている。かれらは敏捷で、まるで喧嘩なれしたやくざを思わせるような身のこなしで、重装備の警官を相手にナイフをふるっている。四分間がすぎた。十数人が塀を越えて内部にとび降りた。正門と通用門をつなぐ塀に二カ所ある照明灯が無残にとび散って、庭の芝生の上に破片が落ちていた。煙にまつまれた庭を腰を低めて走り抜けたかれらは、東側の端にある広間の窓ガラスをこわし、内部へつぎつぎに消えた。外では双方の激しい応酬がつづいている。内外に警備を分断された守備陣は苦しくなっていた。正門前の交叉点の路上は、燃えあがっている。まだ、眼と鼻の先の桜田門にある警視庁から、応援はやってこない。

(二)

その頃、警視庁ビルもべつの襲撃に見舞われていた。霞ヶ関の高速道路出口を出て、四台とは別行動をとった一台は、警視庁を攻めるといふ狂気じみた計画を遂行していたのである。乗っていたのは四人の、決死隊と称される者たちであった。

した警官が内部から駆けつけ、応戦すると、かれらはお堀をバックにして、さながら市街戦を展開する気配である。車のかげから降り立った四人は、それぞれ違った方向へ行動をとると、車庫や入口に近づいた場所から爆弾を投げはじめた。射ち合いと攻守は約十分間もつづいたろうか。もちろん、治安の中核である警視庁ビルにはかなはずもない。警官たちの正確な射撃の前に、一人ずつ斃れ、ライオンをバリエードにした二人は胸を射ち抜かれて即死し、入口から内部へ踏み込もうとした二人も、一人は重傷、一人は左脚を射たれて逮捕された。

て、二カ所のガードマン詰所が存在するだけである。「威嚇射撃！」「脚を狙え！」と、警備側の声がかきひびく。建物を目前にして、芝生をあかく染めて倒れたヘルメット姿もある。爆弾の破片を受けて呻く警官もいる。かれら闖入者たちは動くことのできぬ負傷者を振り返りはしない。小広間から、大広間へ入ると、ここを完全に占拠してしまつた。この大広間は、東側のガラス窓を完全な防弾ガラスに改造して話題になった部屋である。入り込むと、かれらは22口径のライフル銃、上下二連発銃、単発銃、38口径ピストルなどをかまへ、外部から近づくと射撃する態度に出た。

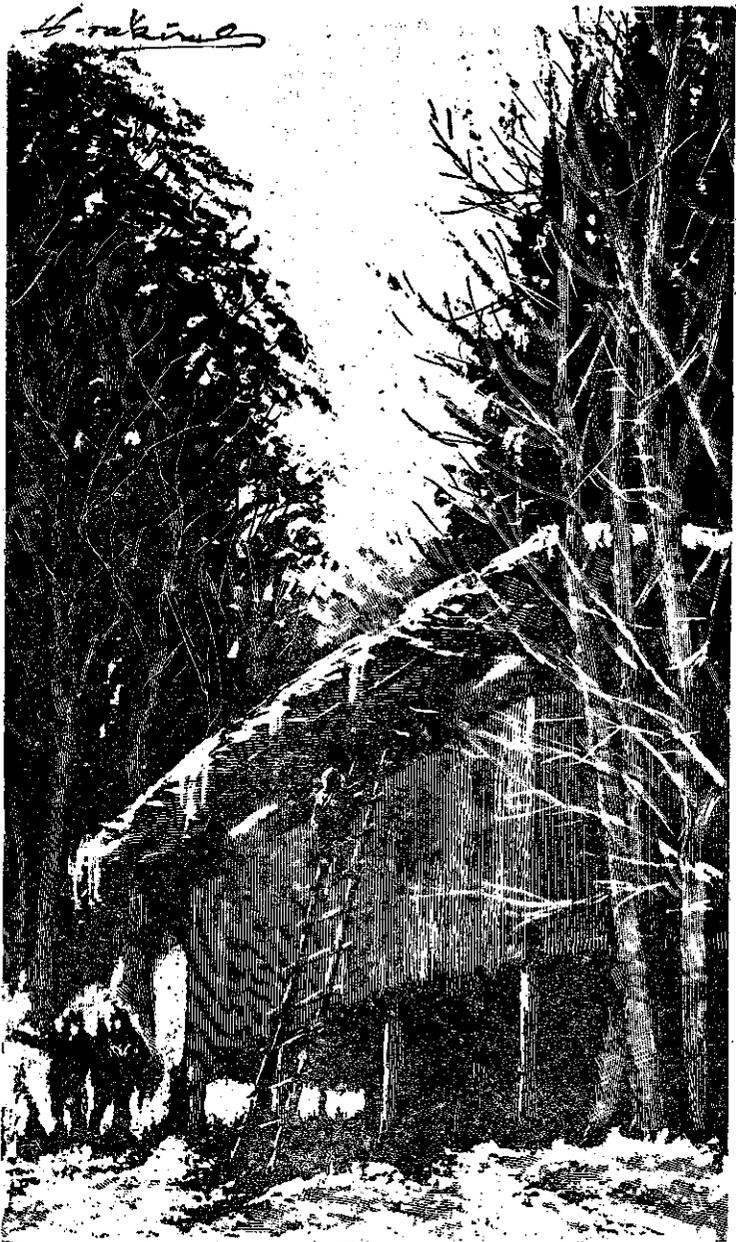
(一)

その横顔は、京浜安保共闘の狼狽強奪事件の主役として指名手配中の坂口弘(25)に似ている。ライフルの銃眼に顔を近づけて照準を合わせているのは、赤軍派の参謀といわれた坂東国男であろうか。青白い顔をひきつらせているのは、同じく京浜安保共闘幹部の吉野雅邦(24)のように思える。

週刊現代 イヤーブックス 講談社 72年版 ビジネス最新語事典 ¥580



お互い月刊「現代」の愛読者仲間です



6. 16. 1946

(三)

ことここにいなるまで、かれらにも年月が必要であった。首相官邸突入計画は、かれらにとって決して新しいテーマではない。現実には、赤軍派だけでなく、京浜安保共闘との連合軍であることも、その間の歴史を物語っていた。……昭和四十六年一月二十五日、東京は九段の千代田

公会堂で「公害についての講演会」なるものが開催されたことがある。このときの集會こそ、双方の手がつかない瞬間であった。参加人員は約四百名、片や、黒のストッキングで覆面したのが赤軍派であり、いっぽう黒い網で眼を覆って集まった者たちが京浜安保共闘という……まさに異様な感じを与える集會であり、交互に「武装蜂起!」「武装ゲリラ!」を叫んで、互いの意志を認め合つた。勿論、部分的な歩み寄り以前からおこなわれていた。四十五年十二月、京浜

安保の交番襲撃で射殺された柴野春彦の追悼集會が各派の内ゲバで流れたあと、この二派だけは追悼集會をあらためて開いている。さらに、四十六年一月の京浜安保共闘の集會に、赤軍派から一名が参加したこともあり、「革命戦争派」という呼称が用いられたのは、このときであった。その後は、同月二十二日の辰巳台郵便局七十一万円現金強奪事件、二十七日の茂原市高時郵便局での現金十万円強奪事件、三月十四日・夏見郵便局、九日・横浜銀行相武台出張所で百五十万円強

使いやすい機能的な百科!と大評判 講談社 現代世界百科大事典

奪、二十一日・振興相互銀行黒松支店で百十六万円強奪と赤軍派の動きがつづく。現象面にあらわれたように、赤軍派は主として現金獲得を図り、京浜安保共闘は武器の奪取を担当した。四十六年七月二十三日に米子市でおきた銀行強盗事件では、逮捕された近藤有司、松浦昭一の二人の所持していた銃が、五ヶ月前に京浜安保共闘によって盗まれたものと同じ物であることが証明されて、両派の連合は世間にも明らかになっている。この間にも「首相官邸突入計画」は、決して忘れ去られていない。そもそも、四十六年晩秋のある日、東京都の文京区

さかんにやりとりされ、大菩薩とか、奥高尾、丹沢、中津川溪谷などという地名が幾度も囁かれるのを聞いたかもしれぬ。しかし、それらの会話を耳にする限り、遊び好きの学生たちがつぎのキャンブ予定地を相談し合っているとしたかと思えなかつたろう。

キユウリとは、かれらの陰謀で火炎ビンを指し、ミカンにはピース罐に火薬を詰め、導火線を結び、点火して投げると相当地な破壊力を発揮するというしるしを意味した。ほかに、長さ約三十センチの鉄管に薬品を入れ、さらに硫酸入りの試験管を入れて投げると鉄管爆弾も製作していた。当時は、以上の三つがかれらの重要な武器であった。……大菩薩峠とか丹沢は、こうした音響を聞かれる心配のない爆弾の実施訓練候補地であった。けつきよく、かれらは訓練地を丹沢に近いM高原と決めた。

同じ禅寺で、ふたたび「M×M大学哲学研究会」が催されたのは、それから三ヵ月後のことである。雨が降りしきり、路上に人通りは少なかった。初回と同じく、赤軍派の顔ぶれがそろったとき、坂口弘は、まるで哲学でもレクチュアするように平静な声でいった。

「行動は×月×日の予定、目標は首相官邸。……そのための爆弾の使用法などについては、×日から×日まで軍事訓練を開始する。」

兵站部は前川祐介が担当した。「突入前夜は千葉方面に宿泊する。その

宿舎の手配はきみにまかせる。」

と、前川は命じられている。その翌々日、赤羽駅に近いマンモス団地の一室には、二十人以上の面々が集まった。それらのなかには、坂口弘のかけの妻といわれる薬剤師あがりの永田洋子や、その後、潜伏中に捕えられた重信月子などの女性の姿も混っていた。その日の議事は、しごく簡単であった。坂口弘は、いつものように、静かに口を開いた。「われわれは第一段階の武装蜂起として、首相官邸を武装占拠する。主要武器は、現在製造中の爆弾を用いる。近くおこなう軍事訓練で、取り扱ひの習熟と隊員の意志統一をおこなう。なお、襲撃隊の指揮は、坂口、吉野、坂東がとる……」

その言葉には、ついに来たるべきものが来たという緊迫感があった。翌日、仲間一人は、首相官邸付近の状況調査をおこなっている。ここで、警報装置は電線を切断すれば用をなさない、門から内側

へ入ってしまったら、一気に玄関までは進むことが可能だ、という事実が確認された。

考えてみると、官邸へ武器を携えて突入した事実は、過去の歴史に一度おこっていた。すなわち、五・一五事件がそれである。この日、昭和七年五月十五日、二台のタクシーに分乗した海軍軍人たちは、首相官邸の表門と裏門とにわかれて停まった。そこで、やおら警備の巡查部長に拳銃をつきつけて「首相の部屋へ案内しろ」とせきたてている。このとき官邸には、当時の総理大臣・犬養毅が在室であった。早く逃げてくださいますめる巡查部長の言葉を退けて、総理はかれらに会ってやろう、と客間へ姿を現わした。かれを待っていたのは、裏門から入り込んできた襲撃班と合流した山岸海軍中尉たちである。互いに十数分の問答のあと、

「問答無用！ 射てッ！」



「三日間も持ちこたえられたら成功だ。悪ければ、射ち合いになって射殺されるかもしれない。しかし、占拠できた場合は、佐藤首相が秘書官を人質にして、かれらと引き換えに政治犯の釈放を要求する。」

というのが突入前の予想であり、最大目標であった。最後の打ち合わせは、台東区のHホテルで催された。「通信技術セミナー」という申し込みに対して、ホテル側はいささかも怪しむ風はなかった。黒板やテーブルを用意させた部屋で、官邸付近の装甲車、警察官たちの配置状況などの報告がおこなわれ、その分析と襲撃する際の自分たちの配置・作戦が会

(四)

譏された。やがて数日後に、坂口たち一行は、山梨県のT高原にあらわれ、「S大学ワンダーフォーゲル部合宿」の名目で、T高原荘を借り切った。呼びかけに応じて、そこには、中部、関西、九州から統々と赤軍派の幹部たちが集まってきた。どの姿も、アノラックにリュックサックという装いで、どこから見ても平凡なワンダーフォーゲル部の学生であった。ただ、それぞれのリュックサックには、いわゆるキユウリやミカンが詰まっていたところが、最大の相異である。

到着の翌日から三日間は、本格的な訓練がおこなわれた。このときまでに集まった者は全員で四十五名。まだ当時は武器も少なく、ライフル銃三丁、拳銃二丁、鉄パイプ爆弾十七本、およびピース爆弾三十個、登山ナイフ三十四丁、手斧七丁、さらにくり小刀十丁にすぎなかつた。

生死を賭けた計画だけに、訓練は凄まじいものがあった。空手の有段者が指導して、警官と接近したばあいに相手の急所をどう攻めるか、ナイフはどう用いられるようにするか、刺し方まで、実施の訓練が継続された。



速捕者はあとを断たなかつた。残る幹部たちは、迦葉山、榛名山、高崎、妙義山、石和などの山中に新しいアジトを求めて入っていった。

新たな訓練の場は、妙義の奥深い山中であった。生い茂った樹木は雪におおわれ、溪谷の水は凍らんばかりに冷たい。山中の洞で生活しながら、坂口たちは、かつて練りあげた計画を執念深く忘れなかつた。

「あの立ち木が官邸の正門と思え！ かけろ！」

低い声で号令をかける。その声とともにアジトで暮す者たちは、いっせいに爆弾を投げる動作を繰り返す。追いつめられはしたが、銃、弾薬……そして現金は、それまでの強奪作戦によって以前

にも増して蓄積されている。残るのは、執念だけといってもよかつた。それぞれ山中に潜入した未逮捕者のアジトへの連絡もついた。あとは実行あるのみだと、かれらは思った。

×月×日、かれらは雪を踏みしめて山中の洞を出た。指定した千葉の宿泊先へ到着したのはその日の夕刻である。それは古ぼけた、どこにもある旅館のひとつであった。同じ大学のワンダーフォーゲル部の活動だという名目を、旅館側は少しも不思議がっていない。たしかに、その言い分に相応しく、妙義山の奥からも、榛名山中からも、泥にまみれた靴をそのまま幹部たちがあつまってきた。下山したときから、雪はすっかり水にかわり、ズボンはごわごわと硬く乾いてい

る。それらの姿はどこから見ても、まぎれもなくワンダーフォーゲル部にふさわしかった。

六畳の間にあつまっていた面々は、赤軍派・中央委員である梅内恒夫や中央軍の行方正時などに似た幹部である。ほかに京浜安保共闘隊は、人民革命軍の尾崎充男らの指名手配者らしき人物が顔をそろえていた。その数は六十余名にもものぼる。かれらを前にして、幹部の一人が立ち上がって言った。

「われわれは明朝午前三時に起床して、ライトパンに分乗する。あとは、これまでの訓練の成果を問うだけだ。」

六畳の間の中央には、サインペンで官邸の間取図が掲げられていた。幹部は事務的に思えるほど冷やかに突入までの計画をあらためて説明した。話し終ったあと、最も重要なことが残っている、と幹部は告げた。

「先日から諸君にお願いしておいた第八中隊……すなわち警視庁襲撃グループの志願者はまだ一人も出ていない。よって、本日、とり決めによりこちらから指名させていただく。」

あえて警視庁を襲う班は、全員、死を覚悟しなければならぬ。だれもが沈黙を守っているのは当然でもあった。息をのんだ一同の前で四人の氏名がつきつきに読みあげられた。呼ばれた者は、一瞬、びくりと身体をふるわせた。その決定がすむと、かれら幹部は、隊を八つに区別し、それぞれの隊に多くて十五名、少な

(五)

くて四名で編成をおこなった。夜はしだいに更けてゆく。眠ることのできる時間は、あと数時間しかなかった。

……あれから約十時間近くを経た。午前七時、銃声は絶え間がない。官邸内にまだ残ったグループは、二つに分れ、ひとつは玄関から大広間に向った機動隊にライフル銃を構え、ひとつは大広間につづく首相公邸へ走り込んだ。

「地下道だ！」  
と、グループの一人が小さな出入口を発見して叫んだ。官邸の中心あたりから、大広間の地下を潜り、公邸に通ずる暗い道がつくられている。道の幅は、およそ一メートルにすぎないが、いつでも人間が通ることのできる通路である。

「地下へ……誰も入れるな！」  
グループの一人はさっそく地下道をくぐり、出口の周辺にバリケードを築き始めた。二人は、公邸に泊り込んでいるといわれるポティガード二名を捜したが、姿はどこにもない。

「失敗った！」  
グループの一人は、唇を噛んでいる。ポティガードの姿が見えぬということ、は、とりもなおさず、首相が不在であることを意味するからである。公邸の大広間から居間につづいて首相の居室に足を踏

み入ると、だれもいない。公邸内は、通常、夜になると秘書官二人に女中二人……そして、首相夫妻だけになってしまふ。首相は日曜日には、鎌倉、あるいはゴルフに出かける習慣があるが、土曜日の午後から日曜日にかけては、ほとんど公邸の外で泊ることはなかった。

だが、その前夜はやはり、たまたま急用があった首相は私邸に帰ってつらいでいた。ささやかな出来事だが、首相の生命を救ったともいえた。あえて日曜日の早朝を狙ったグループの目的は、いとも簡単に挫折してしまつた。かれらが乱入した気配を察すると共に、女中も無事に逃走している。

「西側の崖から第三中隊の仲間が突破してくる手筈になっている。すぐに、内部から呼応しろ！」  
坂口によく似た幹部が窓から、西のほうを指さした。官邸の周辺では、西側は高い崖状になっており、警備の方法もな

い。だが、かれらは山中でこの崖を攻略する訓練をくり返していた。呼応して崖を登ってくる、というのは、それらの訓練グループであろう。……そのとき、とつぜん一つの人影が出入口に向って走っていくのを、グループの一人が目ざとく発見した。

「捕えろ！」  
その人影は地下への通路を辿って逃れようとしたらしい。気の毒に、逃げ遅れた秘書官の一人であった。隣の大広間からは、銃口を外に向けて発砲する音が響

き、それにもまして、外部をとり囲んだ機動隊の精鋭が、マイクで「出てこい！」と叫びながら、催涙弾を投げ込み始めた。大広間に潜入してから、十分もたつたらうか、公邸の内部を、走りまわってきた一人が、

「残っている者、なし」と報告すると、幹部らしき者はこたえ「いや、一人だけいる。あの秘書官に人質になつてもうしかなない。……かれを人質にして公邸を占拠する。釈放の条件は、一度に出さないで、一つずつ小出しして時間を稼ぐんだ」

内部に入つて以来、はじめての長いせりふを發した。かれらは、ほとんど口をきくことなく、外部の警官たちを驚かすこととなく、無駄な乱射を避けて腕だままでである。無駄な乱射を避けている。

「残つたものは、バリケードをつくれ。外部との交渉はすべて、俺が引き受けよう！」  
リーダーらしき男が口を添えた。公邸は首相がくつろげるように設計されたもので、広間が三室に居間が三室ある。それに、秘書官の控え部屋と女中部屋だけであつた。それらの部屋からグループ員たちは、片の端から家具を運び出し、さ

いごには畳を削いで高いバリケードを慎重につくり始めた。バリケードが完全にできあがつた時点で、ライフル銃を移動させ、より強固なものにする意図であつた。

むろん、警察陣はこういう暴挙に対して、手をこまねいていたわけではない。外部のゲリラを鎮圧するにせよ、午前八時半、公邸・大広間に通ずる電話線は完全に切断した。官邸正面玄関から機動隊員が地下道求めて進んだが、その入口周辺にはすでに頑強なバリケードが口周りにあつた。そのバリケードを撤去しようとする、隙間からライフルの弾がとんでくる。一人がその弾のために重傷を負い、地下道への攻め込みはあきらめなければならなかつた。たとえ通路から公邸へ潜入しようと試みても、その先には銃口が待っているものと予想せざるを得ない。なによりも、虎口を脱した人たちの陳述から、すでに公邸内には秘書官の一人が人質として捕われたと予想できた。午前八時四十五分、その人質にとられた秘書官は幸田口三郎と判明した。テレビでその氏名が流される頃には、官邸外の戦況は終了し、逮捕者三十三名、死者・負傷者は十数名にのぼっていると発表された。警察はしきりに公邸内に向つて、人質を離せと絶叫するが、邸内からはなんの応答も返つてこない。

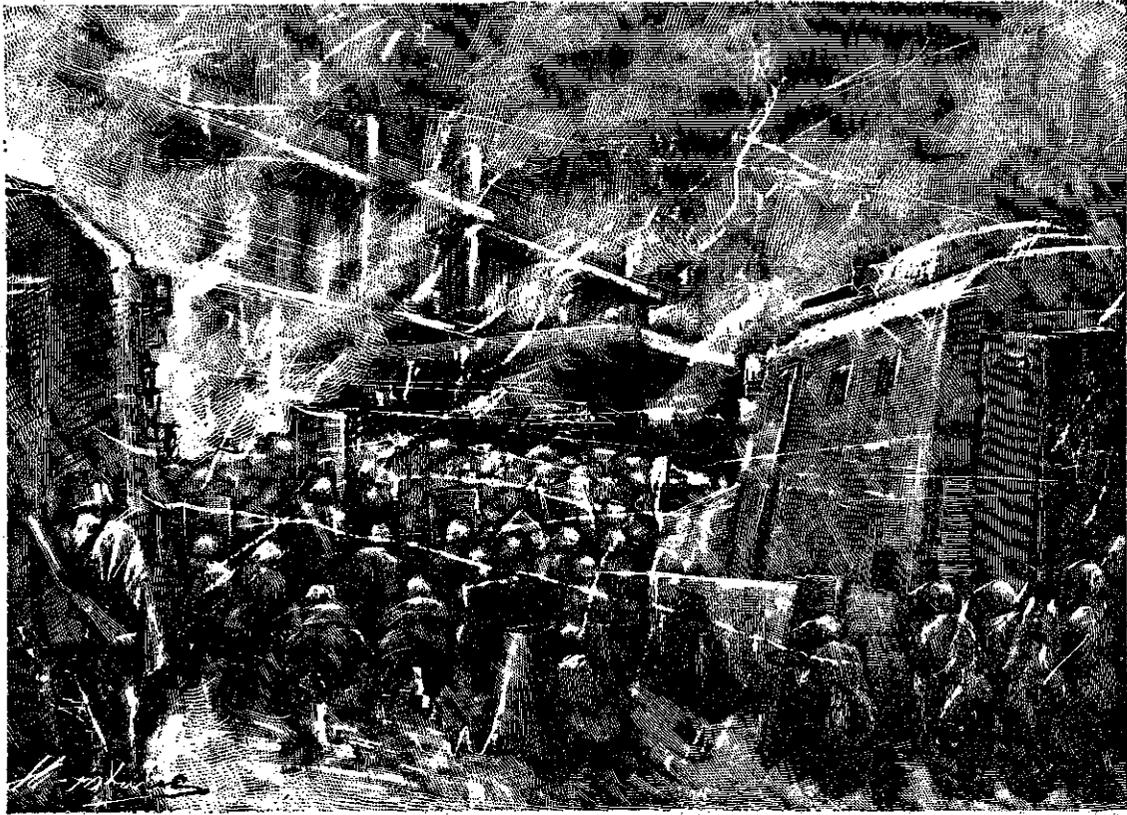
テレビ、新聞、雑誌をふくめてぼう大な報道陣が、官邸周辺を二重にも三重にもとり巻いて、規制されて許された人数だけが官邸に近づくことを許される騒ぎである。

午前十時半、機動隊員約四百人が官邸内の公邸の周囲を遠巻きにして、人質を釈放しろ、と呼びかけを絶やさない。機

「自動車を一台、手配すること」  
「……」  
要するに、膠着状態を可能な限り継続させ、引き伸ばし、新たな脅威がどうしようもなく襲ってきたとき、そのメモに記した要求を警察側につきつける計画である。

午前十一時、外をとり囲む警察側のなかには、焦燥感にかられた意見がとび出して、おかしな話ではなかつた。  
「あさま山荘の教訓を無駄にするな！」  
という声とともに、いっぽうでは、  
「あさま山荘とはわけが違うんだ。ここは日本の中核じゃないか。国際的にも、こんな状態を見せておくわけにゆかん。秘書官ひとりの生命を犠牲にしても、強行に奴らをつぶすべきだ」  
という強硬意見さえとび出した。

午前十一時三十分、公邸の周囲にはついに家屋を破壊する工用の鉄球が持ち出された。ずらりと並んだ装甲車の隣から、機動隊長が小旗を振った。その瞬間、ぐおんという音響とともに、鉄球は公邸の壁へのめり込んでいった。……カーテンを閉めた公邸内部は沈黙したままである……



機動隊員たちが見るところ、かれらは官邸の大広間からこちらに向けていた銃口を引っ込めて、隣のちぢまりした公邸にたて籠つた気配であつた。公邸は、西に崖をひかえ、一方は確保した大広間につながら、かれらとしては南北を重点的に睨んでいれば、籠城しやすいところがある。ひよつとすると、大広間の確保はあきらめたのかもしれないが、しかし、まだ判然とはしない。

「……いささか膠着状態に陥つた緊迫シ

マイク・サイドからの証言

# 本への TV・新

7時間半しゃべり  
見た情報化時代の

## 冷静を保つのが放送の心得

せよ、ほとんどはトランジスタ・ラジオやカー・ラジオから流れる声に一喜一憂した人のほうがはるかに多かったはずである。文化放送のほかの東京キー

局ももちろん現場中継をしたし、私たちの番組は北海道、名古屋、大阪、広島、福岡の基幹局はもちろん各県の地方局にも適宜ネットされた。

声だけの世界で多年経験を積んでいく報道デスクや現場の記者はともかく、よど号事件や三島事件、選挙の開票や組閣などあるていどの長時間ナマ番組にはなれているとはいえず、マラソン特番のキャスターをはじめ、つとめた私には貴重な経験だった。CMは現場中継中、大半の番組はCMをはさんだ。画面だけ写してアナウンサーやキャ

スターに少なくとも交代で暫時ヒマを与えることのできるテレビと違い、中継中に瞬時の油断なくしゃべり続けなければならぬ。ラジオの担当者にとって、十分か十五分に一分そこそこのCMタイムは、生理的必要性をみならず格好のヒーロー・プレークになってくれたのだ。

# 報道規制と 聞への疑問

続けたキャスターが  
マスコミのあり方

俵 孝太郎

(文化放送ニュース・キャスター)

二月二十八日、一億人の目と耳がテレビ、ラジオに吸いつけられた。だが、ラジオは連合赤軍も聴いている——情報化時代のマス・メディアの役割を、その日の七時間半は問題提起したのである。

## マイクに向かって七時間半

「いよいよはじまりました！」私がニュース・キャスターを務めている文化放送の報道部から簡潔な連絡がきたのが二十一日午前十時すぎ。あさま山荘総攻撃がはじまり特番(特別番組)態勢に入ったらすぐかけつけるという事で前夜から待機して

いた私は、局に急いだ。玄関からスタジオに直行したのが十時四十五分ごろ。九時五十五分、連合赤軍一味に警察から最後通告が出されると同時に報道部デスクがMC(司会者)となってスタート、十時二十分



ニュース・キャスター 俵孝太郎氏

まいったん中絶して定時番組に移って現場中継を再開しようというところである。そのときからあさま山荘落城後の午後六時四十五分までまる八時間、正確にいうと途中警官に死傷者

が続出したために作戦練り直しの会議が開かれて動きがとまり、やむなく定時番組を流して午後二時半から三十分間を除いて前後七時間半、私はマイクの前にすわり続けた。

現場中継の態勢は、スタジオにMCの報道部デスクとコメントを受け持つ私がひかえ、現地南軽井沢の取材本部と軽井沢署および現場の五人の記者を交互に呼び出して、なまなましい実況を伝えるとともに解説・分析判断を加えるという形である。

現場の記者は、前線警備本部とあさま山荘玄関前と、ペランダ側から山荘を見上げる位置に陣取り、ハンディ・トーカーで取材本部経由でスタジオと通信した。つまり、テレビ・カメラのあった位置に記者がいて、ラジオだけから声だけで七時間半しゃべり通した、ということになる。

一億国民がテレビの前にすわりつくした、といわれた一日である。たしかにテレビも、NHKの午前九時四十分から午後七時までの連続九時間二十分を筆頭に、各民放局も八時間前後の現場中継をした。しかし国民は新聞記者や放送評論家ほどテレビの前にばかりすわっていられたわけではない。あるいはオフイスで、あるいは店先で、それは時々テレビをのぞきにいったに

のほうがかける。テレビ的コメント術なかもしれない。だが、かえりみて私たちがつとめてこいういうタッチを避けたのは、や

### 意味ないラジオだけの管制

こんどの事件の報道に際して、ラジオが警察の作戦にまでふれて現場中継したのは行きすぎではないか、連合赤軍一味に情報を提供する結果になったのではないか、という意見がある。これにふれておきたい。



は、報道管制がとられていた。攻撃開始時間とライフル狙撃隊が控えていることを絶対に報道しないこと、を中心として、警察側の作戦面と、人質の泰子さんの生死の懸測にふれることは避ける、というルールだ。文化放送はこれを厳守した。総攻撃までの九日間、私がキャスターを務めていた毎日の放送でもルールを厳守した。おかげで新聞も読まずに放送したのか、ナメぬるいではないか、という苦情ももらったくらいだ。

### 不見識な情報が多過ぎた

こうした、良識にくらべれば、テレビにせよ、ラジオにせよ、あるいは新聞・雑誌にせよ、あまりにも多大の情報をこの種の事件に流しすぎ、だからこそ悪しき連鎖反応もおこるのだという説は、はるかに傾聴に値する。たしかに百人を超える人員を現場と周辺に動員したといわれるNHKを

いた、という。外にいる一味の仲間から、電話を通じて新聞報道が山荘内に送られていなかっただとはいえない。テレビの音声だけをきくことも、新聞社が現場付近で送稿や情報交換に使っているハンディ・トリーキーを借り受けることも、FMラジオをちよっと改造すればできる。現に警察無線は一味に逐一傍受されてきた。

はじめ、中央紙で五十人から百人、民放テレビ・キートンで数十人、ラジオキー局でも二ケタに達した取材陣を動員し、あれだけの紙面や電波を費やしたことは、当日国会で台湾の帰属問題をめぐる佐藤総理の重大答弁があったり、ニグソンの中国出発があったりしたことを考えれば、平衡を失っていたといえない。

## 大特集

# 日本の100人は テレビで 見えた

## その2

### 金嬉老事件の体験から

望月和幸(守又映 ふじみ荘主人)

私も、金嬉老事件で人質になった体験があるものですから、泰子さんが人質ときいて、どれだけ堪え忍んでくれるか、心配しました。私の体験では、肉体は案外持ちこたえられるんですが、精神がまいってしまいうんです。そのときのアクシデントを心配しました。

### カッコ悪さの原因

大藪春彦 (作家)

あいつら(連合赤軍)の意図がわからない。あれだけの警備陣をあさま山荘に引きつけた以上、ほかのところでも要人の暗殺を企てるか、獄中にある幹部を釈放しろと要求するのかもしれない。また、あれだけの抵抗をみせたのだから、持っていた手製爆弾で自爆するのかもしれない。



私の場合八十八時間でした。四日目に犯人が逮捕されたときは「もう一日続いたらどうなっただか」と自分でも恐ろしかったのを覚えています。「殺されることはない」と思ったという泰子さんの言葉は、祈りみたいな気持ちだったのではないのでしょうか。人間の生命力のあらわれだと思います。ああいう場合、自分ではどうしようもないと悟ると、自己保存とでもいうか本能的に相手との間に、なんらかの関係をもちようとするものです。そんな面もあったのではないのでしょうか。それにしても、二百時間以上もよく耐えられたと思います。今度の事件で、今さらのように思うのですが、社会に反する行為には厳罰を、ということを目指みたいです。ハイジャックの



### 女らしさの救い

洪沢 龍彦 (評論家)

彼らは自分のやりたいことをやっただけだから、同情する必要はない。かといって、憎んだりという気持ちにもなりたくない。これが第一点。

第二には、彼らの行為は政治的行為ではないということ。政治的行為とは、それによって、何かを要求するとか代償を求めるとかいうことであり、彼らには、それはなかった。これが実に現代的な特性ではないか。

既成の政教は、効果をねらう政治的な行為があるものです。が、その政治的行為に対する不信感が、暴発してああいう行動が生まれてくる。

今の世界は、全体に何らかの方向性が定まらず、すべてあいまいだという気がする。だから三島さんの事件がおきたときに彼らが共感するというようなことがおこってくる。それと関連してあいつの行為は、他からの評価とか論評とかがともて虚しいものになってしまい、評論なんて拒絶されてしまいうような感じがするのだ。

小さなことでは、泰子さんが女らしくあつたから、あの事態

の中で切り抜かれたというところ。たとえ、お守りを渡されたらそれを信じて握りしめていたとか、「おとなしくしていれば生命の危険はない」という言葉を信じていたとか——殺伐とした世の中の、あのような女らしい行為には、感銘を受けました。

ら、テロでも許容されてきたところ。が今度の場合は、相手は殺しても、自分は手をあげて降伏するという極めて非日本人的発想から出たものだから、大いに糾弾され、許すべからざることとされている。

さて当日、NHKはじめてテレビ各局は、一日中放映しつづけて、都民の九割がテレビの前に

坐り込んだ。あの兜町でさえシーンと静まり返った。

だが夜になって、ハッと気づくと、当日は北京で米中コミニケが発せられる日だったし、



彼らを育てた新しい教育に対する批判が強まっている

もちろん、あの寒さの中で頑張ったお巡りさんや報道陣さえも、気の毒でならないのである。

勉強しなりたい 小中陽太郎 (ルポライター)

たいへん重要でむづかしい問題だ。いつもはホイホイとコメントに応じられる小中としては珍しく慎重になってしまっている。なんていうか、軽率には発言できないという気がするんです。もういちど原点にもどって勉強をしながらというのが今の気持ちです。

### 違うテレビと現実

三好 徹 (作家)

よくはその現場に行つたわけですけど、大切なのは、テレビと現実とはもの凄く違つていくことです。恐らく、何千万という人たちがテレビを見ていたんでしょけど、テレビというものは、茶の間であつて、コタツやストーブを囲つてホンワカした雰囲気の中で見ているワケですよ。



現場に行つてみると、あの軽井沢の山荘のあの一帯は広い

### 小児心理学の問題

杉森 久英 (作家)

前に、あのテレビ画面をすべて真実として報道をうのみにしてしまうことのほうがむしろ恐ろしいと感じましたね。

発された日本とのちがいがわからないのだから、これも幼児程度である。身体だけ大人で、精神は子供——そういう患者のための養護施設が必要である。

### 赤は昔からいた

横井 庄一 (クアム島生還)

ああいう悪いヤツがいるんだ。昔も赤軍はあつたが、いまは多くなつたように思ひます。なぜあんなことをするのか私にはわかりません。



ホラ、あの北海道の樺太(現在のサハリン)からソ連に渡つた松竹の俳優さんがいるでしょう。あれが共産党の赤軍ですわねえ。(女優・岡田嘉子と演出家・杉本良吉の密出国事件)

これだけ警察網が張りめぐらされ、治安の行きとどいて日本に、ライフルや猟銃をもつてうろつき回つたって、結局つかまつてしまふということが見えなないのだから、考えることは小児程度である。つまり彼らのやつて居ることは、小児心理学の問題であつて、革命の問題ではない。

子が親のいうことをきかなくなつたのか、親の教育が悪いのか。昔は、子は親のいうことをよくきいたもんだ。

### 犯人を殺せ

王貞治 (巨人軍)

(二月二十八日当日)警官が死んだ? 大変なことになった

国会では四次防予算をめぐって佐藤首相が大切な説明をする日であつた。そこで、この日あさま山荘に総攻撃をしかけたのはたんなる偶然だったのかどうか——実は私も首をかしたものである。

その日の夕刊を眺むと、自衛隊の幹部まで、「即戦即決でやるべきであつたのに、あんなにもモクついたのはケンカラン」と論評していた。つまり警察は目に見えぬ上部から圧力があつて、お蔭で尊い犠牲者までだしてしまつたのでは……。これが下衆のカングリであればよいが、そうでなかったら犠牲者は



現場に行つてみると、あの軽井沢の山荘のあの一帯は広い

惑をかけている。あさま山荘事件をイギリスのある新聞は、「クレージーなイッピーが女性を人質にとつて、山荘に立てこもつた」とだけ報道した。つまり、だのヨタモノではないかというのだ。私の見方もこれと同じである。彼らに三度笠をかぶせれば、木枯し紋次郎だ。知性の低さ、理性のなさ暴露した子供の遊びにひとし



だのヨタモノではないかというのだ。私の見方もこれと同じである。彼らに三度笠をかぶせれば、木枯し紋次郎だ。知性の低さ、理性のなさ暴露した子供の遊びにひとし

### なぜ首相はやめぬ

安田 武 (評論家)

あの日(逮捕の日)はカゼをひいていて、一日中テレビを観ていたのでいろいろ感じた。第一にテレビがえんえんと一日中事件を報道していたその時、国際的には米中会談による台湾問題、国内的には四次防の予算修正問題という重要な政治問題が発生していた。これは連合赤軍の社会問題をふくめて、いづれも大問題といえる。

ところが、これだけ失策を重ねながら、なぜ佐藤首相は辞めないのか。戦前戦後を通じて、いや明治らしいこんな内閣はな

らである。そこに勉強しないですむ大学があるからであり、国立大学の教授が国家から金を貰いながら、せつせと政府批判をやるようなあさままだから。この機会に根本的に大学というものを考え直す必要がある。警察権力が強くなりすぎたという人がいるが、戦前にくらべたら、いまの警察権力など無きに等しい。私など、女性と歩いただけで、引っぱられたものである。まして人の金品を奪つて革命を叫ぶなど許さるべきでない。彼らこそニセモノである。

第二に新聞によると、面会謝絶の泰子さんに長野県警の警部が会い、泰子さんの連合赤軍に対する同情を暗に封じようとして居ることだ。これからもうかがえるように、今度の事件では全体として報道管制がしかれ、警察を一方的に正当化するため彼らがいかに残虐、非道、



開の原野のひろがっている中国と、隅々まで開

だいいち連合赤軍という呼び名がおかしい。私は彼らをヤクザ、いやヤクザ以下と思つた。なぜならヤクザはカタギの者に迷惑をかけない。ところが彼らは人質をとつて、カタギに迷

凶悪な犯罪者であるかのような  
デッチあげがおこなわれている。  
これから警察の公安活動が露  
骨に強くなると思われる。す  
でに日本は警察国家である。私  
はこの公安活動に不安をお  
ぼえる。

第三は、一部のマスコミが警  
察の発表やその基本的姿勢に密  
着しすぎていて点にも不安を感  
じる。見出しと内容が違ふとい  
うような、意図的なものさへ感  
じる。

現在の学生運動に現われた若  
者のパソナリティは、戦後日  
本の状況が必然的に生みだした  
パソナリティといえる。した  
がってこれからも赤軍派と類似  
のAやBがでてくるのが考え  
られる。それは学校教育や政治  
だけの問題でなく、文化の問題  
でもある。かつてファッシュと  
いわれた平沼騷一郎でさえ、そ  
の出所進退は佐藤首相よりケ  
ジメがあった。これまたもはや政  
治の問題でなく、文化の問題で

### 根性に驚いた

梶原一騎 (作家)



これまでは学  
生運動をやって  
てね……

あれはすごかった。もうテレ  
ビに釘づけになって、仕事も手  
につかず、ドギモを抜かれる思  
いで観ていた。最近の学生に、  
あんな根性のある連中がいたと  
は、これは大変  
なことだと思っ  
てね……



このあと雪原は、激しい攻防戦の場とかわった

いる。たった一人の主婦を守る  
ために、多くの犠牲者と莫大な  
エネルギーを費やす平和国家  
が、何十億円もする戦闘機や、  
大量殺人のための武器を調達す  
るのはなぜだろう……。たった  
一人の人間を守るのにすら、あ  
れだけの犠牲と出費が必要だっ  
たのだから、一億の人間を守る  
ための犠牲や費用がちょっとや  
そっとのことではすまないこと  
ぐらい、戦争を体験した人でな  
くともわかるはずである。  
私は、あの十日間に費やした  
ようなエネルギーと人々の関心

ある。明らかに価値の混乱を露  
呈している。  
これからは連合赤軍のような  
事件を生み出す可能性をはら  
んでいるのである。

どだい日本政府と治安当局は  
学生を甘やかすすぎる。  
安田講堂(東大紛争)のとき  
でも、私は機関銃をぶっ放せと  
いったんだ。それもしいから  
学生は、人を殺してもオレたち

は殺されないんだと、思いき  
たことをやるわけだ。学生には  
甘えがある。私は治安当局は何  
をしていいのだといいたい。三  
人も犠牲者を出すくらいなら、  
はじめから思いきったことをや  
るべきではなかったのかね。  
それにしてもあさま山荘の連  
中はだらしがないね。私は最後  
まで撃ち合いを演ずると思っ  
ていたんだ。ところが最後はケ  
ット(毛布)をかぶって、ぶるぶる  
震えていたというではないか。  
例のフランスのカルチュ・ラ  
タンの紛争でも、何人が死んで  
いる。欧米では、ああいう類  
には発砲してもいいという原則  
がある。ところが日本では、佐  
藤(首相)に原則がないように  
すべてに原則がない。すべてが  
感覚的なんだ。フィッシングで  
ものをいっている。だから学生  
になめられるんだ。

政治は、選挙で  
自民党がもっと  
減り、社会党がもっと強くなれ  
ば解決すると思うね。  
連合赤軍は昔のアナーキスト  
に似ている。昔はアナーキスト  
もコミニストも区別がなく、  
自己破壊型の運動とテロをやれ  
ば、革命につながると思ってい  
たが、違うんだよ。

### あまりに戦術的な

尾崎秀樹 (評論家)

一九三〇年代の非合法共産党  
は弾圧が強化された末期にな  
ると、武装行動をとるようにな  
っていった。その結果、民衆から  
離れて運動を縮小せざるを得な  
いことになった。  
私は、内容は別にして、こ  
の歴史がくり返しているように  
思えてならない。  
最初、若者たちの行動には、  
民衆の共感や、同情も多かった

は殺されたいんだと、思いき  
たことをやるわけだ。学生には  
甘えがある。私は治安当局は何  
をしていいのだといいたい。三  
人も犠牲者を出すくらいなら、  
はじめから思いきったことをや  
るべきではなかったのかね。  
それにしてもあさま山荘の連  
中はだらしがないね。私は最後  
まで撃ち合いを演ずると思っ  
ていたんだ。ところが最後はケ  
ット(毛布)をかぶって、ぶるぶる  
震えていたというではないか。  
例のフランスのカルチュ・ラ  
タンの紛争でも、何人が死んで  
いる。欧米では、ああいう類  
には発砲してもいいという原則  
がある。ところが日本では、佐  
藤(首相)に原則がないように  
すべてに原則がない。すべてが  
感覚的なんだ。フィッシングで  
ものをいっている。だから学生  
になめられるんだ。

たった一人の主婦が、その生  
命を危ぶまれながら、暴徒たち  
に囲まれて一週間すごした。そ  
れを日本のマスコミが巨費を投  
じて報道し、三人の生命を犠牲  
にし、多数のケガ人を出しなが  
ら莫大なエネルギーを投じて救  
出した。まことに立派なことだ  
と思う。  
けれども、よく考えてみると  
もっと多くの人たちが、もっと  
広範囲に、もっと長く、生命の  
危険にさらされている公害や災  
害について、マスコミは巨費を

### 公害の方がもっと酷い

山本直純 (作曲家)



マスコミは知  
らん顔、国家は  
ほっかむり  
——  
といった面が少  
なくない。

撃だけが目立っている。理念と  
表現とのギャップが大きすぎる  
のだ。現代人の意識の中にはこ  
のギャップが存在するが、彼ら  
の行動は、そのギャップをトレ  
ピアルに出しているような気が  
してならない。  
それにしても、今さらのよう  
に感じたのは、テレビの臨場感  
の偉大さである。人質問題に対  
する興味は、次になにがおこる  
かわからないといった、未知に  
対する興味であった。横井庄一  
さん事件、ニクソン訪中、あさま  
山荘事件など臨場感の迫力にひ  
きつけられている現代人の心理  
に興味をもった。

### もつと根回しを

園伊玖磨 (作曲家)



命」とい言葉  
たとえば、革  
命」とい言葉  
一つとてみて

ぼく自身はあいつたことは  
しないから、彼らの行動はわか  
りません。物を考える能力が浅  
いということなんじゃないで  
しょうか、彼らは。だが、これ  
は連合赤軍に限らず、最近の若  
者ひいては日本人全体がそう  
いう傾向だともい  
えますね。  
たとえば、革  
命」とい言葉  
一つとてみて

今日の平和繁栄の社会の中に  
たまっている、いろいろないか  
りが、熔岩のようにふき出した  
という感じだ。  
革命の社会では、その前にか  
ならずスキャンダルがおこる  
ものです。ところが、今回の事  
件は、スキャンダル以前の事  
でしかない。芸術的すぎるん  
です。あれでは、政治的な事件と  
はなりえない。アンクラ演劇で  
の殺人やエロティックな演技と  
同じことで、軽井沢でのアン  
クラ演劇としか、いえないと  
思います。

世の中や生活をかえなければ  
と思うなら、その条件としてウ  
ミみたいなものがふきでてな  
ければならないと思います。  
大学という、いわば社会の無  
風地帯で考え行動していた学生  
たちが、安田岩に代表される学  
園の中での演劇では駄目だと

いうことで過激化して、現実の社会にとび出していった結果というところでしょうか。

### 天才と狂人の間

斎藤 茂太 (医博)

まず、人質のことが問題ですね。救出された泰子さんが、自分では人質ではなかったというようなことを言ったというが、結果的には人質にかりわらないし、その点では、幼児誘拐と何らかわりないですね。彼らは感情に左右されずに目的に向かって徹底した行動をみせた。これは、情性欠如型の人間で、精神医学的には、狂信型に属します。

### 武装闘争の必然性のなさ

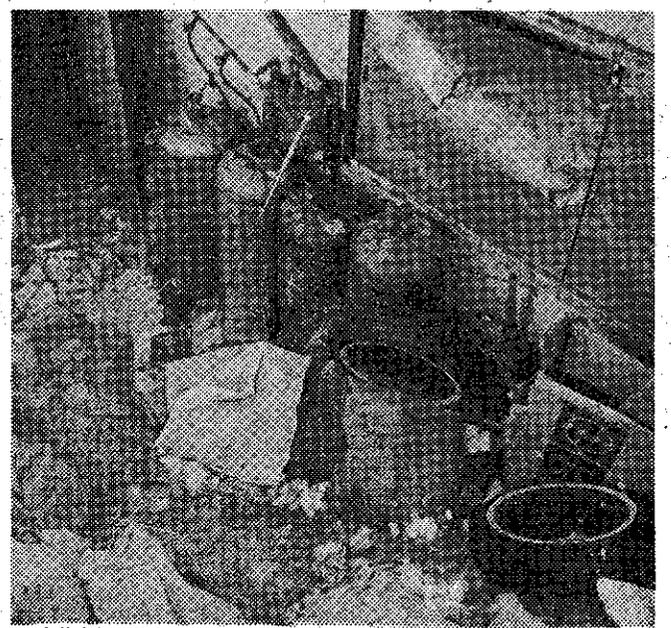
杉本 苑子 (作家)

あさま山荘事件のニュースに接したとき、私の中に生じたのは、「連合赤軍の若者たちは、本気で武力闘争を、体制を改革しようとする最高、最良の手段と信じこんでいるのだろうか」との、疑問だった。

一つ目的のためには、なんでもするといふこの性格は、一つのものにはずばぬけているが、他のいろいろな人間的な面で欠けている。天才型ですが、天才と狂人は紙一重といわれるように今回の事件でも、そのことを痛切に感じましたね。コロンブス、ツェッペリンなども、そうですが、一つのことにはまい進するが、他のことはかえりみない、そんな型の人間なのでしょう。

あの事件をみていて、従来の日本人とは、違っているように思いましたね。玉碎るかと思つたら、あっさり捕まってしまう。昔の人間だったら自爆するか、突撃していったでしょうがね。

レビの画面や新聞の紙面から、ガス弾の煙幕でかばってあげたのはあさま山荘事件だし、警察と機動隊に、民衆の当然な好感と同情を、しっかりと結びつける役割をはたしたのもまた、あさま山荘事件である。連合赤軍の諸君は、政府与党と機動隊から、協力を理由に、感謝状をもらつてもいい——と言つような、皮肉な論理がなりたつほど、つまり彼らの信奉する手段は、マイナス面ばかり働いて、現段階ではその主義や主張



山荘内部の荒廃はなにを物語っているか

の実現に、少しもプラスしていないのだ。

諸外国の過激派グループと、彼らは政治理念でつながっている部分がある。それを思想の拠りどころとするのはいい。しかし諸外国の革命分子が、おのの国の成立過程や民族性、社会状況の現実に合わせて武力闘争を最良の手段と判断し、それを用いて体制改革に成功したからといって、日本人の精神構造、民族性、政治社会の現状を無視し、うのみにその手段だけを借

りてきて、同様の成功を夢見るのは文字通り夢想にすぎない。毛沢東を頂点とした一九三〇年代の紅軍、あるいはここ数年、アラブ、パキスタン、南ベトナムなどのゲリラが置かれてきた状況の過酷さは、現時点での日本の国情などは、てんから比較にならない。ただちに死に直結したレジスタンスなのだ。うむも言わず、軍隊が浴びせる機関銃の掃射。拷問室につづく密殺。とうてい「ママがきたわよ。出てきてちょうだい」などという甘ったれた状態ではない。武器を握ったのは必然の結果であり、その武装は、背後につづく、膨大な民衆の、願望の具象化でもあったのだ。だからこそ彼らの行動には意義が生じた。薄ぎたいない犯罪人に墮すことはなかったのである。

土壌に目をそそがず、土壌から咲き出した現象だけを猿マネするのは、日本人の得手だが、ひるま火炎ビンを投げた手を、夕方、親の住むマンションで洗って黒のスーツに着かえ、夜は銀座のマキシムで、女友だちと食事できる現状で、いきなり武力闘争に短絡してみせても、民衆は納得もしなければ支持もしない。言い古された言葉だが、民衆に支持されない革命など、実現しっこないのである。

# 新左翼

## 過激派集団はこれからどう動く

### 東京へ武器を搬入した 残存赤軍のゲリラ戦・ 最も無気味な黒ヘルの 暴走など総まくり

### 銃撃戦 支持の声しきり

赤軍派系の赤色救援会が、あさま山荘の落城四日前の二月二十四日、いち早く東大本郷において「銃撃戦支持人民集会」を開いた。赤軍派の残存部隊のA君は、

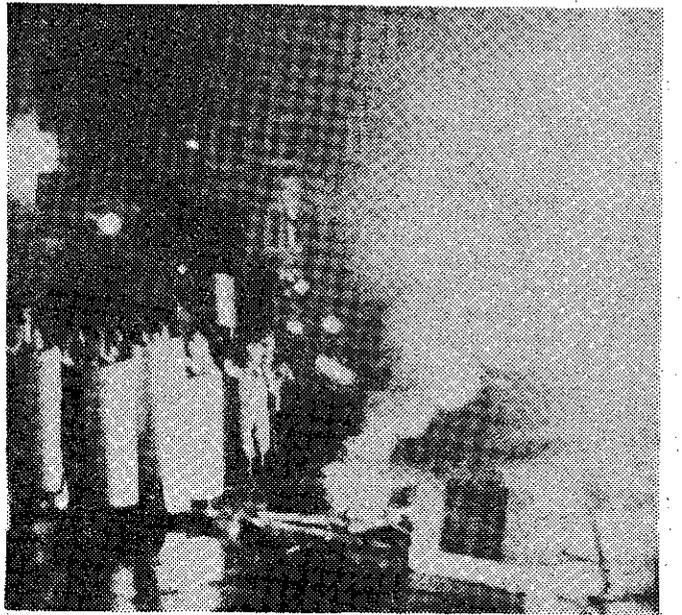
「今回の闘争は、人民のために闘う正当な行為であり、彼ら数人があそこまで徹底抗戦したのは、旧陸軍においてさえ、まれである。銃でもって権力側の人間を殺すことは、当然の結果であり、もっと多くのヤツを殺せば、さらに立派であったのだが……。その点が残念であった」と、ヒドイはね上がり。しかも、最高幹部の逮捕による「壊滅説」などについては、

「われわれの組織は八派（新左翼セクトの総称）の諸君のように、タテの支配系列を取っておらず、ヨコの連帯を強化してい

るのだから、今回のコトで壊滅することはない、とはっきりいっておきたい。また赤軍派と京浜安保共闘の連合についても、「世界同時革命論」と「一国革命論」の野合と取っている向きもあるが、そうではない。理論的に差異があろうとも、革命を志向する中で、一致する点があれば、どこでも連合していくのが、方針だ」と、強い口調で総括する。

この赤軍派とは、共産主義者同盟から枝分かれしたという意味で、「同根」のブンド戦旗派も銃撃戦を肯定してはばからない。反帝戦線書記長・与田慎吾戦旗派幹部は、こう述べる。

「今度の武装闘争は、日本における最初にして、本格的な、ゲリラ戦の様相を持っていた。つまり、テレビのブラウン管を通



渋谷暴動では中核派が爆弾をしかけたというが……

### 中核派内部で意見不一致か

慎重な構えはみせている。「権力とは関係ない幸田泰子さんを、目的意識的に人質にとったわけではないし、保護の仕方にも誤りはなかった。が、こうした技術的な側面からだけ、評価することも出来ない。むしろ、原則的にいえば、あのように追いつめられたところに、路線の破産があったといえる」(解放派八十島義道書記長)

かといって、「武器を使用するのは、歴史的必然であって、

将来、当然行なわれなければならないだろう」と、やはり否定はせず、武装闘争は「時期」の問題だといふのだ。

また、脱セクトの過激派、黒ヘルグループは、まだ表立った

反応を示してはいない。が、衝撃を受けた事は確実。赤軍シンパは相当数いる。これから、より過激な動きが出てくることは、十分予想される——という

が、専門家筋の一致した見方だ。

中核派は、新左翼の中でも最大派閥で、連合赤軍のような非合法組織は別にして、大衆闘争では、もともと過激な運動を繰り返してきた。昨年11・19における松本連続打ち事件や、11・14の渋谷暴動における警官殺害事件と、常に火災ビンを中心とした街頭闘争で大あばれしてきた。

この火災ビン闘争、暴動戦術をエスカレートしていけば、結果的には、より過激な武装闘争にいかざるを得ない。しかし、最大派閥であるがために、連合赤軍のように真一文字に非合法闘争にも走れない。その内部矛盾、ジレンマを抱えて、中核派は、統一見解が出せない——というのが、真相のようだ。

「革命とは無縁ということでもマングア以下である。そもそも、ゲバラやマリゲラなどの南米後進国における革命方式を、直接日本へ無媒介的にもってきただけは、教条主義で、適用の限界を知らないサルみたいなもの。われわれにしてみれば、あんなコトしか出来ないのかという感じだ。だいたい、銃撃戦事件にしても、わが組織がやれば、もっと大きく、うまくやる。ただ、やらないだけだが……」(革マル

反戦青年委員会代表・荒巻慎一

はどうか。一部では、爆弾製造男、梅内恒男ら十三人の指名手配組の残党を中心にして、地下組織を立て直し、復讐戦を企てているという、不穏な動きがあるといわれている。そのために、港行幹部が関西に集結し、「秘密会議」を持ったときい

「連合赤軍は、壊滅したといわれているが、簡単にそうともいえない。赤軍派は三百人、また京浜安保共闘は百人の活動家を擁しており、今回逮捕された十三人は、幹部クラスとはいえず、その一割にもならない。銃器にしても、あれで全部か……という、疑問がある。従って、まだまだ油断は出来ない」と、学生問題研究家の東島克己氏は分析する。

第一、彼らは毛沢東理論の「銃口から革命へ」の思想にコリ固まっており、軽井沢事

### 沖繩返還で爆弾闘争を拡大

では、今後、各派は、軽井沢事件を踏まえたうえで、どんな行動に打って出ようとしているのだろうか。

政治プログラムからいえば、最大の闘争目標は、五月の沖繩返還にからんで、自衛隊の沖繩派遣であろう。すでに、各セクトでは、この、自衛隊移駐阻止闘争を、今年上半期の運動の最重要点に取り上げ、着々と態勢づくりをしている。

まず、銃撃戦支持を表明した戦旗派では、現地闘争を盛り上げる一方、自衛隊基地に対して全面的な攻撃をかけ、戦術的には、爆弾闘争を拡大していくという。さしあたって、「沖繩、未解放部落、叛軍——の三点を結合し、今日の状況の限界を突破していく方針」(手田氏)

中核派も、自衛隊沖繩派兵阻止闘争を組み、強行上陸を実力でもって、排除していく過激な方針を出している。「今月中に、立川基地への移駐反対運動を爆発させ、これを突破口に進撃する」としている。



自衛隊の沖繩移駐はどうなる?

ばれる各セクトは、おしなべて連合赤軍事件に衝撃を受けたことは、確かだ。

さらに、革マル派では、沖繩闘争において、本土の集結地をはじめ浜松(航空自衛隊)、長崎、佐世保(海上自衛隊)の基地へも、果敢な、実力闘争をしていく計画だ。

今のところ、表面的には、連合赤軍の影響が、各派の運動方針にただちに出ているとはいえないが、それは今後の問題であろう。ところで、「壊滅しない」と豪語する、肝心の赤軍派の動き

件だって、その考え方からすると、ゲリラというよりプロバガンダに近い。上州の山岳地帯にアジトを作っていたのも、あの規模な「基地」づくりからみて、彼らはゲリラによる「東京進撃」を考えていたのは間違いないというのが、公安筋のもっぱらの推測だ。

「ヘタすると、もう、都内のアジトに武器が運び込まれている

黒ヘルの特徴は、統一したものが無いだけに、なにが飛び出してくるかわからない。事実、日大全共闘くずれの十月社グループは、昨年夏には、総監公舎爆発未遂事件を起こした例がある。

それに、もともとセクトに対して不満を持った連中が、黒ヘルグループを作ったので、こんご連合赤軍に影響されて、セクト以上に過激な行動を起こすことは、考えられないことではない。

「黒ヘルグループは、昨年確認されているだけで、二千十組二千二百人にもぼる。見方によつては、この黒ヘル勢力は、連合赤軍の予備軍的存在といえる。だから、たとえ連合赤軍が壊滅しても、第二、第三の同じような組織が、ここから生まれ

### 黒ヘル部隊と赤軍残党の力

てきては不思議ではない」と、東島氏は断定する。

とにか、よど号ハイジャック事件の際、中国の周恩来首相が「英雄的な行動であった」と発言したとかの噂が出た途端、当時ML、四トロ、反帝学評が急にゲバを始めた事実がある。今回も、事件当初は、あまりの事件の大きさに、精神的ショックを受けたセクトもあった。が、人質も無事に帰されたこともあって、日時が経過するに従って、彼ら流に今度の事件を「冷静」に受け取め、革命運動の「実践」の一形態として、徐々に消化していく可能性がある。つまり、運動にとってのマイナス面を、日が経つにつれて切り捨てていき、逆に過激化していくといえるだろう。

「努力が報われぬ社会」への慨嘆  
が洩らす

# 父の赤軍兵士

「罪人」を子にもつ親の気持ちは、居ても立ってもいられないものだろう。「まさかオレの子が……」と思っていた親は子供の行為を、どう受け止めるのか。赤軍派幹部植垣康博の父・敬士氏は本誌のインタビューに応じてくれた。

## 逃げも隠れもいたしません

かなり酔っている。  
「いやあ、今日は土曜日でしょう。友達に来て一杯やっていたんですがね。その辺へ出てやりませうか」  
農場近くの居酒屋で、彼の告白は、酔いと共に進んだ。「マスコミはひどすぎるよ。きょう、俺も雑誌を沢山買って読んでみたんだが、ひどいことばかり書いてある。俺の家のことを、どこか家の中いなくなって空っぽだとか、坂口君の家では、店を閉めてしまったとか、坂東君の家でも店（旅館）をたたんだとか。連合赤軍の家族はみんなダメになったとしか書いてない。どこにもガンバっているとか、一所懸命やっているなんて書いてない。  
ちえッ。(今夜の)酒はうま

## 息子が罪を犯しても庇う親

と、コップが割れんばかりにギョツとにぎりしめて、「でもやっぱり、いけないんだよ！ あんなこと（あさま山荘事件）しちゃ。(世間の)秩序を乱しては、いけないんですよ。私やね、あの子に、そんなこと（連合赤軍の活動）をやっちゃいけない、やっちゃいけない

家族全員がダメになることはない。うちだって、ヤツ(康博)の他、三人も子供がいるんだ。ヤツのおかげで、家族がダメになったら、うちの生活メチャクチャだよ。  
それぞれ、みんなガンバってんですよ。ガンバる他ないんだよ。うん。うん」  
と、じっと一点をみつめて、「坂東のオヤジさんは酷だよ。何も、あれほど(自殺)しなくても良いのに。あれじゃ、残された家族が可愛そうだよ」  
シンミリとして、ぐっぐみあげてくるものを、こらえている感じである。  
「俺も、俺もなア。坂東のオヤジさんのようになりたいよ。こんな、弱気じゃいけないと思っても、どうしても、弱気の虫が出てきてしまうんだ」  
誰が、好きこのんで、クソ面白いもない英語の辞書を引くやつがいるかい。こりゃ努力しているもんなんだ。大学に行くためにもね。それをなア、あの子(博康)は……」  
この間、コップ酒を二杯ぐらい注文したが、話が進まないうらくなって、酒は進まない。「世間を騒がせたことは、親として、申しわけないと思うんですよ。……それにしても……親としては、最後まで息子を庇ってやりたいんだよ。最後までガンバってやりたいですよ」  
昔は、「勘当」なんてことやったが、私は、そんなことはしません。罪は罪。でも、俺は、あの子の親だからね。俺が見捨てたら、味方は一人もいなくなるんですよからね」  
と、ガックリと頭を落とす。「やっぱり、やっぱり、いままでの努力の成果が、いっぺんにすっ飛ばさないと、やっちゃ、いかんね。そりゃ、あいつは努力家だったんですよ」  
問わず語りに、わが子の昔語りははじめた。  
「高校時代のヤツは、陸上競技にもうちこんでたなア。平凡な高校生だったんだがなア。勉強一筋の男で……。親が言うまでもなく進んで努力したもんだ。現役で、国立大学(弘前大学)

軽井沢駅頭で逮捕されたM作戦容疑者の肉親

# 10年後の歴史を信



「息子のやったことは罪悪でも、彼を守ります」と植垣康博(左)の父は言う

に入学したんだからね。努力家だったなあ。  
ただ、小さいころから物事に一途に向かうタイプだったね(その点を別にしては)。みんなと同じですよ。物事に打ちこみすぎるところが、いけなかったのかもしれない。いまから、そんなことを悔やんでも愚痴になるだけかもしれないね」  
できるだけ冷静に事態を見つめようとする様子で、酒はいかかわらずすすまない。「弘前大学へは本人の希望で行ったんですよ。ああいう思想に

も、帰って来た時には、お前の思想は間違っていると意見したりしたんですよ。秩序を乱すことはいかんね。  
それが、姿をくらましていたんで、どうしているかと心配していたら、あの始末(逮捕)で  
歴史が解明してくれそうですよ  
「なにせ、息子が生まれたのがベビーブーム時代のこと。マスプロ、ツメ込み教育を受けたわけですね。ああいう教育は、人格教育には、ほど遠い、むしろ被害者だったのかもしれないア。……教育にだけ責任を押しつけるわけにもいかんでしょうが。息子も、マスプロ教育には、かなり強く反撥したことは事実ですよ。あんなのは教育じゃないと、口に出して嘆いているくらいだったから……」  
何せ、我々の時代は、今のような、教育じゃなかった。俺たちは、明治から、大正時代の生れですからね。時代のギャップというやつがあつてね」  
世代の差を埋められないというもどかしさからか、唇をくっくと結んで、しばらく沈黙。「……どう言っても、息子が納得してくれるか、さっぱりわからないんだア。」  
誰か、好きこのんで、クソ面白いもない英語の辞書を引くやつがいるかい。こりゃ努力しているもんなんだ。大学に行くためにもね。それをなア、あの子(博康)は……」  
この間、コップ酒を二杯ぐらい注文したが、話が進まないうらくなって、酒は進まない。「世間を騒がせたことは、親として、申しわけないと思うんですよ。……それにしても……親としては、最後まで息子を庇ってやりたいんだよ。最後までガンバってやりたいですよ」  
昔は、「勘当」なんてことやったが、私は、そんなことはしません。罪は罪。でも、俺は、あの子の親だからね。俺が見捨てたら、味方は一人もいなくなるんですよからね」  
と、ガックリと頭を落とす。「やっぱり、やっぱり、いままでの努力の成果が、いっぺんにすっ飛ばさないと、やっちゃ、いかんね。そりゃ、あいつは努力家だったんですよ」  
問わず語りに、わが子の昔語りははじめた。  
「高校時代のヤツは、陸上競技にもうちこんでたなア。平凡な高校生だったんだがなア。勉強一筋の男で……。親が言うまでもなく進んで努力したもんだ。現役で、国立大学(弘前大学)



46年10月、宮崎市の一日内閣に乱入する

沖繩、中国問題、四次防などをめぐって政治対決がつづいていくだけに、こんどの事件は若い層の危機意識を強く刺激したようである。

現実には、同事件が解決した直後に、東京では右翼青年による暴走事件が起きている。去る三月一日、国鉄本社前を進行中の総評系の春闘デモの隊列へ学生青年純正同盟の宣伝カーが突入、労組員一人に重傷を負わせた事件がそれである。学純同は、第一次安保闘争のさなか、桐朋学園、石神井高校生らによって結成された学生時局協議会がその前身だが、防共新聞の浅沼英知雄氏の指導を受けているだけに行動はラジカルで、昨年十二月一日にも錦糸町駅頭で約百人の中核派とぶつかっている。

授業料値上げをめぐって七学部無期限ストがつづいている早大では、国防部を中心に日本文化研究会、ナショナルリズム研究会、自主憲法研究会、三島由紀夫研究会などの日学同（三谷哲夫委員長）系組織が全学統一連絡会議を結成、パリストとセクト主義的紛争利用反対を叫び、革マル派、民青と鋭く対峙している。

二年ほど前、自衛隊員に決起ピラをまいて注目された愛



猪野健治

三島事件公判を傍聴する民族派学生

「左」が強まれば「右」も強くなる。これ世界史的法則だ。赤軍の派手な動きをよそに、着々臨戦体制を整えているのが右翼民族派。鉄板でかためた装甲車など装備面でも充実をいそぎ、車輛所有数は七千台以上。

**衝撃だった赤軍の籠城**

右翼は、連合赤軍のあさま山荘人質事件をどのように受けとめたであろうか。

右翼にとって連合赤軍が許すべからざる敵であることはいうまでもないが、昨年以來、

# 戦闘体制を固めた 右翼民族派の危機意識

三島事件以後活発になったささまざまな主張と用意された防具などに見るこれからの行動

国戦線同盟の和田信吾総務局長は、「連合赤軍事件は、かねて予測されたことだから、あらためていふほどの感想はない」といいながらも、「今後この種の事件がつづいて起こるようなことがあれば、若い層も当然だまっていられないだろう」と、はっきり言っている。

しかし、事件そのものについての受けとめ方はさまざまで、たとえば、戦前、神兵隊事件などに連座し、現在は若手の指導にあたっている理論家の中村武彦氏（国民総連合代表世話人）は、「あの行動はゲリラの教典（アルベルト・パットヨウゲリラ戦教程）どおりだった。たった数人であれだけの警官隊を引きつけて十日間もねばったのだから彼らとしては本望だろう。これを機会に革命戦士と維新の戦士の本質的な問題についても一度考えてみたい」と語っている。

## 新左翼十四年の歴史

一九五八年（昭和三十三年）十二月十日、日本の「新左翼」は「共産主義者同盟」（通称共産同II）を創設することによって、日本共産党と訣別し、はじめて歴史の舞台にデビューした。

その後、六〇年安保闘争ではフロントが主役を演じ、フロント崩壊以後は革共同が台頭することになり、フロントと並んで日本の新左翼の双壁をなして現在に至っている。なお、この年の主な闘争は、動評、審判法闘争があり、六〇年安保闘争も開始。

六〇年（昭和三十五年）六月〇年安保闘争終了直後に開催された共産同第五回大会でフロント政治局は解体し、革通派、戦旗派、プロ通派の三派に分裂した。

十月、「社青同学生班協議会」（社会党系）が、また「平和・民主主義大学戦線（兵庫県大会）（フロントII構改革）」がそれぞれ結成された。

この時点で、すでに反日共系諸派は出そろった。すなわち社青同、フロント、社学同反対派八革共同関西派II第四インター系V、マルクス主義

た。だから山荘にこもったときも当然、警官隊とうちあつたすえに彼らなりの責任をとるものと思つていましたよ。しかるに彼らは、警官二人と民間人一人を殺しておきながら、自分たちだけは生き残つて、しかも毛布のなかにもぐり込んでいるところをだらしなくつかまつた。日本人としてこちの方が恥ずかしくなつたよ」

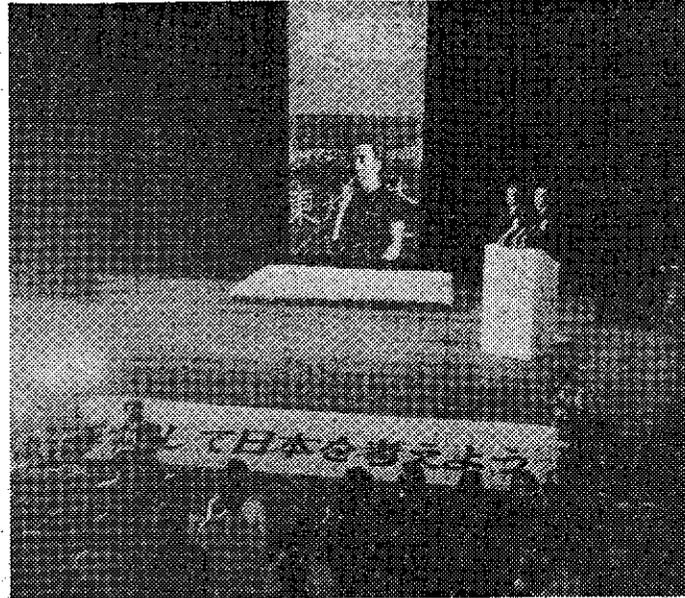
と、きわめて直截だ。「彼らは、唯物論者のはずだろ。それが善光寺のお守りを人質の女性に渡して、これをもつていれば大丈夫だよ、なんていうのはどういふことなのか。きけば十六歳の少年がいるという。彼らのやつたことはもちろん許せないが、なんだか哀れなような気持ちになる。彼らをしてそういう行動にかりたてたところの理論指導者こそ告発されるべきだ」

これは護国団顧問・市倉徳三郎氏の意見である。また、民族派学生組織・日本学生同盟を育ててきた矢野潤氏は「あの事件のテレビ報道がはじまつたとき、だれもが直感的に銃撃戦の果てに彼らは凄惨な自決をとりとげたと思つたのではない。既政治的な日本人の伝統的発想法として、少なくともそれを望むようななかがあつた。」

手先、国賊、売国奴」と落書きされ、大阪商工会議所の佐伯勇会頭は、タバコの吸いがらや犬のクソなどの汚物を詰めた小包を送りつけられ、日本精工の今里広記社長邸前では火花が爆

### 警察にまかせておけない

新左翼内の超過激派のテロに對する右翼の反応も敏感になつた。赤衛軍による朝霞の自衛



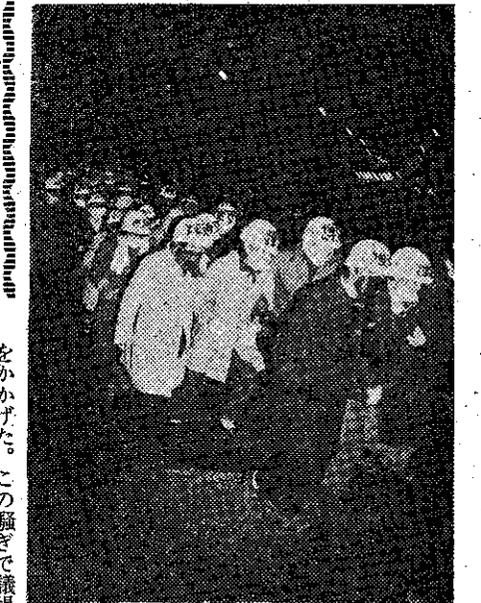
三島事件から一年

た。が、結末はああいう醜悪なものとなつた。いきどおりというより、なんともいえない「悲しみ」と「いらだたしさ」を覚える。あんなイヤな事件は一日も早く忘れてしまいたい」と、内省的な受けとめ方をしているのである。

### 全国的に行動に移つた

右翼には伝統的に理論より行動を重視する傾向があるが、それが危機意識と結びついて、直接行動が目だつようになったのは、三島事件以後である。

これを反映して、昨年一年間の右翼の抗議行動や要請、街宣などの活動件数は約五百二十件に達し、このうち二百七件百九十四人が不法行為で検挙されている。



極左の進出が危機意識をおも

右翼には伝統的に理論より行動を重視する傾向があるが、それが危機意識と結びついて、直接行動が目だつようになったのは、三島事件以後である。それを反映して、昨年一年間の右翼の抗議行動や要請、街宣などの活動件数は約五百二十件に達し、このうち二百七件百九十四人が不法行為で検挙されている。

このなかには、日教組大会に對する妨害行動や朝日新聞爆破予備事件、中国問題に関連した政、財界人への脅迫、イヤがらせ事件などが含まれている。

隊員殺人事件に関しては、時対協(大日本愛国団体連合時局対策協議会)代表が事件直後、西村防衛庁長官を訪問し、「全自衛隊員をして臨戦態勢に移行せしめ、常在戦場の備えをせよ」と、警告文を提出した。成田闘争での警官死亡事件についても、九月二十日、義勇軍首都防衛隊の木崎敏明隊長が、警察庁公安一課長を訪ねて、拳銃、ライフル銃による「暴徒射殺」を含む「権威ある治安警備体制」をとるよう要望している。

さらに松尾真中核派全学連委員長(天皇の訪欧阻止発言)のN TVでの大森実氏との対談)と、九月二十五日の中核派系沖青委四人の皇居乱入事件は、右翼の一部に「もはや警察だけにまかせておけない」という危機感を深めさせ、天皇訪欧当日の九月二十八日、緊張は頂点に達した。

この日、羽田には早朝から約三十団体千二百人の右翼団体がかけつけ、このうち十四団体二百五十人は「訪欧阻止」の過激派にそなえて遊撃態勢をとった。また、当日、蒲田で集會を開いた中核派に對抗して、民族派学生組織の全国学協は、皇居から羽田までの天皇通過コースに、ひそかに警備の「軍団」を配置した。

をかかげた。この騒ぎで議場は大混乱におちいり、議事は約二十五分にわたって中断した。朝日新聞爆破予備事件というのは、昨年八月、大日本賀城会の伊賀上高訓指令長ら三人が計画したもので「ダイナマイトで朝日の本社を爆破し、マスコミの左偏向に警告しようとした事件」だといわれている。

九月には北九州の右翼団体・福音会の吉永正元総裁が、佐藤首相に「日本を末期的症状にした責任をとれ」といった内容の毛筆の自決勧告文をつけて、米國製コルト22口径単発拳銃と実弾百七十五発を送りつけて検挙されている。

中国問題では、訪中組の木川田一隆経済同友会代表幹事が自宅石堀に、スプリーで「中共の地方から上京した、個人有志」も相当あり、天皇を侮辱した新左翼の学生を殺す」と称して、出刃包丁や登山ナイフをもってうろついていた三人が逮捕されるなど、帰国時とあわせて五十三団体千六百人が羽田や皇居周辺に、警戒」と称して集まった。

十月以降、右翼の行動はいっそうエスカレートし、主な動きだけでも、愛国党員による一日内閣(宮崎)、妨害行動(十一人検挙)、10・21国際反戦デーに四十五団体が対抗出動(十五人検挙)、愛国党員らの美濃部都知事訪中抗議(四人検挙)、11・21沖繩返還協定批准抗議闘争に十四団体が妨害行動(十三人検挙)に動くと三百七十六団体五千八百人が街頭へ出動した。動員力も大きく伸び、全愛会議全国大会には九十二団体九百六十人、全国愛国者懇親会には四百二十人が動員された。

また、この「やる気」ムードを反映してか昨年一年間に百七団体(約三千五百人)があらたに結成されたほか、行動組織の充実、ヘルメットの自動車など

**現代実用辞典**  
辞典でなく役立つ現代用語の万能辞典!  
四八〇頁 講談社

学生同盟「八草共同全国委員会派」、社青同学生派「社会党系」、フロン「構改革」などの西流五派である。なお、主な闘争は、一月全学連羽田空港ロビー占拠。六月全学連国会再突入、藤美智子死亡。

●六一年(昭和三十六年)  
三月「フロン」戦旗派、プロ通商派が革共同全国委への加盟を決定し、第一次フロンは実質的に崩壊。革通派、独立派、関西フロンなどがそれぞれ独自に活動、のち社青同を再建していった。

●六二年(昭和三十七年)  
五月「社青」が分裂、「統一社会主義同盟」(通称社青II)学生社会主義戦線・フロン)を結成し、「青学新」(共青)と対立。

●六三年(昭和三十八年)  
二月「革共同」全国委が分裂して「革命的共産主義者同盟全国委員会マルクス主義学生同盟中核派」(通称中核派)と「革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派」(通称革マル派)となつて現在に至る。

●六四年(昭和三十九年)  
三月「新三連派」(社青同、社青同、中核)が成立、学生戦線は、革マル系、構改革系、日共系の四潮流となった。

●六五年(昭和四十年)  
三月「大阪共青が民学同と統一」。

●六六年(昭和四十一年)  
九月「第二次共産主義者同盟」再建。これには、ML派を除く旧フロン系が参加し、反日共系の最大党派となった。

●六七年(昭和四十二年)  
十二月「三派全学連再建大会」が開催され、いわゆる「サンパ時代」をつくることになった。これには社青同、中核派、社青同解放派、その他社青同国際主義派(第四インター)ML派はオブザーバー。この結果、革マル全学連、日共全学連、反日共全学連の三つの全学連が登場。

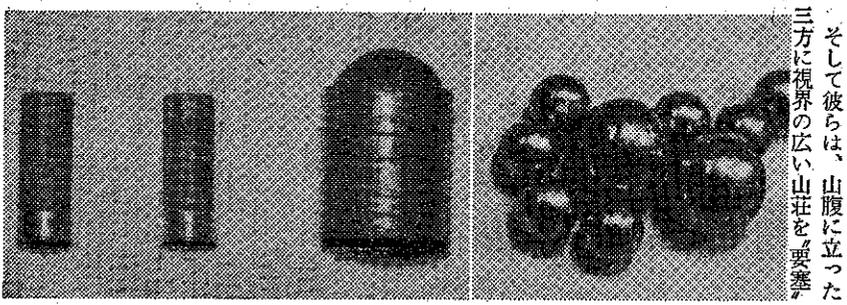


合赤軍が、適確な狙撃を行なつたのはこのライフル銃によつてだ。

そして、彼らは散弾銃を近距離狙撃戦に使用した。

散弾銃には、単身と二連とあり、二連銃は水平式と上下式とある。水平式は狩猟用に適し、上下式はクレー射撃用に好適とされており、彼らの散弾銃は偶々上下式のものであった。散弾銃は発射すると散弾が一団となつて飛ぶが、それは距離が長くなるほどひろがって、文字通り散つてしまふ。だから、最も有効な射程は二十呎から、せいぜい三十呎であるが、彼らは逆に銃身を短く切斷し、発射後に短い距離で散弾がひろがるようにしていたが、これは近接戦では一発で多数のひとを傷つける効果があるためだ。もともと散弾銃はシカ撃ち弾といわれる大粒弾を、しかも近距離で使用するものでなければ、人間には致命傷を与えられないものではない。しかし、彼らは強力な射撃効果を狙うために、ボール・ベアリングに使う鋼球を装填していたともいわれている。そして、隠して携帯に便利であり、近接戦に使いやすいよう、銃身も短く切りおとして使っていた。しかし、銃身や銃床を短くして所持していることは銃砲刀

劍類等取締法にそれだけで違法となるものではある。彼らはこうして、遠距離射撃にはライフル銃、近接戦には散弾銃と戦術教科書通りつかいわけ、機動隊を悩ませた。さらに接近する機動隊員には小型拳銃で狙撃したのである。そして彼らは、山腹に立つた三方に視界の広い山荘を要塞



手製爆弾と弾丸

化した。タタミやベッド、その他家具類を壁面に積み上げ、防弾バリアードにする。ほぼ三六〇度に完全に死角のない射撃圏を用意した。このため、近づく機動隊はすきのない銃撃をうけることになったのだが、小人数の籠城組は銃をもつてあちこち動き廻り、銃眼を一層有効に活用したふしがある。これは、姿を見せずに立て籠つた側に有利な条件なのである。しかし、彼らは最後まで鉄パイプ爆弾を使

### 警察機動隊の包囲作戦

いっぽう、警察機動隊のほうも連合赤軍に牟田泰子さんという「人質」を確保されてしまったため、長野県警と応援に急行した警視庁第九機動隊をあわせて千三百人という大兵力と装甲車、放水車、クレーン車などの重装備もそろえて水も洩らさぬ包囲態勢を完成しながら、限定戦争で攻撃を行なわねばならなかった。

包囲態勢の下におよそ九日間、人質の安全を顧慮するため、強行作戦はとれなかったが、しかしいろいろな戦術を使い、籠城組の疲れるのを狙った。

わなかつた。これは、戸外にいる機動隊に使用する場合は、姿を見せずに投げられないし、その場合は狙撃される危険がある。また、戸内では自爆を覚悟しなければ、うっかり使用できないのだ。こうして、機動隊がもっとも怖れていた鉄パイプ爆弾は猛威を振るわなかつたのだが、万が一これが使われたら連合赤軍自身も含めて、いまの数倍の死傷者がでたことだろう。籠城作戦という状況は、武装ゲリラ自身に限定戦争という手かせをはめてしまったのだ。

第一には、心理作戦で、連合赤軍の肉親を現場に招き、その声で説得工作を行なつたのだが、これは警察自身の説得同様、ほとんど効果は挙がらなかつた。しかし、夜間の投光器による照射作戦と、いろいろな騒音のテープを拡声器で流す騒音作戦は、籠城組にある程度の不安と緊張を与えたようだ。この投光器による照射作戦は、連合赤軍にとって眼ざわりであつた模様で、しばしば内部から投光器への射撃が行なわれた。警察側はより心理的攪乱効果を狙い、これを一定時間ずつ点けたり、消したりして内部の

不安を一層に高めることも行なつた。また、騒音作戦によつて、籠城組の睡眠を妨げ、心理的に疲労させるようにしたのだが、この騒音のなかにはジェット・エンジンの噴射音のとき、不快感の高いものも使われたのである。そして、包囲をつづけながら、山荘の周辺五層の距離まで装甲車をすすめ、それを楯にしたがら高さ一層、長さ五層という土のうの壁を玄關前に構築して、前進陣地をつくりあげた。

### 警察機動隊の兵器と威力

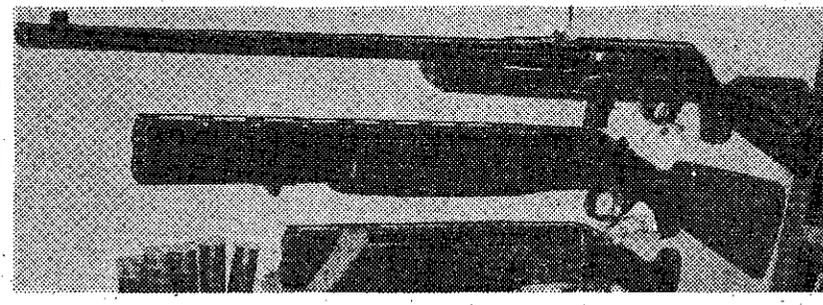
そして、二月二十八日。ついに山荘への総攻撃、X作戦の命令は下つた。このとき、警察側の整えた兵器は、千三百人全員が38口径、または45口径の拳銃のほか、ライフル銃八丁・ガス銃六十丁・新型の防弾箱・通常の防石箱・防弾用鉄製ヘルメットなどを個人装備とし、装甲車八台・高圧放水車二台・投光車・クレーン車・パトカー・救急車・輸送車など百二十台の重装備が動員されている。

警察側で最も威力を発揮したのは、ガス銃だ。このガス銃は、ガス弾を発射するものだが、有効な射程距離は四十〜五十呎、十五〜二十呎の距離でよく使われる。発射するガス弾は、S弾とP弾とがあり、前者は煙状にガスの発生するもの、後者は粉末状

ら、山荘の周辺五層の距離まで装甲車をすすめ、それを楯にしたがら高さ一層、長さ五層という土のうの壁を玄關前に構築して、前進陣地をつくりあげた。そして、いく度か放水とガス弾の援護の下に強行偵察を行なつて、籠城組にゆすぶりをかけていったのだ。

になった催涙剤が命中するとどび散るものだ。このガス弾の催涙剤はコロラセトフェノン(CM)であるが、この粉末が身体についたところ水をかぶると、これが皮膚を侵す溶液になり、火傷と同じような症状になることが、佐世保や安田講堂で使われた際、明らかになっているのだ。ひどいものはケロイド状の後遺症が患者の皮膚を侵してさえるのである。また、ガス銃は近距離から直撃すれば、人間には大きな打撃を与えることもできる。安田講堂事件の際、一人の学生がガス弾の直撃を顔面にうけ、右眼失明の重傷を負つたのだが、そのとき民放の取材した録音テープに、「顔をうて、顔を」という機動隊指揮官の声が録音されていて固会て追及されている。とにかく、ガス銃には狙撃力も

あるのである。また、ガス弾は発火作用もあるため、うちこんだ室内から失火させて、立て籠るものを追い立てる効果も持っている。ライフル銃は、ついに火を噴かなかつたが、照準望遠鏡つきこの銃は四百〜五百呎でも銃



ライフル銃と散弾銃

手さえ腕がよければ、適確に命中させることのできるものだ。もし、ライフル狙撃班に銃撃命令が下つていたら、彼らは山荘の銃眼の穴にさえ、弾丸をうちこむことができただろう。銃銃のほうは38口径が主体だが、実戦には十層以下でないとなかなか効果的な命中弾は出ない。こんどはじめての、武装ゲリラとの対戦に、機動隊は完全な防弾装備を身につけた。一個約一・四キという鉄製ヘルメット、二・七キ鉄板入りで重さ一・七五キの防弾着、それに二重にした大楯をもつた。

鉄製ヘルメットは、22口径程度のライフル弾なら、至近距離でなければ貫通はしない。防弾着も十層ならライフル銃でも安全、拳銃なら五層でも大丈夫、鉄パイプ爆弾の破片も喰い止められる。しかし、大楯はライフル銃には弱く、そのため二重にしたわけだが、散弾銃には十分効果があつた。現在、超シニラルミン製のものど代替されつつあるが、これなら爆弾の破片も至近距離で耐えられる。新型の防弾箱は鋼鉄製の押し車式のもので、これならライフル弾にもかなりの距離でも耐えられる。

今回のX作戦で大活躍したのは放水車だ。この高圧放水車は、

(ローテ・ゲバルト)赤い暴力(R.G.)が組織され、この中核部分がかつての「赤軍派」の母胎となつていった。五月、この「突撃隊グループ」はフラク向け秘密パンフ「わが党について」をだすことになり、これを契機にして党内は二極分解を遂げた。これは実質的な「赤軍派」の誕生だつた。

七月、赤軍派グループによる同盟議長リッチ事件発生。八月、共産同大会で赤軍派十三名を除名を経て「第一期赤軍派」結成となつていった。九月、「赤軍派大政治集会」で「政治危機の客観的成熟」前段階蜂起「世界革命戦争」を内容とするいわゆる「前段階蜂起路線」(①前衛軍による機動隊殲滅と政府中枢占拠②前衛軍による指導を通して大衆の武装・軍国化と武装根拠地獲得③権力機構の樹立と内戦の持続。大衆の政治危機待望にたいして武装蜂起で結合しようもの)をうたひ、十一月の「大菩薩事件」(五十三名逮捕)へと突きすすんだ。

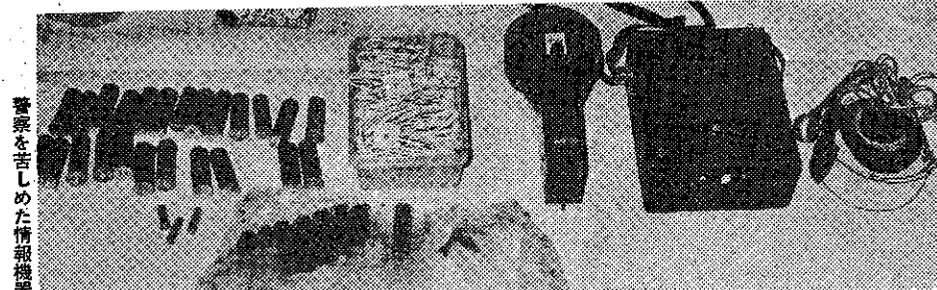
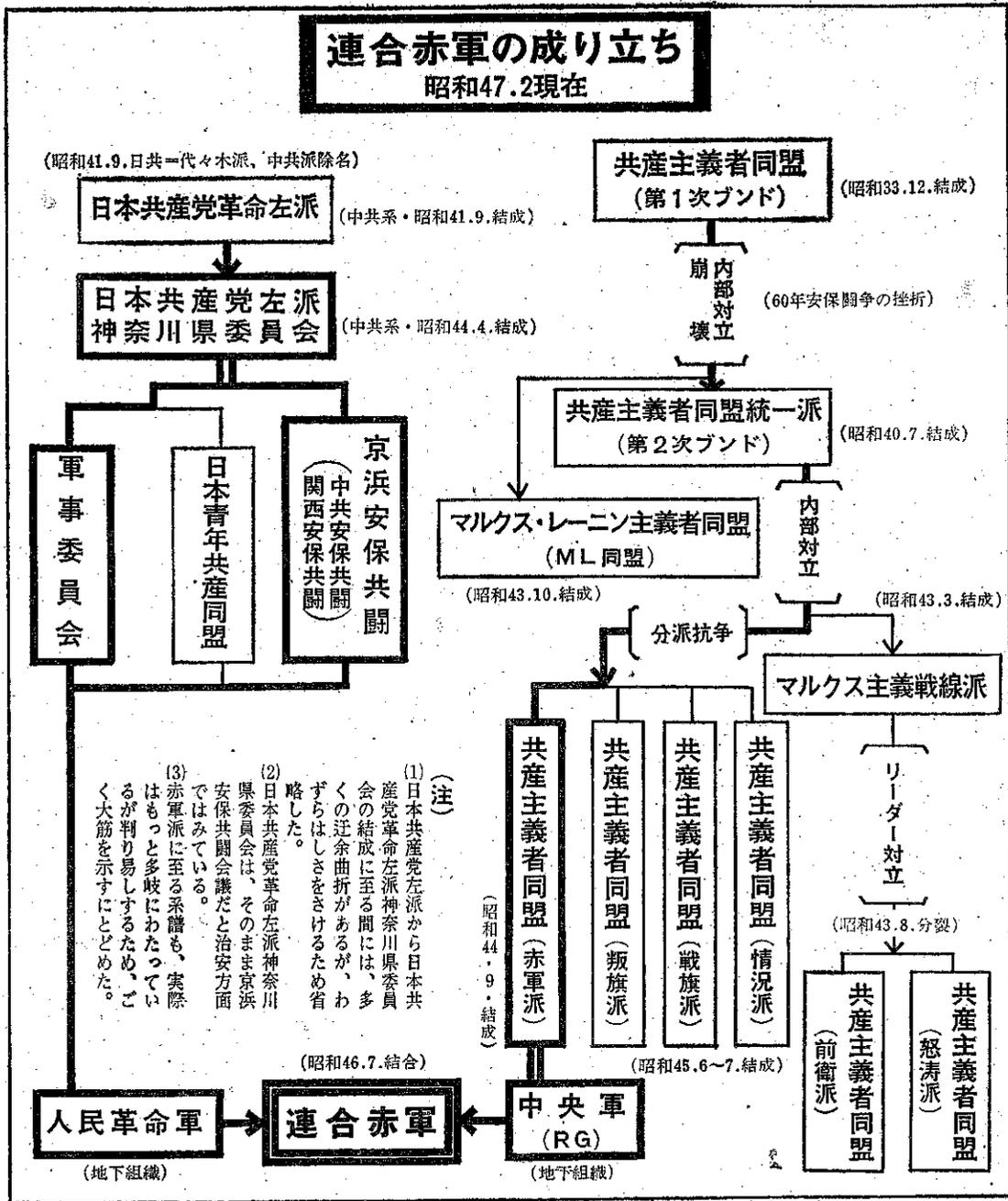
この路線は、いわゆる「革命的敗北主義」にもとづく一点突破全面展開路線」でもあるが、これを反対派は「マンガタイク」な路線プロクレーダ「だ」と批判した。なお、「赤軍派」は結成当時二百五十名と推定される。他方、京浜安保共闘は六九年四月、「日共左派」(中国派)をゼネスト論者だと批判し、これと訣別して「日共(革命左派)神奈川県委員会」の名で、機動隊解放の旗を翻す。十二月「今日の情勢では政治ゲリラ以外ない」そのため「非合法の戦闘指令部」武器をもち、それを

使用できる非合法の軍を「解放の旗(七号)」と主張、徐々に軍事路線を明確化していった。九月にはじめて手製爆弾が登場、全国五十ヶ所に達した。京浜安保共闘はアメリカ大使館や羽田空港などに火炎ビン投擲。七〇年(昭和四十五年)すでに「七〇年安保闘争」は実質的に終わりを告げ、闘争は「七〇年代階級闘争」の時代へと発展。闘争課題も入管、叛軍、沖軍、公害、差別問題などへと拡大、闘争形態はこの年だけは全体的に「ゲバ抜き、カンパニヤ」へと戦術ダウン。学生戦線は六月に「全国全共闘連合」が解体し、あらたに「中核四トロ連合」、「富下派」、「反中核四派」に再編されていった。

フロント内闘争は一段と激化。六月、まず主流派は「情況派」を除名。さらに「六月内ゲバ事件」を契機にして、七月に「叛旗派」を除名。ついで十二月、「理論戦線派」(別称荒派・のち戦旗派に改称)は「反理論戦線派グループ」(関西派、神奈川「左派」・さらき派などの中央戦線社グループ)を除名。ここに「第二次フロント」は完全に崩壊することになった。

第二期赤軍派は、「大菩薩の敗北」を総括し、一月に約一千名(赤軍派最大動員数)を結集して「武装蜂起宣言集会」を開催し、「世界党」世界赤軍「世界革命戦争」国際根拠地建設」をうたひ、四月には「フニックス作戦」ハイジャック事件」を遂行した。

その後、塩見、川島、高原などの幹部が逮捕されることよつて路線転換。あらたに第三期赤軍の下にM



警察を苦しめた情報機器

高さ五十センチ、左右六十五センチの範囲に強い水圧で放水できる車だが、この放水は山荘のなかを水びたしにして、籠城組をびしょ濡れにさせ、零下十数度にまで

下る軽井沢の気温によって、連合赤軍の戦闘能力を「凍結させる」のに役立った。ゲリラたちは寒さで行動が鈍り、つららのように鼻汁をたらしていたほどだ。しかも、この放水をまともにうけたら、その水圧で人間などは吹き飛ばされたろう。

そして、この高圧放水車を活躍させるために一・五の鉄球

## あさま山荘攻防戦の分析

こうして、およそ十日間にわたる攻防戦で、連合赤軍は全員逮捕されたのだが、この攻防戦の彼我の戦術を分析し、評価すればどうなることになるか。

連合赤軍は、籠城というゲリラにとって求めたくない闘いに追い込まれたが、最後までゲリラ教程通り「味方の状況はあくまでも知らせるな」といった戦術を守り、警察側を悩ませた。そして民間人を含めて死者三人、重傷者八人、軽傷者十人という被害を出さしめた。警察権力に打撃を与えようという連合赤軍の目標は、ある意味では達せられたろうが、そのための「負」の条件もようとしていた。警察庁は今回の事件を戦訓として、武装ゲリラに対抗できるより強力な装備を整える計画に着手したし、また過激派には極刑

をもつクレイン車が働いた。この鉄球は壁面をぶちぬいて突入口をつくったものだが、この鉄球の衝撃と響音は心理的にも打撃を与えたものである。

そして、機動隊はガス弾一千発以上、放水百以上(拳銃弾の発砲は約二十発)という物量作戦を行なって、ついに山荘陣地を攻略したのだ。

で望むという声明も出されてい

る。しかし、連合赤軍が最後まで人質に危害を与えなかった点は救いであり、戦術的には、屋根裏に立て籠って突入した警官隊を不意うちしたり、銃眼からテンプルの足を切ったニセの銃口をのぞかせて偽構したり、巧みなゲリラ作戦を行なっている。だが、追い込まれたゲリラという状況では、制圧されるのは時間の問題だったのだ。

いっぽう、警察側の戦略は消極的に見える行動ぶりを示しながらも、実は着々と籠城組を「過激な暴力分子」というイメージにつくりあげてしまいうことを、マス・コミを最大限に活用して十日間のあいだに見事にやりとげたといえる。そして、マス・メディアでつねに国民が事件を見つめるという日本の現実

のなかでは、これも一つの戦略であり、戦術でもあるのだ。しかも機動隊に出た殉職者に対し、多くの市民から弔慰金に送られてきたという事実は、警察側の戦術の勝利ともいえるだろう。冷静に考えれば人質の安全を確保するのなら、ガス弾乱射、大量放水などといった強行手段は行ない得ないのだが、じっくりと時間をかけてそれを納得させる方向に導いた。こうして、警察機動隊は忍耐強さと勇気を、一般市民のあいだに印象づける戦略に成功したのだ。

しかし、また、わずか五人で千三百人の機動隊を引きつけ、十日間にわたって闘いぬいた連合赤軍の姿も、一般市民にはショックを伴って印象づけ、はじめての武装ゲリラの出現を焼きつけることになった。

この軽井沢の攻防戦、総括すればハブニングの戦争であった。警察側も、今後はより態勢を固めてこのような偶発戦争が起これぬように一層の対ゲリラ作戦を行なうだろう。そして、ゲリラ側もより有利な、本筋のゲリラ作戦を研究することになる。だが四次防などという大人たちの武器遊びが修正されない世の中では、武装ゲリラの再発も絶対的になくすることは困難であろう。

作戦(資金調達)と「爆弾闘争」を展開した。これは「連続ゲリラ戦から繰起をめざす持久戦術」だった。他方、京浜安保共闘は、当初赤軍派の武装闘争開始を正当に評価しきれず、おくれで「解放の旗」(十二号・十一日)で「武装闘争前進のため」の志村署上赤軍派出所襲撃事件(武器奪取)を敢行した。

昭和七一年(昭和四十六年)

闘争課題は、沖繩、三里塚だった。闘争戦術は前年にくらべて一段とエスカレートし、九月の三里塚闘争では、反中核グループがゲリラ奇襲作戦によって機動隊を「殲滅」した。また、十一月沖繩闘争では中核派グループが「渋谷暴動」「日比谷暴動」を実現。さらに、この年には全国各地で爆弾事件が続発(七〇年十三件、二十個爆発九件、七一年五十二件三百三十三個爆発三十四件三百七個)した。

なお、「七〇年六月決戦」を貫徹したML派では、七〇年秋ごろから党内闘争が本格化し七一年に入って組織的に自壊していった。また、黒ヘル集団の急増もこの年の特徴だった。

ブント戦術派は「党の革命」「恒常的武装闘争」のスローガンを掲げ、自らを「蜂起・プロ独派」と位置づけた。他方、中央戦線派グループは自らを「蜂起・戦争派」と位置づけたが、その後それぞれ関西派、さらき派(鉄の戦線派)、神奈川(左派)に分裂した。この結果、第二次ブントは大抵十一派(独立した、BL派などを除く)に分裂したことになる。このうち関西派は地下軍事組織「R

G」を組織して爆弾闘争を展開。四月には赤軍派、京浜安保共闘と共闘して「戦争派」首都決起集会を開催して「ウルトラ三連連合」の確立をめざした。しかし、関西派はその後「RG派」など内部は三つに分裂して現在にいたっている。

一月、赤軍派大衆組織「日本革命戦線」と京浜安保共闘は、「蜂起戦争」武装闘争勝利政治集会」を共催して「共闘宣言」を採択。七月に入って、「共産同赤軍派中央委員会」と「日共(革命左派) 神奈川県常任委員会」は「赤軍派中央軍」と京浜安保派の「人民革命軍」を組織的に結合、ここに「連合赤軍」を結成することになった。

これは「両組織は銃奪取、連続資金奪取闘争を貫徹し、互いの経験、教訓を交換しあい、日本の革命戦争の本格的開始に向け前進した(赤軍宣伝機関誌「銃火」創刊号)というものであった。

結局、この「連合赤軍」の結成は、赤軍派にとっては「第四期赤軍派」となり、京浜安保共闘にとっては「全人民的蜂起・内戦勝利をめざした、ゲリラ型蜂起路線」による新たな展開を意味した。

また、この「連合赤軍」の闘争は他方では「人民と兵士の集会」にみられるように、ノンセクト活動家の結果をつくりだしている。

昭和七二年(昭和四十七年)

二月「軽井沢銃撃戦」

なお、中核派系、旧第二次ブント派系などの「反日共、反革マル系」全共闘派においては、目下戦線の新たな分裂・再編が進行している。

# 本、凄 ゲリラ戦教程 はこれだ

犯人たちに爆弾の作り方からバリケードの築き方まで教えたバーヨの教科書主要部紹介

〔編集部から〕

ゲリラ戦を夢みた連合赤軍派が、その教典として、再読三読した書物は数多い。妙義山中の洞穴から押取された書物のリストだけでも二十数点にのぼった。その中で、もっとも「基本的」なものが、次に紹介する、アルベルト・バーヨ著「ゲリラ戦教程」。

そこには、武器の奪取方法、爆弾の製造法、M作戦（金融機関の襲撃）、P作戦（誘拐）から、はては、人質の利用法、までが、具体的に懇切丁寧に書かれている。

今回の事件で、警察側の「心理作戦」が功を奏さなかったのは、その指導にあたった著名な心理学者たちが、この本について、まったく研究不足だったことが原因だ、という声もあるぐらゐ。

ンブン、誰がみたって「怪しい奴」と思われる格好で、人混みに姿を現わす。彼らが「教条」通り実行したのは、「自分たちの人数は絶対に悟られないこと」というくだりだけ。まして、「家屋を占拠して戦う時は、女子供は退去させること」といった「原則」は、まったく守ってはいない。

バーヨはスペイン市民戦争の体験をもとに、後進国（たとえばラテン・アメリカ諸国）におけるゲリラ戦を前提として理論をつくらせているのだから、経済的にも政治的にも社会的にも、すべての面で異なる日本で、ゲリラ戦をやるためには、参考にはなるけれども、教条的にすべてあてはまる、なんてものではない。

ラテン・アメリカでは、キューバでもそうだし、ゲバラもボリビアで試みたように、山岳ゲリラ戦（農村ゲリラ）が現実にやれる。妙義山・榛名山・迦葉山というアジト作り、もしかすると、彼らはここに立てこもって、山岳ゲリラになるつもりだったかもしれないが、日本では、だいたい山に逃げ込んだら最後、何もできず、「山狩り」をやられて一巻の終わりになる。

あの五〇年代すでに山村工作队なんて悲惨な実例があるし、これは思想犯にかぎらず、鬼熊事件」とか何とか、先例もあることだ。

だが、「ゲリラ」という言葉、これはカッコいい。何事によらず、カッコよきにあこがれる若者たちは、欲求不満もつたつて、無批判に、教条的にとびついてしまふ。

だが、未熟な若者は読み違えもして誤りを犯すが、正確に理解さえすれば、生き方の教訓にもなる。

「ゲリラ戦教程」をマスターすることも、いかなる現代に生きる人間としては、必須の教養である。なにしろ、チェ・ゲバラだって、受けとり方によっては、サラリーマンの理想のタイプになるような、そんなご時世なのだから――。

## ゲリラ部隊の組織と行動

ゲリラ戦争を成功させるために満たされなければならない第一の最も重要な条件は何か？

外国からの侵略、下劣な独裁者の抑圧等に抗して闘っている被抑圧大衆の側に立つことである。この必要条件が満たされない限り、ゲリラは常に敗北するだろう。大衆の意思や人民の体制に敵対して蜂起する者は誰も失敗するだろう。

誰がゲリラ部隊を形成すべきなのか？

犠牲の精神、人間としての勇氣、無限の愛国心を持っていることが証明された理想に燃える

青年だけだ。

ゲリラ部隊の最も効果的な規模はどのくらいか？

理想的なゲリラ部隊は十人から二十人である。数は少なれば少ないほど機動力は大きくなる。

ゲリラ部隊の組織構成はいかなるものか？

軍隊と同じく、ゲリラ部隊も参謀本部を持つ。ゲリラ部隊の多様な任務と責任は分担して担われる。こうして、あらゆる仕事が一個人の肩に背負わされることが防がれる。

通常、ゲリラ部隊は以下の組織構成をもつ。情報、作戦、破壊工作、補充、軍需品、教育、供給、主計、保健、宣伝。

部隊の隊長には誰がなるべきか？

隊長は、その指導性、性格、知力、慎重さ、戦いへの情熱などを考慮したうえで、隊員によって選ばれる。

ゲリラは指揮系統を知っているべきか？

ゲリラは指揮系統を知り、かつ重んじるべきだ。誰が部隊の指揮をとるかについて議論はすべきではない。指揮をとる者が誰であっても、すべての者から重んじられなければならない。

何らかの行動に着手する前に、ゲリラはいかなる肉体的訓練をなすべきか？

長時間行軍を行なう。次第に長さを拡大し、四時間毎に十分間の短い休憩で十五時間行軍できるようにする。また、八時間の夜間行軍も行なう。

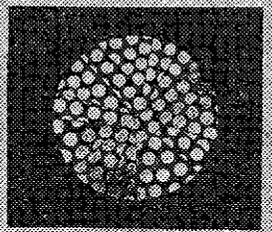
ゲリラ部隊の隊員は互いにいかに行動すべきか？

全員がきわめて仲のよい友人、あるいは少なくとも親密であるべきである。不快な冗談はすべて禁じなければならない。貧しい内容の冗談は隊員を分裂させ、彼らの間に不快な感情を作り出し団結の精神を弱めることになる。

われわれはいつ敵と闘うべきか？

の噂

世界革命運動情報16



ゲリラ戦教程



中南米諸国のゲリラもパーヨの教程を基本にしている

これこそゲリラ戦争の主要な問題である。われわれが記憶し、実践しなければならぬ原則は、完璧なゲリラは敵を闘いに招いたり、敵の土俵で闘うことは決してないということである。優れたゲリラはすべて、奇襲、小競り合い、待ち伏せ攻撃に依存しなければならぬ。敵が自信満々で攻撃を予想だにしていけない時にこそ常に攻撃しなければならぬ。敵が反撃に転じたら、われわれは姿を消し、安全な場所へ退避すべきである。

### ゲリラ戦士の技術と持ち物

ゲリラ戦士が最も留意すべきことは何か？

それは自己の銃にたいする注意である。銃はゲリラ戦士の友であり、その命を守るものである。銃は常にみがきあげ、十分に油をぬっておかなければならない。農村地帯で野営する場合には道路のほこりが武器をよごしやすいので特に注意しなければならぬ。

ゲリラが一地点にとどまる時間は最大限の位とすべきか？

当然にも、こうした策略のなかにあっても、われわれは敵に傷を負わせなければならぬ。完璧なゲリラとは、自らの同志の生命に気を配り、彼らを決して敵の銃撃にさらさず、偽装と機動性によって敵の目を逃れようとする人をいう。他方、もしゲリラ指導者が毎日、敵の行動に悩まされていいるならば、彼はいわゆる「メヌエツト」戦術、つまり、敵が退けば前進し、敵が前進すれば後退する戦術をとるべきである。

三日間である。三日目には野営地は適当な距離をおいた地点に移さなければならぬ。

完全なゲリラ戦士が身につけるべき技術はなにか？

ピストル、回転ピストル、ライフル、機関銃の撃ち方。ナイフ、棍棒の上手な使い方。ナイフを遠くに正確に投げること。

馬、自転車に乗ることおよび自動車の運転。爆弾の製造と投てき。無線機の使用。

タイプライターの使用。略地図を書くこと。地形学に関する若干の知識。地図の見方、および等高線の利用方法。口笛を大きく鳴らすこと。ロープあるいは「人間の塔」で壁を登ること。ほとんど休まず悪路を十二時間以上行軍すること。水泳およびボートをこぐこと。およびモーターボートの操縦。すばやく立ち木、電柱に登ること。

内燃機関に関する若干の知識。すばやく自転車および自動車のタイヤに空気を入れたり、交換したりすること。モールス信号の知識。小型飛行機のプロペラに始動を与えること。

すべての宗教に極端に寛容であること。勇敢で注意深く、思慮に満ち、心が広く、冒険心に燃えていること。

完全なゲリラ部隊が携行すべきものは何か？

長靴(靴底に鉄を打ってあるものの方がよい)。長靴下、長ズボン。長い丈夫なベルト(渡河のとき)

きあるいは壁や障害物をよじ登るときお互いを結びつけ合う) ジャケット

羅針盤

良い腕時計

刃、ナイフ、短剣

髪、爪をきるはさみ

石けん

ピストル、軽機関銃

手榴弾

双眼鏡

救急薬品

にぎりを絶縁してあるベンチ

斧

投石器

ヘッドランプ(坑夫が頭につけるようなものでよい)

電池

ノコギリ

長短様々の針金やつり糸

煙草用ライター

ハンモック

### 部隊行動と武器弾薬工作

緊急になすべきことが何もない時には、ゲリラ戦士はいかにして時を過ごすか？

日中は休養し、爪を切ったり足を洗ったりする。これは毎日行なうべきである。足こそはゲリラの「発動機」である。彼らはまた、戦区の地図を研究し、あらゆる町の名称、その住民の数、名前などを記憶する。彼らはあらゆる川、流れ、井戸、温泉場の位置を地図で確認する。また戦区内のさまざまな境界標間の距離、橋や高架道の位置、列車の破壊工作を行ないうる場所、重要な、戦いに役立つ、戦域において機動的に行動するために必要なあらゆる事実を記憶する。

行軍中われわれが最も注意すべきことは何か？

敵にわれわれの位置を隠し、われわれのとうとうとしている方向を知らせないために、行軍は原則として夜間に行なわなければならない。

日中は眠り、休息し、武器の手入れをし、学習し、弾薬を分配し、足を洗い、戦区の地図を記憶し、次の作戦行動のときの自己の特殊分隊の任務をよく把握し、行軍中に通過する地方都市の名や市民および農民の名を覚えるなど、数多くのことを行なう。

夜間、行軍中は部隊の壊滅を防ぐために完全に沈黙し煙草を

吸ってはならない。

敵が突然発砲してきたときにはどうしたらよいか？

最も重要なことは戦闘開始を避けることである。敵の数が少数であると思われる場合であっても隠れ、退路を確保するために夜まで待たなければならぬ。敵が小グループであることがはつきりし、われわれが有利な位置にいる場合には少時間交戦してもよい。

状況がはつきりしない場合には逃げた方がいい。敵がわれわれの注意を混乱させ、別動隊によってわれわれを包囲しようとして計画しているかもしれないから。退却するかどうかという決定はゲリラ部隊の指揮官が下

武器や弾薬はいかに隠すか？

武器や弾薬の箱は一新にかためて保管しておいてはならない。武器や弾薬は亜鉛や錫をはった箱の中に入れガソリンや灯油のある場所から離して埋めておかなければならない。銃にはよく油をぬり、布でつつみ、箱を密封して埋める。

箱はどの位の深さに埋めたらよいか？

十分に深く埋めなければなら



ゲリラ隊員は親密でなければならない

ない。そうでないと敵がそのあたりを少し掘ったとき偶然その隠し場所を掘りあてるかもしれない。

農家からどの位離れた場所に武器を隠したらよいか？

三十戸から六十戸離れた場所に埋める。その正確な場所は三人以上(農家の住人である農民と二人のゲリラ戦士)に知らせてはならない。またその場所は転々と変える必要がある。画一的な方法で埋めてはならない。銃のサビを防ぐにはどうするか？

しばしば武器検査担当者が各部隊の銃を検査し、確実にゲリラ戦士各人がその命を守る友である銃に十分な注意を払うようにする。

重罪を犯した者はどうしたらよいか？

強奪、強姦等の重罪を犯した者はただちに軍事法廷で裁き、罪が明らかになった場合には、ただちに銃殺されなければならない。

処刑はいかに行なわれるべき

か？  
統制は多数の人民の前で行な  
わなければならない。処刑は公  
然と大衆の面前で行なわなけれ  
ばならない。処刑責任者は大衆

### 秘密地下組織の構成

秘密地下組織はいかにして作  
るか？

各地下組織は三人の「細胞」  
によって形成される。経験によ  
って三人という数が容易に効果  
的に活動できる数であることは  
明らかである。三人以上の場合  
は――過去に経験したことであ  
るが――スパイが浸透してくる  
可能性が強くなる。細胞のメン  
バーの数が三人であるならば、  
そのうちの一人がスパイであつ  
ても、このスパイは他の二人に  
ついての情報以外のことを知る  
ことができないから、味方の全  
組織の被害を最小におさえるこ  
とができる。八人ないし十人か  
らなる細胞を形成し、さらにこ  
の細胞の各々のメンバーが八な  
いし十の小単位のキャップとな  
るような方法はとるべきではな  
い。

破壊工作はどのように行動す  
るか？

に、犯罪者は強姦、殺人、強奪、  
反革命活動によって有罪と判断  
され極刑に処せられるのだとい  
うことを宣言し、ゲリラの軍隊  
の純粋性を強調しなければなら  
ない。

るか？

一細胞に一つ以上の任務が割  
り当てられることは決してな  
い。それ以上の任務が割り当て  
られるならば、結果は不満足な  
ものになるだろう。各細胞は次  
のような命令を受けよう。「復  
讐者」「ブルティの子」「大地と解  
放」「深白」「不意打ち」など。  
愛国者が個人的に行なうこと  
のできる破壊工作は何か？

秘密組織の細胞の一人になろ  
うと思わない人間でも、あるいは  
誰か信用できないと考えている  
人間でも、戦いに参加するこ  
とを望んでいる者であるならば  
以下の任務を遂行することがで  
きる。

郵便局あるいは電報局に勤務  
している者は宛て先を変えたり  
西に送られるべきものを東に  
(あるいはその逆に)送ったり



ゲリラにとって銃は友である

して慎重に疑惑をもたれない方  
法で公文書の流通を可能な限り  
遅らせることができる。  
電話局に勤務している者は回  
線を狂わせ、呼び出しを遅らせ  
たりして簡単に妨害活動を行な  
うことができる。また重要な話  
を盗聴し、匿名のまま革命派に  
情報を提供することもできる。

郵便配達人は手紙を破棄した  
り重要人物に宛てた手紙は湯気  
でしめらせて開封して内容を読  
み、もし、それが重要なもので  
あればわれわれの情報組織に渡  
るようにする。

車庫に勤務している者は軍の  
車輛の油のなかに金剛砂を入れ  
ることが出来る。普通の砂、細  
かに砕いた石等でもよい。政府

機関の車庫に勤務している者は  
自動車の「試運転」を何回となく  
繰り返したり、頻りにガソリン  
で手を洗ったりしてできるだけ  
ガソリンを無駄使いし足りなく  
することが出来る。官庁の自動  
車の運転手は車庫のなかで釘や  
ナイフを使ったり、あるいは運  
転中縁石や尖った石に乗り上げ  
たりしてタイヤに穴をあけるこ  
とができる。

学校の教師は生徒に前進する  
こと、そして理想の美しさにつ  
いて語る事が出来る。また自  
分の身を危険にさらすことな  
く、現在自分たちが落ち込んで  
いる精神的奴隷状況に対立する  
人類愛を教えることができる。  
誰もが自分達が搾取されてい

ることについて不満を表明し、  
物価の騰貴に抗議し、自分達を  
苦境に追いやっていている原因を消  
滅させる方法について語り合  
わなければならない。

労働者は生産の速度を遅らせ  
なければならぬ。病気を口実  
に仕事を休まなければならぬ  
い。生産を上げようとすればな  
なる試みにも抵抗しなければな  
らない。極端に綿密に仕事をし  
ている風を装うことによって生  
産を遅らせることができる。で  
きる時はいつでも、水道の蛇  
口は開きっぱなしにしておき、  
電気はつけっぱなしにしてお  
け。

官庁に勤務している者は絶対  
に部下を諷刺したり、誤りを正  
したりしてはならない。その代  
わり、上部からくる命令は常に  
批判し、上部のやった失敗はど  
んな失敗でも拡大せよ。長電話  
をしてできるだけ時間を空費せ  
よ。敵軍に送られる物資の手配  
を遅らせよ。備品をこわし、機  
械類等を破壊せよ。機会をとら  
えて仕事のよくできる職員と口  
論し、できたら免職せよ。疑い  
をそらすために政府を熱烈に支  
持しているように行動せよ。便  
所、浴室、電気、ガス、水道設  
備をここのものでも(自分の勤  
務している建物のもので)なく、  
賭博場、酒場、劇場のもの)



インドシナでは毎日ゲリラ戦がつづく

破壊せよ。便所をこわす一番よ  
い方法は釘と針金を新聞紙と綿  
にくるんで流すことである。大  
きな役所に勤務しているわれわ  
れのシンパはその役所の中に鼠  
を放し、鼠がその建物の中に住  
みつき破壊者としての役割を果  
すようになるまでチーズを与え  
よ。電球をこわしたり、内部の  
配線を引きちぎったり、ショー  
トさせたりして電気をつかわな  
くしてしまえ。カミソリの刃で  
バスや汽車のシートを切れ。気  
のおける仲間に向けて公然と  
政府や警察等のやり方に反対で  
あることを述べよ。交通信号を  
無視し交通妨害を行なえ。記念  
すべき事件の祝日であるにもか  
かわらず政府が祝おうとしな  
いときには何人かで集り街頭に出  
て国防省、内務省、警視庁の前

### 都市ゲリラの戦闘

占領した都市の住民をどう扱  
うか？

まさに彼ら自身のために住居  
として建物は基地に変えら  
れなければならない。彼らは他  
に移らなければならないのだとい  
うことを説得し、確認させるよ  
うに努める。この説得が確認さ  
れない場合には、戦争の論理に  
従って、彼らを強制的に立ちの  
かせる。  
建物のなかの家具はどう扱う  
か？

破壊する。時が熟するならば彼  
らは独裁者打倒の声を高く叫  
ぶ。これらの活動にあたるとき  
彼らは耳を警せんばかりの野性  
的な暴力的な叫びをあげる。最  
大限の無秩序はこのとき偉大な  
秩序となる。われわれのシンパ  
が政府を支持する者と政治的な  
論争を行なうならば、彼は自分  
の考えを支持する多くの同志に  
かこまれるだろう。特に政府の  
支持者が警察官である場合には  
よけいそうである。論争の間中  
同志はわれわれのシンパの側に  
立って口笛や舌うちなどをして  
応援するだろう。

大通りに面した戸口はどうす  
るか？

戸口は閉め、鍵をかけ、でき  
たらバリケードを築き、それを  
やぶらなければ誰も入れないよ  
うにして置く。  
建物の内部の戸ははずしてし  
まうべきか？

われわれの物資や弾薬を保管  
しておく建物以外の建物の内部  
の戸は、すべてはずすか壊すか  
してしまふ。

建物に住んでいる女性や子供  
はどう扱うべきか？

原則として他の場所に疎開さ  
せるべきである。あとに残る老  
人、女性、子供は有効に働くこ  
とができ、われわれの戦いに参  
加することを望んでいる者でな  
ければならない。その地区を守  
備するために彼らのできることは  
無数にある。彼らは他の人間  
に戦いの意味を語り、こわがる  
者を勇気づけ、弾薬をくばって  
回ったり武器を運んだりするこ  
とができる。

市民の家にいったとき、いか  
に振舞うか？

われわれ内部の規律はあくま  
で厳格にしなければならぬ。  
強奪者や泥棒は直ちに射殺しな  
ければならない。市民をなぐつ  
たり、はずかしめたり、困らせ  
たりする者は厳しく罰しなけれ  
ばならない。われわれの行爲を  
理解できない市民の家に入り、  
彼らが理解できないことを要求  
することもあつたらう。だがそ  
の軍が必要なものをとるときに  
も市民に乱暴を働いたり、市民  
をはずかしめたりしてはならぬ  
い。軍事的に必要なときにのみ  
市民をその家から追い出す。

このような暴力的な戦争は國  
を破壊してしまふと言ふ者に  
は何と答えたらいいか？

独裁者が支配を続けるならこ  
の國は確実に破壊されるのだと  
答える。そしてさらに以下のよ  
うに答える。  
卑しむべき独裁者の下で、そ  
の独裁者を支持して生きるとい  
う恥辱よりも、それに抗して戦  
うことの方が正しいのだ――た  
とえ一切が廃墟になろうとも、  
われわれはその廃墟の上に新し  
い國をたてるのだ。われわれの  
兄弟を閉じこめておく古いよこ  
れた壁をいつまでも残しておい  
てはならない。われわれは勇者  
の血で新しい壁を築くのだ。

「鉄砲から国家権力が生まれる」

現代は帝国主義が全面的に崩壊に向かい、社会主義が全世界的勝利に向かって急速に前進している時代である。

中国、インドシナ三国人民を中心に、全世界に遊撃戦争の嵐が吹き荒れ、全世界の革命的人民が反帝反米世界革命の武器として連軍武装闘争を高々とかけ、米帝とその手先の引き起こそうとする第三次世界大戦に備えている時代である。

それ故に、インドシナ三国人民の英雄的な抗米救国闘争の前にラオス侵略を粉々に打ち砕かれた米帝が、ニクソン・ド

この間さつと一年。

二月二十八日、連合赤軍は潰滅した。彼らが、共に闘う人民」と想定し、呼びかけた一般市民からの、冷ややかなまなざしと罵倒、指弾を受けながら……。

父や母や、警察のたび重なる説得、呼びかけにも、まったく沈黙しつづけた彼らは、「ゲリラ戦の原則」すら無視して、みずからの「幻想」を追いつづけた。白

暴自棄というにはあまりに冷静、だが冷静というにはあまりにも一人よがり——警察やジャーナリズムをして「不可解」といわしめた行為。それをささえた「精神」は、いったいなんと呼べばよいのだろうか？

ここに掲載する二つの「檄文」は、彼らの不可解な「頑張り」をささえたものを解明するための、一つの手がかりをあ

たえてくれることだろう。偶然、入手したこれらの資料は、今回の事件とは、直接の関係はないけれども、まぎまぎとみせつけられた親と子の、あるいはとかく「過激」に走りやすい現代の若者と社会との断絶を考えなおし、対話を復活させるための一つの資料にもなればと思ひ、あえて、ここに掲載することにした。

——編集部

これこそ日本革命に世界革命の嵐を持ち込むものであり、日本革命を世界革命に大合流させていくものであり、世界党——世界赤軍への道を切り拓くものである。

2・17猟銃奪取闘争は12・18交番襲撃武器奪取闘争、あの凶暴な米日反動の凶弾の前に若くしてそのマルクス・レーニン主義者としての一生を終えた偉大なゲリラ戦士、また、この柴野戦士への米日反動の凶暴な弾圧に一層怒りを新たにし、売国警官に弾丸を打ち込まれ、右手の自

### 手記I

## ○で武装した遊撃隊に続き、革命的人民は遊撃的蜂起に備えよ！

### 人民革命軍某遊撃隊

インドシナ三国人民を中心に、世界赤軍の建設へ向け、人民戦争を堅持し、連軍武装闘争を勝利のうちに闘いとする中で、日本人民は2・17猟銃奪取闘争により、第二次世界大戦後、米日反動派に完全に独占されていた武器らしい武器を手にし、遂に本格的武装闘争への道を歩み始めたのである。しかも、連軍武装闘争という新たな強力な武器を手にして開始したのである。

望してやまなかった「銃」を入手し、おそらくは「遊撃戦」に前段階武装蜂起突入の日間近しいという「幻想」を抱いたにちがいない。

しかし、現実には、都市部では警察のローラー作戦と全国指名手配によって執

「あさま山荘」にたてこもった彼等の心情は不可解だった。普通の大学生というよりは、むしろ優秀な部類に入る若者たちが、まるで物の怪にとりつかれたように、「幻想の革命」を夢見て、銃を乱射。最後は死ぬでもなくアツケなく逮捕されたのだから。この不可解な心情を理解するために、本誌が入手した彼等の仲間の手記をここに掲載する次第である。

旗の解放

米日反動派の開始

米日反動派の開始

昨年二月十七日、京浜安保共闘は、栃木県真岡市の銃砲店を襲い、猟銃九丁を奪った。度重なる過激な行動の末に追いつめられた京浜安保共闘は、その後、共産同赤軍派とドッキングして連合赤軍を結成したが、この銃砲店襲撃で彼らが熱

望してやまなかった「銃」を入手し、おそらくは「遊撃戦」に前段階武装蜂起突入の日間近しいという「幻想」を抱いたにちがいない。

しかし、現実には、都市部では警察のローラー作戦と全国指名手配によって執

# 秘密文書

# 連合赤軍遊撃隊長の手記



由を奪われながら獄中から、  
 「米軍、自衛隊、機動隊をせん滅せよ」  
 と呼びかけている偉大なゲリラ戦士・  
 渡辺君、更にひん死の重傷を負いながら  
 断固完全黙秘で闘い抜いた偉大なゲリラ  
 戦士・佐藤君、この三名の人民解放遊撃  
 隊員の血であがなれた教訓、日本人  
 がはつきりと見てとった真理「鉄砲から  
 国家権力が生まれる」「人民の軍隊がな  
 ければ人民のすべではない」(毛沢東)  
 この道を断固継承し、三名の戦士の革  
 命性を断固受け継ぎ、米日反動の武器庫  
 から、創意、工夫をこらし、あらゆるも  
 のを人民の武器に転化し、銃を奪い取る  
 という画期的な闘いであった。

「銃に驚いてはならない」

この闘いは○で武装した遊撃戦の闘  
 い、本格的武装闘争の初期の闘いを切り  
 拓く上で人民がどうしても必要とする闘  
 いであった。

12・18闘争の教訓、「人民の軍隊がな  
 ければ、人民のすべではない」(毛沢東)  
 をふまえ、米占領軍、カイライ自衛隊、  
 売国機動隊を打ち破り、人民の権力を打  
 ち立てる建軍武装闘争になくはならな  
 い闘いであった。

そしてこの偉大な闘いに恐怖し、戦後  
 最大といわれる捜査を人民の反対を押し  
 切って強行し、尾崎、中島の両同志を不  
 当逮捕し、更に「人民に深謝する」と  
 「全面自供した」などと、三流週刊誌並

みのデッチ上げをブル新までも動員して  
 行ない、六名に及ぶ全国指名手配をデッ  
 チ上げる米日反動の弾圧から断固この九  
 丁の銃が死守されるなかで、革命的人民  
 はいっそうはつきりと偉大な真理をみ  
 た。

「人民の軍隊がなければ人民のすべは  
 ない」(毛沢東)  
 これこそ、日本階級闘争の中で人民が  
 真に実践的課題として初めて認識した真  
 理であり、反帝反米世界革命の赤々と輝  
 く勝利へ向かって、勝利のうちに前進し  
 ている世界建軍武装闘争への合流をかち  
 とり、日本革命の勝利と反帝反米世界革  
 命の勝利を保証するものである。

2・17武器奪取闘争により、日本人  
 は、ついに建軍武装闘争の内実をはつき  
 りとつかむことができたのである。それ  
 は武器として○は、明らかに敵のせん滅  
 をはつきり意識させるものであるからで



銃砲店を襲撃後、犯人たちが逃走に使った車

ある。すなわち、軍隊を意識させるもの  
 であるからである。

そして、人民の軍隊は明らかに米軍、  
 自衛隊、機動隊の△△△を直接その中心  
 任務とする武装組織として、しかも戦争  
 を闘うとともに、大衆をたすけ、大衆を  
 組織して、大衆を武装し、政権樹立をた  
 すけ、共産党の組織をうちたてる政治的  
 任務を遂行する人民革命軍(日本赤軍)  
 として組織されねばならないということ  
 である。

まさにこの真理を、その闘いの質とし  
 てもっていた2・17闘争は、その後連続  
 的な資金徴発闘争を闘う革命的人民に大  
 きなげましを与え、日本建軍武装闘争  
 の急速な発展をかちとったのである。

総ての革命戦士諸君！  
 反帝反米世界革命の嵐をみよう！  
 銃に驚いてはならない！

インドシナ三国人民を見習おう！

まさにこの先進国人民の英雄的な抗米  
 救国闘争は帝國主義陣営の最強軍——米  
 軍、核兵器の使用を準備するまでに凶暴  
 化して米帝を相手に建軍武装闘争を闘っ  
 ているのだ。そして社会主義中国は、す  
 でに核戦争への準備をととのえ、全世界  
 人民の反帝反米革命への支援を表明して  
 いる。

「我々は後進国人民だ」

我々はどうだろう。我々日本人民はま  
 だ機動隊を相手に、しかもその撃破すら  
 できないでいる。建軍武装闘争はまだ始  
 まったばかりだ。武装はまだだ。急こう、  
 本格的武装を。機動隊のうしろには自衛  
 隊が、そのうしろには米軍がいる。我々  
 はまさに後進国人民なのだ。社会主義國  
 が次々に生まれているのに。

急こう。建軍武装闘争を開始しよう。  
 ○を手にした遊撃隊の遊撃戦を中心に、  
 その他手に入るあらゆる武器で武装し、  
 遊撃隊を結成し、遊撃戦を闘い、遊撃的  
 蜂起に備えよう。

闘えば必ず勝つし、闘わなければ全世  
 界人民の血が流れる。中国、インドシナ  
 三国人民に学ぼう。勝利の道は彼らが闘  
 ってきた道なのだ。

「世界は進歩しつつあり、前途は明るい。  
 この歴史的な全般的趨勢はだれも変えるこ  
 とはできない。われわれは世界の進歩の

状況と明るい前途を人民に宣伝して、人  
 民に勝利の確信をもたせなければならな  
 い。同時に我々はまた道がまがりくねっ  
 ていることを大衆に教え、同志たちに教  
 えなければならぬ」(毛沢東)

闘おう。建軍武装闘争を闘おう。本格  
 的武装闘争へ突き進もう。○を手にし遊  
 撃戦を闘おう。

その他あらゆるものを武器に転化し、  
 遊撃隊を結成し、遊撃戦を闘い、遊撃的  
 蜂起に備えよう。

「一に苦しみを恐れず、二に死をも恐れ  
 ぬ」英雄的気概をもって突き進もう。  
 偉大なゲリラ戦士、柴野春彦の革命性  
 を断固継承しよう！

渡辺、佐藤、尾崎、中島戦士に続こう！  
 これこそ我々の精神的原爆であり、我  
 々の原動力なのだ！

建軍武装闘争が初期の段階にある現在  
 しかも、日本軍国主義が政治、軍事、経  
 済、文化の全域に支配をのびしている  
 き、侵略戦争の前夜にあるとき、我々は  
 この好機をのがさず精神的に闘うことを  
 強調するとともに、戦術的に十分敵を重  
 視し、攻撃と退却を考えねばならない。  
 常に革命的警戒心をもって行動しなければ  
 ならない。米日反動は強盗顔負けの襲  
 撃を行なってくるのだから。破防法に注  
 意せよ。しかし驚くな。

「地味でよいから武装しよう」

では我々はいかに闘うか。  
 人民革命軍は、敵の軍事力を消滅する  
 ことを中心任務とする。しかし現在、日  
 本人民が当面している問題は、大衆、実力  
 闘争の発展と共に厚くなった機動隊の壁  
 をいかに打ち破るかである。また、日本  
 階級闘争の段階ではまだ自衛隊、米軍を  
 直接の対象とするに至っていないのであ  
 る。

従って我々が建軍武装闘争を発展させ  
 ようとしている現在、我々は常に機動隊  
 の壁を打ち破る撃破の戦術を考えに入れ  
 て遊撃戦を闘わねばならない。  
 そして、このためには○を手にした遊  
 撃隊の闘いを中心に、本格的な武装をよ

り一層追求するなかで遊撃戦を闘わねば  
 ならない。

○に習熟すれば、それよりおとる武器  
 の使い方に一層創意工夫がこらされるで  
 であろう。又一層高度な戦術がみ出され  
 るであろう。しかし、高度な武器がない  
 からといって遊撃隊の結成を遅らせた  
 り、遊撃戦を闘うことを放棄したりして  
 はならない。地味でもよいから武装し、  
 遊撃戦を闘わねばならない。建軍武装闘  
 争の初期には敵の間ゲキをつく闘いが重  
 要な位置をしめる。しかし、常に敵の撃  
 破の為に闘うこと。

「部隊は二、三人のものから始めて大き  
 さはいろいろであってよい。部隊はだれ  
 でもなんでもできるもので、自分で武装  
 しなければならぬ。(小銃、ピストル、  
 爆弾、小刀、拳闘用のコテ、棍棒、放火  
 用の石油をしみ込ませたボロ、縄または  
 縄ばしご、バリケード構築用のシャベ  
 ル、綿火薬、有刺鉄線、釘、騎兵に対抗  
 するためのなど)  
 どんな場合にもわきから、上から、外  
 からの援助をあてにせず、なんでも自分  
 で手に入れなければならない。

……武器がない場合でさえ、部隊はつ  
 ぎの点できわめて重要な役割を果たすこ  
 とができる。すなわち  
 (一) 群衆を指導すること。  
 (二) おりがよければ、巡査やたまたま隊か  
 らはぐれたカザックなどを襲撃して(モ  
 スクワであった例)武器をとりあげるこ  
 と。

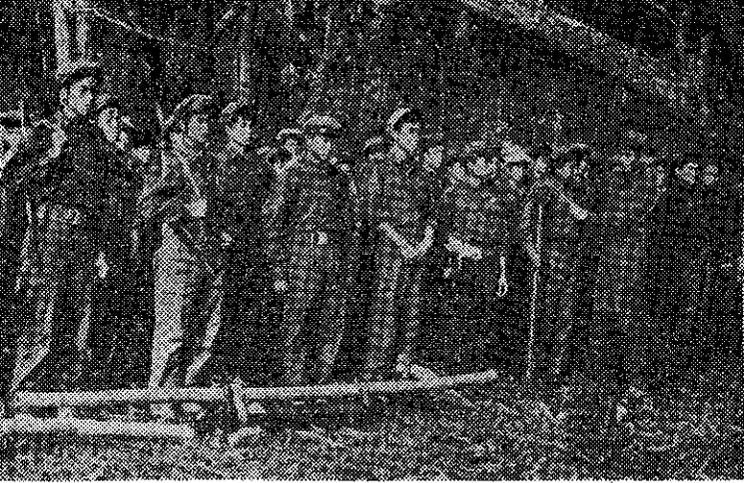
(三) 警官隊がごく少数のときには、逮捕さ  
 れたものや負傷者を救い出すこと。  
 (四) 家々の屋根や上層などにのぼって軍隊  
 に石を投げつけ、熱湯をあびせ、などを  
 すること。精神的にふるまえば、組織され  
 た結束した部隊は巨大な力となる。どん  
 な場合にも武器がないことを口実にして  
 部隊の編制を断念したり、それを延ばし  
 たりしてはならない。

……くりかえしているが実践活動はす  
 ぐはじめなければならぬ」(レーニン  
 「革命軍部隊の任務」全集九巻)  
 直ちに遊撃戦を闘うこと、本格的武装  
 をめざすこと、○を始めとするあらゆる  
 武器を手にし、あらゆるものを武器に転  
 化すること、遊撃的蜂起(前段階武装  
 蜂起)を含む)に備えよう。

遊撃戦を闘い、遊撃部隊をより強固な  
 遊撃隊に発展させ、大衆実力闘争とも  
 に機動隊を撃破、部分的に△△△しよう。  
 政策阻止実力闘争だけで米日反動権力打  
 倒など夢物語にすぎぬ。

「革命の根本問題は国家権力の問題であ  
 る」(レーニン)、「マルクス主義の国家  
 学説にかんする観点から見れば、軍隊は  
 国家権力の主要な構成要素である」(毛  
 沢東)

人民革命軍こそ、真に米軍、自衛隊、  
 機動隊を△△△し、米日反動権力を打倒  
 するものである。大衆実力闘争には限界  
 があるにせよ(機動隊を打ちやぶるにも、  
 その量、その「武装」を考えれば)部分  
 的(大きくなれば地域的、地方的)撃破



彼らが理想としたインドシナの解放戦線



猟銃、散弾銃を奪われた塚田銃砲店

は可能であり、これは最大限追求しなければならぬ。しかし、それ以上は完全に撃破、△△△することは軍が行なうこと。人民革命軍は、これを行なうことはできず、人民革命軍はこれを行なわねばならない。

### 人民革命軍は完全非合法

次に人民革命軍の組織と指導の方向はどうなるか。  
人民革命軍が、米軍、自衛隊、機動隊の撃破、△△△をめざす以上、必然的に高度な武装を必要とする。  
しかし、米日反動に権力を握られている以上、大挙結集して存在していること

は不可能である(石、ゲバ棒、火炎ビンをもってすら不可能となっている)  
従って部隊は分散して(遊撃隊として)存在し、革命軍として統一集中指導とし、大方向の指示(現在は「前段階武装蜂起」「遊撃的蜂起」の歴史的一段階として)に備え、遊撃戦を闘うことにより行動し(スケジュール闘争は軍にとってはあくまで利用するもの。大衆実力闘争との直接、間接の呼応は大方向を考へて必ず経験しておかねばならない)。

闘争の必要に応じて集中し、闘う。  
大方向の指示は人民革命軍の非合法機関紙「人民の軍隊」によって行なう。  
米日反動に対して武装している以上、

人民革命軍は完全非合法となる。

我々の経験によれば、部隊の構成は二、三名を一単位とし、闘争により単位(小遊撃隊)を結合して闘う。  
「これからの部隊の構成についていえることはつぎのことである。理想的な人員数や、彼らの間の機能分担については経験がそれを示すであろう。わきから指示されるのを待たないで、自分でこの経験を導くことをはじめなければならない。」

……政党の区分については、一つの政党の党員は、当然、いっしょに一つの部隊にまとまりたがるであろう。しかし、政党の党員がその隊に入るのに、絶対的な障害をもうけてはならない。  
……諸部隊をたがいに結合することはもちろん望ましいことである。共同活動の形態と条件をつくりあげることが、きわめて有益である。だが、そのさいけつしてこみいった計画や一般的な図式をつくったり、ベグンティックな考察のために生きた仕事をおしつけるような行きすぎに陥ってはならない。蜂起はかならずや未組織分子が組織された分子よりも千倍も多数であるような条件の下におこるだろう。その場で、二人でも一人でも行動しなければならぬような場合がかならずおこってくる。そこで人々は自分の危険と責任とで行動する用意をもたねばならない。ぐずぐずしたり、論争したり、延ばしたり、決断を欠くなら、蜂起の事業は破滅する。もっとも断固たること、最大の精力を示すこと、あらゆる好機を

ただちに利用すること。群衆の革命的情熱をただちに燃えさせたこと、この革命的情熱をただちに燃えさせたこと、この革命的情熱をいっそう断固たる行動に向けること——これが革命軍の第一の義務である(レーニン、同)。

○に習熟しよう！  
××物を始めあらゆる武器に習熟しよう！  
地下兵タン基地を建設しよう！  
非合法技術に習熟しよう！  
遊撃戦を直ちに開始し、遊撃的蜂起に備えよう！

中国、インドシナ三国人民を始めとする全世界の革命的人民の建軍武装闘争に学び、本格的武装闘争へ突き進もう！  
機動隊撃破の戦術を追求しよう！  
自衛隊・米軍撃破の戦術を考えよう！  
建軍武装闘争はこれによって必ず発展し、勝利する。

偉大なハイジャック闘争万才！  
12・18武器奪取闘争万才！  
2・17銃奪取闘争万才！  
連続的資金微発闘争万才！  
日本建軍武装闘争の開始万才！  
これこそ世界建軍武装闘争への大合流をかちとり、日本革命戦争の世界革命戦争への大合流をかちとり、世界党——世界赤軍への道である。

「〇〇基地」にしろ「××」にしろ、こちら側が数か武装力で優勢で襲撃占拠。力量に応じて一カ所の場合も数カ所の場合もある。  
ロ、同時多発でいくつかの「××」や「〇〇」を攻撃する。  
ハ、敵のスキをつき政治ゲリラを多発させる。  
ニ、都市ゲリラへの包囲攻撃をカクランする。  
ホ、武装を追求する(常に全員が心がけ、必ず必ず創意、工夫をこらせ)。  
ヘ、大衆実力闘争の中に一時的に入って闘う(あくまでも闘いの時だけ)。  
以下は高度な武装を追求する中で勝ちとるものとして想定される。  
A、「空港突入」カンボジア型攻撃  
B、都市ゲリラの闘争を見習う  
C、テト攻勢の攻撃

(「前段階武装蜂起」は機動隊の撃破を当面の(歴史的)目標とするので「テト攻勢」や「空港突入」より低いか同次元と思われ)  
高度な武装で、  
D、部分的〇激戦(都市ゲリラ)  
E、高度な武装で基地〇〇闘争  
都市ゲリラは中南米の都市ゲリラとともに帝國主義国内の都市ゲリラをも研究しなければならない。  
参考文献  
カルロス・マリゲラ「都市ゲリラ教程」  
日本共産党(革命左派)  
「鉄砲から国家権力が生れる」  
セルバンテス「蕃教の詩」  
毛沢東軍事論文選  
林彪「人民戦争の勝利万歳」  
(一九七一年三月二十六日)

史的にこれに導くであろう。

この戦術は「蜂起」(一瞬の蜂起でないという意味で、全人民的でないという意味で)の陣型をもっているので次の三点を考慮  
①人民革命軍の量、武装を十分検討し(軍としてはできるだけ闘い、引くこと——原則として厳守)。  
②大衆実力闘争の発展程度、これに対応する態勢を考慮して闘う。  
③機動隊の動向、自衛隊の動向、さらには軍の動向を考慮して闘う。  
当面は一時的、部分的に機動隊の壁を撃破し、「〇〇」「××」を一時占拠し、実力闘争の部隊も可能なら出来る範囲でこれに続いて占拠闘争を闘う。

一、(これが彼我の関係から出来ぬ場合、イ、大衆実力闘争に呼応して敵の弱い箇所を破って襲撃占拠する。  
二、(これが彼我の関係から出来ぬ場合、イ、大衆実力闘争に呼応して敵の弱い箇所を破って襲撃占拠する。

### 手記Ⅱ

## 銃は革命的人民の共有財産である！

### 人民革命軍某遊撃隊一兵士

#### ○は敵を△△△する

2・12武器奪取闘争は間違いなく正義の闘いである！  
我々人民革命軍某遊撃隊兵士は、一点

の曇りもなく、この闘争のすべてを断々固として支援する！  
この大胆な創造的なゲリラ闘争、そして断固連続して闘いとられた資金微発闘争は、日本人の誇りとする英雄・柴野馨彦兄を先頭にした遊撃戦士三名の革命的

12・18闘争を引き継いだ偉大な闘いであり、彼らが鮮血を流して切り拓いた遊撃戦争の道を、実にはつきりとすべての人民にさし示した。  
六七年10・8闘争以来、日本人は、石、ゲバ棒、火炎ビンを大量に使い、更

「前段階武装蜂起」(遊撃的蜂起の一発展段階として)を闘う。  
すでに日本人の歴史に登場しているこの戦術は米日反動が現在最も恐れているものであり、日本人の闘いは必ず歴

### 遊撃隊の具体的戦術

【参考】

- ☆遊撃隊を結成せよ！
- ☆武装せよ！
- ☆遊撃戦を直ちに開始せよ！
- ☆どの遊撃隊の闘いも互いに支持支援しよう！
- ☆地下兵タン基地を建設しよう！
- ☆非合法技術に習熟しよう！
- ☆遊撃的蜂起(「前段階武装蜂起」赤軍パンフ№7参照を含む)に備えよ！
- ☆アジア侵略戦争に備えよう！
- ☆第三次世界大戦に備えよう！
- ☆人民革命軍に結集せよ！

遊撃戦を開始する人々のために我々の経験、日本人の遊撃戦の経験、世界革命人民の建軍武装闘争の経験から、当面考えられる遊撃戦の戦術を参考までに示しておこう。しかし、これは世界の遊撃戦争の戦術のほんのごく一部である。創意・工夫をこらせばもっともっと多くの戦術が生み出される筈である。闘いの中で、闘いの中で見つけられるよう期待する。

### 遊撃隊の具体的戦術

【参考】

- ☆遊撃隊を結成せよ！
- ☆武装せよ！
- ☆遊撃戦を直ちに開始せよ！
- ☆どの遊撃隊の闘いも互いに支持支援しよう！
- ☆地下兵タン基地を建設しよう！
- ☆非合法技術に習熟しよう！
- ☆遊撃的蜂起(「前段階武装蜂起」赤軍パンフ№7参照を含む)に備えよ！
- ☆アジア侵略戦争に備えよう！
- ☆第三次世界大戦に備えよう！
- ☆人民革命軍に結集せよ！

遊撃戦を開始する人々のために我々の経験、日本人の遊撃戦の経験、世界革命人民の建軍武装闘争の経験から、当面考えられる遊撃戦の戦術を参考までに示しておこう。しかし、これは世界の遊撃戦争の戦術のほんのごく一部である。創意・工夫をこらせばもっともっと多くの戦術が生み出される筈である。闘いの中で、闘いの中で見つけられるよう期待する。

に手製爆弾までを駆使して、実力闘争の嵐の発展を圖いたり、又この中で、ダイナマイトを使用した政治ゲリラ闘争を生み出して来た。

米日反動の弾圧体制が狂気のごとく強化されるなかで、実力闘争だけでは、また合法、半合法の軍事組織(軍団、行動隊など)では、敵を撃破することができないことを学んだ先進的人民は、完全に非合法の軍と、より高度な武装を真剣に追求して、武装闘争、ゲリラ闘争を開始した。

3・31ハイジャック闘争、12・18武器奪取闘争は、この開始を高らかに宣言した。これらの闘いは、2・17闘争、資金徴発闘争とともに、遊撃戦を闘う人民革命軍建設をかちとるものであったし、また、遊撃的蜂起を準備するものであった。

とりわけ12・18闘争は、米日反動により復活された日本軍国主義が、スミのシミまで強化されており、銃をもたない兵士は確実に射ち殺されること、米日反動の銃口がつねに日本人民に向けられていること、だから闘う人民は、徹底的に闘おうとする人民は、ただちに○をもたねばならないこと、このことを我々に痛くほど強く叩きつけた。

日本人民の反米愛国闘争は、今こそ○を必要としており、この○を充分に使いこなせる人民革命軍を必要としている。○を握りしめた人民は、もはや以前の人民ではない。

それは遊撃戦の時代の闘う人民の姿であり、○を駆使した闘いは、すでに以前の実力闘争、ゲリラ闘争ではありえず、新しいゲリラ闘争であり遊撃戦である。それは本格的武装闘争の開始を告げ、建軍活動を飛躍させるものである。

なぜなら○は、まがいなく敵を△△△にするための武器であり、○を握った戦士は、「敵をせん滅し、自己を保存する」という人民戦争の主要な目的を、誰よりも早く、良く認識するからである。

そして、○を使った遊撃戦は、爆弾が火炎ビンが、石、棒、竹やりなど、ありとあらゆるものが「敵の△△△」に役立つ武器であることをすべての人民に教え、撃破——それは今日の前に立ちふさがっているカベである——をより一層確実なものにするのである。

○を先頭に、あらゆる武器を総動員した遊撃戦の勝利は、必ず遊撃的蜂起への道を切り拓くのである。

一発の銃声が、すべてのものを人民の武器に変え、巨万の人民を決起させ、革命軍へと結集させた過去の歴史が、それを証明している。

2・17闘争により、人民の手に握られた九丁の銃が火を吹く時——それは決して遠い日ではないだろう!——建軍武装闘争の嵐は、かつてなかったほどの速度と規模をもって全国に吹き荒れるであろう。まさに「鉄砲から国家権力が生まれる」のであり、「世界全体を改造するには鉄砲によるほかにない」のである。



兵士もこうして獄舎に閉じこめられる

至るところに遊撃隊を作り、隊員、兵士が○を握ること、○を堅く握りしめて遊撃戦を闘い、発展させ、遊撃的蜂起に備えること。

日本人民の緊急の任務はこれであり、米日反動が今、最も恐れているのはこれである。

この遊撃戦を闘い、人民の武装をたすけ、人民民主主義独裁権力樹立をたすけ、真の革命党を組織して、日本人民の民族解放民主主義革命を勝利に導くという政治的任務を闘いとするには、人民の強固な軍隊が必要なのである。

### 「銃砲店は敵の武器庫」

この人民革命軍は、だからこそ、第一に、敵を△△△することを追求しなければならぬ。敵を撃破し、要衝を占拠す

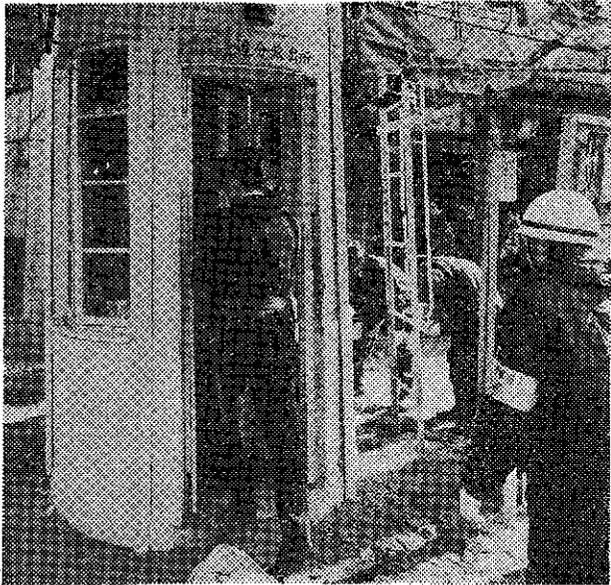
日反動の管理、監視下にある以上、それはブルジョアジーが自らのために不当に占有しているものなのである。

米日反動が、日本人民を米帝の戦車にしばりつけ、アジア全面侵略戦争、第三次世界大戦開始に猛進している以上、この日本人民、アジア人民、世界人民に向けている銃口は、必ず日本人民自らの手によって彼らの○をもぎとり、敵に向け返さねばならない。

建軍活動を闘う中で、武装闘争をおし進める中でしか、プロレタリアート人民という言葉は意味をもたないのだ! せせら

「武装闘争を離れてはプロレタリアートの地位はなく、人民の地位はない」(毛沢東)からであり、「人民の軍隊がなければ人民のすべてはない」(毛沢東)からである。

日本人民の利益を不当にむさぼり続け、米帝に売り渡している日本売国反動派の「赤軍派」に対する「辻強盗」デッサン上げ、そして「京浜安保共闘派」に対するデッサン上げといふ陰謀のネライは「人民のすべて」を



柴野春彦が射殺された交番襲撃事件

「人民のすべて」を

獲得しようとしている「両派」を人民から切り離し、孤立させる点にあったのだ。しかし、それは彼らがたとえ逆立ちしても不可能なことである! 我々にはこころはつきりと宣言しておこう!

人民革命軍建設とより高度な武装をかちとるために、われわれは、米日反動(米軍、自衛隊、機動隊、警官、売国独占資本、ファッショ官僚)のもつ武器はもろろん、資金、食糧等を次から次へと◎◎、▽▽するし、米日反動の従順な下僕になりさがる「人民」「プロレタリアート」が直接管理している武器(○)店、○××製造工場、□□工事現場等々の地位は、何のちゅうちょもなく、全力を尽くしてこれを◎◎するであろう! これを、「人民の地位」を獲得し、「人民のすべて」を獲得するために大いに役立ててであろう!

2・17闘争万々才!  
資金徴発闘争万々才!  
建軍武装闘争の前進万々才!

「修正主義宮本一派へ」とどめを

建軍活動を基礎にした武装闘争をおし進め、遊撃戦をもつて米日反動権力を打倒すること、あらゆる武器を手にして遊撃隊を結成し、遊撃戦を闘い発展させ、遊撃的蜂起に備えること、これは、全ての日本人民の責務であり、これこ

2・17闘争に対し、米日反動は、なりふりかまわぬ未曾有の大弾圧の中で、次のような新たな悪どい弾圧策謀をはりめぐらした。

それは、全く不当に逮捕された二名の「京浜安保共闘幹部」が「人民の利益と解放のため、ことを起こした……人民救

### 「当然のことをしたまでだ」

現在米日反動は、人民の手からあらゆるものを奪い丸裸にして、アジア全面侵略戦争、第三次世界大戦のタマよけに狩り出そうとしている。

ブラカードが「凶器」であるという判決、2・17闘争直後の「銃砲刀剣類所持取締法」の「改正」強化が、その弾圧の一つである。

銃が、売国反動警察の厳重な監視下で、ブルジョアジーの「お遊び」の道具としてのみ販売され、また「公共の福祉(我々はこの言葉が反動裁判の中であるいはマスコミで弾圧の決まり文句として使われたことを知っている)を乱す恐れのあるものが家族に居ない」という条件のもとで、初めて所持が許可されていること、そしてそれさえも「銃刀法」強化で大幅に制限が加えられ、モデルガンの銃口がつぶされたことを見るとき、銃砲店とは、米日反動に極めて忠実で、その指導を守る協力的な(御用)民間人により管理されている敵の「武器庫」にほかならないことが、はっきりとする。

### 「当然のことをしたまでだ」

それは遊撃戦の時代の闘う人民の姿であり、○を駆使した闘いは、すでに以前の実力闘争、ゲリラ闘争ではありえず、新しいゲリラ闘争であり遊撃戦である。それは本格的武装闘争の開始を告げ、建軍活動を飛躍させるものである。

### 「当然のことをしたまでだ」

それは、人民の共有財産である。銃が米

### 「修正主義宮本一派へ」とどめを

建軍活動を基礎にした武装闘争をおし進め、遊撃戦をもつて米日反動権力を打倒すること、あらゆる武器を手にして遊撃隊を結成し、遊撃戦を闘い発展させ、遊撃的蜂起に備えること、これは、全ての日本人民の責務であり、これこ

浅間山荘事件の逮捕者

Table with columns: 地位 (Status), 氏名 (Name), 年齢 (Age), 経歴 (Experience). Lists names like 坂東 国男, 坂口 弘, etc.

連合赤軍の逮捕者・手配中の者

Table with columns: 赤軍派 (Red Army Faction), 氏名 (Name), 年齢 (Age), 経歴 (Experience). Lists names like 塩見 孝也, 高原 浩之, etc.

Table with columns: 指 (Index), 名 (Name), 手配 (Disposition), 中 (Middle). Lists names like 川島 藤, 川島 陽子, etc.

そ、英雄兵士・柴野春彦が革命的熱情を傾け一生を捧げた道に他ならない。そして、これこそ傷つきながらも獄中から「敵をせん滅せよ」と檄をとばしている革命烈士渡辺、佐藤両兵士に匹敵するものであり、樺美智子、山崎同志ら数多くの反米愛国戦士の切り拓いた血路なのである。

建軍武装闘争を前進させよ！  
これは破竹の勢いで前進をとげ、今や画期的段階に突き進んだ全世界人民の武装革命闘争と肩を並べて闘い、米日反動の全面侵略戦争を遊撃戦争で打ち破るといふ偉大な任務であり、全世界人民の最も凶悪な敵、米日反動を直接の敵として闘っている日本人民にとっては、国際主義的責務である。

何億、何十億の全世界人民の生死は日本人民が、どれだけ多く、遊撃隊を組織し、人民革命軍に結集して、○をはじめとするあらゆる武器で武装して遊撃戦を闘い続け、遊撃的蜂起に備えるか、このことに賭かっているのだ！  
米日反動が何よりも恐れているこの建軍武装闘争の前進を、全ての人民は、自らの手で、かちとらねばならない。  
「武装せよ！ 武装せよ！ もう一度武装せよ！」

この闘いは、「武器が人民の手にあり、外部から人民に加えられる暴力がないとき、はじめて革命の平和的発展の道が開かれる」(レーニン)というマルクス・レーニン主義の真理を否定し、小集団の利益を守るため「武装」し、今や反革命へと成長しきった修正主義宮本一派に、必ずやとどめの一撃を加えるであろう。  
世界革命の根拠地、社会主義中国の七億人民を代表して述べた周恩来総理の「戦闘的準備をととのえた」あらゆる民族的犠牲を惜しまない」という声明は、我々日本人民を叱咤激励するものなのである。

母の説得

◎吉野雅邦の母・淑子さん。  
「マーちゃん。もし中にいたら聞いてちょうだい。私たちはね、警察に呼ばれて来たのじゃないのよ。警察のためではないの、誤解しないで。親として見ておれないのよ。あなたたちにもプライドがあるでしょうけど、武器を捨てて出てくるのはカッコ悪いことかもしれないけど、でも、それをやってもraithたいの。私はあなたたちのいちばん気持が誤解されるのがくやしいのよ。このままじゃ凶悪犯と同じじゃないの。世の中、社会を思って、自分を犠牲にして一生懸命やってきたのじゃないの。世の中をよくするためにやってきたんじゃないですか。このままでは、あなたたちが浮かばれない気がするの。せめて最後は兇悪犯と違うところを見せてほしいの。このままじゃ誤解されっぱなしよ。母親は子供が生きてさえいればどこにいてもいいの。でもね、私はあきらめたわ。どうか最後は、立派に死んでちょうだい」  
◎坂口弘の母・菊江さん。  
「申し上げます。これ以上、無理をなさらないで。みんな心配しています。いのちを大切にしてください。いさぎよく武器を捨てて、奥さんを返してください。代わりがほしければ私が」



# 赤軍幹部たちの 獄中からの

## 盗んだ自動車を取りつぎ 警察犬の追跡をふり切る方法を詳述

**検問突破し「人生の裏街を」**

全部は戒厳令的な状況になり、あらゆる所に敵は網を張りました。そしてその網におしくもわれわれの同志はひっかかり、無残にも拉致されてしまいました。2・17の武器奪取闘争では、革命左派の人民解放軍の二人の戦士が検問にひっかかりました。彼らは、運転免許証を持っていたから大丈夫だろうと考えたのですが、検問において権力は第一に運転免許証を見て無免許運転でないかを確かめ、第二に、カギを差し込んでみるかどうかを見て直結による盗難車ではないかを見ます。番号とかは普通の場合にはあまり問題にしません。彼らは直結をみやぶられてしまいました。検問を突破せざるを得なかったわけですが、そして彼らは、追跡をふり切って逃走しましたが、民家に突っ込んでしまおうというアクションをおこなってしまい、車を捨てて逃げたわけですが、しかし権力はその後、犬を、本物の犬を使って彼らを追跡してしまいました。われわれは尾崎同志、中島同志の勇敢さに心から敬意を表し、彼らの敗北を学ばなければなりません。

それから得た教訓は、第一にカギがついていないと検問の時にみやぶられてしまうということ（他にもカギがないとガソリンスタンドに行ってもガソリンタンクのふたがあきません）。第二に警察犬という彼らの武器を知り、犬の追跡のことも考慮しなければならぬということ。

三月十一日、都内で夜の明けない深夜にわれわれの優秀な同志城崎勉が、やはり敵の検問にひっかかり、武装警官に拉致されてしまいました。その時は「人生の裏街を」のごとく、表通りをさけて裏道を選んで通ったのですが、敵の検問にかかってしまったのでした。彼は無免許であったため、また車が軽自動車であったため、大切な荷物ごと捕わってしまったのです。

三月十五日には都内町田でやはり、われわれの優秀な同志松田久が思いがけぬ場所、やはり無免許のまま検問に出くわしました。しかし彼は、大胆に検問を突破したのでした。実は彼の場合、運転経験が実質的に五時間位なのでした。松田同志の大胆さに対して私は心から敬意を表します。彼はその後やはり運



## した「戦闘録」

革命的戦士によって銃と多額の資金を確保されたことに対して、あわてふためきおそれおののいた敵権力のPIGどもは、狂気そのもの、馬鹿まる出しであります。それ故、ばかは何をするのかわからず恐ろしいもので訴えます。

革命の戦士によって銃と多額の資金を確保されたことに対して、あわてふためきおそれおののいた敵権力のPIGどもは、狂気そのもの、馬鹿まる出しであります。それ故、ばかは何をするのかわからず恐ろしいもので訴えます。

私は、偉大な多くの成果をあげつつもすでに今年も半年のうちには、多くの戦士が捕ったことを残念に思います。しかも、同様な敗北のしかたで拉致されてしまっているの、きわめてくやしくなりません。

私は、偉大な多くの成果をあげつつもすでに今年も半年のうちには、多くの戦士が捕ったことを残念に思います。しかも、同様な敗北のしかたで拉致されてしまっているの、きわめてくやしくなりません。

「牢獄は革命家の学校」といわれるが、逮捕され、調べられ、鉄格子の中に入れられながら、黙秘を続けて、革命への夢を捨てないというのが、活動家達の獄中生活のようだ。

獄中から、「非合法の武装闘争」を叫ぶ彼らの書簡には、「あさま山荘事件」事件の必然性を予言する論理が、赤裸々に綴られている。(文章は原文のまま)

昭和四十六年三月二十七日に神奈川県川崎市生田のアジトで逮捕された。公務執行妨害、傷害の現行犯。

獄中、獄外の全ての同志の皆様、兄弟達！不屈の革命的情念を余すところなくもやしつづけているものと確信いたします。

林 慶 照

# 逃げきった楽しい冒険

転技術が不十分であったせい  
か、またスピードを出していた  
為に、スカイライン2000G  
と共に横転してしまいました  
た。ここで全てが終わらざら  
れど、松田同志は横転した車の中  
から這い出してきた、更に逃走  
したのです。さすがに赤軍派の兵  
士は根性があるものです。結局、  
彼はその後PIGどもに拉

### 信号無視、道路右側を暴走

三月十七日に再び危機がやっ  
てきました。都内青山の路上に  
車を駐車していたまま、私たち  
は茶店に入っていました。用事  
が終わって私とS同志、T同志  
(女)は車にもどると、とたんに  
私服がかけよってきました。「や  
ばい」と思い全員車の中に入り、  
中からドアにロックをかけて、  
ドアをたたく私服をふりきって  
逃げようとした。すると、そ  
の私服は勇敢にも、われわれの  
車の前に立ち塞がってしまい、  
その為には車は前進できずエン  
ストしてしまいました。そこで、  
私はすかさず、バックにギア  
を入れかえて、私服をふり切っ  
て前進することができました。  
だが、だが、だが、またも、前  
進がまたげられてしまいました。  
た。私服の車が道路を正面に向



手入れされた川崎市のアジト

かい「通せんぼ」したのです。再  
びバックで逃げました。二百斤  
くらい走ったところでガツン  
とガードレールにぶつかってし  
まいました。この時、私服の車  
はあわててブレーキをかけたの  
でハンドルをきりこねてわれ  
われの横にならんでしまいました  
た。このチャンスです。すかさず  
いてわれわれは前進で正常な形

で逃げる事ができたのです。  
私服の車は方向が逆向きだった  
ので残念なことに、われわれを  
のがしてしまいました。東京は  
車が多く、また交差点だらけで  
す。五百斤走らぬうちに、交差点  
に出ましたが、信号は赤で左側  
には二十台ほどの車がならんで  
いたので、しかたなしに右側を  
走りました。対向車をライトを  
つけたら、警笛を鳴らしたりし  
てふりはらい交差点のすぐそば  
まで近づくと信号はちょうど青  
に変わったので左折しました  
もちろん道路の左側は、信号に  
よって待たされていた車が動き  
出したところでしたので、一台  
目と二台目それぞれ二台ずつの  
間を横断したのです。「ガツン、  
ガツン」と三、四台の車と接触  
しましたが、なにしろこちらは  
逃走中ですのでそんなことはお  
かまいなしです。そして裏道に  
入って行って適当な所で車を捨

### 指紋ふき消し、逃走に成功

三月二十四日は都内目白付近  
でパトカーに追跡されてしま  
いました。この日は運悪く持ち主  
に発見され通報されたからでし  
た(翌日の新聞による)。山手通  
りの交差点で赤信号のため停車  
していると制服警官が走りより  
外からドアを開けようとしたの  
で、すかさず信号無視して逃げ  
ました。これも翌日の新聞によ  
ると、そのポリは引きずられた  
等と書いてありましたが、その交  
差点を左折しましたがそこは進入  
禁止で一方通行逆行だったわけ  
です。突然「アーワーアワー」  
とサイレンを鳴らして張り込ん  
でいたパトカーがついてきまし  
た。「こいつはやばい。もうだめ  
だ」と思ったけれど逃げられる  
だけ逃げようと思い、一方通行  
を逆行して狭い真通りへと逃走  
して行きました。途中、対向車  
と接触したというのを他の同  
志が後で話してくれましたが、  
その時は、私は全く気がついて  
いなかったほどです。それから、  
やはり途中で焼きいも屋のくる

て、こんどは走って逃げまし  
たが、犬のことを考えてタクシ  
ーに乗り込み、青山を去ったの  
です。さすがの警視庁も翌日の  
新聞には一切発表しませんでした。  
だが、この時私とS同志の  
指紋と刃渡り二十センチの刺身包丁  
をのこしてきてしまいました。  
のにもぶつかりそうになりまし  
た。ある所でまがった時は子供  
達が路上でメンコか何かをして  
遊んでいたのので「一瞬、ギクリ」と  
しました。都会の子供達は遊び  
場がないので、道路に座って遊  
んでいるのです。資本主義社会  
の矛盾は、こんな所にも現われ  
ています。子供達は反社会的に車  
をよけ道を開けてくれました。  
パトカーは、バック・ミラーに  
映るので、まだついて来るのが  
わかりました。我々はどうも逃  
げました。その間に他の三人の  
同志は、運転する私に命を預け  
ながらも、車内の荷物をまとめ  
たり、指紋をふき消したりして  
懸命にやるべきことをやってく  
れました。  
さらに踏切では一時停止を大  
胆に無視して、そのまま横断し  
ついに逃げることができました。  
初めは茶店に入ったのですが、  
犬のことを考えてしばらくして  
その店を出てタクシーで逃げま  
した。残念なことにトランクの  
中の荷物までも持ち出すことが

できなかったもので、それらの荷  
物は捨てたままにしてしまった  
のです。そのために、その中に  
あった銃の取扱いの本に「共産  
主義社同盟赤軍中央軍」とい  
うようなことが書いてあり、我  
我のことが表面化してしまいま  
した。翌日のブル新には大きく

### 民間人の通報で逮捕さる

しかし、我々は貴重な教訓を  
物質化することができたので  
す。百斤のうち一割でも可能性  
を追求して敵の攻撃に対して味  
方は生きのびなければならな  
い、安易に敗北するな、という  
ことです。これは決して、昔の日  
本軍の特行隊精神のように死ぬ  
ことを美化した様な変てこりん  
な思想からではなく、まさに生  
きるため戦いを継続するための  
プロレタリアートの生きた実践  
から生まれた教訓なのです。  
三月十七日の場合は、川崎の  
アジトが敵によって奇襲される  
という全く絶望的な中で戦い  
ました。ちょっとした警戒のお  
こたがり、民間人の警察への通  
報を生み出してしまいました。  
現在、権力は民間人の中に防犯  
連絡所とか、自警団的なものを  
社民、日共の反共反革命を利用  
したりして作りあげた広汎に通  
報を呼びかけています。「学生

出しており、我々のことをこてん  
こてんのくそみそに批難してど  
り上げておりました。ふざけた  
ことに、警視庁は、我々が警報  
機の鳴っている踏切を突破した  
から逃がしてしまつた等と、デ  
マを發表して言い逃がされてお  
りました。  
風の者が四、五人集まっていた  
り、あやしい者が出入りしてい  
る様子であつたら、まず一〇  
番」などと、戦前の軍国主義時  
代の「隣組」の様に互いに近辺  
を監視させる様に盛んに人民を  
よく教育しています。まさに、  
なし崩しファシズム、軍国主義  
復活そのものです。  
私は、その日朝早く一番先に  
権力を拉致されてしまったので  
恥じています。だが、他の四人  
の同志は大胆に戦いました。そ  
して、逃亡を試みたのです。ド  
アを開けて入ろうとする刑事の顔  
面に熱湯を浴びせつけました。  
文字通り大ヤケドです。そして  
さらに大きなハンマーで頭を  
「ボカリ」とカチ割って重傷を  
負わせたのです。さらに当らな  
かったけれども、ボーガンまで  
射つたのです。その結果、四人  
の同志はみごと逃げてしまし  
た。当日は、神奈川県下、及び都

## 卑屈な自己批判は必要なし

松田久

昭和四十五年三月十五日  
に、無免許運転で逮捕され  
た。さらに四件の銀行強盗  
の容疑がかけられている。  
昭和四十三年七月、アス  
バック闘争で二度逮捕され  
ている。赤軍兵士と自称。

前略 差し入れありがとうございます。  
「赤い星」いいです。「共産主  
義」ダメです。全然。獄外の親  
愛なる同志たち！日々、敵権  
力との攻防の中で、怒と誇りの如  
き世界革命戦争のみ信じ闘われ  
ている偉大な同志たち！兄  
弟たち！私も最近、革命戦争  
の夢にうなされて、日々を暮し



毛沢東は彼らの教祖

同志は新宿で逮捕されてしま  
いましたが、この戦いは偉大なも  
のであったと思つてしまいまし  
たが、この様な戦いによって大  
胆に逃亡したという事は、日  
本階級闘争の歴史にもめずら  
しい貴重なものであります。  
同志は新宿で逮捕されてしま  
いましたが、この戦いは偉大なも  
のであったと思つてしまいまし  
たが、この様な戦いによって大  
胆に逃亡したという事は、日  
本階級闘争の歴史にもめずら  
しい貴重なものであります。

方を教え、第二に敵との闘い方、その準備の仕方、第三に、人民を起し上げ、第四に人民を組織し、させる」ことである。即ち、毛沢東流の『武装宣伝』の遊撃戦です。武器奪取闘争は、敵権力と遊撃戦に備える物資武器調達闘争という前哨的遊撃戦だったにも拘らず、同時に武装宣伝の内容を持っていたのです。このことを理解しなければなりません。「前半に於ける軍

### 黙秘を解き刑事に好意抱く

獄外の同志達、兄弟達、どうか自信をもって前進して下さい。獄中の古い指下部に対して、卑屈な自己批判など全く必要ないので。あなた達こそ、革命の暁の明星なのです。昨日、横浜から林同志の手紙が届きました。私は驚嘆したのです。「実によく闘った」指揮官を失い、防禦的になりながら、追いつめられながら、まるで、「トム・ソーヤの冒険」のように彼らはよく闘った。もし、これが、攻撃面が発揮されたらどんなにすばらしいことでしょうか。だが、攻撃もつらく厳しいものです。とてつもない気力と体力が必要で、かつては自己の死に耐えればよかった、だが、今や

事的半勝利にも拘らず)後半の政治的敗北」ということは、実は、この内容の無理解によるものだ。我々は、自衛隊の沖繩派兵に對して、革命的人民がいかに闘うかの闘い方を教え、宣伝しなければなりません。又、日本帝国主義の局地的、侵略反革命戦争の開始の時、いかなる闘いと組織が必要なのか教えねばなりません。革命的人民に「俺にも、私にもできる」ことを教えるのです。

いじみた戒厳体制を全国のごくでも、敷ける体制をとったことを示しています。でも負けてはなりません。敵からも多くのことを学びましょう。だが、焦ってはならない。自由に我々は、攻撃することができるとは、(戦線をつくらない限り)。最後に、獄外の同志達、兄弟達、自信をもって前進して下さい。そして、時には横を向き、後を向くことです。確認することです。

完全(完全黙秘)について。私は全面的に自己批判しなればなりません。どんなことがあっても黙秘を守ることです。私は、「自分が革命家であり、共産主義者であること」を必死になって確認し、そして結局、確認し終ったところで黙秘を解いたのでした。どんなことがあっても黙秘を守ることです。私は、「自分が革命家であり、共産主義者であること」を必死になって確認し、そして結局、確認し終ったところで黙秘を解いたのでした。どんなことがあっても黙秘を守ることです。

## 武装闘争を守り育てよ!

川島豪

京浜安保共闘の最高幹部。六九年十二月爆発物取締法違反で逮捕され、横浜拘留所に拘留されていた。この書簡は、その時

ブルジョアジーのプロレタリアートに対する階級闘争の手法で

### 鉄砲から国家が生まれる

私たちは、今、日本階級闘争の中から生まれたこの武装闘争を何よりも守り育て、アメ帝打倒、日本軍国主義打倒、侵略戦争(現在はアメ帝の)を革命戦争で打ち破り、人民民主独裁権力をうちたててはなりません。武装闘争を発展させることを軸として、実力闘争、経済闘争、救済闘争を再編成して、反米愛国闘争の重要な翼にしなくてはなりません。あなたが(獄中書簡の相手)宣伝活動を提案したのは誤りではありません。ただ、武装闘争を発展させるための宣伝を提起すべきで、これに對立するようなものも提起してはならないと思います。我々は、武装闘争の路線については、「毎年、毎月、毎日、毎分」語らなくてはなりません。武装闘争を堅持し、発展させよう!



土田警務部長宅爆破赤軍派の爆弾

革命運動は、大ボサツ闘争をもって武装闘争を開始し、堅持され、少しずつ発展させられようとしていきます。この武装闘争の道は、従来の闘争のように自然発生的な要素を多く含むことは許されず、極めて意識性を要求され、又極めて困難な道であることは言うまでもありません。然し、「路線が正しければ、力が弱小であっても発展し、強大になることができ、武装力がなくても、それをうち立てることができ、権力がなくても、それをかちとることができ」(北京週報)

重要なものは人数などではなく、正しい政策と思想を表現することである(レーニン)。「あたらしく生まれたい」というような事物も、それが成長するには、つねに困難や曲折をへなければならぬ。「歴史のうえで新しく正しいものは、はじめのうちはとかく多数の人から認められぬものであり、闘争の中で、曲折をへて発展するよりほかにない」(毛沢東)。「新しいものの芽ばえに對する嘲笑、安っぽいインテリゲンチヤ的な懷疑的態度、その他これに類するものはすべてその本質において、

PS、バクられて拘留所におくられた同志の名と住所を知らせて下さい。連絡をとりたいたいのです。一九七一年七月二四日 筆記時間に制限あります。当分雑な文章になりますが、お許し下さい。

(前略) 六〇年安保闘争以来、大衆実カデモ一大衆石、ゲバ闘争、ピン闘争と発展してきた日本の

武装反対派に分解しつつあることとです。我々は、いかなる困難があろうとも、失敗や挫折があろうとも、武装闘争を何よりも育て、発展させるべきだと思えます。勿論、そのために、宣伝実力闘争は、もっともっと進めるべきでしょう。一九七一年五月二十八日 川島豪

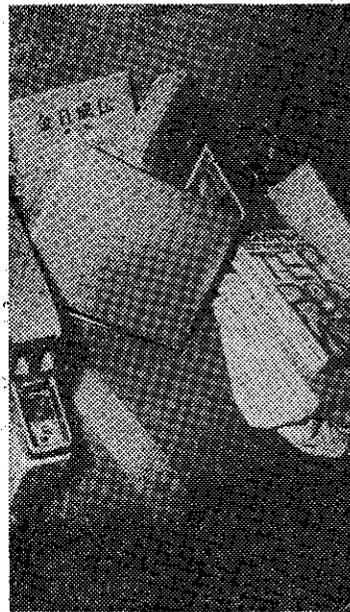
(前略) あせらず、やれる、勝てる遊撃戦を闘う。質は問題の一つの側面だが、問題は、やれる、勝てる闘いを、あせらずすればよいということとです。あくまで強固な遊撃隊を、大衆路線にそってやる。弱いものだと命取りになる。軍は、特に中央軍。このもとに闘える、勝てる遊撃戦。ただし、中央軍以外は、そんなに強固でなくてもよい(大衆組織の)。

○女性の活動家は、男性の活動家以上の抑圧の条件下で闘っており、女性活動家のほうを大切にすべきです。みな元気で、警戒心を高めて闘って下さい(合法的公然活動以外は)。六月四日 川島豪

# 苦悶の末につかんだ新境地

## 花園 紀男

赤軍派政治局員。大菩薩事件一〇・二一鉄パイプ事件で逮捕された。早大生。この手紙は、一一・一八の真岡事件に「赤軍兵士花園紀男」の名で、赤軍派の救援組織に送ってきたものである。



ハイジャック組が持っていた教典

ねぐわれた気持です。この間、獄中、外の同志達に「反米愛国」の政治路線の正しさについて、何通も何通も手紙を書いたのですが、今一つ説得力が足りない感じがして、ほんの数人だけが賛成し、残りも動揺はしているのですが、説得力が足りないという状況でした。そして、その結果、自分自身が懐疑的になり、「説得力が足りない何か」がある。それこそ探すべきだと考え、四苦八苦して書いたのです。しかし、この書簡集を読んで実は、僕自身がま

### 愛国者を結集し訓練しよう

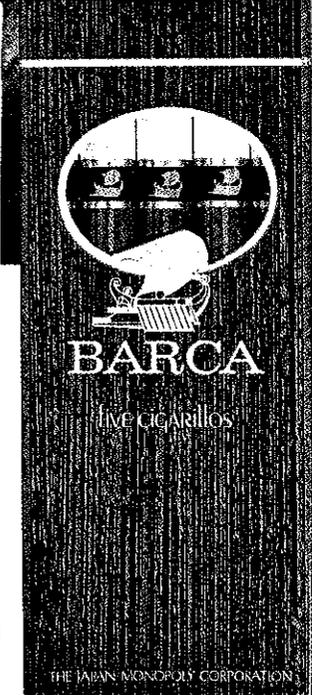
六全協以後、日本人民は、特にその最も先進的な人々は、目的意識的な政治指導、共産主義的政治指導から放棄されてきた点です。国際共産主義においても、日本のそれにおいても、修正主義から完全に意識的に分裂したのは最近です。僕の言いたいのは、我々が自然発生的に登場したこと、だからこそ、ますます共産主義者の意識性が要求されるということ、遅れていなければならないほど、

の人々が目覚めつつあります。我々は、これを正しく一つに結びつけていくことができると思っています。慌てることなく、重要なことは、正しい思想であり、正しい政治路線であることをつかんで、着実に前進していくことだと思えます。勿論、正しい軍事路線が最も重要で、この点で、僕は次のように考えています。我々は、自然発生的に実力闘争から武装闘争へ突入してきたこと、これは何よりもこの武闘の正しさ、歴史的な正しさを示しています。しかし、同時に大きな欠陥があります。それが、人民の、特に先進的人民の政治訓練の点です。

（追）先日、はじめて裁判の弁論で愛国者として、米日反動を告発しました。同志柴野は、真の愛国者達の心をたいたいたようです。愛国者を結集せねばならないと思います。ただ、かつての僕たちのように、小児病的国際主義者のしかめ面は、実は、愛国者の誤った表現なので、それを知って、相手の自覚を促すべきだと思えます。それには、一定の時間と説得力が必要なのです。ではまた。一九七一年五月二十八日 花園 紀男

（獄中通信「獄中書簡集」による）

# シガリロで気分をかえてみませんか……



## 葉巻が親しみやすく身近かなものになりました

チップ付

### 細身の葉巻……シガリロ

# ピルカ

5本入 200円

日本専売公社

### 新発売

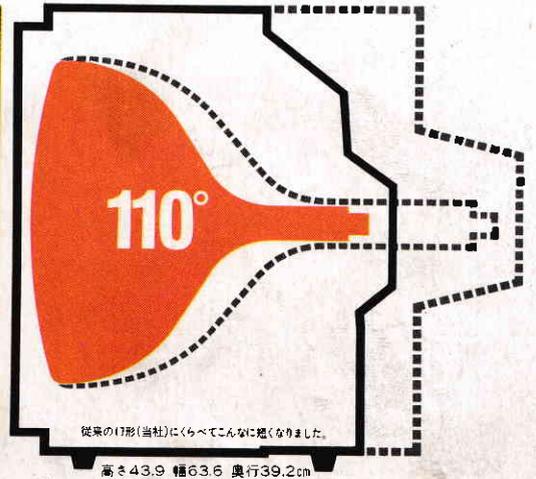
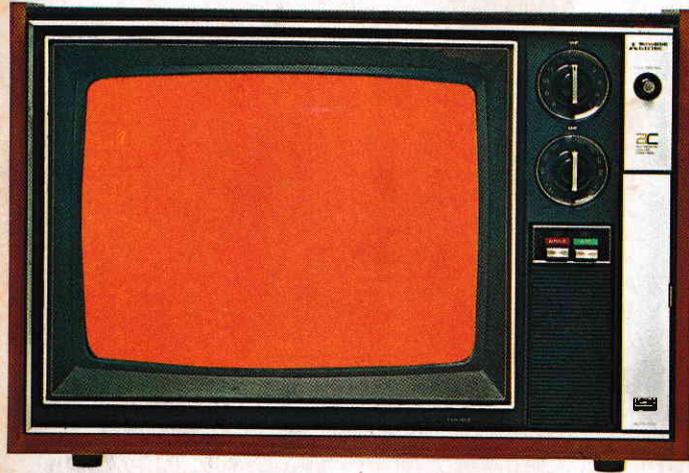
全国主要都市で

未成年者の喫煙は禁じられています

週刊現代 三月二十二日増刊号 第十四卷第十三号 昭和四十七年三月二十一日発行 昭和四十四年四月十一日第 種郵便物認可 編集人 川鍋孝文 発行人 牧野武朗 発行所 株式会社 講談社 東京都文京区音羽 一七二一 電話東京 (945) (大代表) 監修東京 九三三 定価一五〇円

未来を開発する  
**三菱電機**

# 画面は18形。奥行は13形。



## (超うす形カラー)



世界初の18形・110度ブラウン管  
110度広角カラーブラウン管の量  
産化に成功。キャビネットの奥行が、  
いっきよに約10cm(当社比約20%)も短  
くなってわずか39.2cmとなりました。  
13形なみの奥行ですから、タナの  
上にもラクに置けます。キャビ  
ネットには、明るいチークを使用。  
どのお部屋にもよくマッチします。

コンピュータ設計の新回路  
回路というと複雑なシステムを  
想像なさると思いますが、この回  
路はまったくその逆。ICを大幅に  
採用し、回路を機能別に小さな  
カードに分割しました。小粒でも  
ピリッとした高性能回路です。

**三菱カラーテレビ**  
18CTS-531 標準価格 133,000円(千消費税別)  
●専用台S-700(別売)4,500円 / S-750(別売)5,500円

超うす形  
**高 雄**  
たかお

三菱電機・技術陣の成果—110度を征服!